

末日聖徒イエス・キリスト教会・2003年11月号

リアホナ

総大会特集号



「旅の始まり」 グレン・S・ホプキンソン画

1837年から1847年にかけて、1万2,000人以上の改宗者がイギリス諸島で教会に加入した。1840年以來、そのうちの5,000人近くがイギリスのリバプールからアメリカに向けて航海した。アメリカに到着した彼らは、少なくとも36の隊に分かれてイリノイ州ノーブーまでの旅を続けた。

リアホナ

2 第173回半期総大会大会概要

●土曜午前の部会

- 4 教会の現状
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- 8 「堅固な基」
七十人 シェルドン・F・チャイルド
- 10 贖罪、悔い改め、よごれた衣服
七十人 リン・A・ミケルセン
- 13 はるかに望み見て
中央扶助協会第二副会長
アン・C・ピングリー
- 16 声を届かせる
十二使徒定員会 M・ラッセル・バラー
- 19 信じます。不信仰なわたしを、お助けください
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト

●土曜午後の部会

- 23 教会役員の支持
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 24 「真理の標準は確立された」
十二使徒定員会会長代理
ボイド・K・バック
- 28 回復されたイエス・キリストの福音の証^{あかし}を受ける
十二使徒定員会 ロバート・D・ヘイルズ
- 32 響き渡る預言者の教え
七十人 シャーリー・D・クリステンセン
- 34 主なる神はあなたの手を取り
七十人 W・クレグ・ズウィック
- 37 悔い改め、変わる
十二使徒定員会 ダリン・H・オークス
- 41 無限の可能性を認識する
十二使徒定員会 リチャード・G・スコット

●神権部会

- 44 個人の神権の責任
十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン
- 47 若い男性——鍵を持つ者たち^{かぎ}
七十人 モンディ・J・ブラフ
- 50 祝福をもたらす神権、鍵、力^{かぎ}
七十人 会長 メリル・J・ベイトマン
- 53 自分という驚くべき存在
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 56 彼を帰してください
第一副管長 トーマス・S・モンソン
- 60 イスラエルの羊飼^{かぎ}
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

●日曜午前の部会

- 67 橋を架ける者
第一副管長 トーマス・S・モンソン
- 70 偉大な神の性質
十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホランド
- 73 回復のメッセージ
七十人 チャールズ・ディディエ
- 76 主はわたしたちを御存じで、愛しておられます^{あかし}
中央初等協会第一副会長
シドニー・S・レイノルズ
- 78 3つの選び
十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワースリン
- 82 国民の旗、世の光
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

●日曜午後の部会

- 85 神がこれまでに啓示されたすべてのことを信じる^{あかし}
十二使徒定員会 L・トム・ペリー
- 89 預言者ジョセフの使命への不朽の証^{あかし}
十二使徒定員会 ヘンリー・B・アイリング

- 93 「わたしに従ってきなさい」
七十人 ウィリアム・W・バームリー
- 95 あなたは聖徒ですか
七十人 クエンティン・L・クック
- 97 謙遜の力を受ける^{けんそん}
管理監督会第一副監督
リチャード・C・エッジリー
- 99 えり抜きの聖見者
十二使徒定員会 ニール・A・マックスウェル
- 102 福音にさらに完全に従いましょう
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

●中央扶助協会集会

- 104 その良い方——愛することを選ぶ^{あかし}
中央扶助協会会長 ボニー・D・パーキン
- 107 証——「その良い方を選ぶ」^{あかし}
- 108 主との聖約
中央扶助協会第一副会長
キャスリーン・H・ヒューズ
- 110 それゆえに、あなたがたは主キリストを選びなさい
中央扶助協会第二副会長
アン・C・ピングリー
- 113 教会の女性たちへ
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

- 64 末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部
- 116 指導者の言葉^{しどうしや ことば}
- 119 指導用資料
- 124 中央補助組織会長会
- 124 チャーチ・ニュース



第173回半期総大会大会概要

2003年10月4日土曜日午前、一般部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。
司会——トーマス・S・モンソン副管長。開会の祈り——F・メルビン・ハモンド長老。閉会の祈り——H・オールドリッジ・ギレスピー長老。音楽——モルモンタバナクル合唱団；指揮——クレグ・ジェソップ、マック・ウィルバーク；オルガニスト——リチャード・エリオット、ジョン・ロングハースト。“Let Zion in Her Beauty Rise”（『賛美歌』〔英文〕41番）；「主は生けりと知る」（『賛美歌』75番）；「感謝を神に捧げん」（『賛美歌』11番）；「来たれ、主の子ら」（『賛美歌』31番）；“I Saw a Mighty Angel Fly”（『賛美歌』〔英文〕15番）；「子供のいのり」（『子供の歌集』6-7）；“Come, Thou Fount of Every Blessing”（『賛美歌』〔英文, 1948年〕70番）

2003年10月4日土曜日午後、一般部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。
司会——トーマス・S・モンソン副管長。開会の祈り——D・リー・トブラー長老。閉会の祈り——キース・K・ヒルビック長老。音楽——ユタ南地域独身成人による聖歌隊；指揮——ジェームズ・C・ケーセン；オルガニスト——リンダ・マーゲッツ。「み恵み数えあげ」（『賛美歌』153番）；「高ぶりを慎み」（『賛美歌』71番）；「神のみ業に進みて」（『賛美歌』149番）；“Come, Ye Disconsolate”（『賛美歌』〔英文〕115番）

2003年10月4日土曜日夜、神権部会

管理、司会——ゴードン・B・ヒンクレー大

管長。開会の祈り——ウィリアム・R・ブラッドフォード長老。閉会の祈り——H・ロス・ワークマン長老。音楽——プロボ宣教師訓練センター神権者による聖歌隊；指揮——ダグラス・ブレンチリー；オルガニスト——クレグ・クリスチャンセン。「天よりの声聞け」（『賛美歌』166番）；「み旨のまま行かん」（『賛美歌』172番）；「イスラエルの救い主」（『賛美歌』4番）；「たたえよ、主の召したまいし」（『賛美歌』16番）

2003年10月5日日曜日午前、一般部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。
司会——ジェームズ・E・ファウスト副管長。開会の祈り——アンヘル・アブレア長老。閉会の祈り——キース・クロケット長老。音楽——モルモンタバナクル合唱団；指揮——クレグ・ジェソップ；オルガニスト——ジョン・ロングハースト。「導きたまえよ」（『賛美歌』41番）；“Sabbath Day”（『賛美歌』〔英文〕148番）；「救い主の愛」（『子供の歌集』42-43）；「いざ救いの日を楽しまん」（『賛美歌』5番）；「^{あがな}贖いの主」（『賛美歌』73番）；“O Divine Redeemer”（シャルル・F・グノー作曲）

2003年10月5日日曜日午後、一般部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。
司会——ジェームズ・E・ファウスト副管長。開会の祈り——クリー・L・コッフォード長老。閉会の祈り——ダグラス・L・カリストター長老。音楽——モルモンタバナクル合唱団；指揮——クレグ・ジェソップ、マック・ウィルバーク；オルガニスト——ボニー・グッドリッフェ、

リンダ・マーゲッツ。“From All That Dwell below the Skies”（『賛美歌』〔英文〕90番）；「取り巻く闇の中を」（『賛美歌』52番）；「主のみ言葉は」（『賛美歌』46番）；“My Shepherd Will Supply My Need”；「来たれ、旅を共に続けん」（『賛美歌』135番）

2003年9月27日土曜日夜、中央扶助協会集会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——ボニー・D・パーキン。開会の祈り——ジュディス・F・エドワーズ。閉会の祈り——アイリーン・S・フィゲレス。音楽——テンプルスクウェア伝道部、家族歴史伝道部、およびブリガム・ヤング大学の扶助協会による聖歌隊；指揮——ビッキー・マクマレー；オルガニスト——リンダ・マーゲッツ。「われ主を愛して」（『賛美歌』134番）；“Choose That Good Part”；「尊き救い主」（『賛美歌』58番）；“Our Savior’s Love”（『賛美歌』〔英文〕113番）

話者リスト (50音順)

アイリング, ヘンリー・B	89
エッジリー, リチャード・C	97
オークス, ダリン・H	37
クック, クエンティン・L	95
クリステンセン, シャーリー・D	32
ズウィック, W・クレグ	34
スコット, リチャード・G	41
チャイルド, シェルドン・F	8
デイディエ, チャールズ	73
ネルソン, ラッセル・M	44
パーキン, ボニー・D	104
パームリー, ウィリアム・W	93
バックー, ボイド・K	24
バラード, M・ラッセル	16
ヒューズ, キャスリーン・H	108
ビングリー, アン・C	13, 110
ヒンクレー, ゴードン・B	4, 60, 82, 102, 113
ファウスト, ジェームズ・E	19, 23, 53
ブラフ, モンティ・J	47
ベイトマン, メリル・J	50
ヘイルズ, ロバート・D	28
ペリー, L・トム	85
ホランド, ジェフリー・R	70
マックスウェル, ニール・A	99
ミケルセン, リン・A	10
モンソン, トーマス・S	56, 67
レイノルズ, シドニー・S	76
ワースリン, ジョセフ・B	78



末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オックス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング

編集長:デニス・B・ノイエシワワンダー

顧問:J・ケント・ジョリー、W・ロルフ・カー、スティーブン・A・ウェスト

実務運営ディレクター:デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター:ピクチャー・D・ケーブ

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーグ

編集主幹:リチャード・M・ロムニー

編集主幹補佐:マービン・K・ガードナー、ビビアン・ポールセン、ドン・L・サール

編集スタッフ:コレット・ネベカー・オース、スーザン・パレット、ライアン・カー、リンダ・ステール・クーバー、ラリー・ン・ポーター、ガートン、シャナ・ガスナビ、ジェニファー・L・グリーンウッド、リサ・アン・ジャクソン、キャリー・カステン、メルビン・リービット、メリン・ミンソン、サリー・J・オデカーク、アダム・C・オルソン、ジュディス・M・パーラー、ジョナサン・H・スティーブンソン、レベッカ・M・テラー、ロジャー・テラー、ジャネット・トーマス、ポール・バンデンバーク、ジュリー・ワーデル、キンバリー・ウェップ、モニカ・ウィークス

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:J・スコット・クヌーセン、スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:フェイ・P・アンドラス、C・キンボール・ボット、ハワード・ブラウン、トーマス・S・チャイルド、レジナルド・J・クリステンセン、ブレント・クリスティン、シャリー・クック、ケリー・リン・C・ヘリン、キャスリーン・ハワード、デニス・カービー、タッド・R・ピーターソン、ランドール・J・ピクストン、マーク・W・ロビンソン、ブラッド、ティア、カリ・A・トッド、クラウディア・E・ワーナー

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

印刷ディレクター:クレグ・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057 東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)

半年予約1,200円(送料共)

普通号/大会号200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。Room 2420, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3220, USA Eメール:cur-iahona-imag@lds church.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウクライナ語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジア語、キリバス語、クロアチア語、サモア語、シンハラ語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブア語、タイ語、タガログ語、タヒチ語、タミル語、中国語、チェコ語、テルグ語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ルウウェー語、ハイチ語、ハンガリー語、フィンランド語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マレーシア語、マダガスカル語、モンゴル語、ラトビア語、リトアニア語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2003 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。

印刷所:日本

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月
原題—International Magazines November 2003. Japanese. 23991 300

For Readers in the United States and Canada:
November 2003 no. 11 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$15.50 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



総大会の収録物の入手

総大会の各部会を収録したテープ類は、教会管理本部配送センターから、通常、大会後2か月以内に多くの言語で入手できるようになっています。

インターネット上の大会説教

インターネットにより、多くの言語で総大会説教にアクセスすることができます。アドレスは次のとおりです。——

www.lds.org

ホームティーチングおよび

家庭訪問用のメッセージ

ホームティーチングまたは家庭訪問用のメッセージとしては、訪問する会員の必要性に最も適した総大会説教を一つ選んでください。

表紙の説明

表紙——写真/マシュー・ライアー

大会の写真

本号に掲載されたソルトレーク・シティでの総大会の写真の撮影者は、以下のとおりです。——クレグ・ダイモンド、ウェルデン・C・アンダーセン、ジョン・ルーク、マシュー・ライアー、ケリー・ラーセン、クリスティーナ・スミス、アレクシス・デュース、マーク・ヘデングレン、ナタリー・シンプソン、ジェド・ウェルズ。ほかの地域での写真の撮影者は以下のとおりです。——ビルナ・ロドリゲス(グアテマラ)、ローレンス・カワサキ(ハワイ)、岡田琢治、関口治(日本)、ロ

ーレンス・G・ルイス(ポーランド)、マイケル・リリオス(南アフリカ共和国)

テーマ別索引

あ 愛 ……70, 93, 102, 104, 108
証 ……8, 19, 28, 32, 41,

89, 102, 107

あがな 贖い ……10, 24, 50, 99

あわ 憐れみ ……93

イエス・キリスト ……32, 34,

67, 70, 93, 99, 110

祈り ……28, 34, 67, 89, 93

戒め ……85

受け継ぎ ……53

永代教育基金 ……4

教え ……32

か 改宗、改心 ……28

回復 ……24, 28, 50, 73, 99

家族 ……16, 56, 110

家族歴史 ……53

活発化 ……56

家庭 ……56, 110

感謝 ……97

監督 ……60

義 ……44, 95

犠牲 ……95

希望 ……13

逆境 ……8, 97

教会の発展 ……4

悔い改め ……10, 37, 78

啓示 ……73, 85

謙遜 ……97

高潔 ……60, 95

個人の価値 ……76

さ 裁き ……10, 104

慈愛 ……104

自己啓発 ……78

姉妹のきずな ……108

従順 ……67, 85, 97

じやうぶん 什分の一 ……76

正直 ……37

女性 ……82, 113

ジョセフ・スミス ……19, 28,

89, 99

シングルアダルト ……113

神権 ……44, 47, 50, 56

神権の祝福 ……50

信仰 ……13, 19, 34, 110, 113

親切 ……102

神殿と神殿活動 13, 19, 53

人道支援プログラム ……4

信頼 ……34

救いの計画 ……24, 34

せいさん 聖餐 ……56

青少年 ……47, 82

聖文研究 8, 28, 41, 78, 89

聖約 ……37, 108

聖霊 ……8, 19, 28, 76, 89

責任 ……44, 60

選択の自由 16, 78, 104, 110

俗世 ……95

尊敬 ……102

た 男性 ……82

父なる神 ……70, 76

伝道活動 ……4, 41, 47, 73

道徳 ……16, 24, 37, 70

な 忍耐 ……13, 41

は 母親の務め ……113

標準 ……24

夫婦宣教師 ……37, 97

ふさわしさ ……28, 60, 95

扶助協会 ……108

文化 ……37

奉仕 ……41, 44, 47, 53,

56, 60, 67, 78, 104

ボルノグラフィー ……82

ま メディア ……16

模範 ……60, 82, 93

モルモン書 ……19, 99

や 優先順位 ……78

ゆる 赦し ……10

預言者 ……8, 32, 73, 85

ら 礼拝 ……37

教会の現状

大管長
ゴードン・B・ヒンクレー

**これは始まりにすぎません。まだほんの少し表面をなでたにすぎないのです。
わたしたちが携わっている業は全世界の男女を対象としています。**



愛する全世界の兄弟姉妹、^{あがな}贖い主の御名によって、皆さんを歓迎するあいさつの言葉を申し上げます。わたしたちの愛をお伝えし、祝福をお送りします。主の業を前進させるために皆さんが行っておられることを心から称賛します。

この業の発展と影響について再び静かに思い巡らしています。1830年4月6日、ピーター・ホイットマーの家でわずかな数の人々が出席して開かれた集會に思いをはせています。ここで教会が組織され、ここから現在に至るまでの長い歩みが始まったのです。

聖徒は弾圧と迫害を堪え忍んできました。追放され、ありとあらゆる災いを被ってきました。こうした歴史をくぐりぬけた後に、わたしたちは輝かしい^{きょう}今日を迎えています。

主はこの業を始めるに当たって次のよ

うに宣言されました。

「聴きなさい、おお、わたしの教会の人々よ。高い所に住み、その目がすべての人のうえにある者の声は言う。まことにわたしは言う。遠くの民よ、聴きなさい。海の島々にいる者よ、ともに耳を傾けなさい。

まことに、主の声はすべての人に及び、逃れる者は一人もない。目として見ないものではなく、耳として聞かないものではなく、心として貫かれないものもない。……

また、警告の声は、この終わりの時にわたしが選んだ弟子たちの口を通して、すべての民に及ぶ。

彼らは出て行き、彼らをとどめる者はいない。主なるわたしが彼らに命じたからである。」(教義と聖約1:1-2, 4-5)

間違いなく、わたしたちは世の人々に対して責任があります。そして、その責任を果たすわたしたちが前進を続けることも確かです。

どこに住んでいるかを問わず、教会のほとんどの会員は今日わたしがこうして話していることを聞くことができます。これは奇跡です。教会の初期の時代に、これほどすばらしい機会に恵まれた時代が来ると想像できた人が、はたしていたでしょうか。

現在、合衆国とカナダの全州には力を備えた会員たちがいます。メキシコの全州、中央アメリカの各国、南アメリカの各国にも同じように力を備えた会員たちがいます。オーストラリア、ニュージーランド、太平洋諸島にも力を備えた聖徒たちがいます。教会は東洋の国々でもしっか



りと根を下ろしています。西ヨーロッパのすべての国、東ヨーロッパのほとんどの国で十分に定着しており、アフリカでもしっかりとした基盤ができています。

教会のプログラムが道徳的にすばらしいことや、それらがもたらす非常によい結果が、世の中で認められつつあります。

最近、カリフォルニアの新聞に次のような論評が掲載されました。「白のワイシャツを着て、バックパックを背負い、自転車に乗っている青年たちがいたら、モルモン書を持っているかどうか確かめるまで



カンファレンスセンターで部会の開会を待つ会員たち

もなく、彼らは何者かは一目瞭然だ。^{りょうぜん}

彼らは皆、良い意味で『型にはまって』いる。

この大勢の若者たち——その正体は、全世界で伝道する末日聖徒イエス・キリスト教会の青年宣教師である——は、伝道期間中、厳しい規則の下で生活している。

2年間にわたって、週に60時間、聖職者として過ごし、祈り、研究し、福音について教えている。この福音こそ、彼らが家族や友人、快適なふるさとを離れて

宣教師になった理由である。

愛する人たちとの接触は、手紙と1年に2回の電話に制限されている。

生活は質素である。借家やアパートに同僚の宣教師とともに住み、朝6時に起床して勉強、その日の働きの導きを求めて祈り、日が暮れてもまだ働き続ける。……

宣教師としての生活は、犠牲であると同時に、この上なく『楽しい』ものであると彼らは言う。』（プリシラ・ノーダイク・ローデン, “Answering the Call,” *San Bernadino County Sun*, 2003年8月

26日付, p.B1)

現在120か国以上で働いている宣教師についても、この記事と同じことが言えます。

約6万人にも上る宣教師が、時間をささげ、全世界で証^{あかし}を述べているのです。しかもそのほとんどが青年です。何という奇跡でしょう。

わたしは最近、解任されて故郷に戻るのを翌日に控えた宣教師たちに会いました。彼らの出身地は様々でした。モンゴル出身の人もいれば、マダガスカルから



来た人もいます。皆、清潔で、はつらつとして、熱意にあふれていました。その姿は、教会と伝道部長と同僚を愛していることを物語っていました。この独特な、すばらしい伝道プログラムは、まさに奇跡としか言いようがありません。

教会のほかのプログラムについても同じことが言えます。

最近、教会を称賛する記事が新聞に載りました。アフリカの子供たちに、はしかの予防接種を受けさせるため、教会が300万ドルを寄付したことについてです。この寄付金は^{じゅうぶん}は十分の一を充てたものではありません。忠実な会員たちが教会の人道支援活動に寄せてくださった基金から出したものです。教会はアメリカ赤十字社、国連基金、疾病管理予防センター、国連児童基金、世界保健機関、汎米保健機構と協力し、今後5年間で2億人の子供たちに予防接種を受けさせ、これまではしかによって失われていた120万の幼い命を救おうとしています。教会の寄付金だけで300万人の子供たちにワクチンを投与することができます。

何とすばらしいことでしょう。教会の一つ一つの人道支援プログラムも同様の成果を上げています。

さて、もう一つ別のことについてお話しします。

2001年3月に、教会は、経済的に豊かとは言えず、選択肢の限られた国に住む帰還宣教師やヤングアダルトに、よりよい就職の機会を与えたいという願いから、彼らの教育および技能修得を支援する計画を発表しました。

わたしたちはこの事業を、19世紀の永代移住基金に倣^{なら}って永代教育基金と名付け、献金してくださる方を募りました。この事業の現状についてご報告します。

融資の要請は増えていますが、皆さんの惜しみない献金によって対応できる状態を保っています。今日まで、教会はラテンアメリカ、アジア、アフリカ、その他の地域において、若い男女約1万人への融資を実施してきました。これらの青年たちは、ほかの人々も同じ機会を得られるように、返済することを約束しています。

すでに多くの人が学業や職業訓練を終えて、その実を味わっています。現在までに、約600人の若い男女が訓練を終えています。ほとんどの人は良い就職先を見つけています。今後数か月のうちに、さらに多くの人が訓練を終えて、それぞ

れの地域で貴重な労働力となっていくことでしょう。彼らは社会で成功し、子供たちを育て、教会のために奉仕するようになることでしょう。これらの目標を達成した人がすでにたくさんいます。

例を挙げると、パトリックはジャマイカで永代教育基金の支援を受けて学業を終えた最初の学生でした。経営学の基本的な訓練を受けたことにより、国营空港に就職できました。賃金がよいだけでなく、将来も約束されています。彼はすぐに融資を返済し始めました。

フラビアは南アメリカの貧しい地域に住む姉妹です。訓練を受ける機会も資金もなく、定職に就くことができませんでした。彼女は永代教育基金の支援によってコンピューターを操作する訓練を受けました。訓練を終えると、末日聖徒雇用サービスの助けによってすばらしい会社就職することができました。フラビアはこのように報告しています。「現在わたしは、〔高性能の〕コンピューターシステムを駆使し、レシフェで最も大きな病院の財務コンサルタントを任されています。わたしは社内でこの財務システムを開発した技術班にいたのです。」

このような事例は倍増することでしょう。この事業が順調に進んでおり、経験を重ねながら発展していると報告でき、うれしく思います。すでに融資の返済が始まっているということにも勇気づけられます。もう一度、永代教育基金に寄せてくださる皆さんの惜しみない献金、関心そして祈りに感謝をお伝えしたいと思います。

かつて「大英帝国に太陽は沈まない」と言われた時代がありました。しかしその帝国も今や同じ姿を保ってはいません。しかし、主の業においては、まさに太陽は沈むことはありません。主の業は、常に全世界の人々の生活に活力を与えているからです。

そしてこれは始まりにすぎません。まだほんの少し表面をなでたにすぎないのです。わたしたちが携わっている業は全世界の男女を対象としています。この業に国境はありません。主の御心のまに

この業は続くのです。現在門戸を閉ざしている国々も、いつか開く時が来るでしょう。それがわたしの信仰です。それがわたしの信念であり、証です。

人手によらずに山から切り出された小石は、全地に満ちるまで転がり進んでいます（ダニエル2：31-45；教義と聖約65：2参照）。

この偉大な大会に集まっているあらゆる地に住む末日聖徒に、神の祝福があるようにと申し上げます。信仰を持ち続け、聖約に忠実であってください。福音の光の中を歩んでください。地上に神の王国を築いてください。

教会はすばらしい状態にあり、さらによいものとなることができますし、事実そのようになるでしょう。教会は発展し、強くなるでしょう。

わたしたちはごく普通の人間ですが、わたしたちが携わっている業はまったく並外れたものです。わたしたち男性は生ける神の神権を持っています。前を歩んだ人々は驚くべきことを成し遂げました。未来の姿を想像することもできないようなこの偉大な業を続けていく機会と責任がわたしたちにあります。

兄弟姉妹、皆さんの信仰と忠実さに感

謝しています。この全能者の業に寄せてくださる愛に感謝しています。わたしたちはこの世に生きており、この世で働いています。けれども、主の業を進め、地上に主の王国を築くために、世を超越しなければなりません。さて、神の子供として、実の兄弟姉妹である皆さんとともに、これから偉大な世界大会に参加しましょう。

これから2日間にわたって、多くの中央幹部と役員から話を聞きますが、だれにも話のテーマは与えられていません。けれども彼ら一人一人が、耳を傾けるすべての人を助け、靈感を与え、高めることを話せるように主に願ひ求めてきました。

天の祝福がありますように。皆さんが信奉する偉大で栄光に満ちた大義に誠実であり、忠実でありますように、へりくだり、贖い主、主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。

さて、ここで特別に、デビッド・B・ヘイト兄弟に説教壇に来ていただきました。さあ、年老いた兵士が来てくれました。ヘイト長老は現在97歳です。この神権時代が始まって以来、どの使徒よりも長く生きています。ヘイト兄弟は最近病気になる、いささか参っているよ

うです。しかし、今朝ここに来て皆さんに手を振りたいそうです。皆さんへの深い感謝と皆さんへの大きな愛を込めて手を振りたいと望んでいます。彼に伝えたいことがあります。「愛する友よ、神の祝福と癒しがありますように。わたしたちはあなたを愛しています。あなたを支持しあなたのために祈っています。愛するヘイト兄弟、あなたのうえに天の祝福がとどまりますように。ありがとうございます。ありがとうございました。」

ヘイト長老：「ありがとうございます。」

ヒンクレー大管長：「皆さんに手を振りたいですか。」

ヘイト長老：「はい、ぜひとも。わたしは今、手を振っています。ありがとう。ありがとう。皆さんとともにいられてとてもうれしいです。」

ヒンクレー大管長：「ありがとうございます。」

ヘイト長老：「ありがとうございます。」

ヒンクレー大管長：「では、もう休んでいただきます。ヘイト長老はテレビで大会を御覧になります。主の軍勢の中で、とても立派な兵士です。ほんとうにありがとうございました、ヘイト兄弟。」



「堅固な基」

七十人

シェルドン・F・チャイルド

あかし
証も……固い土台に築かれるべきです。イエス・キリストの福音に深く根を下ろすのです。



数年前、わたしたちの住んでいた地域がひどい嵐に見舞われました。土砂降りの雨と、狂ったような東風が町を襲いました。嵐が収まると、どのくらいの被害が出たか分かってきました。電気が止まり、建物は壊れて、美しい樹木は何本も根こそぎ倒れています。数日後、庭の木を数本倒された友人と話をしました。敷地の片方に植えた木はしっかりと立ち、嵐に耐えて残っていましたが、別の場所に植えた木は暴風に耐えることができなかったというのです。倒れた木が植えてあったのは、わたしの目には友人の敷地でいちばんいい場所のように見えました。友人はこう言いました。「嵐に耐えたのは、地盤の固い所の木ばかりですよ。養分を得るために根を深く張っていたんでしょうね。倒れたのは、小川の近くにあったから養分は得やすかったんでしょうが、その分根が浅くて、嵐に

耐えられなかったんですね。」

証もこれと同じで、固い土台に築かれるべきです。イエス・キリストの福音に深く根を下ろすのです。そうすれば、人生に付き物の暴風雨が荒れ狂うときにも、耐えるだけの力を持つことができるのです。ヒラマンは息子たちにこう勧告しています。

「わが子らよ、覚えておきなさい。あなたたちは、神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基を築かなければならないことを覚えておきなさい。そうすれば、悪魔が大風を、まことに旋風の中に悪魔の矢を送るときにも、まことに悪魔の雹と大嵐があなたたちを打つときにも、それが不幸と無窮の苦悩の淵にあなたたちを引きずり落とすことはない。なぜならば、あなたたちは堅固な基であるその岩の上に建てられており、人がその上に基を築くならば、倒れることなどあり得ないからである。」¹

モルモン書の中で預言者ヤコブは反キリストのシーレムと相対し、このように問いかけました。『あなたは将来来られるキリストを否定するのですか。』すると彼は言った。『キリストが必ず存在するのであれば、わたしは否定しません。しかし、キリストなどというものが、現在にも、過去にも、未来にも存在しないことを、わたしは知っています。』

次にわたしが、『あなたは聖文を信じていますか』と言うと、彼は、『はい』と言った。

それでわたしは彼に言った。『それならば、あなたは聖文を理解していません。

聖文はまことにキリストについて証しているからです。見よ、わたしはあなたに言いますが、このキリストについて述べることなしに書き記したり預言したりした預言者は一人もいません。

それだけではない。……聖霊の力によってもわたしに明らかにされました。』²

ヤコブは真理の源を3つ挙げました。聖文、預言者、聖霊の3つです。どれもキリストを証しています。その3つは「神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に〔証を〕築〔く〕」助けとなります。³

1. 聖文

救い主御自身がこう言われました。「聖文を調べなさい。……聖文は、わたしについて証をするものである。」⁴ 主は、家族を連れて荒れ野へ逃げるようリーハイにお命じになったとき、新天地で頼るべき堅固な土台が必要であることを御存じでした。聖文が非常に重要だったので、記録を手に入れさせるために、御霊の声^{みたま}がニーファイにラバンを殺すよう命じました。「一人の人が滅びるのは、一つの国民が不信仰に陥って滅びてしまうよりはよい。」⁵

ほぼ同じ時期に、主は別の民をエルサレムから約束の地へ導かれました。数世代が過ぎ、その民の子孫はモーサヤ王に発見され、ゼラヘムラの民として知られるようになりました。発見当時、民の霊的な状態は思わしいものではありませんでした。オムナイ書にはこうあります。「彼らの言葉はなまっておき、そのうえ、彼らは何一つ記録を持って来ておらず、しかも、自分たちの創造主の存在を否定していた。」⁶ 聖文がなければ、民は墮落し、家族も個人も不信仰に陥ってしまいます。日々聖文を学ぶならば、キリストを信仰の基にすることができます。聖文はまさにキリストを証しているのです。

2. 預言者

何年前かに、わたしはステーク会長会を再組織するという任務を託されました。ステーク大会の日曜の部会で、新し

く召されたステーク会長の奥さんがこのような話をしてくれました。「わたしは善良なクリスチ안의家庭で育ちました。両親は毎日子供たちを集めて、聖書を一緒に学びました。いにしへの預言者について読んでいくうちに、わたしは両親に『なぜ今は預言者がいないの』と聞きました。ですが満足のいく答えは得られませんでした。先生や教会の指導者に聞いても分かりません。

大学生になったある日、白いシャツとネクタイの二人の青年が目に残りました。黒い名札には『イエス・キリスト』の文字があります。わたしは二人に話しかけてみました。『御二人は聖職者ですか。』『そうです。わたしたちは末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師です。』

『では一つ教えてください。主は今の人も、昔の人と同じように愛しておられますか。』

『はい、愛しておられます。』

『では、どうして今地上に預言者がいないのですか。』

こう聞かれて、若い宣教師たちがどれほどうれしかったか想像してみてください。二人は答えました。「います、預言者は今も地上にいます。この時代の預言者についてお話してもよろしいですか。」

わたしたちも同じように世に宣言します。「今日、地上に預言者がいます。」今日の午後、わたしたちは手を挙げ、ゴードン・B・ヒンクレー大管長と二人の副管長、そして十二使徒定員会を預言者、聖見者、啓示者として支持します。イエス・キリストの御名の特別な証人です。「生けるキリスト——使徒たちの証」という文書の中で彼らはこう述べています。「わたしたちは正式に聖任を受けたイエス・キリストの使徒として証します。イエスは生けるキリスト、不死不滅の状態にある神の御子です。……イエス・キリストは世の光、命、そして希望です。イエス・キリストの道は、この世においては幸福に、後の世においては永遠の命に至る道です。』⁷ 兄弟姉妹の皆さん、神が預言者を送るほどわたしたちを愛してくださるのであれば、わたしたち



も預言者に従って神に愛を示す必要があります。預言者に従うなら、人生の嵐から身を守ることができ、キリストに導かれるのです。

3. 聖霊

十字架にかかられる前、キリストは2階の広間に使徒を集めて言われました。「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであらう。」⁸

わたしたちはバプテスマの後に^{あんしゆ}按手を受け、主の教会の会員に確認され、聖霊の賜物^{たまもの}を受けます。義にかなった生活を

送り、ふさわしさを保つなら、聖霊を常に伴侶^{はんりょ}とすることができるという約束を受けるのです。聖霊は人生を導き、真理を教え、イエスはキリストであられると証されます。聖約を交わした主の教会の会員は、「主からますます豊かに御霊^{みたま}を注いでいただけるように」⁹ 主に仕え、その戒めを守ると約束するのです。

今わたしたちが召しを受けている西アフリカで、主の御霊が忠実な聖徒のうえに豊かに注がれているのを感じます。1989年に嵐がガーナを襲いました。暴風雨のことではありません。迫害、中傷、誤解の嵐です。試練の時でした。ガーナでは教会はまだ珍しい存在でした。アフリカ人以外の宣教師は皆、国外退去を命じ

られました。集会所は鍵^{かぎ}がかけられて監視され、会員が使えないようになりました。聖徒たちは集うことができません。そのため自分の家で礼拝しました。逮捕された会員、投獄された会員もいました。この期間は「凍結時代」と呼ばれました。会員たちはあまり連絡を取り合うことができず、国外の教会の助けも得られませんでした。しかし嵐の中に取り残されたわけではありません。聖文と預言者の言葉を持っていたのです。ガーナの聖徒は主を信頼し、主は御霊を注いでくださいました。ある教会員はこのように述べました。「主の御霊がともにありました。主が導きを与えてくださるのを感じました。わたしたち会員は互いにより親しく交わるようになり、救い主に近づくことができました。」

18か月間、聖徒たちは凍結時代が終わるようにと断食し、祈り続けました。1990年11月、抑圧的な法律が解除されました。ひどい嵐は過ぎ去りましたが、その爪跡^{つめあと}も残りました。教会を去った人もいました。去った人たちの根は浅く、土台が弱かったのです。今日ガーナの教会の土台は、あの嵐を耐えた人々の信仰の上に築かれています。彼らはイエス・キリストの福音に深く根ざしているのです。

兄弟姉妹の皆さん、聖文、預言者、聖霊は皆キリストを証しています。それらの上に基を築くならば、倒れることなどあり得ない「堅固な基」の上に築くことができるのです。¹⁰ イエス・キリストの御名によって証します。アーメン。

注

1. ヒラマン5：12
2. モルモン書ヤコブ7：9-12
3. ヒラマン5：12
4. 欽定訳ヨハネ5：39から和訳
5. 1ニーファイ4：13
6. オムナイ1：17
7. 「生けるキリスト―使徒たちの証」『リアホナ』2000年4月号、3
8. ヨハネ14：15-16
9. モーサヤ18：10
10. ヒラマン5：12

贖罪、悔い改め、 よごれた衣服

七十人

リン・A・ミケルセン

主は、御自身の血によって衣を清めると約束してくださいました。……主は一人一人を墮落^{あがな}から贖ってくださいます。



✕ キシコの小さな町を運転していた男が、突然飛び出した犬をひき殺してしまいました。その日から、彼は「マタ・ペロス」（犬殺し）という名で村中に知られました。名前の由来は問題にされず、ただ「犬殺し」と呼ばれたのです。後になって、事情を知らない人々は、恐ろしい光景を思い描きました。

うわさや現実、あるいはあだ名が作り上げる評判は、事実上、打ち消すのが不可能になります。「人前でよごれた衣服を洗うな」という格言がありますが、それは賢明な勧告です。個人や家族の失敗や罪を人前にさらすのは、必要なことではなく、不適切、不健全なことです。罪が広く知られれば知られるほど、悔い改

めてやり直すことがますます難しくなります。

罪を覆い隠すべきだと言っているのではありません。たとえ隠したいのが人情であっても、です。人は悔い改めるよりも、犯した過ちや罪を隠しておきたいと思うものです。しかし、カインがアベルを殺したときに明らかになったように、罪を主に隠すことはできません。¹ すべては主の御前^{みまへ}にあるのです。² 主は人が犯す不従順な行いをすべて御存じである一方で「悔い改めるなら、もうその罪を思い起こさない」³ と約束しておられ、そこが一般大衆とは違うところです。

「よごれた衣服を洗う」という行為と悔い改めには、本質的に関連があります。罪を犯すのは主の御前に汚れを持って行くことと同じで、それに対する和解が必要になります。しかし、告白して赦し^{ゆる}を願うためには、ふさわしい時と場所があります。どのように告白するかは罪の種類や重さによって決まります。違法行為や、公の信頼を裏切った場合は、公に告白して赦しを求める責任があります。悔い改めの責任を果たす相手は、主とその僕^{しもべ}、そして傷つけた人々です。

小羊の血によって衣が洗い清められることと、人が自分のよごれた衣服を洗うのには、似たところがあります。衣は、ほかでもない主の贖いの犠牲を通して清められます。聖句によると、衣とは個々の人間の全存在を指します。人はだれでも清め



カンファレンスセンター屋上から流れ落ちる滝を眺める3人の訪問者

が必要です。罪でよごれているからです。裁きと赦しは、救い主だけの特権です。なぜなら主御一方だけが、赦しを与え、罪を洗い流す力をお持ちだからです。⁴

ゼラヘムラでベニヤミン王の偉大な説教⁵を聞いたとき、民は心を改め⁶、国中が平和と繁栄を享受しました。時が過ぎ、教会を管理する者としてアルマが召されたころ、教会の民の中には、繁栄に心を奪われて罪に陥る者がいました。こうした罪人が連れて来られたとき、アルマは悩みました。問題をどう扱うべきか判断に窮し、罪人をモーサヤ王の前に連れて行きましたが、結局自分で裁くようにと言われます。

アルマは神の目にかなわない裁きを下すことを恐れ、心のすべてを神に注ぎ出して、罪人を扱う方法について答えを求めました。同胞を深く愛し、御心を行いたいと熱烈に願ったアルマは、主から豊かに祝福され、永遠の命までも約束されました。そして、人を正しく裁くために理解を求めることの大切さについて次の

ような説明を受けたのです。「これはわたしの教会である。彼らが救われるのは、わたしの名により、わたしの犠牲による。裁く者はわたしである。」⁷

わたしたちは、裁く権能がどなたにあるのかを忘れてしまうことがよくあります。罪を赦すのは、人ではなく、主です。ですから、よごれた衣服を人前にさらすように今度誘惑されたら、次のことを思い出してください。

第1に、主のみもとへ行く。

第2に、傷つけた人のもとへ行く。

第3に、必要であれば、イスラエルの判士のもとへ行く。

第4に、イスラエルの判士のもとの重荷を降ろす。

よごれた衣服をさらすことに関するもう一つの問題は、人の過ちを暴露したいという、飽くことのないこの世的な欲望です。逆境にいらだっていたヨブに、主はこう言われました。「あなたはわたしを非とし、自分を是としようとするのか。」⁸ 家族関係の中でも同じことが起こ

ります。自分の体面を保つために、きょうだいや子供、親の失敗や過ちを、事細かに並べ立て、自分を正当化し、心の痛手を軽くしようとするのです。

放蕩息子^{ほうとう}のたとえで、放蕩息子が改心できたのは、忠実な父親が息子の犯した過ちではなく、息子の真の価値について語ったからです。

人の罪や間違いについて話す人は、実際には、人を裁いています。ある父親が息子に、「請求額が不当に高いと思うから、あの人にはもう仕事は頼まないよ」と言いました。すると息子は答えました。「えっ、そんなこと言うの、パパ。いつも教えていることと違うじゃない。」

父親は根拠なしに相手を裁いていました。どうすればよかったのでしょうか。請求額が疑問なら、話し合いで意見の違いを解消し、不平を言わずに問題を処理するべきでした。救い主はこう教えておられます。「人をさばくな。自分がさばかれないためである。あなたがたがさばくそのさばきで、自分もさばかれ、あな

彼は謙虚に答えました。「皆の心が清いからです。」

「ほかに秘密はありませんか。」

「御霊^{みなたま}です。あのように気持ちを通じ合わせる力を持っているのは、御霊だけです。」

では何に焦点を当てるべきでしょうか。「また、あなたがたがわたしの栄光にひたすら目を向けるならば、あなたがたの全身は光に満たされ、あなたがたの中に暗さが無いであろう。そして、光に満たされるその体はすべてのことを悟る。」¹⁴ この約束は、悔い改めを通して自分のよごれた衣服に対する責任を果たし、清められたときに成就します。

願わくはモロナイを通して与えられた救い主の約束を享受できますように。「立ち上がり……美しい衣を着なさい。……キリストのもとに来て……勢力^{しきり}と思いと力を尽くして神を愛するならば……あなたがたは神の恵みにより、キリストによって完全になることができる。……キリストの血が流されたのは、あなたがたの罪の赦しのために御父が聖約されたことによるものであり、それによってあなたがたは染みのない清い者となるのである。」¹⁵ イエス・キリストの御名^{みな}により、アーメン。

注

1. 創世4：9-10；モーセ5：34-35参照
2. モーセ1：6参照
3. 教義と聖約58：42参照
4. アルマ5：21-27；教義と聖約64：10参照
5. モーサヤ2-5章参照
6. モーサヤ5：2参照
7. モーサヤ26：10-24参照
8. ヨブ40：8
9. マタイ7：1-2
10. ヨハネ8：7, 11
11. 教義と聖約64：10, 強調付加
12. 黙示3：20参照
13. 黙示7：14参照
14. 教義と聖約88：67
15. モロナイ10：31-33

はるかに望み見て

中央扶助協会第二副会長

アン・C・ピングリー

信仰とは、……約束……を「はるかに望み見て確信する霊的な能力であり、真に信じる人々の確かな尺度です。」



熱 帯雨林の広がる、ナイジェリア南東部の蒸し暑い一日を決して忘れないでしょう。夫とわたしは、管理していた伝道部で最も遠い地域に向かっていた。神殿推薦状を発行するために、イコットエヨ地方部の会員と面接を行うことになっていたのです。近年発展を遂げつつあるこの地方部には、過去2年間に改宗した会員が何人もいました。会員は皆、最も近いとされる南アフリカのヨハネスバーグ神殿から4,800キロも離れた所に住んでいました。そのため、だれ一人として神殿のエンダウメントを受けていませんでした。

会員たちは、わたしたちの毎月の訪問日を知っていました。けれども何時に到着できるかは、わたしたちにさえ分かりませんでした。そのうえ、西アフリカのこの地域には電話がほとんど普及していなかったため、連絡もできませんでした。その

ため、この信仰^{あつ}篤いアフリカの聖徒たちは早朝から集まり、神殿推薦状の面接を受けるために、必要であれば一日中待ったのです。到着したとき、灼熱^{しやくねつ}の中で待つ幾人かの教会員に交じって、二人の扶助協会の姉妹が目にとまりました。二人は鮮やかな巻きスカートに白いブラウスを身に着け、頭にはアフリカの伝統的なスカーフを巻いていました。

多くの時間の後に全員の面接を終え、夫とわたしはジャングルの砂地を車で戻り始めました。そのとき、ある光景に息をのみました。先ほどの二人の姉妹がまだ歩き続けていたのです。村まで往復29キロの道のりを、二人は歩いて来たのでした。使う特権にあずかれるかさえも分からない神殿推薦状を得るために、二人はそうしたのです。

ナイジェリアの聖徒たちは、ハワード・W・ハンター大管長の次の勧告を信じていました。「神殿が近くにないために、すぐにあるいは頻繁に参入できないとしても、すべての成人会員が有効な神殿推薦状の発行を受けるふさわしさを身に付け、また推薦状を所持するなら、主はお喜びになるでしょう。」¹ 姉妹たちの手には、清潔なハンカチで丁寧に包まれた大切な神殿推薦状が握られていました。わたしは二人の信仰の模範を、大切に心に留めています。

主と聖約を交わしたこの二人の扶助協会の姉妹は、アルマの次の「信仰についての」教えを行い表しています。「信仰とは物事を完全に知ることではない。したがって、もし信仰があれば、あなたがた



アン・C・ピングリー姉妹が撮影した二人のナイジェリアの姉妹。二人は決して使用することのないであろう神殿推薦状を得るために、往復で18マイル（約29キロ）もの距離を歩いた。

はまだ見ていない真実のことを待ち望むのである。』²

信仰は、天の御父とその独り子イエス・キリストに対する、最も個人的な敬愛と献身を映し出します。それは、この最初にして最も重要な福音の原則を土台とします。すなわち、イエスがわたしたちの「信仰の導き手であり、またその完成者で〔あられる〕」³ ことを知り、救い主を仰ぎ見るのです。

祖父のおばである、ローラ・クラーク・フェルプスは、クラーク家で最初に教会に入った人です。ローラは疑わずに雄々しく立ち、⁴ 独自の方法で、主への信仰を示しました。

ローラの信仰の遺産は、「望んでいる事ながらを確信し、まだ見ていない事実を確認する」⁵ という信仰の教義について多くのことを教えてください。ローラはジョセフ・スミス・シニアから祝福師の祝福を受けました。そして信仰を保つことによってシオンの受け継ぎを得ると勧告されました。また、「信仰をもって神に頼るなら、心に望むものをすべて与えられる」⁶ という約束を得ました。

ローラとその夫は、預言者ジョセフ・スミスと知り合いました。あるとき、預言者と兄のハイラムが、ミズーリ州ファーウェ

ストの農場にあるローラの家走到了。ローラは二人を衣装部屋のカーテンの陰にかくまいました。程なく、預言者を探しに暴徒の先導者が駆け込んで来ましたが、ローラは穏やかに対応しました。

ローラはこの神権時代の初期の教会員として、喜びと同時に困窮も味わいました。何度も家を追われ、夫と離れながらも、彼女の信仰は強められました。腕のよい助産師として、ローラは家計を助けるために、昼夜を問わずどんな悪天候の下でも働きに出かけました。そのような過度の労働がたたなり、ローラは夫と幼い5人の子供を残して、わずか34歳の若さで亡くなりました。子供や孫、そしてひ孫が、ローラのように信仰の道を歩む姿を見ることもありませんでした。現世では、神殿で自身のエンダウメントを受けるという祝福も得ることができませんでした。もしその祝福にあずかっていたなら、どれほど尊んだことでしょう。

信仰を貫いたローラの人生は、ヘブル人への手紙の次の一節^{あかし}を証しています。「これらの人はみな、信仰をいだいて死んだ。まだ約束のものは受けていなかったが、はるかにそれを望み見て喜び、そして、地上では旅人であり寄留者であることを、自ら言いあらわした。」⁷ ローラの

人生には信仰が息づいていました。そして信仰のうちに生きたのです。

わたしは祖父のおばであるローラを愛し、彼女の模範を大切に心に留めています。ローラは、ナイジェリアの扶助協会の姉妹たちと同様、「信ずる者には、どんな事でもできる」⁸ ということに気づかせてくれるのです。

信仰とは、現世では実現する可能性が低い約束であっても、それを「はるかに」望み見て確信する霊的な能力であり、真に信じる人々の確かな尺度です。ブルース・R・マッコンキー長老は、これらの言葉の持つ真実性を次のように表現しました。「完全で純粋な形の信仰には、〔神が〕わたしたちの嘆願^{みこころ}を聞き、〔御心にかなう時節に〕その願いをかなえてくださるという、揺るぎない確信と絶対的な信頼が必要である。」⁹ この言葉を信じて、わたしたちもまた、今日^{きょう}も明日も確固として「信仰に立〔つ〕」¹⁰ ことができるのです。

住んでいる場所や、取り巻く環境は問題ではありません。現世で経験する心痛や落胆、またこの世では果たされない約束のかなたにあるものに目を向け、日々義にかなった生活をする中で、イエス・キリストへの信仰を表すのです。「聖徒は皆、約束せるものを受け」¹¹ る日を心待ちに



大会の部会で、会衆とともに賛美歌を歌うゴードン・B・ヒンクレー大管長（中央）、トーマス・S・モンソン第一副管長（左）、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長（右）

きる信仰を持つことは、何とすばらしいことでしょう。

西アフリカのジャングルの砂地を、信仰を込めて、一歩ずつ歩くこの勇敢なナイジェリアの姉妹たちは、いつの日か祖国に神の聖なる神殿の壁がそびえ立つとは思っていませんでした。また、もう一人の神の預言者であるゴードン・B・ヒンクレー大管長の靈感に導かれた言葉が、彼女たちが願い、「はるかに」望み見ていた約束の祝福をもたらすとは想像もしていませんでした。分かっていたことは、主がこの時代に福音を回復され、福音の証が自らの心の内に燃えたこと、また信仰が人生の行く道を照らしてくれることだけでした。そして彼女たちは、神殿推薦状の発行を受けるふさわしさを身に付け、推薦状を保持するという預言者の勧告に従ったのです。

夫とわたしは、2000年4月のあのすばらしい日に、ナイジェリアの二人の姉妹をはじめとする西アフリカの多くの聖徒たちを思い起こし、いとおしさでいっぱいになりました。その日、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように発表したのです。「わたしたちは今この大会で、ナイジェリアのアバに主の宮を建てたいと考えていることを発表いたします。」¹² 兄弟姉妹、

時として「奇跡によって信仰が強められる」¹³ ことを証します。アフリカの神殿は、広大な大陸に点在する小さな村や大都市に住む多くの聖徒の信仰によってもたらされた奇跡のすばらしい例です。

神殿推薦状を手に入れるために遠い道のりを歩いた、アフリカの二人の開拓者の信仰を見ることができ、深く感謝しています。ナイジェリアの神殿で現在儀式が行われ、これらの女性とその家族、そして何千人もの人々が神殿推薦状を使用する機会があることをうれしく思います。信仰の象徴として、また信仰を行使するために推薦状を使うことができるのです。

時折、人生においてまだ受けていない祝福を理解するのは難しいことがあります。神が御自分の子供たちのために用意されたすべてのものを、霊の目で「はるかに」望み見るためには、常に信仰がなければならぬのです。

ジャングルの砂地を歩いていたあの姉妹たちと同じように、わたしも神が生きておられることをはっきりと知っています。神はそれぞれの大陸に住むわたしたちを愛し、一人一人に祝福を与えることを望んでおられます。「はるかに」望み見る約束が、いつの日かすべての祝福をもたらしてくれることを「この上ない確信」¹⁴ をもって待ち

受け「力のかぎりすべてのことを……行[う]」とき、イエス・キリストを信じる信仰が日々の支えとなることを証します。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. 「神殿に心を向ける民」『聖徒の道』1995年5月号、6
2. アルマ32：21、強調付加
3. ヘブル12：2
4. 1コリント16：13；ヤコブの手紙1：6参照
5. ヘブル11：1
6. モーリス・カルビン・フェルプス、*Life History of Laura Clark*（末日聖徒イエス・キリスト教会保管記録庫）、マイクログフィルム、3
7. ヘブル11：13
8. マルコ9：23
9. *A New Witness for the Articles of Faith* (1985年)、187
10. 1コリント16：13
11. 「いざ救いの日を楽しまん」『賛美歌』5番
12. 「新しい始まりの時」『リアホナ』2000年7月号、107
13. Bible Dictionary, "Faith," 669
14. 教義と聖約123：17

声を届かせる

十二使徒定員会

M・ラッセル・バラード

最初は小さな声かもしれませんが、声を上げて、人を高め励まし、喜んで受け入れられるメディアを応援しましょう。



秋を迎えると、テレビは新番組の放送を始めます。友人によれば、この秋始まる新番組は37あるそうです。番組批評を読んだら、子供に見せたい番組はほとんどなかったと言いました。ホームコメディやドラマ、実録番組にはだいたいどれも不道徳や暴力の描写があり、伝統的な価値観や家族制度を巧みにあざ笑っています。新番組は年々質を下げ、大衆の許容範囲をどんどん押し広げようとしているようです。ハリウッドが送り出すもの、インターネットで見られるもの、今日の音楽の多くは、退廃という名の「クモの巣」、子供たちをとりこにし、すべての人を危機にさらすクモの巣を張り巡らしています。

教会の指導者には道徳的な問題について率直に述べ、個人と家族に助言を与える責任があります。家族は社会の基本単位であり、永遠の基本単位です。ですから

家族が脅かされるなら、教会の指導者は対抗しなければなりません。

家庭は天の御父の計画の中核を成します。人は皆、天の御父の家族の一員であり、現世は自分自身の家族を形成し、親の役割を果たす機会なのです。人は家庭の中で神の愛に非常に近い「無条件の愛」を学びます。価値観を教え、人格を形成するのは家庭の中です。「父親」と「母親」という召しは、決して解任されることのない召しであり、家族の中にやって来る神の霊の子供に対する責任以上に大切な管理の職はありません。

家族のこの上ない大切さと、今日の家族が直面している脅威を考えると、大管長会と十二使徒定員会が「家族——世界への宣言」の中で、次のような厳しい言葉を用いているのも不思議ではありません。「わたしたちは警告します。……家族の責任を果たさない人々は、いつの日か、神の御前に立って報告することになります。またわたしたちは警告します。家庭の崩壊は、個人や地域社会、国家に、古今の預言者たちが預言した災いをもたらすことでしょう。」¹ そのような預言者の一人がマラキでした。マラキは親に対して、全地がのろわれることのないように、親の心をその子供たちに向け、子供たちの心をその親に向けるよう警告しました（マラキ4：5参照）。

旧約時代の記録にも、家族に関する現代の宣言にも記されているこの警告に付け加えて、わたし自身も警告したいと思います。特に、今日のメディアと、家族や家庭生活がメディアから受ける著しい

悪影響について警告します。

今日の巨大メディアが発信するメッセージの量は膨大で、しかもピンからキリまでいろいろなものがあります。有害で節操のないものもあれば、積極的で生産的な情報を多く提供しているものもあります。歴史、発見、教育を専門に放送するチャンネルもあります。上質な娯楽や、精神を高揚させるものを提供し、善悪の結果を正しく伝えるような映画、コメディ、ドラマも、今でも放送されています。インターネットは、情報、コミュニケーションのすばらしい手段として活用できますし、世界中には優れた音楽が無限に存在します。ですから、最大のチャレンジは、見聞きするものを知恵を使って選択することなのです。

預言者リーハイが語ったように、キリストとその贖罪のおかげで、人は「とこしえに自由となり、善悪を知るようになっていく。……思いのままに行動することができ、強いられることはなく」、……自由と永遠の命を選ぶことも、……束縛と死を選ぶことも自由」なのです（2ニーファイ2：26-27）。

メディアの選択は、生活の中の選択を象徴することになります。テレビや映画の中で、最新の流行や快い刺激、けばけばしいものを選んでいたら、注意していないと、いずれは生活の中でも同じものを選ぶようになるでしょう。

正しく選択しなければ、メディアは家族を破壊し、子供たちを福音の狭い道から遠ざけてしまいます。大小の画面が映し出す仮想現実の世界では、いつも家族を崩壊させる考えや行動が、楽しく、現代風で、刺激的で、自然であるかのように描かれています。メディアは家族に非常に恐ろしい攻撃を仕掛けていますが、それが直接的であらざる不道徳であることはまれです。狡猾な悪魔は、大多数の人が依然として家族や伝統的な価値観を大切にしていることを承知しています。むしろ、善悪が取りざたされないように、微妙な表現をするのです。不道徳や性を連想させる表現があまりに蔓延しているた



め、皆がしているから害はないと思い込んでいる人もいます。この邪悪で有害な問題は、対岸の火事ではありません。わたしたちの家の中に、家族が集まる居間の中にまで入り込んでいるのです。

堅固で幸せな家庭を築くには、信仰箇条第13条にある真理、つまり「正直、真実、純潔、慈善、徳高くあるべきこと、またすべての人に善を行うべきこと」という信念によって家族を養う必要があります。幸いなことに、「徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値すること」を尋ね求める男女は、文化、宗教を問わず大勢います。

しかしわたしたちは使徒パウロが述べた「苦難の時代」に生きています。パウロは、わたしたちの時代には、人は「自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、高慢な者、神をそしめる者、親に逆らう者、恩を知らぬ者、神聖を汚す者、

無情な者、……そしめる者、……善を好まない者、……乱暴者、高言をする者、神よりも快楽を愛する者」になるだろうと警告しました（2テモテ3：1-4）。

陰謀を企てている男女は美徳よりも利益を求め、「あらゆる……悪事を行うように人々を扇動し」（アルマ11：20参照）、メディアが果たし得る徳高い役割を妨げています。

メディアが説くいわゆる「新しい道徳」は、昔から存在した不道徳以外の何ものでもありません。不道徳は宗教を攻撃します。家族を傷つけます。美徳を悪徳、悪徳を美徳と呼びます。徳高くもなく、好ましくもなく、誉れや称賛に値しないメッセージや画像によって、感覚をまひさせ、精神を砕くのです。

今こそ、教会員が声を上げる時です。今こそ、同じ問題意識を持つ多くの人と力を合わせ、全地を覆う不快で、破壊的

で、卑劣なメディアの影響に反対の声を上げる時なのです。

カイザー家族財団（Kaiser Family Foundation）によれば、ゴールデンタイムの番組に性的な内容が含まれていた割合は、1998年の67パーセントから2000年には75パーセントにまで跳ね上がっています。² この種のメディアは底知れぬ悪影響を及ぼします。女性を神の永遠の計画に欠かせない大切な神の娘としてではなく、虐待の対象として描写することにより、無神経に扱う風潮をあおります。婚前交渉を避け、結婚後の貞潔を完全に守るという長年大切にされてきた徳は、今や軽視され、嘲笑されています。子供や青少年は、いわゆるスターとしてあこがれ、模範と仰ぐべき人々の逸脱した行いに混乱し、誤って導かれています。メディアが作り上げた道徳的混乱の中で、長年大切にされてきた価値観が失われつ

つあるのです。

サイバーポルノの急増に合わせ、インターネットポルノの中毒も急増しています。インターネットポルノや、危険なチャットルームが病みつきになり、結婚の聖約や家族の義務を顧みず、仕事も失いかねないでいる人もいます。法律が絡んでくるケースも多々あります。倒錯行為を何とも思わなくなり、不道德という悪癖にますます深く入り込んでいく人もいます。結婚生活は崩壊し、人間関係も壊れます。この中毒に冒された人は、往々にして真の、永遠に価値あるものをすべて失ってしまうのです。

ある社会評論家はこう述べています。「家庭、学校、教会は、社交や価値観を学ぶ大切な場であったが、いつの間にかテレビがその役割を奪った。……^{どんよく}貪欲、肉欲、暴力、際限のない自己満足、道徳的な節度の喪失——それが毎日ごちそうのように、うっとりするほどきれいに盛りつけられて、子供の前に出される。」³

今日のポピュラー音楽や、音楽ビデオと呼ばれる新手法の「芸術手法」に出てくる、暴力と性を感情的に描いた歌詞に注意しなければなりません。業界関係者によれば、音楽ビデオの視聴者の40パーセントは18歳未満の青少年です。⁴ストーリー性のある音楽ビデオでは、4分の3近くが性的な映像を使い、半数近くが暴力シーンを含んでいるという報告もあります。⁵しかも登場するファッションは「徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値すること」からまったくかけ離れているのです。現代は間違いなく「悪を呼んで善といい、善を呼んで悪とい[う]」時代です(イザヤ5:20)。

繰り返し申し上げます。悪魔が最大の標的にしているのは家族です。したがって、最も重点的に守る必要があるのは家族なのです。以前にお話ししたように、長期的な視野に立って悪魔の狡猾な策略を考えると、家族を攻撃するのは理にかなっています。悪魔は主の業をくじくために、世界中のピーナツバターに毒を混ぜて、宣教師の働きを挫折させるようなことはしません。モルモンタバナク



ル合唱団を苦しめるために、のど風邪を流行させるようなこともしません。教会員が好きなゼリーやキャセロールを禁止する法律を作ったりもしません。神の業の根幹を攻撃し、混乱させたいなら、悪魔は家族を攻撃します。貞潔の律法を軽んじさせ、性別を混乱させ、暴力に慣れさせ、乱暴な言葉や不敬な言葉にまひさせ、不道德な逸脱行為は当たり前と思込込させるのです。

「善人が何もしなければ、それだけで、必ず悪が勝利を収める」と語ったエドマンド・パークの言葉を覚えておきましょう。⁶この風潮に反対するために、世界中の同じ問題意識を持つ人々とともに声を上げる必要があります。有害なメディアのスポンサーに、「もうたくさんです」と言う必要があります。前向きな、人を高める番組や作品を支持しなければなりません。同じ問題意識を持つ隣人や友人と力を合わせて、スポンサーに明確なメッセージを伝えましょう。インターネットのウェブサイトあるいは地元の関連団体に聞けば、スポンサーの連絡先が分かるでしょう。手紙やEメールは想像以上の効果を発揮します。特に扶助協会の一人の姉妹が書いた次のような手紙は強力です。「わたしは100人以上の女性が毎週集まるグループの代表です。貴社の提供

番組は子供に有害だということが、よく話題に上っています。」

もちろん、有害なメディアに反対する最も基本的な方法は、鑑賞しない、見ない、読まない、再生しない、です。青少年に向けた大管長会の勧告に従うよう、家族に教える必要があります。娯楽とメディアに関して大管長会が与えた勧告は非常に明確です。冊子『若人の強さのために』の中に、このように記されています。

「いかなる形であれ、下品で、暴力的な娯楽、また、不道德で、わいせつな娯楽に心や、目を向けたり、加わったりしないでください。不道德や暴力行為を少しでも受け入れられるものとして扱っている娯楽には加わらないでください。……

天の御父の標準に合わない内容に出会ったときには、映画鑑賞会やビデオパーティーから立ち去り、コンピューターやテレビのスイッチを切り、ラジオの番組を替え、雑誌を閉じる勇気を持ってください。」⁷

兄弟姉妹の皆さん、利用されないでください。操られないでください。伝統的な家族観を侮辱する番組を支援しないでください。最初は小さな声かもしれませんが、声を上げて、人を高め励まし、喜んで受け入れられるメディアを応援しましょう。

反対の声を上げる以外にも、有害なメディアの影響を最小限に抑えるために、すべての親が実行できる7つの事柄を紹介して、話を締めくくりたいと思います。

1. 家族会議を開いて、メディアの標準を決めます。
2. 子供と有意義に過ごす時間を十分に取り、メディアや友人ではなく、親が子供の生活に最も影響を与えられる存在となります。
3. 親自身が正しくメディアを選択し、子供の模範となります。
4. テレビ、ビデオゲーム、インターネットに1日何時間まで使えるか、上限を決めます。仮想現実を子供の現実にならせずしてはなりません。
5. 見てはならないものを「偶然に」見ることをないように、インターネット

フィルターや、暴力や性表現などを含む一定の番組を自動的に遮断できる装置を活用します。

6. テレビやコンピューターを寝室や個室ではなく、家族がよく集まる部屋に設置します。

7. 子供と一緒に適切なメディアを鑑賞する時間を取り、墮落や崩壊ではなく、向上や成長につながるメディアを選択することについて話し合います。

神の祝福によって、メディアの流れを暗闇から真理と光に向かわせるため、一人一人に行動を起こす勇氣と知恵が授けられますように。わたしたちの家族が強められ、福音に忠実でいられますよう、神が祝福してくださいますに。イエス・キリストの御名によって、へりくだりお祈りします。アーメン。

注

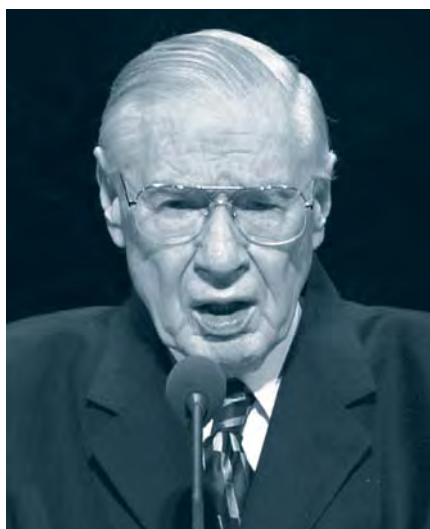
1. 「家族—世界への宣言」『聖徒の道』1998年10月号, 24
2. デール・クンケルほか, *Sex on TV 2003: A Biennial Report to the Kaiser Family Foundation* (2003年), 40参照
3. スビニュー・ブルゼジンスキー "Weak Ramparts of the Permissive West," ネーサン・P・ガーデルズ編, *At Century's End: Great Minds Reflect on Our Time* (1995年), 53で引用。
4. National Institute on Media and the Family, "Fact Sheet," Internet, http://www.mediafamily.org/facts/facts_mtv.shtml参照
5. バリー・L・シャーマンとジョセフ・R・ドミニク "Violence and Sex in Music and Videos: TV and Rock'n' Roll," *Journal of Communication*, 1986年冬号, 79-93参照
6. ジョン・バートレット編, *Familiar Quotations*, 第15版(1980年), ix
7. 『若人の強さのために』(2001年) 17, 19

信じます。 不信仰なわたしを、 お助けください

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

人を支える信仰は、人生における究極の慰めとなります。だれもが自分自身の証を見いださなければなりません。



今朝わたしは、末日聖徒イエス・キリスト教会の神聖な使命について疑問を抱いて苦しんでいる人々に、ささやかな証を述べたいと思います。わたしたちの多くは時々、「口をきけなくする霊」につかれた子供を癒すよう救い主に願った父親のようになります。父親は叫んで言いました。「信じます。不信仰なわたしを、お助けください。」¹ 疑いを消すことのできないすべての人に、信仰の弱さを克服する方法があります。光と真理と知識を求めて情報を受け入れたり拒んだりする過程で、ほとんどの人が幾らか疑問を抱くものです。それは学習のプロセスの一部です。

人を支える信仰は、人生における究極の慰めとなります。だれもが自分自身の証を見いださなければなりません。

証は、この教会の頭であるイエス・キリストの神聖な使命と、回復の預言者ジョセフ・スミスを信仰によって受け入れることに始まります。ジョセフ・スミスにより回復された福音は、真実か誤りのどちらかです。約束された祝福をすべて受けるには、信仰により完全に福音を受け入れなければなりません。しかし、この確かな信仰は通常、すぐには得られません。教えに教え、訓戒に訓戒を加えて霊的に学んでいくのです。

ロンドン大学の講師ジョセフ・ハムステッドは、この有名大学の講師仲間、教会と青少年や家族のプログラムについて話しました。仲間の一人が言いました。「家族のためにしていること、すべてが気に入ったね。ジョセフ・スミスに天使が現れた部分がなければ、君の教会に入れるよ。」ハムステッド兄弟は答えました。「ああ、でもジョセフ・スミスに天使が現れた事実を打ち消してしまったら、わたしは教会員ではいられない。それが教会の出発点だからね。」²

このロンドン大学の教授のように、多くの人はこの教会の実に驚嘆すべき事柄を目にし、そこにすばらしい価値と内容があると納得します。そして、教会が信



者のためにできることを高く評価します。しかし、ジョセフ・スミスが示現の中で天の御父と御子に実際にまみえ、天使から金版を渡されてモルモン書を翻訳したことについては、霊的な確認に欠けるのです。神を知ることは、すべての男女に与えられる重要な霊的賜物です。ジョセフ・スミスは、神に関するこの知識を直接体験して得たのです。何年も後に、その知識の影響や自分の人生に起こった出来事を思い返して言いました。「わたしの話を信じない人がいても、とがめません。自分で経験していなければ、わたし自身も信じなかったでしょう。」³

ニューヨーク州パルマイラの聖なる森で、父なる神と御子イエス・キリストが御姿を現されたとき、そこにいたのは少年ジョセフ・スミスだけでした。けれども、信じない人々にとって、その示現がなか

ったことを証明するのは困難でしょう。最初の示現以来、その出来事を否定するために、実に多くのことが行われてきました。

聖書に登場する父親のように「信じます。不信仰なわたしを、お助けください」と言う人は、モルモン書の指示に従って確認を得ることができます。すなわち、キリストへの信仰と啓示によってもたらされる真理について「キリストの名によって永遠の父なる神に」尋ねるのです。しかし、絶対に必要な要素があります。それは「誠心誠意で問う」ことです、そうすれば神は「これが真実であることを、聖霊の力によってあなたがたに明らかにして」くださいます。「そして聖霊の力によってあなたがたはすべてのことの真理を知る」でしょう。⁴

モルモン書以外にも、ジョセフ・スミスの主張を裏づける強力な証言があります。初めに、3人の証人と8人の証人が、

金版を手に取り、刻まれた文字を見て、モルモン書が神の力によって翻訳されたことを証しました。ジョセフ・スミスはいちばんよく知っている彼の家族も、ジョセフの言葉を受け入れて信じました。信じた人の中には、ジョセフの両親、兄弟姉妹、それにおじのジョン・スミスがいます。兄のハイラムは、ジョセフとともに命をささげて、ジョセフの働きに対する完全な信仰を証明しました。こうした信頼できる証人が皆、預言者ジョセフの証を支持しています。

親交の深い友人たちは、ジョセフ・スミスの神聖な使命を完全に信じていました。その中の二人、ウィラード・リチャーズとジョン・テラーは、ジョセフとハイラムが殺されたとき、その場にいました。ウィラードは、ジョセフから一緒に行ってくれるかと尋ねられたとき、きっぱりと答えました。「ジョセフ兄弟、わたしは頼まれて一緒に川を渡ったのではありません。請われてカーセージに来たのでもありません。言われて一緒に入獄したのでもありません。そのわたしが今、あなたを見捨てるなどとお考えですか。これからわたしがしようとしていることを申し上げます。もしあなたが反逆罪で絞首刑を宣告されるなら、わたしが代わりに処刑台に立ちます。そうすればあなたは放免されます。」⁵

ジョン・テラーは証しました。「主の預言者であり聖見者であるジョセフ・スミスは、ただイエスは別として、この世に生を受けた他のいかなる人よりも、この世の人々の救いのために多くのことを成し遂げた。」⁶ 老練なブリガム・ヤングは言いました。「わたしは預言者ジョセフ・スミスを長年知っていることを考えると、一日中でもハレルヤと叫びたい気持ちになります。ジョセフ・スミスは主がお立てになって聖任された預言者であり、地上における神の王国を築いて維持する鍵と力をお与えになった預言者です。」⁷ わたしの意見ですが、これらの聡明で確固とした人々をだまし通すことなどできたはずがありません。

わたしにとって説得力があるのは、家

族の関係を永遠に結ぶ鍵があると、この教会だけが主張していることです。ヒンクレー大管長は言いました。「大小、新旧を問わずすべての神殿は、この世があるのと同じように死後の生命が真実確かなものであるという、わたしたちの証を表しています。」⁸ 家族を大事にする人には、神殿で永遠に結び固められるという卓越した祝福を求めずにはいられない理由があります。すべての祖父母、両親、夫婦、子供、孫にとって、この結び固めの力と権能は、預言者ジョセフ・スミスを通して行われた「万物更新」⁹ の中で、完成に至る最高の原則なのです。結び固めは永遠です。この祝福は生きている人だけでなく、亡くなった人にも身代わりの儀式によって及び、家族を永遠に結ぶのです。¹⁰

この業が神の業であることを示すもう一つの力強い証拠は、この教会の全世界における発展と力です。これはユニークな組織です。比類のない存在です。ペテロと初期の使徒たちがイエス・キリストの神性について証したとき、ガマリエルはこう説きました。

「その……しわざが、人間から出たものなら、自滅するだろう。しかし、もし神から出たものなら、あの人たちを滅ぼすことはできまい。」¹¹

これはすべて真実ですが、一人一人が聖霊の力によって霊的な確認を受けなければなりません。聖霊の力はあらゆる感覚を合わせたよりも強い力です。「信じます。不信仰なわたしを、お助けください」と言う人々に、わたしは提案します。「信仰の目をもって待ち望み」しましょう。¹² 主はそのような人に約束されました。「まことに見よ、あなたに降ってあなたの心の中にとどまる聖霊によって、わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう。」¹³

信仰の炎が揺らめいて消えてしまうとき、人は何らかの理由を挙げます。人間の弱さやほかの人の不完全さ、理解できない教会歴史上の出来事、教会の発展と絶えざる啓示に基づいて変更される手続き、無関心、背きなどです。

かつて主は、ジョセフ・ウェイクフィールド



ドのことを「心から喜んで」¹⁴ と言われました。彼は勇敢で信義に篤く、ジョセフ・スミスの預言者としての働きを大勢の人に伝えました。しかし1833年から1834年に、カートランドで反対派の影響を受けました。ジョセフ・スミスの家にいたとき、ジョセフが神の御言葉を翻訳している部屋から出て来て、すぐに子供たちと遊び始めました。「これを見た〔ウェイクフィールド兄弟〕は、〔ジョセフ〕は神の人ではない、〔だから〕この業は偽りだと決めつけました。」¹⁵ やがてジョセフ・ウェイクフィールドは背教し、破門されて、教会と聖徒たちを迫害するようになりました。

教会から遠ざかっていたある姉妹は、息子が伝道に出たとき、自分が改心していないことに気づいて動揺しました。印象的な改宗談を話していた人々と自分を比較して、思いました。「あの人たちはすばらしい改心をしたのに、開拓者を先祖に持つわたしが改心していないのはなぜかしら。」彼女はモルモン書を読み始めましたが、依然としてその価値に疑いを抱き、退屈に感じていました。すると友人が勧めて言いました。「あなたは祈りは大切だと思うと言ったわね。じゃあ、祈って見たらどうかしら。」

彼女はそれに従い、祈ってから再びモルモン書を読み始めました。もはや退屈ではありません。読めば読むほど引き込まれていき、こう思いました。「ジョセフ・

スミスがこれを書けるはずがない。これは神の言葉だ。」読み終わると、どのようにして神が自分に真実を告げてくださるのか考えました。彼女は言いました。「強くて美しい、喜びに満ちた力に、全身が包まれ……わたしは知りました。イエス・キリストは復活されました。……ジョセフ・スミスは預言者であり、神とイエス・キリストにまみえました。神の導きによって古代の記録を驚嘆すべき方法で翻訳しました。ジョセフ・スミスは神から啓示を受けたのです。」こうして彼女も改心し、生活が変わりました。¹⁶

信仰を失った人にはそれぞれ理由があるかもしれませんが、それによってジョセフ・スミスが回復した真理を変えることはできません。預言者ジョセフ・スミスは言いました。「わたしは自分が完全であるとは決して言いませんが、わたしの教えた啓示に誤りはありません。」¹⁷ 真の原則や教義を攻撃することに成功した人はいません。原則も教義も永遠だからです。預言者ジョセフ・スミスを通してもたらされた啓示は、今も正しいのです。心の混乱や屈辱、攻撃などで自分自身の築き上げた信仰という家を取り壊すのは、間違っています。

わたしたちは福音のすべての原則を完全に理解していなくても、イエスが神の御子、人類の贖い主キリストであられ、ジョセフ・スミスが現代に教会を回復す



大会の土曜午後の部会で教会指導者を支持する会員たち

る使命を託された預言者であるという、確かな証を持つことができます。棒をつまんで拾い上げてみてください。棒は端から端まで持ち上がります。福音も同じです。わたしたちは教会の会員として、福音のすべてを受け入れる必要があります。福音の一部について霊的な確信が弱いことも一つの祝福です。はっきりしない事柄は、信仰と従順を通していつかは明らかになるからです。

評判のよいものと義になかったものとの溝は、広がっています。イザヤが預言したように、今日の多くの人は「悪を呼んで善といい、善を呼んで悪といい」¹⁸ ます。神の預言者からの啓示は、自由に選んだり無視したりできるような、セルフサービスの料理とは違います。わたしたちは預言者ジョセフ・スミスのおかげで、多くの偉大な啓示に恵まれています。霊的な知識を回復するために、ジョセフはだれよりも多くのことを成し遂げました。¹⁹ 1839年3月にジョセフ・スミスに与えられた啓示は成就しました。

「地の果ての人々があなたの名を尋ね、愚かな者はあなたをあざ笑ひ、地獄はあなたに激怒するであろう。

一方、心の清い者と、知恵のある者と、高潔な者と、徳高い者は、絶えずあなた

の手から助言と権能と祝福を求めるであろう。』²⁰

信じてはいても、もっと強く信じたいと願っている人に、お勧めします。信仰をもって歩み、神に頼ってください。霊的な知識は常に、信仰の行使を必要とします。福音の原則に対する証は、それに従って生活しようと努めることにより得られます。救い主が言われたように、「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、……この教が……わかる」のです。²¹ 祈りの効果に対する証は、真心からの謙虚な祈りを通して得られます。自分の一証は、自分の一を納めることにより得られます。個人的な疑問を抱くあまり、神聖な知識の源から遠ざかってしまっはなりません。永遠の光を求めて謙遜に進んでください。そうすれば、不信仰は追い散らされるでしょう。霊的な光や真理、知識を求めて受け入れる手順を踏んでいくならば、必ず与えられることを証します。信仰をもって前進することにより、信仰は増し加えられます。良い種のように、不信仰によって捨てなければ、それは心の中でふくらむでしょう。²²

イエスがキリストであられるという個人の証は、霊的な賜物としてもたらされると、

わたしは信じています。個人の証はだれにも言い破ることはできません。証を得ている人に与えられた個人的な賜物だからです。それは霊的なエネルギーを常に満たし、永遠の幸福に至る道を霊的な光で照らしてくれるでしょう。しかし、証はもっと、それ以上のものです。「わたしたちは、残りの全生涯、神の御心を行ひ、神から命じられるすべてのことについて神の戒めに従うという聖約を交わ」すと、「キリストの御名を信じて心が改ま」るのです。こうしてわたしたちは「キリストから生まれ、キリストの息子および娘と」なれるのです。²³ これらが真実であることを、イエス・キリストの聖なる御名により申し上げます。アーメン。

注

1. マルコ9：17、24
2. 私信
3. *History of the Church*, 第6巻, 317
4. モロナイ10：4-5, 強調付加
5. *History of the Church*, 第6巻, 616
6. 教義と聖約135：3
7. 『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』108
8. 「平和な神の宮居」『聖徒の道』1993年7月号, 76
9. 使徒3：21
10. 教義と聖約110：15-16参照
11. 使徒5：38-39
12. アルマ5：15
13. 教義と聖約8：2
14. 教義と聖約50：37
15. ジョージ・A・スミス, *Deseret News*, 1858年1月20日付, 364
16. グレース・ジョーゲンセン "Every Member a Convert" *Ensign*, 1980年4月号, 70-71参照
17. *History of the Church*, 第6巻, 366
18. イザヤ5：20
19. 教義と聖約135：3参照
20. 教義と聖約122：1-2
21. ヨハネ7：17
22. アルマ32：28参照
23. モーサヤ5：5, 7

教会役員の支持

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト



兄 弟姉妹の皆さん、ヒンクレー大管長の依頼により、これから、教会の中央幹部、地域幹部七十人、ならびに中央補助組織会長会の名前を提議しますので、皆さんに賛意の表明をしていただきたいと思います。

預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてゴードン・ビトナー・ヒンクレーを支持してください、また、第一副管長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、第二副管長としてジェームズ・エドラス・ファウストを支持してくださいよう提議いたします。

この提議に賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいればその意を表してください。

十二使徒定員会会長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、十二使徒定員会会長代理としてボイド・ケネス・パッカーを、また十二使徒定員会会員として、ボイド・K・パッカー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・

ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリングを支持してくださいよう提議いたします。

この提議に賛成の方はその意を表してください。

反対の方。

副管長、十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持してくださいよう提議いたします。

この提議に賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば同様にその意を表してください。

七十人第一定員会会員としての働きに感謝を示し、アンヘル・アブレア、ウィリアム・R・ブラッドフォード、クリー・L・コッフォードの各長老を解任し、名誉中央幹部の称号を与えるよう提議いたします。

この提議に賛成の方はその意を表してください。

また、七十人第二定員会から、デュエイン・B・ジェラード、J・ケント・ジョリー、D・リー・トブラーの各長老を、榮譽をもって解任いたします。また以下の人々を地域幹部七十人から榮譽をもって解任いたします。

ヘンリー・F・アセバド、ブレア・S・ベネット、クレグ・A・ブロック、レイモンド・カステラーニ、クリストファー・N・チャクウラー、ローレンス・R・フラー、ルーベン・G・ガピス、ハーベイ・L・ガードナー、フランシスコ・G・ヒメネス、ジョン・A・グリーンセリ、^{リヤンシンアン}梁世安、エマニュエル・O・オパレ・シニア、アラン・A・ペティオン、クラウディオ・D・シニョレリ、R・ロイド・スミス、トマス・バルデス、チャン・ヘイ（パトリック）・ウォン。

感謝の意を表明してください方は、手を挙げてその意を表してください。

中央若い男性会長会の副会長から、グレン・L・ペイス、スペンサー・J・コンディーの各長老を、感謝をもって解任するよう提議いたします。

賛成の方は皆、手を挙げてその意を表してください。

反対の方がいれば同様にその意を表してください。

地域幹部七十人として、ホセ・A・カストロ、ウィリアム・K・ジャクソン、ポール・V・ジョンソン、ジェイ・L・シタードを支持してくださいよう提議いたします。

この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方。

中央若い男性会長会の副会長として、リン・G・ロビンズ、ドナルド・L・ホールストロムの各長老を支持してくださいよう提議いたします。

この提議に賛成の方はその意を表してください。

反対の方。

そのほかの中央幹部、地域幹部七十人、中央補助組織会長会を現状のまま支持してくださいよう提議いたします。

この提議に賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば同様にその意を表してください。

提議は、全員一致で賛意の表明が得られたようです。

兄弟姉妹の皆さんの変わらぬ信仰と祈りに感謝いたします。



「真理の標準は 確立された」

十二使徒定員会会長代理
ボイド・K・パッカー

世の中の標準からどれほど懸け離れても、嘲笑されても、多くの人が誘惑に負けても、わたしたちは屈しません。誘惑には負けないのです。



この話の目的は、青少年やヤングアダルト、そして両親に対し、わたしたちが道徳的に高い標準を守り続けているのはなぜか説明することにあります。中毒性のある薬物や茶、コーヒー、アルコール、たばこを避けるのはなぜでしょうか。上品な服装や身だしなみ、言葉遣いの標準を教えているのはなぜでしょうか。¹ 皆さんは、この標準にどんな由来があるのか、なぜ標準を緩やかにして、世に合わせられないのか知る必要があります。

皆さんには選択の自由、すなわち「道徳的な選択の自由」があります。² 自分の標準を自由に選ぶことができるのです。

行動そのものについて話すよりも、聖文と教義について話した方が理解しやすい

と思います。

皆さんが属する末日聖徒イエス・キリスト教会は、回復された教会です。³ 回復されたという言葉の意味が分かると、なぜ現在のような行動の標準があるのか理解できることでしょう。

キリストが十字架上でお亡くなりになった後、背教が起きました。指導者は「人の戒めを教義として教え」始め、権能の鍵を失い、啓示の道を自ら閉ざしました。⁴ 失った権能を、簡単に取り戻すことはできません。かつて権能の鍵を持っていた者によって回復されなければならなかったのです。⁵

末日聖徒イエス・キリスト教会は、ほかの教会を作り変えたものではありません。いかなる教会を修正したものでも是正したものでもなく、異議を申し立てて設立した教会でもありません。ほかの教会には、確かに「神を敬うさま」⁶ や、独自の良い点と価値があります。

バプテスマのヨハネは、幕のかなたから戻り「天使の働きと、悔い改めの福音の鍵と、罪の赦しのために水に沈めるバプテスマの鍵を持つ」アロン神権を受けました。⁷ しかし、バプテスマと対を成す儀式である確認と聖霊の賜物の授与を執り行うには、さらに大いなる権能が必要でした。⁸

それから間もなく、主とともに働いた使徒のペテロ、ヤコブ、ヨハネが、大神権すなわちメルキゼデク神権を回復しま

した。⁹ 「神の御子の位に従う聖なる神権」です。¹⁰

回復はすべて一度に行われたわけではありませんでした。次々と預言者が訪れて、神権の鍵を回復しました。¹¹

権能の回復とともに、組織が明らかにされました。使徒が聖任され、十二使徒定員会と大管長会が古代と同様に組織されました。¹² 幾つもの儀式が明らかにされ、儀式を執り行う権能が授けられました。

イエス・キリストについてのもう一つの証であるモルモン書が翻訳され、出版されました。モルモン書には「完全な永遠の福音」が記されています。¹³

そのほかの啓示も出版されました。教義と聖約と高価な真珠です。これらの聖典を通して、わたしたちは地球が創造された理由や、その創造者を学びました。¹⁴ 教会の初期の指導者は、イエス・キリストの完全な福音と主が弟子たちに求めておられる標準について知りました。

わたしたちは「偉大な幸福の計画」¹⁵ と呼ばれる贖いの計画について知っています。「キリストの贖罪により、全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得る」¹⁶ という約束の下に、人は試され、経験を得るために地上に来たのです。

この世に来る前に、人は天の御父の霊の子供として生活していました。¹⁷ 「すべての人は、男性も女性も、神の形に創造されています。人は皆、天の両親から愛されている霊の息子、娘です。したがって、人は皆、神の属性と神聖な行く末を受け継いでいます。そして性別は、人の前世、現世および永遠の状態と目的にとって必須の特性なのです」¹⁸

偉大な幸福の計画により、家族の関係は墓を超えて続くものとなります。神殿の中だけで行われる神聖な儀式と聖約によって、人は神の御前に戻ることができ、家族は永遠に結ばれるのです。結婚と家族および家庭は、教会の基盤です。¹⁹ 教会と文明にとって家族ほど大切なものはありません。

現世において、伴侶や子供を持つ機会にあずかれないために、思いどおりにい

かない生活を送る人もいます。しかし、偉大な幸福の計画とそれを支配する律法は死後も効力があります。このような人々は、優しく愛にあふれた天の御父の見守りを受け、永遠の過程の中で、結婚と家族を含む昇栄に必要な祝福を与えられるのです。長い間待ち望んでいたその祝福は、いっそうすばらしいものになるでしょう。

啓示から分かるように、わたしたちは若人の皆さんに、道徳と結婚について何が正しく何が間違っているか、必ずしも話す必要はありません。預言者リーハイは、青年期にあった子供たちに「人は善悪をわかまえることを十分に教えられている」と説きました。²⁰

肉体を創造する力は、幸福と昇栄に欠くことができないため、主は生殖の力をみだりに用いることに対して、厳しい罰を科してられました。²¹

サタンは、生殖の力を墮落させ、男女の不道徳な行為によってその尊さを失わせることができれば、幸福の計画をある程度まで崩壊できることを知っています。

パウロはこう教えました。「神は……あなたがたを耐えられないような試練に会わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。」²²

すばらしい若人である皆さんの繊細な感情を傷つけるつもりはありません。しかし、邪悪に満ちた世界では、常に警戒を怠ってはならないのです。

口に出さない方がよい言葉があります。その種の言葉は、考えることすら避けた方がよい事柄を描写します。皆さんは次のような誘惑に遭うのを避けられません。不品行、姦淫、ポルノグラフィー、売春、性倒錯、情欲、虐待および不自然な行為、それらに類するあらゆる誘惑です。

神を冒瀆する下品な言葉や、関連した俗悪な冗談とユーモアから逃れるのは容易なことではありません。ふさわしくない娯楽の中にそうした邪悪があふれているからです。音楽、雑誌、ドラマ、映画、テレビ、そして言うまでもなくインターネットにも見られます。



少年ジョセフが聖なる森でひざまずいたときに受けた最初の示現を思い出してください。ジョセフはたちまち深い闇に取り囲まれ、目に見えない世界から来た実在する敵の力に捕らえられました。そこで皆さんがするように神に呼び求めると、悪魔の力から解放されたのです。²³

祈りには偉大な力があります。神の息子や娘である皆さんは、ジョセフがしたように強さを求めてイエス・キリストの御名によって神に祈ることができます。²⁴

サタンとその使いは、皆さんの思いを捕らえて、行動を支配しようとします。可能であれば、良いものを何でも墮落させます。²⁵ サタンにとってインターネットはまさに格好の手段です。ポルノグラフィという邪悪な中毒に陥れるわなとして使うのです。その先には不幸が待っています。²⁶

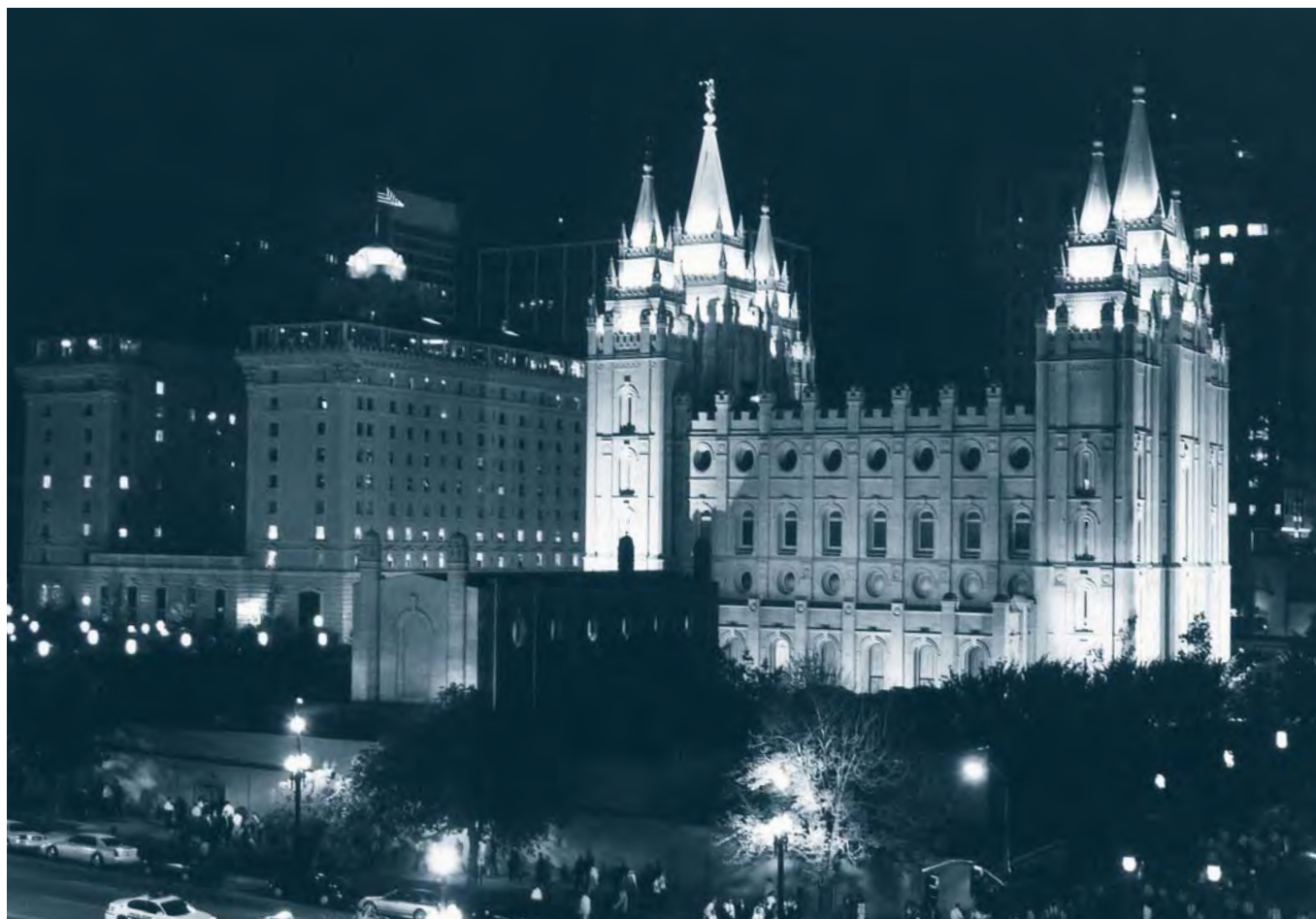
政治や社会、法律などの手段を使って、道徳と結婚を、制約のない、不自然で、禁じられた形に変えようとする人がいます。しかし、時の初めから人類の生活と幸福を統括してきた計画を変えることはできません。欺く者は、人の情欲や性癖および弱点を突いてきます。状況を変えることはできないと思わせて、自分からは決して陥らない行動へと誘い込んでいくのです。

しかし遅かれ早かれ、各人に備わっている神性は光り輝きます。そして神の形に造られた息子娘として、²⁷ 選択の自由を行行使して滅ぼす者を退けることができるのです。変えられないと思込まされていた事柄は変わっていきます。こうしてキリストの贖いの力を実感するようになるのです。²⁸ 重荷が取り去られて、苦痛は癒されます。²⁹ これこそがキリストの贖罪です。

人は天の両親の子供として受け継ぎを得ます。そして、たとえ苦痛に満ちた試練を経験しても、見放されたのではないことを知るのである。

教会では、何らかの性癖や、誘惑では罪になりません。律法に背くことに対して責任を問われるのです。³⁰ つまらない誘いに乗って行動しなければ、罪に定められることも、教会宗紀にかけられることもありません。

標準を定めるのはわたしたちではありません。わたしたちは標準を教え、守るよう命じられているのです。結婚前の節制と結婚後の完全な貞節に関する標準は変わりません。世の中の標準からどれほど懸け離れても、嘲笑されても、多くの人が誘惑に負けても、わたしたちは屈しません。誘惑には負けないのです。神権に聖任され、伝道に召され、神殿推薦状



を受けるには、これからも道徳の標準に従い、知恵の言葉を守ることが要求されます。

皆さんは聖霊の賜物を授けられています。決断を下すとき、皆さんは細い声を通して承認や警告を受けることでしょう。³¹ 聖霊は皆さんが悪から離れるよう導き、道に迷ってさまようときに連れ戻してくださいます。自分が神の息子、娘であることを決して忘れてはいけません。サタンは皆さんを永久にとりこにしておくことはできません。皆さんは、牢獄ろうごくの扉を開く悔い改めの鍵を常に持っているからです。

青少年の皆さん、もし孤独を感じているなら、教会にいる何百万もの仲間のことを思い出してください。幾万もの若者が、現在伝道しています。メッセージに耳を傾けない人々にとっても、皆さんは目に見える模範であり、回復の証なのです。学校にいたるときも、働いたり、遊んだりするときも、軍務に就いているときも、皆さんは決して独りではありません。

様々な言葉で攻撃されることもあるでしょう。人から「君は変わっているよ」と言われたなら、その言葉を逆手にとってこう言ってください。「確かに変わっているけど、この方がいいんだ。」そして「世の中のやり方を受け入れたら?」と言われたならこう言うのです。「わたしのやり方も受け入れてほしいな。わたしは従順、誠実、慎み、悔い改めを大切にしているの。」「こっちを選んだ方がいいよ」と言われたなら、「いいよ。古くさいけど、道徳を重んじているんだ」と答えてください。それは良い夫や妻、そして良い親になるための選びなのです。

これらの標準を守るために、教会は孤立することもあるでしょう。しかしそれは今に始まったことではありません。ニーファイ人の中で最後まで生き残ったモロナイはこう言いました。「わたしだけが一人生き残り、……わたしは父から命じられたことを果たす。」³² 恐れてはなりません。³³

まだ若く、召しを受けたばかりのころ、

教会に反対する人々に会うために合衆国東部へ派遣されました。彼らは地元の有力者であり、役人でした。空港へ向う前にハロルド・B・リー大管長を訪れて、こう尋ねました。「何か助言を頂けませんか。」

「喜んで」と大管長は言いました。「今は1830年でもなく、たったの6人でもないことを忘れないことです。」

その言葉で恐れが消えました。わたしは教会の標準を守るために闘い、問題は解決しました。

現代社会は、文明崩壊を招いてきた道を進み続けており、罪悪が熟しつづあります。文明自体が危機ひんに瀕しています。すばらしい若人である皆さんは、全世界にいる無数の善良な人々にとって模範となる存在なのです。

皆さんがこの世で受ける喜びや幸福、これから成し遂げる業について考えると、わたしは希望に満たされます。

主に次ぐ使徒であったペテロは、皆さんについてこう語りました。「あなたが

たは、選ばれた世代、王国の神権者、聖なる国民、特異な民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。」³⁴

次の偉大な預言を心に留めてください。

「真理の標準は確立された。いかなる汚れた者の手も、この御業の発展をとどめることはできない。……神の真理は大胆かつ気高く、悠然と出で立ち、あらゆる大陸を貫き、あらゆる地方に至り、あらゆる国々に広まり、あらゆる者の耳に達し、神の目的は成し遂げられるであろう。かくして、大いなるエホバは、御業は成ったと告げられることであろう。」³⁵

若いころ、次の歌をよく歌ったものです。

シオンの若者、真理を守り

攻め来る敵に遭い、ひるまず逃げず
ああ

われら受けし信仰を持ち、殉教者の持つ真理を信じ

戒め守らん、手に心に霊にも

み業を妨ぐ力を知れば

この鉄の棒よりわれら離れず ああ

救いを勝ち得ん、真理につかん

若き熱をもて、働き祈らん ああ

われら主の国にふさわしくならん

み言葉守りし、聖徒と共に ああ

われら受けし信仰を持ち、殉教者の持つ真理を信じ

戒め守らん、手に心に霊にも ³⁶

福音の規範に立派に従う何百万という教会の青少年のうえに、神の祝福がありますように。皆さんには強い証があります。ここでともに語った証があるのです。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. 『若人の強さのために——神への務めを果たす』(パンフレット、2001年) 参照

2. 教義と聖約101：78

3. 教義と聖約115：4参照

4. ジョセフ・スミス—歴史1：19。マタイ15：9も参照

5. 教義と聖約27：12-13参照



6. ジョセフ・スミス—歴史1：19

7. 教義と聖約13：1

8. 教義と聖約20：41；33：15参照

9. 教義と聖約27：12-13；ジョセフ・スミス—歴史1：72参照

10. 教義と聖約107：3

11. 教義と聖約110章参照

12. 教義と聖約18：9；20：1-2；107：22，29参照

13. 教義と聖約27：5

14. モーセ1：30-39参照

15. アルマ42：8。2ニーファイ11：5；アルマ12：25；17：16；34：9；41：2；42：5，11-13，15，31；教義と聖約101：22；モーセ6：62も参照

16. 信仰箇条1：3

17. 民数16：22；伝道12：7；ヘブル12：9参照

18. 『家族——世界への宣言』『聖徒の道』1998年10月号，24

19. 『家族——世界への宣言』『聖徒の道』1998年10月号，24参照

20. 2ニーファイ2：5

21. モルモン書ヤコブ3：12；教義と聖約42：24；104：8-9参照

22. 1コリント10：13

23. ジョセフ・スミス—歴史1：15-16参照

24. ヤコブの手紙4：7参照

25. 教義と聖約10：22参照。ルカ22：3；2ニーファイ2：17-18，27；3ニーファイ18：18；教義と聖約50：3も参照

26. アルマ41：10参照

27. 創世1：26-27；モーセ2：26-27；6：9；アブラハム4：26-27参照

28. 2ニーファイ2：1-6参照

29. アルマ7：11-12参照

30. 教義と聖約101：78；信仰箇条1：2参照

31. 教義と聖約8：2-3；9：7-9参照

32. モルモン8：3

33. 2テモテ1：7；教義と聖約68：6参照

34. 欽定訳1ペテロ2：9から和訳

35. ジョセフ・スミス，*History of the Church*，第4巻，540

36. 『シオンの若者，真理を守り』『賛美歌』163番

回復された イエス・キリストの 福音の証あかしを受ける

十二使徒定員会

ロバート・D・ヘイルズ

ジョセフ・スミスの模範と、福音が回復されたパターンに従ってください。聖典を開いてください。ひざまずいて祈ってください。信仰をもって願い求めてください。聖霊に耳を傾けてください。



わ たしたち教会指導者は次のような質問をししばしば受けます。「回復されたイエス・キリストの福音の証は、どのようにして受けるのですか。」

証を得て改心するには、研究し祈ることから始め、堪え忍び、粘り強く福音に従って生活し、さらに御霊みたまの導きを求め、御霊に頼ることが必要です。ジョセフ・スミスの生涯と、福音の回復きょうふは、この段階を示す非常に良い例です。今日お伝えする回復に関連した出来事についてお話しします。証に導いてくれる段階、つまり、

真理を知りたいと望み、心の中で深く考え、聖霊の促しを感じて素直に従うという段階に心を留めながら聞いてください。

ジョセフ・スミスは1805年12月23日、バーモント州シャロンに生まれました。ジョセフの家族には、祈り、聖書を研究する習慣がありました。少年時代に宗教に関心を持ったジョセフは、キリストの教えについて「牧師が牧師と、改宗者が改宗者と言い争うひどい混乱……の場面」¹が繰り返されていることを知りました。

この混乱はジョセフの住んでいた地域だけでなく、各地で起こりました。その発端は大背教と呼ばれている数世紀前の出来事にさかのぼります。使徒パウロは、「まず背教のことが起おこ」²らなければ主の日は来ないと言いました。

キリストが復活されてから数十年後に、使徒たちが殺され、主の教えは墮落し、神権は地上から取り去られました。けれども今の時代を見ていたパウロは「時の満ちるに及んで……〔神は〕ことごとく、キリストにあって一つに帰せしめようとされ〔る〕」³と預言しました。それは神がキリストの真の教会をもう一度地上に回復してくださいという意味でした。

それから何世紀にもわたって、世界はその回復のために備えられました。聖書

が翻訳され、出版されました。新大陸が発見されました。キリスト教世界全体に改革の精神が広まり、自由の原則に基づいた新しい国が築かれました。

ジョセフ・スミスはその国に生まれました。ジョセフは14歳のときに、「〔宗教的な〕見解の騒動」に巻き込まれていました。そして、「もし彼らのうちのどれかが正しいとすれば、それはどれで、どうすればそれが分かるのだろうか」⁴と考えるようになっていました。

ジョセフは答えを求めて聖書を開きました。そしてヤコブの手紙の中から次のような言葉を読みました。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。」⁵

ジョセフはヤコブの指示に従い、近くの森に入って祈りました。神を呼び求めていると、「光の柱〔が〕……次第に降りて来て」真昼の太陽の光よりも明るくなり、「二人の御方」が御姿を現わされました。「そのうちの御一方が……語りかけ、〔ジョセフ〕の名を呼び、別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われ」ました。⁶

父なる神と御子イエス・キリストはジョセフと言葉を交わされました。ジョセフの質問に答え、真の教会は地上から失われているとお教えになりました。ジョセフは神会の御二方が別個の異なった御方であること、自分の名を知っておられたこと、祈りに快くこたえてくださることを知りました。こうして天は開かれ、背教の夜は終わりを告げて、福音の光が輝き始めました。

わたしたちの多くはジョセフと同様に真理の光を探し求めています。世の中が回復のために備えられたように、わたしたち一人一人も生活の中で福音の光を受けるために備えられています。環境の変化によって備えられることもあります。新しい友達との出会いや見知らぬ地域への引っ越し、転職、子供の誕生、愛する人の死、病気、不幸な出来事、あるいは災難などを通して準備されるのです。

こうした節目を迎えるときに、人は人生



の大切な質問に答えを探し求めます。わたしは何者なのだろう、どこから来たのだろう、なぜ地上にいるのだろう、死んだ後にどこへ行くのだろう。ジョセフは生まれながらにしてその答えを知っていたわけではありませんでした。わたしたちも同様です。したがって、自分で見つけなければなりません。

ジョセフと同じようにわたしたちも聖文を調べて、祈らなければなりません。そのために多くの人は、疑いの気持ちや自分には価値がないという思いに打ち勝ち、謙虚になり、信仰を行使しなければなりません。

最初の示現から3年の間に、ジョセフは心から謙虚になりました。「わたしはしばしば自分の弱さと不完全さのゆえにとがめを感じた」⁷と述べています。しかし、ジョセフは信仰を失うことも、祈りの力を忘れることもありませんでした。

1823年9月21日、17歳になったジョセフは、ひざまずいて、「[自分の]罪と愚かな行いを赦してください、また神の前における自分の状態と立場を知るために示しをくださるよう、祈[りました。]」⁸そして、祈っているうちに、再び光が現れ

て、ついに「その部屋は真昼の時よりも明るく[なりました。]」⁹その光の中に「この上なく美しい白さの」¹⁰衣を着た方が立っていました。その方はジョセフの名を呼んで、自分の名がモロナイであることを知らせました。モロナイは「神が[ジョセフ]のなすべき業を備えておられること」¹¹、そして金版に記された古代の記録、すなわちモルモン書として翻訳されるべき記録について告げました。この書には、イエス・キリストがモロナイの先祖に教えられた完全な福音が載っています。そしてジョセフはその記録を手に入れるよう指示されました。家族が住む家の近くの、現在クモラと呼ばれる丘に、その記録は埋められていました。

翌日ジョセフはその版を見つけましたが、それを世に出す時期はまだ来ていませんでした。モロナイはそれから4年間、毎年同じ日にその場所に来るようジョセフに指示を与えました。¹²

ジョセフはその指示どおりにしました。毎年、丘を訪れると、モロナイからキリストの教会を回復することについて「指示」¹³を受けました。ジョセフは、新約聖書に記された少年時代の救い主のように「まず

まず知恵が加わり、背たけも伸び」¹⁴、そして霊的に「強くなり」¹⁵しました。

わたしたちも同じ道をたどるのです。バプテスマを受けたばかりの会員の中には、福音における自分の知恵と成長について、つまり自分の知識があまりにも少ないことについて、がっかりしてしまう人がいます。ジョセフが最初に経験したように、従順な態度で努力し、福音の教えを受け、霊的に成熟する必要があることを忘れてしまうのです。会員として歳月を重ねている人でも、霊的に「強くな[る]」ために、絶えず聖霊の導きを受け、学ぶ必要があることを忘れてはなりません。

教えを忠実に守り続けて4年が過ぎた1827年9月22日に、21歳になったジョセフは版を受け取りました。また、版を翻訳するために、古代から伝えられてきた道具を受け取りました。それはウリムとトンミムと呼ばれています。その年の12月にジョセフはこの聖なる解訳器を使って、また聖霊の助けを受けて、翻訳を始めました。¹⁶その後、学校の教師をしていたオリバー・カウドリが加わり、筆記者を務めることになりました。¹⁷

23歳のとき、翻訳の作業を続けていた



ジョセフとオリバーは、罪の赦しのためのバプテスマについて記された箇所にかかりました。福音を探求し始めたばかりの人と同じように、二人はもっと詳しく知りたいと思いました。ジョセフはそのためにもうすべきかを知っていました。

1829年5月15日、二人は主に尋ねるために森の中へ入って行きました。二人が祈っていると、「光の雲の中」にバプテスマのヨハネが現れました。¹⁸ この世で救い主にバプテスマを施した人物です。ヨハネは神の権能によってバプテスマの儀式を執り行うために必要な神権の鍵を持っていました。

ジョセフとオリバーがひざまずくと、バプテスマのヨハネは二人の頭に手を置いて、アロン神権を授けました。¹⁹ そのときから、ジョセフとオリバーは人々にバプテスマを施し、神権を授ける権能を持つことになりました。

現在、バプテスマを受けるべきかどうかを知りたいと思っている人は皆、ジョセフとオリバーの模範に倣って、祈ることをお勧めします。バプテスマの準備ができていて、ふさわしい人は皆、この神権時代においてバプテスマのヨハネから途切れることなく継承されてきた権能を持つ者によって、バプテスマを受けることができます。

1829年の5月末または6月の初めに、使徒ペテロ、ヤコブ、ヨハネによって、メルキゼデク神権すなわち大神権がジョセフと

オリバーに授けられました。

モルモン書の翻訳は同じ6月に完成して、それから1年もたたない1830年3月26日に書物として出版されました。

モルモン書が出版されて12日後の4月6日、ニューヨーク州フェイエットのピーター・ホイットマー・シニアの家で、教会は正式に組織されました。パウロが預言したように、古代のキリストの教会が地上に再び設立されたのです。²⁰

しかし、回復の業はこれで終わったわけではありません。いにしえの時代と同じように、教会員は神殿を建設するように命じられました。そして、1836年3月27日にオハイオ州カートランドで神殿が奉献されました。1週間後の4月3日に神殿の中で集会が開かれました。厳粛かつ静寂な祈りがささげられた後、ジョセフとオリバーは目の前に主イエス・キリストが立っておられるのを見ました。「きつねには穴があり、空の鳥には巣がある。しかし、人の子にはまくらする所がない」²¹ と語った御方が御自分の聖なる宮に來られたのです。モーセ、エライアス、エリヤも現れて、王国の鍵、救いの儀式の鍵をジョセフにゆだねました。²²

兄弟姉妹の皆さん、これらの出来事に共通のパターンがあることに気づかれたでしょうか。最初の示現、モロナイの現れ、モルモン書の出現、神権の回復、そして聖なる神殿の奉献とそれに続くイエス・キリストの訪れ、これら回復の大切な出

来事はすべて、祈りの後に起きました。

以来、116の神殿が奉献されてきました。わたしは聖なる奉献式に何度も出席しました。何度も奉献の祈りがささげられました。何度も聖霊の豊かな現れを経験しました。そして、そのような祈りに、ほかの多くの経験にも増して、決して否定できない神の御霊による証を得てきました。心の中で燃える火のような回復された福音が真実であることについての証です。

わたしがこれらの知識をどのようにして得たかをお話しします。望む、信じて信仰を持つ、深く考える、そして御霊に従うなどの段階について、ニーファイが説得力のある、明らかな言葉で説明しています。ニーファイ自身の言葉を聞いてみましょう。「さて、わたしは、〔命の木の示現で〕父の見たことを知りたいと思い、また主がそれを明らかにしてくださると信じて、思いにふけりながら腰を下ろしていたとき、主の御霊に捕らえられ、……そして御霊がわたしに……言われた。』²³

いったん御霊の証を受けると、証は研究と祈りと福音に従った生活を通して強められます。証が強まると、イエス・キリストを信じる信仰と、人に幸福をもたらす主の計画に対する信仰が増します。悔い改めて、戒めに従いたいという気持ちがわいてきます。それが心の中に大きな変化を起こし、改心につながります。改心すると、神の赦し、癒し、喜びを受け、証を人に伝えたいと思うようになります。

さて、このような段階を踏むために、どのように歩み始めたらよいのだろうかと考えている人がいるかもしれません。そのような人には、モロナイがモルモン書の中で勧めていることを実行するよう提案したいと思います。「また、この記録を受けるとき、これが真実かどうかキリストの名によって永遠の父なる神に問うように、あなたがたに勧めたい。もしキリストを信じながら、誠心誠意問うならば、神はこれが真実であることを、聖霊の力によってあなたがたに明らかにくださる。そして聖霊の力によって、あなたがたはすべてのことの真理を知るであろう。』²⁴ ある人はすぐに答えを受けます。一方、何年か

かけてゆっくりと答えが与えられる人もいます。

このような霊的な現れを受けられるのは、聖霊が「わたしたちの内にとどまり得〔る〕」「霊の御方」だからです。²⁵ 聖霊の使命は御父と御子を証し、御二方^{みこころ}の御心を伝え、「なすべきことをすべて」²⁶ 教えることです。地のあらゆる人は生活の中で時々、聖霊の力を感じることができます。けれども聖霊の賜物^{たまもの}を受けて、聖霊を常に伴侶^{はんりょ}とすることが可能になるのは、権能を持つ者によってバプテスマを受け、按手による確認を受けた人たちだけです。

教会員が常に御霊を伴侶とするには、そのために熱心に努力しなければなりません。福音の律法と原則と儀式に従わなければ、聖霊は退いて行かれます。心に怒りを抱き、伴侶と言い争い、主の油注がれた者に批判的であると、聖霊はともにいることがおできになりません。反抗的であったり、不道德であったり、慎みのない服装や行いをしていたり、心や体が清くなく、神を汚していたり、神権の召しと義務を不承不承果たしていたり、あるいはそのほかの罪を犯したりしていると、聖霊は離れて行かれます。なぜなら、「主の御霊は清くない宮にはとどまらない」²⁷ からです。

したがって、絶えず悔い改め^{せいさん}、聖餐にあずかり、神殿の推薦状を受けるふさわしさを保ち、「心と、勢力と、思いと、力」²⁸ を尽くして主に仕えなければなりません。

心の中に聖霊がとどまっておられると、神と神のすべての子供たちに愛を感じます。この愛は恐れを追い出し、福音について話したいという思いを満たしてくれます。証を述べることに以上には素晴らしい贈り物はありません。一人でもキリストのみもとに導くことに大きな喜びはありません。²⁹ 証を強めるために、キリストに対する証を世の人々に伝えることに以上には素晴らしい方法はありません。そうすることで家族は強められます。ワードやステーク、地域社会が平和と愛に満たされて、最終的に、地は救い主イエス・キリストの再臨に備えることができるでしょう。

わたしは、回復されたイエス・キリスト



の福音が真実であることを知っています。末日聖徒イエス・キリスト教会が今日地上における主の教会であることを知っています。ジョセフ・スミスが神の預言者であり、ゴードン・B・シンクレーがジョセフの後継者であり、今日の教会の預言者、大管長であることを知っています。

これらのことを自分で知らない方のために、ジョセフ・スミスの模範と、福音が回復されたパターンに従うようお勧めします。ぜひ従っていただくよう、お祈りします。聖典を開いてください。ひざまずいて祈ってください。信仰をもって願い求めてください。聖霊に耳を傾けてください。天の御父はジョセフと同じように皆さんの名前を知っておられ、必要を知っておられるということを忘れないでください。堪え忍び、粘り強く福音に従って生活してください。イエス・キリストの御名^{みな}によってお約束します。「もしあなたがたが…〔主〕の戒めを熱心に守りながら、答えを与えられると信じて信仰をもって〔天の御父〕に求めれば、これらのことは必ずあなたがたに明らかにされる」³⁰ のです。

イエス・キリストは生きておられます。これは主の業です。この特別な証をイエス・キリストの御名によって申し上げます。アーメン。

注

1. ジョセフ・スミス—歴史1:6
2. 2テサロニケ2:3

3. エペソ1:10
4. ジョセフ・スミス—歴史1:10
5. ヤコブの手紙1:5。ジョセフ・スミス—歴史1:11参照
6. ジョセフ・スミス—歴史1:16-17
7. ジョセフ・スミス—歴史1:29
8. ジョセフ・スミス—歴史1:29
9. ジョセフ・スミス—歴史1:30
10. ジョセフ・スミス—歴史1:31
11. ジョセフ・スミス—歴史1:33
12. ジョセフ・スミス—歴史1:52-53参照
13. ジョセフ・スミス—歴史1:54
14. ルカ2:52
15. ルカ2:40
16. ジョセフ・スミス—歴史1:59, 62参照
17. ジョセフ・スミス—歴史1:66-67参照
18. ジョセフ・スミス—歴史1:68
19. 教義と聖約13章;ジョセフ・スミス—歴史1:68-69参照
20. エペソ1:10参照
21. マタイ8:20
22. 教義と聖約110章参照
23. 1ニーファイ11:1-2, 強調付加
24. モロナイ10:4-5
25. 教義と聖約130:22
26. 2ニーファイ32:5
27. ヒラマン4:24
28. 教義と聖約4:2
29. 教義と聖約18:15参照
30. 1ニーファイ15:11

響き渡る 預言者の教え

七十人

シャーリー・D・クリステンセン

こんにち
今日世界中で前進しているこの業が、預言者と使徒によって導かれていることについてお話し、証します。



こにお集まりの大勢の皆さんを見渡していると、わたしの心の中には、カンファレンスセンターにいる方だけではなく、世界中の集会所や家庭で大会に参加している方々が見えます。近くにしようと遠くにしようと、皆さんは主の業のために、またお住まいの地域で教会を築き上げるために、欠くことのできない存在です。

わたしたちは永遠の父なる神を愛することによって一致しています。御父の御名と、その独り子であり世の救い主であるイエス・キリストの御名を敬っています。この大会で聖霊の力を通して、御父と御子を信じる信仰が深まり、回復された福音の原則への愛が強められることでしょう。その結果、日々の生活の中で御二方

の存在を感じ、御心を知って御二方のようになりたいと心の底から願うにつれて、御二方にさらに近づくことができるのです。

わたしは、今日世界中で前進しているこの業が、預言者と使徒によって導かれていることについてお話し、証します。預言者と使徒は啓示により神に召されています。確かに預言者、聖見者、啓示者です。主は彼らを愛しておられ、教会の会員であるわたしたちも彼らを敬い、生ける神の僕として信頼しています。響き渡る預言者の教えは、今も昔と変わらず明瞭であり、預言者の証は、主イエス・キリストが統治するために栄光に包まれて戻って来られるそのときまで続くのです。

わたしたちは素晴らしい時代に生きていますが、危険な時代でもあります。どの国も、また世界全体を見渡しても状況は悪くなっているようです。指導者や国家間の対立や恨み、地域社会同士の争い、家族のいさかいを目にします。世界にはびこる悪を解消するには、すべての人が主イエス・キリストの教義と教えを理解し、その原則を生活に取り入れる必要があります。いつの時代も、預言者たちは聖霊に感じるままに神の教義と教えをはっきりと伝えてきました。それらの真理を耳にする人の心と思い、御霊によって真理が届けられるのです。

預言者の役割について考えるとき、理解すべき大切なことがあります。第1に、

預言者は神によって召され、その召しについて世界に証するということです。古代のアブラハム書に、神が前世で自ら創造された霊たちを御覧になったときの記述があります。「神がこれらの者を見られると、彼らは良かった。そこで、神は彼らの中に立って言われた。『わたしはこれらの者を、治める者としよう。』神は霊であったこれらの者の中に立って、見て、彼らを良しとされたからである。また、神はわたしに言われた。『アブラハム、あなたはこれらの者の一人である。あなたは生まれる前に選ばれたのである。』」(アブラハム3:23)

旧約聖書の預言者サムエルについても聖文は次のように記録しています。「サムエルは育っていった。主が彼と共にあって、その言葉を一つも地に落ちないようにされたので、ダンからベエルシバまで、イスラエルのすべての人は、サムエルが主の預言者と定められたことを知った。」(サムエル上3:19-20)

モルモン書には、古代アメリカで救い主が旧約聖書にあるイザヤの預言の重要性を強調された言葉が引用されています。

「さて見よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたはこれらのことを調べなさい。まことにわたしは、これらのことを熱心に調べるようにという戒めを、あなたがたに与える。イザヤの言葉はまことに偉大だからである。

確かにイザヤは、イスラエルの家に属するわたしの民について、すべてのことを述べた。……

彼の語ったことはすべて、彼の語った言葉のとおりこれまで起こっており、またこれから起こるであろう。……

……預言者の書を調べなさい。これらのことについて、証している預言者が多いからである。」(3ニーファイ23:1-3, 5)

預言者の二つ目の役割は、キリストについて教え、キリストが神であられることについて、またその使命について証することです。最初の預言者であったアダムと妻のエバは主の御声を聞いて証しました。後の神権時代の証はこの証に倣ったものです。「その日、アダムは神をた



十二使徒評議会会員とあいさつを交わす大管長会（中央）

たえ、満たされて、地のすべての氏族について預言し始めて言った。『神の御名がたたえられるように。わたしの背きのゆえに、わたしの目は開かれた。わたしはこの世で喜びを受け、再び肉体にあって神にまみえるであろう。』

彼の妻エバは、これらすべてのことを聞き、喜びながら言った。『わたしたちの背きがなかったならば、わたしたちは決して子孫を持つことはなく、また善悪も、^{あがな}贖いの喜びも、神がすべての従順な者に与えてくださる永遠の命も、決して知ることはなかったでしょう。』

アダムとエバは神の名をたたえ、息子、娘たちにすべてのことを知らせた。』（モーセ5：10-12）

古代アメリカの預言者ヒラマンは息子のニーファイとリーハイにこう教えています。「わが子らよ、覚えておきなさい。あなたたちは、神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基を築かなければならないことを覚えておきなさい。そうすれば、悪魔が大風を、まことに旋風

の中に悪魔の矢を送るときにも、まことに悪魔の^{ひょう}電と大嵐^{おおあらし}があなたたちを打つときにも、それが不幸と無窮の苦悩の淵にあなたたちを引きずり落とすことはない。なぜならば、あなたたちは堅固な基であるその岩の上に建てられており、人がその上に基を築くならば、倒れることなどあり得ないからである。』（ヒラマン5：12）

この神権時代においてなされた救い主に対する最も力強い証は、1832年の預言者ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンの証ではないでしょうか。

「そして今、小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、『小羊は生きておられる。』

わたしたちはまことに神の右に小羊を見たからである。また、わたしたちは証する声を聞いた。すなわち、『彼は御父の独り子であり、

彼によって、彼を通じて、彼から、もろもろの世界が現在創造され、また過去

に創造された。』（教義と聖約76：22-24）

預言者に関する3つ目の特徴は、彼らの教えは記録され、後に続く預言者や教師によって世界の人々に教えられるということです。主は旧約聖書の預言者モーセにおっしゃいました。「山に登り、わたしの所にきて、そこにいなさい。彼らを教えるために、わたしが律法と戒めとを書きしるした石の板をあなたに授けるであろう。』（出エジプト24：12）

今日の主の生ける預言者も、同じように人の心を動かさずにはおかない証を述べています。1995年、預言者たちは結婚と家族が神聖なものであることを世界に証しました。

「わたしたち、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長会と十二使徒評議会は、男女の間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すものであることを、厳粛に宣言します。……

わたしたちは宣言します。この世に命をもたらす手段は、神によって定められたものです。わたしたちは断言します。命は神聖であり、神の永遠の計画の中で重要なものです。……

わたしたちは、全地の責任ある市民と政府の行政官の方々に、社会の基本単位である家族を維持し、強めるために、これらの定められた事柄を推し進めてくださるよう呼びかけるものであります。」「〔家族——世界への宣言〕『聖徒の道』1998年10月号、24)

後に彼らは主の使徒として、イエス・キリストの使命に関しても直接的な証を述べています。

「わたしたちは、全人類の歴史の中心であるイエス・キリストの生涯が、ベツレヘムで始まったのでもなければカルバリで終わったのでもないことを厳かに証します。イエス・キリストは御父の長子、肉における独り子、世の救い主でした。……

わたしたちは、イエス・キリストがいつの日か地上に戻って来られることを証します。……イエス・キリストは王の王として治め、主の主として統治されます。イエス・キリストの前にすべてのひざがかがみ、すべての舌がイエス・キリストを賛美することでしょう。わたしたち一人一人は将来、自分の行いと心の望みについて裁きを受けるためにイエス・キリストの前に立つこととなります。」「〔生けるキリスト——使徒たちの証〕『リアホナ』2000年4月号、2-3)

末日聖徒イエス・キリスト教会の教義は、その根本において、信仰をもって神に尋ね求めるすべての誠実な人の心に、個人的な証を伝えるためにあります。すなわち主なる救い主と、時の初めから今この瞬間に至るまでの預言者の役割に対する証です。この神権時代の最初の預言者ジョセフ・スミスから、今日の主の預言者であるゴードン・B・シンクレー大管長まで、預言者が途切れることなく召されていることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

主なる神は あなたの手をとり

七十人

W・クレグ・ズウィック

主の御手^{みて}を取って、ともに主の道を歩むならば、信仰をもって進み、二度と孤独を味わうことはありません。



今^{こんにち}日、世界の多くの人の目や心には、疑い、恐怖、絶望が見てとれます。世の中の不安は、家庭や個人の生活にまで浸透してきています。年齢や置かれた状況に関係なく、人は皆、自分には現在を生き抜く力があり、未来に希望を持てるのだということを知る必要があります。

モルモンの言葉を聞いてください。「あなたがたは自分が神の手の内にあるのを知らないのか。あなたがたは神が一切の権威を持っておられること……を知らないのか。」「(モルモン5:23)

手は豊かな表現力を象徴します。ヘブライ語で「手」を表す一般的な言葉の「ヤド(yad)」は、力、強さ、勢力などを表す言葉として比喩的に使われることもありま

す(ウィリアム・ウィルソン, *Old Testament Word Studies* [1978年], 205参照)。このように、手は力と強さを表します。

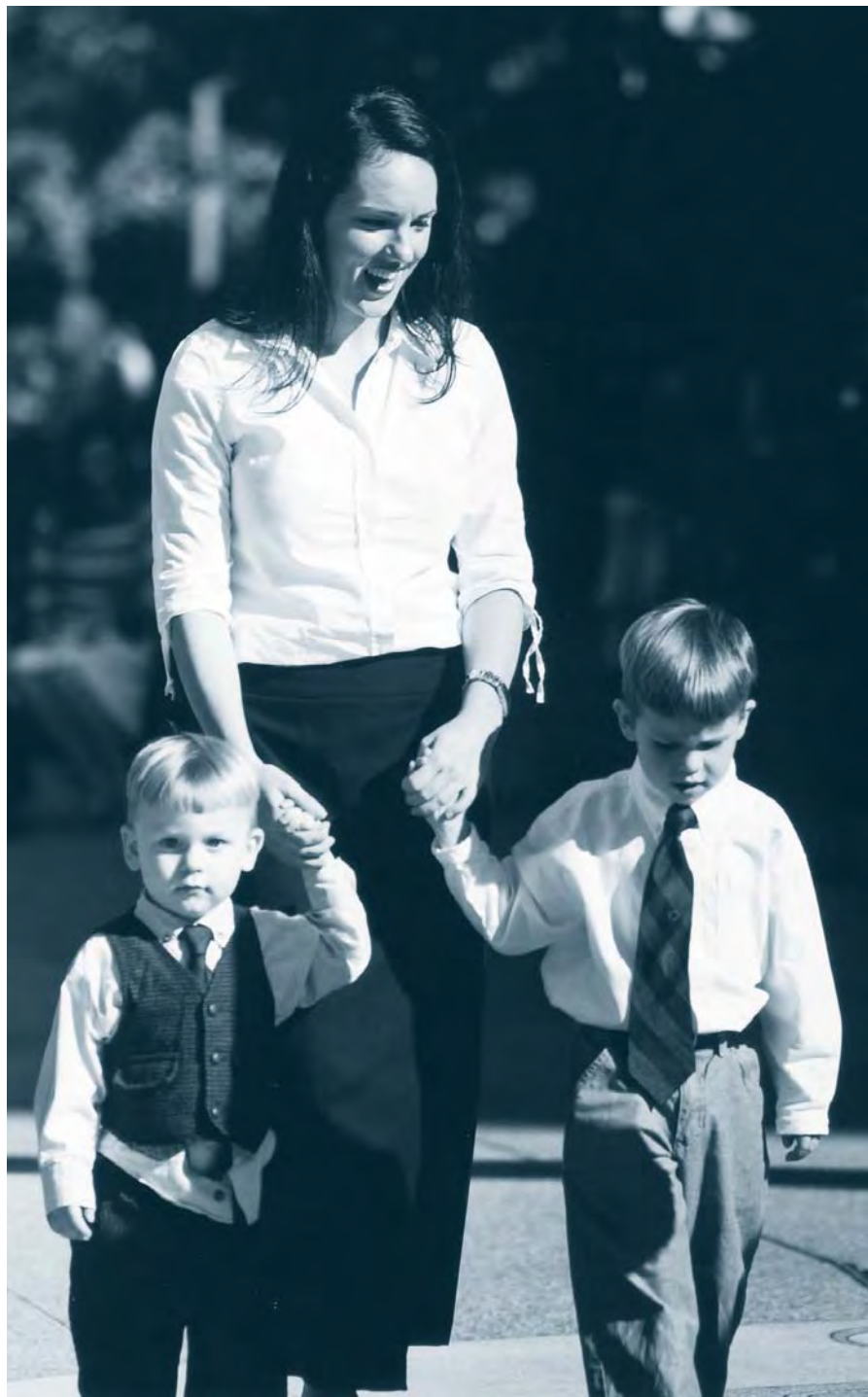
生ける預言者ゴードン・B・シンクレー大管長が差し伸べる手は、世界中の人を強め、励まし、鼓舞しています。

神の御手の内にあるということは、単に注意深く見守られているというだけでなく、神の驚くべき力によって守られ、保護されていることも意味します。

聖文の至る所に、主の御手という言葉が出てきます。主の助けが繰り返し与えられてきた証拠です。世界を創造された主の力強い御手は、^{おきなご}幼子を祝福するほど優しいものでもあります。

復活されて栄光に満ちた救い主について述べた、ヨハネの言葉を考えてみましょう。「わたしは彼を見たとき、……彼は右手をわたしの上において言った、『恐れるな。わたしは……生きている者である。わたしは死んだことはあるが、見よ、世々限りなく生きている者である。』」(黙示1:17-18) 主がその御手を頭に置いてくださるとき、わたしたちもヨハネのように主にあって生きることができます。

24年前、生まれたばかりの息子は、病院の集中治療室で死と闘っていました。息子は未熟児で肺の発達が不十分だったため、一息吸うのも命がけでした。しかしそんな小さな体には、生きようとする力強い意志があふれていました。勇気ある誠実な妻のジャンとわたしはまだ若く経



験の浅い親でしたが、主が御手を差し伸べて、この赤ん坊に何とか呼吸を続けさせてくださるよう祈りました。わたしは震える手を保育器に差し込みながら、自分の未熟さと無力さを痛感しました。そして幼い息子の小さいながら完全な手に触れたとき、決して忘れられない、強い霊のつながりを感じたのです。わたしは指を2本ずつ息子の小さな頭に置き、癒しの祝

福を与えました。

息子の回復を願うわたしたちの思いは純粋でした。しかし、この世での息子の生死は主の御手の内にあり、親や治療に当たる医師団の思いどおりにはならないことも分かっていました。そのときわたしは、自らの震える手に自分の力を超越した力と権能が宿っていることに気づき、圧倒されました。息子の頭に置いたわた

しの指は、息子に置かれた神の御手とその力を象徴していたのです。祝福の後、一時の静寂の中で妻と保育器を挟んで見詰め合い、新たな希望と慰めを感じました。主イエス・キリストへの信仰と主の贖い^{あがな}が与えてくれた力のおかげで得られた御霊です。それは、ほんの少し前までみもとにいたこの幼い息子を、主が愛しておられるという強い証^{あかし}でした。その後、息子に対する主の御心^{みこころ}を受け入れるため、いっそうの備えができました。救い主の御手に息子を心からゆだねることができたのです。息子が呼吸し、栄養を取れるように、まるで救い主の御手が人工呼吸器の役割を果たしてくださっているかのようでした。息子が一息吸うごとに、またかすかな回復の兆しが見える度に祈り、感謝しました。主に恩を受けているわたしたち夫婦は、今もこの健康な息子とともに、救い主の助けの御手に心から感謝し続けています。

第一の復活の朝に出て来て、「王位、王国、公国、および力」が授けられるほかに、「すべての高い所と深い所」を受け継ぐと、神は約束しておられます(教義132:19)。大いなる幸福の計画には、上っては落ちるジェットコースターのように、喜びに満ちた日々だけでなく試練の時も組み入れられています。確かにわたしたちは皆、困難や悲しみを経験することがあります。時にはあきらめてしまいたくなるほど苦しいこともあります。不安な日々を送り、打ちひしがれ、わらにもすがる思いで救いを求めることもあります。

ホランド長老は次のように教えています。「過ぎ去らせることのできない杯^{さかずき}は、救い主だけでなく、わたしたちにも訪れます。もちろん比較にならないほど軽く、小さなものですが、それは、わたしたちが従順を学べるよう頻繁にやって来るのです。」(Trusting Jesus[2003年], 42)

わたしたちは皆、主の強さにすぎれば耐えられることを知る必要があります。主の御手に自らをゆだねれば、主がわたしたちを支え、一人では到達不可能な高みへと導いてくださるのを感じるのです。

悩める父親が、ひどい病気にかかった

息子をイエスのもとに連れて来たときのことをマルコはこう記しています。「イエス〔は〕手を取って起されると、その子は立ち上がった。」(マルコ9:27)

主を信頼しなければなりません。進んで自らを主にゆだねるとき、重荷は軽くなり、心は慰められるのです。

スコット長老は、最近次のように勧告しました。「どんなに難しい状況でも、……神〔を〕信頼〔してください〕。……心に安らぎがあること、困った問題に遭遇しても答えを見いだせると確信できること、究極的な喜びに満たされること、これらは天の御父と御子イエス・キリストに対する信頼にかかっています。」(「不確かで困難な時代に支えとなる信仰の力」『リアホナ』2003年5月号, 76, 77)

どうしたら信頼できるようになるでしょうか。どうしたら自分の手を伸ばして、主が与えてくださる慰めを受けることができるのでしょうか。

主はジョセフ・スミスに明確な指示をお与えになりました。「わたしに学び、わたしの言葉を聴きなさい。わたしの御霊の柔和な道を歩みなさい。そうすれば、あなたはわたしによって平安を得るであろう。……常に祈りなさい。そうすれば、わたしはあなたに御霊を注ごう。」(教義と聖約19:23, 38)

ここに4つの鍵があります。

- 学ぶ
- 聴く
- 御霊を求める
- 常に祈る

進んで扉を開き、助けを与えてくださる御手を受け入れるならば、主はわたしたちを養い、支えてくださいます。

トーマス・S・モンソン副管長は、救い主が喜んで救いの手を差し伸べておられることを思い起こさせています。「神の御子であられる、イエス・キリストの救いの手はあがめられますように。主はその御手でわたしたちの心の扉をたたかれますのです。」(「手」『聖徒の道』1991年3月号, 6参照)

最近、娘夫婦はデートに出かける用意をしていました。急いで身支度を終え、

ベビーシッターに最後の指示を与えていた二人は、玄関に来るまで、寂しそうな顔をしている子がいることに気づきませんでした。目に涙を浮かべている子もいました。子供たちは両親が出かけることに不安を感じていたのです。二人は4人の大切な子供たちを集めました。父親が手を差し出すように言うと、8つの小さな手が並びました。娘夫婦はその手に一つずつキスをして、寂しくなったり、怖くなったり、お父さんとお母さんの愛を感じたくなったりしたら、両手を頬に当てるように言いました。そうすれば、いつでも二人がそばに感じるができるからです。子供たちはとても喜びました。娘夫婦が外に出て振り返ると、4人の子供が両手を頬に当ててほほえみながら窓際に立っているのが見えました。

この子供たちは両親を信頼し、愛されていることを知っていました。

幼い子供たちが信頼するように、わたしたちも、幼子のような完全な信頼を持たなければなりません。わたしたちは神の息子、娘であり、神から深く愛されていることを忘れてはいけません。自分が何者であるかを確かに知るならば、それは揺らぐことのない、希望と慰めの源となります。

主の御手に自らをゆだねないかぎり、「わたしたちの参加すべき競走」を走り抜くことは不可能です(ヘブル12:1)。

数年前、一人娘がマラソンに挑戦することを決意しました。娘は友人と一緒に熱心に訓練を積みました。レースは困難で、何度も途中で棄権したくなったそうです。それでも娘は、次の一歩を踏み出すことだけに集中して走り続けました。コース半ばに差しかったとき、後ろからだれかが叫びました。「目の見えない選手が左にいるぞ!」

振り向いた途端、伴走者と手をつないだ目の不自由な選手が追い抜いて行きました。二人ともレースの参加者でした。追い抜かれたとき、娘には目の不自由な選手の手が、伴走をする友人の手を固く握っているのが見えました。

苦しさを感じながらも、娘は手を取り

合って走るこの二人の選手を見て勇気づけられました。伴走者は盲目の友人に励まされ、盲目の選手は手をつないでいる友人に頼っていたのです。娘は、目の見えない選手が一人ではレースを完走できないことを知っていました。そしてその選手の信頼と、友人の献身的な愛に心を動かされました。

同じように、救い主はわたしたちが一人で走らなくてもよいように、一人一人にその御手を差し伸べておられます。「主は、〔時折〕よろめいたり、つまずいたりする〔わたしたちの〕そばにおられ、歩みを安定させ、強めてくださいます。」(Trusting Jesus, 43) 主は、ゴールに近づくわたしたちを出迎え、救ってくださいます。主がその命を犠牲にされたのは、そのためなのです。

主の御手の傷を想像してみてください。主の節くれ立った御手、贖いの犠牲によって裂かれたその御手が、わたしたちの手にさらに大きな力と方向性を与えてくださるのです。

苦難の時に導いてくださるのは、この傷を負われたキリストです。行き詰まったり、導きや、歩み続ける勇気が必要だったりするときに、主が支えてくださるのです。

神の戒めを守り、主の御手を取って、ともに主の道を歩むならば、信仰をもって進み、二度と孤独を味わうことはありません。

永遠の命を約束された主を信頼し、平安と希望が宿るのを感じてください。

平安の源である主とその完全な贖いの愛につながっているとき、初めて、主の次の約束が現実のものであることを知るようになるのです。「あなたの神、主なるわたしはあなたの右の手をとってあなたに言う、『恐れてはならない、わたしはあなたを助ける。』」(イザヤ41:13)

イエス・キリストが贖い主であり、生ける救い主であられます。

主が生きておられ、一人一人にその愛の御手を差し伸べておられることを証します。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

悔い改め, 変わる

十二使徒定員会

ダリン・H・オークス

悔い改めとは、個人、家族、民族、国民の中の、神の戒めに反する習慣、慣習をすべて捨て去ることです。



フィリピン地域からあいさつを贈ります。この地域には80のステークと80の地方部に住む52万人の会員、13の伝道部に所属する2,200人の宣教師がいます。教会がまだ十分に確立されていない地域に共通のあらゆるチャレンジに遭いながらも前進しています。

このような発展中の地域では、年配の夫婦宣教師がとても頼りになります。このことを強調しておきたいと思います。わたしの話を聞いている方の中には、夫婦宣教師の働きがどれほど歓迎されるかをあまり知らない方も多く、このきわめて重要な召しにもっと多くの方が応じてくださるよう切望しているからです。

I.

ある雄々しい夫婦宣教師がこのように話してくれました。「ハワイでサーフィ

ンざんまいだったころの自分を思い出すと、3度も伝道に出たなんてとても信じられません。でも、救い主のぬくもりを感じたときに、主にお仕えしたいと願うようになり、このように変わることができたのです。」彼はまさに別人のようになりました。スタンレー・Y・Q・ホー兄弟は、30歳になるまで、「ワイキキの浜辺をうろつく」だけの生活を送っていましたが、福音を見だし、末日聖徒の女性と結婚して、変わり始めました。監督やステーク会長など数々の責任を果たし、現在、ホー長老と、彼の人生を大きく変えた最愛の妻モミは、3度目の伝道を終えたところです。

もう一人の例を、ルカによる福音書から読んでみましょう。

「さて、イエスはエリコにはいて、その町をお通りになった。

ところが、そこにザアカイという名の人がいた。この人は取税人のかしらで、かねもち金持であった。

彼は、イエスがどんな人か見たいと思っていたが、背が低かったので、群衆にさえぎられて見るができなかった。

それでイエスを見るために、前の方に走って行って、いちじく桑の木に登った。そこを通られるところだったからである。

イエスは、その場所にこられたとき、上を見あげて言われた、『ザアカイよ、急いで下りてきなさい。きょう、あなたの家に泊まることにしているから。』

そこでザアカイは急いでおりてきて、よろこんでイエスを迎え入れた。』（ルカ19：1-6）

聖文には、イエスが罪人の家に入られるのを見て人々は「つぶや〔いた〕」とあります（7節）。しかし、イエスにとってそれはどうでもよいことでした。主の福音は、古い生き方を捨て、神の国に救われるために変わろうするあらゆる人のためのものなのです。

さて、主のために家の扉と心の扉を開いたザアカイの話に戻しましょう。

「ザアカイは立って主に言った、『主よ、わたしは誓って自分の財産の半分を貧民に施します。また、もしだれかから不正な取立てとりたをしていましたら、それを4倍にして返します。』

イエスは彼に言われた、『きょう、救すくいがこの家に来た。……

人の子がきたのは、失われたものを尋ね出して救うためである。』（8-10節）

エリコのザアカイもハワイのスタンレー兄弟も、わたしたち一人一人の可能性を表しています。彼らが経験したことは、「よろこんで」主を迎え入れ、主の導かれるところについて行くという決意をした人すべてに経験してほしいと、わたしたちが祈っているような経験なのです。

II.

イエス・キリストの福音は、変わりなさいというチャレンジです。福音の中で最も多く登場するメッセージは「悔い改め」です。悔い改めとは、個人、家族、民族、国民の中の、神の戒めに反する習慣、慣習をすべて捨て去ることです。福音は、普通の人を日の栄えの人に変えるためにあり、それゆえ、変わるように人に求めるのです。

バプテスマのヨハネが悔い改めを説いたとき、様々な人が耳を傾けました。ヨハネは、人は皆「悔改くいあらためにふさわしい実を結」ぶために、変わらなければならぬと宣言しました（ルカ3：8）。取税人、兵士、民衆、それぞれには、何かしら悔い改めるべき言い伝えがありました。

イエスも、様々な人の言い伝えが誤っていることを示されました。手を洗う儀式を怠った主の弟子を見て「昔の人々の言伝いいつたえを破」っていると非難した律法学



者やパリサイ人に、イエスは「言伝えによって、神のいましめを破っている」のは彼らの方であると言われました（マタイ15：2-3）。イエスは彼らが「自分たちの言伝えによって、神の言を無にしている」様子を明確に示されました（6節）。主は、言い伝えに執着して、神の戒めを守らない人のことを、「偽善者」と呼ばれました（7節）。

さらに近代の啓示で主は、「邪悪な者」は、罪のない神の子供たちを「不従順によって、また先祖の言い伝えによって」光と真理から引き離していると、はっきり教えられました（教義と聖約93：39）。

神のえり抜きの祝福を受けられるようになりたいと願うならば、これまで従ってきた言い伝えや文化、生活様式の幾つかを変えることが必ず求められます。

純潔はその一例です。「あなたは姦淫してはならない」という戒めは、シナイ山で主から与えられ（出エジプト20：14）、近代の啓示で繰り返されました（教義と聖約42：24。教義と聖約59：6も参照）。新約聖書も「不品行を避けなさい」と命じています（1コリント6：18。ガラテヤ5：19；1テサロニケ4：3も参照）。いつの時代も神の預言者は「みだらな行い」を非難してきました。しかし、多くの国の根強い言い伝えによって、幾度となく人々はこの永遠の戒めを無視し、抵抗し、あざけています。この問題は今日の世の中で特に顕著に表れるよ

うになりました。映画や雑誌、インターネットの情報は、瞬時に多くの国に伝わります。大勢の人が不倫を容認、あるいは提唱さえしています。ポルノグラフィも急速に広まっています。このような罪の文化に染まっている人は、神の民になりたければ、皆、悔い改め、変わらなければなりません。「清くない者は、決して父の王国に入ることができない」と警告されているからです（3ニーファイ27：19）。

世間の慣習に反する戒めの例としては、毎週教会に行くことも挙げられます。安息日には教会に出席して「聖式をささげ」るよう、主から命じられています（教義と聖約59：9参照）。しかし求められているのは、漫然と出席する以上のことです。礼拝と儀式に参加するよう命じられているからです。キリスト教徒でなかった多くの人や、キリスト教徒であっても毎週教会に出席する習慣のなかった人にとっては、難しい変化を求められることになります。

アルコール、たばこ、茶、コーヒーを絶つように求める主の戒めは（教義と聖約89章参照）、多くの人の習慣に反します。長年続けた習慣や中毒を断ち切るのは容易ではありません。けれども主の戒めは明確です。また、約束された祝福は、変わる努力に報いて余りあるものです。

もう一つの例は正直です。ある文化圏では、うそ、盗み、不正直を許容してい

ます。面目を保つ、利を得るなど、いかなる形であれ、不正直は福音の戒めと福音の文化に真っ向から対立します。神は真理の神、変わることを恐れない神であります。わたしたちこそ、変わらなければならないのです。自分が有利になり、見つけられなければならない、少しくらいそをつき、欺き、偽りを行ってもかまわないと考えてきた人にとっては、大きな変化を求められることになります。

それほど深刻ではありませんが、福音の考え方と矛盾する世の風潮に、地位の上下という考えがあります。世間で昇進あるいは降格と呼ばれているものです。しかし教会の地位には上も下もなく、様々な職を経験するにすぎないのです。正式な権能を持つ人によって解任された監督が初等協会の教師に召されるのは、降格ではありません。監督は感謝して解任を受け入れ、前よりも目立たない新しい召しを果たすのです。

数か月前、フィリピンで忘れることのできない模範を目にしました。マニラに近いパシッグステークのあるワードを訪ねたときのことで。そこで、かつてステーク会長を務め、中央幹部七十人、マニラ神殿長を務めたアウグスト・リム兄弟に会いました。彼は今、謙遜にまた感謝をもってワードの監督会で働いています。自分よりはるかに若く経験の浅い監督の第二副監督を務めているのです。神殿長からワードの第二副監督へ異動しても喜んで召しを果たしている姿は、福音の文化に添って生きるすばらしい模範です。

以上の例は、ある地域とほかの地域の文化や伝統を比較しているのではなく、主の方法とこの世の方法を比較しているのです。イエス・キリストの福音の文化を、あらゆる国、あらゆる民族の文化、伝統と比較しています。美德を独占したり、変化を求める戒めを免除されたりする文化圏はありません。異邦人は、イエスや使徒たちから、ユダヤ人になるようにとは求められませんでした（ローマ2：11；ガラテヤ2：11-16；3：1-29；5：1-6；6：15参照）。異邦人もユダヤ

人も、一人一人がキリストに従うよう教えられたのです。

同様に、現代の主の僕も、フィリピン、アジア、アフリカの人たちをアメリカ人のようにしようとはしません。救い主はあらゆる人を御自分のみもとに招いておられます（2ニーファイ26：33；教義と聖約43：20参照）。主の僕たちは、アメリカ人も、世界中の人も、すべて末日聖徒となるよう勧めています。わたしたちはあらゆる人に呼びかけます。「神の戒めと福音の教えに反する言い伝えや文化、慣習を捨て、神の民とともに神の王国の建設に加わってください。」闇を歩くのをやめ、使徒ヨハネが教えたように「光の中を歩くならば、わたしたちは互に交わりをもち、そして、御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめ」てくれるのです（1ヨハネ1：7）。

III.

末日聖徒イエス・キリスト教会のあらゆる会員は、ユニークな福音文化、つまり独特の価値観と標準、慣習を共有しています。福音に基づくこの生活習慣は、救いの計画、神の戒め、生ける預言者の教えが原点となっており、子供を育て、個人の生活を営む方法が明確に示されています。「家族の宣言」に述べられている原則には、福音の文化が見事に表現されています。

イエス・キリストの教会でバプテスマを受けた人は聖約を交わしています。主は近代の啓示の中でこう宣言されました。「人々がわたしの永遠の福音に召され、永遠の聖約を交わすとき、彼らは地の塩、また人の味と見なされる。」（教義と聖約101：39）地の塩として、聖約の義務を果たすわたしたちは、周囲の人と違っているはずです。

イエスは次のように教えられました。「わたしはあなたがたを地の塩とする。しかし、もし塩がその塩気を失ったら、地は何によって塩味をつけられようか。その塩はもはや何の役にも立たず、ただ外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけである。」（3ニーファイ12：13。マ



タイ5：13；教義と聖約101：40も参照）

ですからわたしたちは、家族、民族、国の文化を超越しなければなりません。福音の戒め、聖約、文化と相いれない行動様式を自分の振る舞いの中に見つけたら、すべて変えなければならないのです。

福音の計画は、責任という原則が土台になっています。信仰箇条には、「人は自分の罪のゆえに罰せられ、アダムの背きのゆえには罰せられない」という永遠の真理が明らかにされています（信仰箇条1：2）。教義の中で何度も繰り返されているこの責任という概念は、「全人類を贖って、一人も失われないように」す

るというサタンの計画とは対極にあるものです（モーセ4：1）。御父と救い主の計画は、選択と努力を基本としています。

責任を負い、努力するという教義、慣習は、多くの国の文化、伝統と衝突しています。所得や財産の格差が激しい現代社会にあって、公共機関や個人がこの差を縮めるために多大な努力を払っています。救い主に従う人々は貧しい人に与えるよう命じられ、多くの人がそれを実行しています。しかし、与えることが依存という文化を助長しているのも事実です。食品や住居の援助を受ける人は、この世の必需品には恵まれるかもしれませ



んが、逆に成長の機会という、永遠の観点から見て必要なものが奪われてしまいます。福音の計画において成長するには、努力と責任が求められる文化に生きる必要があります。依存の文化の中にとどまっていたは成長することができません。自分ですべき決断や、自分で手に入れるべきものまで、人に依存するように勧めるものは何であれ、霊性を弱め、福音の計画が意図する成長を遅らせているのです。

福音は人を貧困や依存から立ち直らせようとしませんが、そのためには、どれほど貧しくても忠実に^{じゅうぶん}仕分の一を納めるなど、福音の文化をもって、心の中にある依存の文化、依存の習慣を打ち負かす必要があります。イスラエルの子らはこの点で教訓を残してくれました。イスラエルはエジプトに数百年間捕らわれた後、預言者に従い土地を手に入れ、力強い民となりました。モルモンの開拓者からも同じ教訓を得ることができます。開拓者は、迫害や貧困を言い訳にせず、戒めを守るなら神が祝福してくださるという信仰をもって前進し、約束どおり神から祝

福を受けたのです。

福音の文化を身に付けて変わるためには、長い時間と、時にはつらい努力が必要になります。目に見えるような変化を遂げなければなりません。わたしたちは「地の塩」であると同時に「世の光」でもあり、その光を隠してはならないのです（マタイ5：13-16参照）。使徒ヨハネは、聖徒たちは義のために世から憎まれるだろうと警告しました（1ヨハネ3：13参照）。変わることを聖約した人が、互いに愛し助け合う神聖な義務を負っているのはそのためです。この世の文化と決別し、イエス・キリストの福音の文化に入ろうと努力するすべての人が励ましを必要としています。使徒ヨハネはこのような結んでいます。「言葉や口先だけで愛するのではなく、行いと真実をもって愛し合おうではないか。」（1ヨハネ3：18）

居心地のよい家や故郷を後にして、夫婦宣教師として奉仕する教会の高潔な男女が人に示す愛ほど、感銘深いものではありません。夫婦宣教師は、変わろうと努力する人に、最も信頼できる、価値ある助けを差し伸べています。彼らの模範は、

人は変われるということと、変わる努力は十分報われるということを教えています。夫婦宣教師に神の祝福がありますように。

IV.

互いに愛し合いなさいというイエスの戒めがあります。わたしたちは互いに仕え合うことによって人への愛を示します。神を愛しなさいという戒めもあります。神の戒めを守ることにより（ヨハネ14：15参照）、また罪を絶えず悔い改めることによって、神への愛を示します。しかし、悔い改めとは罪を捨て去るだけのものではありません。最も広い意味において、悔い改めとは変わることなのです。神の戒めに反する伝統、文化、慣習をすべて捨て去り、イエス・キリストの福音の文化に完全に溶け込み、「聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族」となるのです（エペソ2：19）。

わたしたちがそのように行い、主の福音が意図する者となること——それが主の望んでおられることなのです。イエス・キリストの御名^{みな}によって証^{あかし}します。アーメン。

無限の可能性を 認識する

十二使徒定員会

リチャード・G・スコット

使徒として申し上げます。自分の真の姿を発見してください。……神からどのような能力を与えられているのか、御霊を通して見極めてください。



最近、2万人以上の若い末日聖徒が参加する集会に出席しました。聴衆は霊的なメッセージに耳を傾け、熱心に学ぼうとメモを取り、集中して話を聴いていました。その表情からは純粋な心と義にかなった思い、献身的な態度が伝わってきました。参加を強いられた人は一人もいません。皆がその場に集うことを望んでいたのです。

その後、奉仕の業に備える2,000人を超える専任宣教師と会いました。会場には御霊が満ちていました。わたしは難しい質問をしましたが、宣教師たちの回答は、答えを裏づける聖句を随所に引用した見事なものでした。握手をし、目をのぞき込むと、清らかさと献身しようとする姿勢が感じられました。靈感あふれる経験でし

た。一人一人が、史上最高の宣教師世代の一員となるために、自分の都合を二の次にして召しを受けていたのです。

これまでわたしは、世界中の若者と接して同じような経験をしてきました。教会の3つの大学の職員は、学生の身体的および精神的能力と霊的な感受性が著しく高まっているのを実感しています。何かとてつもないことが起きているのです。皆さんはそれを感じているでしょうか。従順な態度と道徳観が世界中で確実に低下している中、主はさらに多くの優れた霊を地上に送っておられます。一つの集団として、今の若者の平均的能力は、先人たちをしのいでいます。彼らが成長し、素晴らしい貢献をする可能性は計り知れません。親や指導者として、この可能性をどのように開いているでしょうか。この世代に属する若い男性や女性として、内に秘めた素晴らしい能力を実現するために何をしているでしょうか。偉大なことを成し遂げ、最高の幸せを得るために可能性を発揮しているでしょうか。罪を犯させてその可能性を徐々に奪おうとするサタンの働きから逃れるために、何をしているでしょうか。この重大な質問に答えられるのは、自分だけなのです。

使徒として申し上げます。自分の真の姿を発見してください。毎日の決まり切った生活のかなたに目を向け、神からどのような能力を与えられているのか、御霊を通して見極めてください。無限の可能

性を認識できるよう、祈りをもってふさわしい選択をしてください。

このような成長を遂げるための第一歩となる、確実な方法をお教えしましょう。わたしはこれまで、多くの勇敢な宣教師を見てきました。冷たい風や激しい雨に耐え、ぬかるんだ滑りやすい道を進み、恐れを克服します。その力強い証は、しばしば拒絶され、徹底的に非難されます。外国語で真理を伝えようと苦心している姿も見ました。話をした相手が当惑するときもあります。そして話したことが理解されていないと気づき愕然とするのです。しかし、わたしに力があつたとしても、その状況を変えるつもりはありません。なぜなら、どのような苦勞も報われる貴重な成功の瞬間があるからです。御霊が人の心を永遠に変える瞬間です。それは皆さんのような人がいるからこそ起きることなのです。困難な状況で真理を伝えることは、真理をさらに大切にしていることとなります。未経験な分野に足を踏み入れるとき、主は皆さんを強めてくださいます。そして自らの内に宿る永遠の霊のすばらしさが表れ始めるでしょう。

試練は今まで以上に大きいものです。主がより能力の高い、より準備の整った宣教師を必要とされているのはこのためです。御霊の導きを受けて、人を改心させるほどの力をもって証できる、罪のない清い人々を主は求めておられます。このような並外れた宣教師となるふさわしさを身に付けてください。簡単なことではありません。しかし、真に価値あることで簡単に成し遂げられることなどあったでしょうか。

大管長会は、現在の伝道活動に求められている道徳的ふさわしさ、身体的、精神的、情緒的安定に関する高い標準を明確に定めました。厳しい基準ですが、皆さんなら満たすことができます。標準に従うことで得られる平安と自信に喜びを感じることでしょう。標準が高くなったのは、伝道に出ることを難しくするためでなく、現在宣教師が働いている環境に、霊的な導きがどうしても欠かせないからです。福音を教える方法にも修正が加えら



れました。今はレスンプランを暗記せずに、基本内容を学び、御霊の導きに従って教えます。そのためには、個人のふさわしさが重要になってきます（「伝道活動に関する声明」2002年12月11日付、大管長会からの手紙の添付資料参照）。

皆さんは、卓越した可能性を持つ特別な世代です。サタンが、神の律法を犯すよう皆さんを誘惑して、その可能性を壊したいと思うのも当然です。サタンは、義にかなった人に対しては力がないことを知っています。しかし同時に、伝道に出る決心のついていない人に、罪を魅力的に見せる名人でもあるのです。

伝道や意義ある人生に備えるうえで、家庭は絶好の場所です。親として息子や娘に与えられる最高の贈り物の一つは、絶え間なく真理の証を育てることです。忍耐強く、子供たち一人一人の霊的な力をはぐくんでください。教会の教義と、教えに従うときに得られる力について、しっかり説明してください。そうしたことが土台となって、子供は世の悪に抵抗する力を身に付けていくのです。肉体的にも精神的にも準備ができるすべての息子たちに、専任宣教師の務めを立派に果たすよ

う励ましてください。

監督やステーク会長は、神権指導者と補助組織の指導者とともに、青少年の霊性を強めてください。そのために、教会の活動に参加するよう励ましてください。教会の活動は、親の教えをさらに強めます。

若い男性の皆さんは、神権定員会に活発に参加してください。若い女性の皆さんは、クラス活動に出席し、「成長するわたし」の目標を達成してください。そしてどちらの若人も、日曜学校の話し合いに積極的に加わってください。習ったことを忘れないためです。セミナーやインスティテュートに出席し、真理に対する大切な理解を得てください。単にテストに合格するために参加するのではなく、学んだことを生活に取り入れるのです。

高価な真珠の「ジョセフ・スミス—歴史」に記録されている最初の示現を研究してください。神権の権能と昇栄に必要な儀式を含め、完全な真理が回復するまでに起こった一連の出来事について学んでください。このような事柄に対する証を得て、思いと心にしっかりと刻みつけてください。

モルモン書を義務からではなく、進んで読むように努力してください。モルモン書が真実であることを突き止めてください。ページをめくる度に、「これは人が書いたものと言えるのだろうか。それとも、ジョセフ・スミスが証したような方法で世に出て来たのだろうか」と尋ねるのです。学んだ教えを生活に取り入れてください。それらの教えは、サタンの悪に立ち向かう皆さんを強めてくれます。モロナイの勧めに従ってください。モルモン書の教えが真実かどうか、イエス・キリストの御名によって父なる神に誠意をもって尋ねるのです（モロナイ10：3-5参照）。疑わずに、個人的に確認を求めて主に祈ってください。目の前にあるこの本について説き明かされるはずです。皆さんは、モルモン書が真実だという霊的な確認を受けることができます。そうすれば、イエス・キリストが生きておられ、ジョセフ・スミスが預言者であり、末日聖徒イエス・キリスト教会が主の教会であると知ることができます（モルモン書の序文、特に最後の1段落参照）。そして救い主が、生ける預言者を通して御自身の教会を導いておられることを確認するのです。これらの真

理は実りある人生の土台となります。

こう言う人もいるでしょう。「理想的な家庭で育ったわけでも、子供のころから教会の活動に参加していたわけでもなく、すべての祝福にあずかっているとは言えません。」わたしも同様に、すべての恩恵を受けているわけではありません。また、十二使徒定員会の中にもそのような兄弟がいます。それを補うのは、真理に対する自分自身の強く揺るぎない証です。イエス・キリストの教会が地上に回復され、主の教えが真実であるという確信を得てください。これらの大切な賜物^{たまもの}を得る道は一つではありません。どの道も、心から知りたいという望みから始まるのです。信仰の弱い炎は、大切にしなければ消えてしまいます。しかし、心を込めて祈り、モルモン書やほかの聖典を常に研究することで、その小さな炎は消えることのない大きな炎になるのです。そのような信仰は、学んだ原則を応用するうえで支えとなります。

ふさわしさを保ってください。自分がどのような存在であるかを確かに知っていれば、サタンの誘惑に対抗することは難しくありません。そうなれば、サタンも皆さんが真の可能性を発揮することを妨害できません。

若い男性として、この時期に最も成長して強められる経験は、例外なく、専任宣教師の務めを立派に果たすことです。伝道は個人の利益のためのものではありませんが、主は勇敢に働く宣教師を豊かに祝福してくださいます。ふさわしさの高い標準を満たす、優秀で準備の整った、献身的な宣教師の軍勢の一員となってください。どこに召されようと、いかに困難であろうと、主に仕えることを選んだ人たちの群れに加わってください。

伝道活動はきわめて大変な業です。もし情緒的な問題があるなら、カウンセリングや治療で専任宣教師になる条件を満たす程度に症状を抑えることにより、伝道に出ることができます。伝道中は、資格ある医師が必要ないと言うまで、薬を続けて服用する必要があります。身体的問題も、情緒的問題と同じであることを理解してください。問題を改善するために可能な

ことをすべて実行する必要があります。その後は、できる範囲内で生活するようにしてください。主は困難な状況を使って、人がそれを克服するときに成長できるようにしておられるのです。

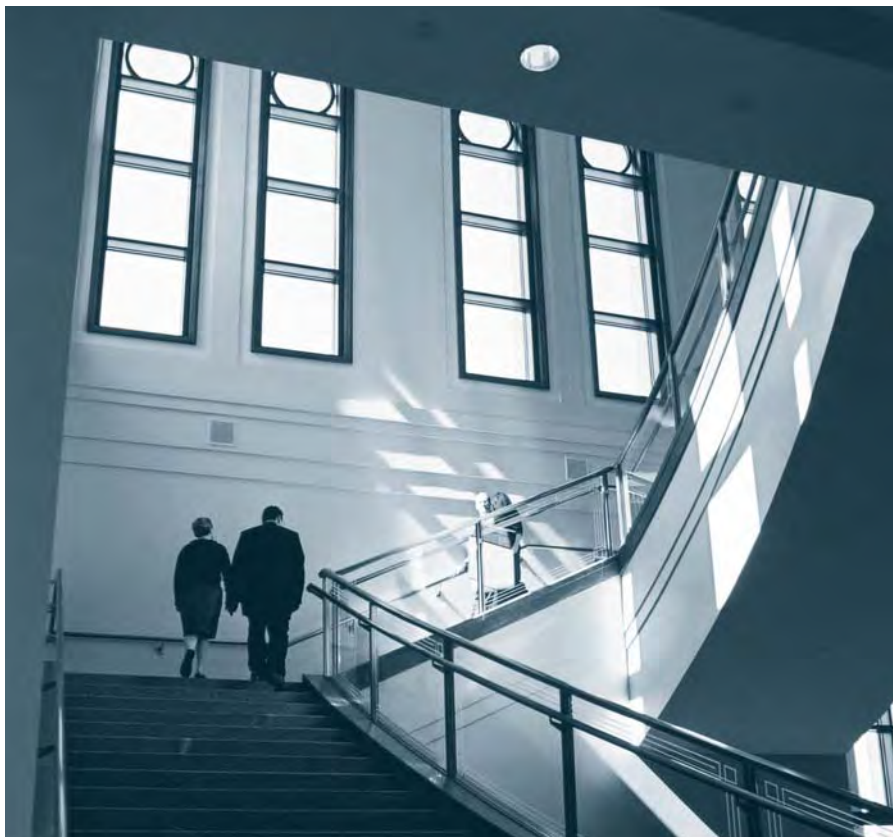
身体的、あるいは情緒的な問題により、大管長から専任宣教師として働くよう求められないこともあるでしょう(「伝道活動に関する声明」2002年12月11日付、大管長会からの手紙の添付資料参照)。しかし、皆さんの状態に合った有意義な奉仕に携わる方法はほかにもあります。住んでいる地域でそのような奉仕が見つかるよう、監督やステーク会長は力になってくれます。教会家族歴史センター、神殿、福祉プロジェクト、雇用センター、地元の病院、介護施設、保護施設など、助けを必要としている所はたくさんあるのです。自宅に住みながら、多大な貢献をすることができます。このような召しには、2、3か月から長期に及ぶものもあります。ステーク会長は皆さんが奉仕する場所と期間を判断し、それから正式に召すことになります。召しがどのようなものであれ、専任宣教師と同じ教材を使って回復のメッセージを学び、伝える機会を求めてくださ

い。実直にそれを行うなら、福音をさらに知りたいと願う人々のもとに導かれるでしょう。

宣教師の奉仕の業について話してきましたが、「自分には関係ない」と思った人もいるのではないのでしょうか。よく祈り、もう一度考えるようお願いします。わたしの人生の宝は、そのほとんどが伝道を機に得たものばかりです。皆さんもそのような祝福を得ることができます。

間違った選択をしているなら、今、悔い改めてください。進歩と幸福を妨げるものはすべて取り除いてください。

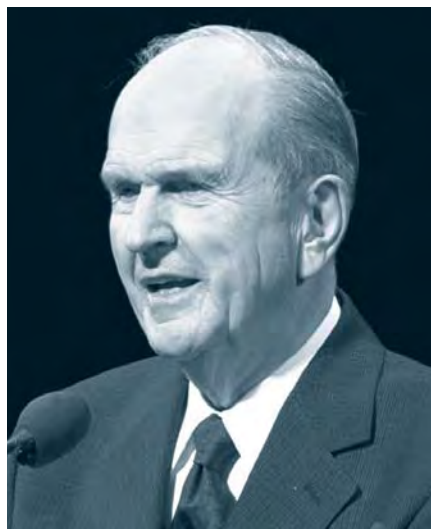
皆さんはすばらしい若い男性、そして女性です。自分の無限の可能性を認識してください。主が期待されているような指導者となり、模範となってください。若い男性の皆さん、史上最高の宣教師世代に加わってください。ふさわしい若人は、神殿の儀式を受け、永遠の家族を築く準備をしてください。神は皆さんを愛しておられます。神の助けを求めるとき、神は皆さんが義にかかった目標を果たせるよう導いてくださいます。イエス・キリストの御名により、アーメン。



個人の神権の責任

十二使徒定員会
ラッセル・M・ネルソン

神権の職に聖任されると、権能が授けられます。しかし、力はその権能を義にかなって行使することから得られるのです。



神権を持つ愛する兄弟の皆さん、わたしたちは多くの国々から集まっていますが、パウロが述べているように、わたしたちにとって、「主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ」¹です。しかし、各人の内にある信仰の強さは、グループとしてではなく、個人として増すものです。

例えば、8歳ほどのある少年の信仰を考えてみてください。少年は急性虫垂炎で緊急に手術を受けることになりました。手術台に横たわると、外科医を見上げてこう言いました。「先生、手術を始める前に、ほくのために祈ってくれませんか。」

外科医は驚いて少年を見詰め、言いました。「何だって。祈るなんてできないよ。」

すると、その幼い子供は言いました。「先生がほくのために祈ってくれないのなら、自分で祈るから待ってください。」それから、その少年は手術台の上にひざま

ずき、両手を組んで、祈り始めました。「天のお父様、ほくにはお父さんもお母さんいません。恐ろしい病気になって、先生たちから手術を受けます。先生たちがよく手術できるように、どうか助けてください。天のお父様、治してくださったら、良い子になります。どうかほくを治してください。」それから少年は仰向けになると、目に涙を浮かべている医師たちと看護師たちを見上げて言いました。「さあ、用意ができました。」²

少年の体は完全に快復し、霊的な力は増しました。兄弟の皆さんはこの少年より年上で、神権を授けられています。神権定員会には、友情を示し、奉仕し、学ぶ機会があります。しかし、神権の力を増す責任は、個人にあります。皆さんは個人としてのみ、神への堅固な信仰と、個人の祈りに対する熱意を増すことができるのです。個人としてのみ神の戒めを守れます。個人としてのみ悔い改めができます。個人としてのみ救いと昇栄の儀式を受ける資格が得られます。そして、伴侶との結び固めを受けると、伴侶の力と潜在能力によって、皆さんの力と潜在能力は高められます。

わたしは十二使徒定員会というすばらしい神権定員会に所属しています。わたしたちは貴い兄弟愛を享受しています。一緒に祈り、一緒に奉仕します。教え合い、愛し合い、支え合います。十二使徒会の会員の経歴は、ビジネス、教育、法務、科学など様々です。しかし、そのような経歴があるので奉仕するように召されたわけではありません。事実、神権者として

様々な責任に召される人は皆、その人がどんな人か、またどんな人になる可能性があるかで選ばれるのです。³

皆さんは生涯にわたって、様々な義務と責任を受けるでしょう。その多くは一時的なものであり、解任されると終わります。(皆さんは恐らく、福祉農場で草取りをする召しから解任されることには異議を唱えないでしょう。)しかし、個人と家族の成長に関する責任からは決して解任されません。

神権の職に聖任されると、権能が授けられます。しかし、力はその権能を義にかなって行使することから得られるのです。

主に対する責任

大管長から、聖任されたばかりの執事に至るまで、わたしたちは主に対する責任を負っています。誠実で忠実であって、主から与えられたあらゆる原則と教義に従って生活しなければなりません。必ず守ると決意した戒めや啓示された教えに妥協を加えることはできません。主はわたしたちが「神の王国を築き、神の義を打ち立てる」⁴ものと信頼してくださっています。

いつの日か、人はそれぞれ自分の人生について主に報告します。⁵数年前に、愛する友人と真剣に交わした会話にこのことがはっきりと表れていました。友人はまさに現世の生涯を終えようとしていました。わたしは世を去る準備ができているか尋ねました。わたしは彼の返事を決して忘れないでしょう。彼は勇敢に、また確信をもってこう答えました。「自分の生涯を吟味していただく準備はできているよ。」

預言者ジョセフ・スミスは死に直面してこう述べました。「わたしはほふり場に引かれて行く小羊のように行く。しかし、わたしは夏の朝のように心穏やかである。わたしの良心は、神に対してもすべての人に対しても、責められることがない。」⁶

今は自分の最終面接に備える時期です。こう自問するといいでしょう。「わたしは快く自分の一を納めているだろうか。知恵の言葉を守っているだろうか。卑わいで汚らしい言葉を使っていないだろうか。道徳的に正しいだろうか。復活を



現実のものとし、永遠の命を得られるようにしてくれる贖罪に、心から感謝しているだろうか。愛する人たちと永遠に結び固められる神殿の聖約を尊んでいるだろうか。」正直に「はい」と答えられれば、皆さんは神権の力を増し加えています。

その力に聖霊の賜物を加えることができます。聖典には、聖霊を受けていながらそのことを知らなかった民のことが述べられています。⁷ そのようなことがないようにしましょう。その賜物をさらに大いなるものとし、神から次の約束を得るにふさわしくあってください。「わたしがあなたがたの心の中に入れる思いを語りなさい。そうすれば、あなたがたは人々の前で辱められることはないであろう。あなたがたの言うべきことは、まさにそのときに、まことにその瞬間にあなたがたに授けられるからである。」⁸

個人の責任と神権の力

神権の権能は多くの神権時代にありました。アダム、ノア、エノク、アブラハム、

モーセ、時の中間、ヤレド人、ニーファイ人、その他の神権時代です。過去の神権時代は皆、それぞれ背教で終わり、期間が限られていました。また、地球上の狭い地域に限られていました。それに比べて、現在の神権時代、すなわち時満ちる神権時代は、時間や場所の限界がありません。地球規模で、すべてをつなぐ完全無欠の結束をもたらし、アダムの時代から現代に至るまでの神権時代と鍵、力、栄光を一つに統合するものです。⁹

アロン神権は、1829年5月15日にバプテスマのヨハネにより回復され、メルキゼデク神権はその後間もなく、ペテロ、ヤコブ、ヨハネにより回復されました。¹⁰ さらに、天の使者によりそれぞれの神権の鍵が与えられました。モロナイはモルモン書の鍵を持っていました。¹¹ モーセはイスラエルの集合と十部族の導きの鍵を持っていました。¹² エライアスは万物の回復をもたらす鍵を受けました。¹³ アブラハムの聖約も含まれています。¹⁴ そして、エリヤは結び固めの権能の鍵を受けました。¹⁵

皆さんは鍵について御存じです。皆さんのポケットの中には、家や車の鍵があるかもしれませんが。他方、神権の鍵は触れることも見ることもできません。それは神権の権能の「スイッチ」を入れます。地上だけでなく天でも結ぶ力を与える鍵さえあります。¹⁶

ジョセフ・スミスは十二使徒の全員に神権の鍵を受けました。¹⁷ 鍵は代々の指導者に受け継がれてきました。今日、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、「創造の初めからいずれの時であっても神権時代を受けたすべての者」¹⁸ が持っていた、すべての回復された鍵に関する権能を持っています。

この教義に関する歴史を心に留めると、人が神権を金で買えないことは明らかです。聖典にはこう述べられています。「だれもこの榮譽ある務を自分で得るのではなく、アロンの場合のように、神の召しによって受けるのである。」¹⁹

神権を持っているということは、自分の召しを尊んで大いなるものとする個人の



責任があることを意味します。あらゆる奉仕の機会を通して、神権の力を増し加えましょう。また、身だしなみにおいても、生ける預言者たちの模範に従ってください。そうすることは、「神の御子の位に従う聖なる神権」²⁰の重要性を真に理解していることを暗黙のうちに表明していることになります。

兄弟の皆さん、メルキゼデク神権を使用する機会があるときに、自分は何をすべきか深く考えてください。人の頭に手を置くとき、皆さんは祈りをささげるのではありません。祈りにはもちろん権能は必要ありません。皆さんは主の御名によって任命し、聖任し、祝福し、語る権能を与えられているのです。²¹ 次の主の約束を忘れないでください。「だれでもあなたが祝福する者をわたしは祝福し」²²、「わたしはあなたにわたしの御霊を授けよう。……そのとき、あなたは知るであろう。すなわち、……わたしから与えられると信じながら信仰をもってわたしに願うことで、義にかかわることは何であろうとすべて知るであろう。」²³

アロン神権における召しを尊んで大いなるものとするために、青少年の皆さんは5つの個人の目標を達成するよう、個人として努力しましょう。

- イエス・キリストについて福音の知識を得る。

- 伝道活動をするにふさわしくある。
- 道徳的な清さを保ち、聖なる神殿に参入する資格を得る。
- 個人として教育を受け続ける。
- 教会の標準を守り、将来の伴侶にふさわしくある。

5つの目標をどうすれば心に留められるでしょうか。簡単です。手を見てください。人差し指で聖典を指さしましょう。聖典を通してイエス・キリストの福音についてさらに知識を深め、主の教えに従って生活してください。中指で、伝道活動をするにふさわしくあることを思い出しましょう。薬指で、結婚、エンゲウメント、結び固め、神殿の祝福を思い出しましょう。小指で、教育を受け続けることがこの教会の会員としての務めの一つであることを思い出しましょう。²⁴ 親指を立てて、教会の標準を守り、永遠の伴侶にふさわしくあることを思い出すようにしましょう。この5つの目標を達成すると、祝福された人生を送ることができます。

メルキゼデク神権者の皆さんは、日の栄えの栄光の最も高い階級を得るにふさわしくなければなりません。「[それ]を得るためには、人はこの神権の位(すなわち、結婚の新しくかつ永遠の聖約)に入らなければならない。そうしなければ、その人はそれを得ることができない。」²⁵

妻を尊ぶときに、皆さんはその聖約を

尊んでいることになります。夫が最も優先することは妻への気配りでなければなりません。妻に誠実であってください。目をポルノグラフィーに向けたり、みだらなことを語ったりしないでください。選択の自由があるからという理由だけで選ぶことは、将来の選択の自由を制限します。選択の自由を行使しておいて、その選択によって生じる責任と報告義務を避けることはできません。

次のことを決して忘れないでください。「神権の権利は天の力と不可分のものとして結びついており、[この力]は義の原則に従ってしか制御することも、運用することもできない……。」²⁶ その力を誤用して、罪を覆い隠したり、高慢やうぬぼれた野望を満たしたり、いかなる程度の不義によってでもほかの人を制御したりすると、神権の権能と力の両方を失ってしまいます。²⁷

兄弟の皆さん、温厚、寛容、優しさ、柔和、偽りのない愛、純粋な知識、すべての人に対する慈愛をもって奉仕してください。²⁸ そうすれば、「神権の教義は天からの露のようにあなたの心に滴る」でしょう。²⁹

どうか、わたしたちが皆さん一人一人を愛し、感謝していることを知ってください。皆さんの信仰と奉仕に、また支持して下さることでわたしたちが得ている強さに感謝しています。皆さんが神権の力を義にかなって追求することにより、皆さんと愛する人たち、子孫が祝福されますように。

神は生きておられます。イエスはキリストであり、預言者と使徒を通じて御自分の教会を導いておられます。イエス・キリストの御名によって証します。アーメン。

注

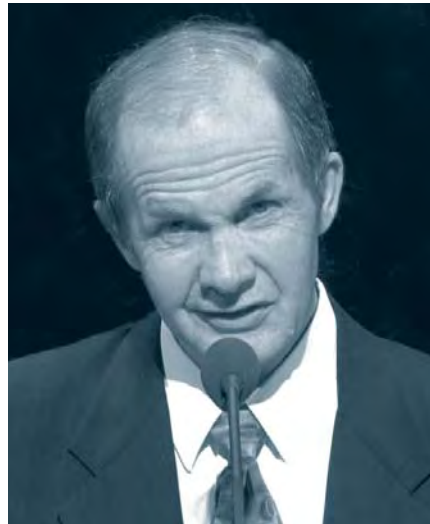
1. エペソ4:5
2. ジョージ・アルバート・スミス, *Sharing the Gospel with Others*, プレストン・ニブレー編(1948年), 144-145参照
3. マタイ20:16; 22:14; 1ペテロ2:9; 黙示17:14; アルマ13:3, 6, 9;

- 3ニーファイ12:1;教義と聖約3:10;52:1;95:5;121:34, 40-46参照
4. ジョセフ・スミス訳マタイ6:38
5. ヘブル13:17;アルマ5:18;11:43;教義と聖約72:13-16参照
6. 教義と聖約135:4
7. 3ニーファイ9:20参照
8. 教義と聖約100:5-6
9. 教義と聖約128:18参照
10. ジョセフ・スミス—歴史1:72;教義と聖約27:8, 12参照
11. 教義と聖約27:5参照
12. 教義と聖約110:11参照
13. 教義と聖約27:6参照
14. 教義と聖約110:12参照
15. ジョセフ・スミス, *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, ジョセフ・フィールディング・スミス選(1976年), 337-338参照。教義と聖約27:9;110:13-16;128:21も参照
16. マタイ16:19;18:18;教義と聖約124:93;127:7;128:8, 10;132:46参照
17. ジョセフ・フィールディング・スミス『救いの教義』ブルース・R・マッコンキー編, 全3巻(1954-1956年), 第3巻, 138-140参照
18. 教義と聖約112:31。教義と聖約128:18も参照
19. ヘブル5:4
20. 教義と聖約107:3。ジョセフ・スミス訳ヘブル7:3;アルマ13:1も参照
21. 教義と聖約1:20, 38;84:19-22, 26-27;107:18-20;124:39-46;133:6参照
22. 教義と聖約132:47
23. 教義と聖約11:13-14
24. 教義と聖約130:18-19参照
25. 教義と聖約131:2-3。二つ目の括弧は原文のまま
26. 教義と聖約121:36
27. 教義と聖約121:37参照
28. 2テサロニケ1:3;教義と聖約121:41-42参照
29. 教義と聖約121:45

若い男性—— 鍵を持つ者たち

七十人
モンティ・J・ブラフ

若い男性の皆さん、神権に聖任された者として、任命された職において働くという権利を理解し、召しを忠実に果たしてください。



今 わたしが手にしているのは、1947年発行の日曜学校手引き『聖文の中の指導者』(*Leaders of the Scriptures*)です。著者はマリオン・G・マークレーおよびゴードン・B・ヒンクレイです。56年も前のものです！この手引きが何十年も我が家にあったことが、今日この話をする一つのきっかけになりました。

福音の回復の中でもとても大切な出来事に、1829年5月のアロン神権の回復があります。そのとき、バプテスマのヨハネがジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに現れました。

ジョセフはこう物語っています。「わたしたちがこうにして祈って、主に呼び求めていたとき、天からの使者が光の雲

の中を降^{くだ}って来られた。そして、その使者はわたしたちの上に手を置き、次のように言ってわたしたちを聖任された。

『わたしと同じ僕^{しもべ}であるあなたがたに、メシヤの御名^{みへ}によって、わたしはアロンの神権^{みこと}を授ける。これは天使の働きの鍵と、悔い改めの福音の鍵と、罪の赦^{ゆる}しのために水に沈めるバプテスマの鍵を持つ。』¹

総大会のこの神権部会に参加している何万人もの若い男性は、アロン神権を授けられ、世界中に存在する執事定員会、教師定員会、あるいは祭司定員会の一つに所属しています。それぞれの定員会は会長会に導かれ、各会長会には定員会を導く鍵を持つ会長が一人います。

こうした若い指導者がこのように重要な責任を担うことができるのだろうかと心配する人も多いかもしれません。では、青少年の真の能力を示した模範について考えてみましょう。

まず、預言者エレミヤです。

「主の言葉がわたしに臨んで言う、

『わたしはあなたをまだ母の胎につくらないさきに、あなたを知り、あなたがまだ生^うまれないさきに、あなたを聖別し、あなたを立てて万国の預言者とした。』

その時わたしは言った、『ああ、主なる神よ、わたしはただ若者にすぎず、どのように語ってよいか知りません。』

しかし主はわたしに言われた、『あなたはただ若者にすぎないと言ってはならない。だれにでも、すべてわたしがつか



わす人へ行き、あなたに命じることをみな語らなければならない。……』

そして主はみ手を伸べて、わたしの口につけ、主はわたしに言われた、『見よ、わたしの言葉をあなたの口に入れた。』²

もし主が望まれるなら、13歳の執事定員会会長に御言葉を吹き込むことはおできにならないでしょうか。13歳の会長も「天使の働きの鍵を持」っているのですから。

もう一人の若者、テモテは、使徒パウロの同僚として伝道しました。パウロは、テモテへの手紙の中で、まだ若いテモテの信仰と証を称賛しています。その手紙か

ら少し引用してみましょう。

「こういうわけで、……わたしの^{あんしゅ}按手によって内にいただいた神の賜物を、再び燃えたたせなさい。

〔キリスト〕はわたしたちを救い、聖なる招きをもって召して下さったのである……。』³

「〔あなたは〕また幼い時から、聖書に親しみ、それが……知恵を、あなたに与える書物であることを知っている。』⁴

14歳の教師定員会会長もまた、監督から任命されるとき、テモテのように「神の賜物」を授からないでしょうか。教師定員

会会長の召しは「聖なる招き」によらないのでしょうか。16歳の祭司には「知恵」がないのでしょうか。これらの問いに、聖文ははっきりと肯定しています。

モルモンは、若いときに途方もない働きをした、卓越した模範です。モルモン自身の言葉から少し読んでみましょう。

「さて、わたしモルモンは、自分がこれまでに見聞きしたことを記録して、これをモルモン書と呼ぶ。

アマロンは数々の記録を主に託して隠したところ、わたしのところにやって来た。(当時わたしは10歳くらいで、わたしの民の教育方法に従ってかなり教育を受け始めていた。)そして、アマロンはわたしに言った。『わたしはあなたがまじめな子供で、観察が鋭いことを知っている。……

見よ、〔将来〕あなたはニーファイの版を取り出し、残りの版は今それがある場所にそのままにしておきなさい。そして、この民についてあなたが見てきたことをすべてニーファイの版に刻みなさい。』⁵

「……わたしは若かったにもかかわらず、身の丈が高かったので、ニーファイの民はわたしを彼らの指揮官に、すなわち彼らの軍の指揮官に任命した。

そこでわたしは、16歳になる年に、ニーファイ人の軍隊を率いてレーマン人に向かって出て行った。』⁶

この若さで、何という経験でしょう！モルモンはいにしへの聖文を学び、10歳のときから預言者の召しに備えていました。16歳になったときには、民から任命され、ニーファイ軍の指揮官になりました。

わたしが12歳だった年の6月のことです。故郷のユタ州ランドルフで新聞配達をしていたときに、馬がからんだ事故でけがをしました。クリスマスの日にやっと歩けるようになるまで、6か月間、車いすで生活しました。執事定員会の会長会が見舞いに来てくれたのを覚えています。デール・レックスやダグ・マッキノンなど、執事定員会会長会の13歳の指導者たちは、定員会の一員であるわたしに対する責任を理解していたようです。

最近ソルトレーク・シティー国際空港の荷物受取所で、一人の女性が近づいて

来て、わたしの名前を尋ねました。見ると随分昔、サウスリッチ高校に通っていたころの同級生であると分かりました。昔と比べて、容姿はかなり変わっていました。高校の同窓会でどんな気分を味わうか、皆さんも御存じでしょう。彼女の髪には白いものが目立ち、しわも多少あったようです。(もちろんわたしは何一つ変わっていませんが。)一目見て、伝道から帰って来る子供をを出迎えに来ているのだということが分かりました。驚きました。学生時代、小さな田舎町に引っ越して来たころは、家族は教会員ではなかったからです。アリス・ゴメスという名前で、わたしや友人とほぼ同じ年でした。親しみやすく礼儀正しい人でしたが、教会の集会に出席することはまったくありませんでした。

「アリス、どうしてなんだい。今は活発な教会員みたいだけど、高校時代には教会に一度も来なかったよね。」

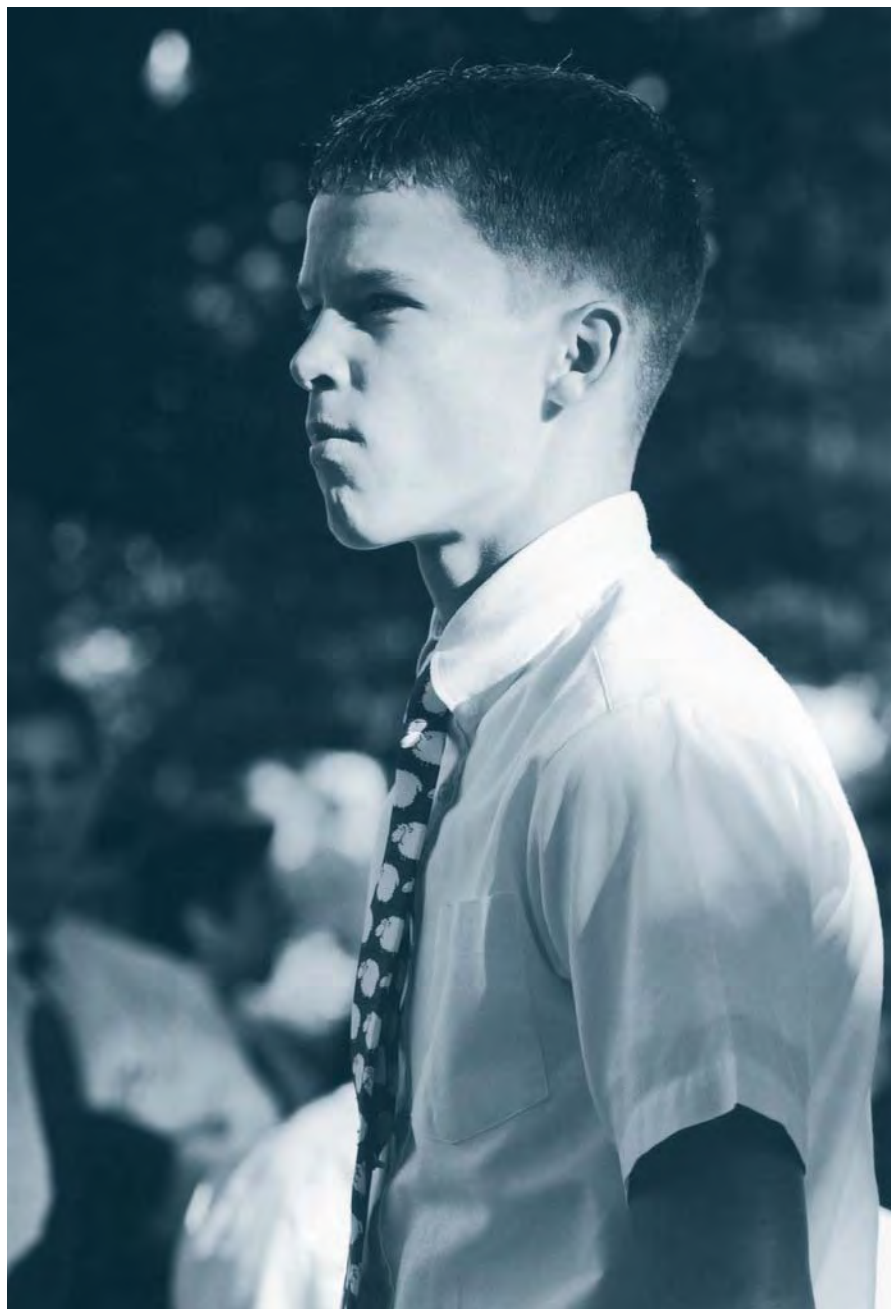
その答えには心がとがめました。「だって、だれも誘ってくれなかったんだもの!」やれやれ、この件については、わたしの定員会は失敗していたようです。

最近、ジャマイカの祭司定員会の若い兄弟たちが宣教師を助ける決意をして起こった出来事について、報告を受けました。定員会の若い男性は、宣教師のために約束を取りつけようと戸別訪問をしました。やがて宣教師の手が回らなくなるくらい、多くの人を紹介できたとのことです。

ユタ州ケイズビルの祭司定員会は、定員会の中からだれ一人失わないと決意しました。定員会全員で、さほど熱心でない兄弟の家を訪問し、彼の部屋のベッドに集まって日曜日のレッスンをしました。そのうちに彼は定員会の仲間に加わり、一緒にほかの兄弟の家を訪問して日曜日のレッスンを教えるようになりました。

2003年現在、教会には2万6,000のワードや支部があり、約7万8,000の執事、教師、祭司定員会があります。何という軍勢でしょう!

アロン神権者の定員会は、定員会会員が改心し、定着し、活発になるのを助ける非常に大きな力を持っています。



16歳のモルモンが大きな軍隊の指揮官になり、若いエレミヤが全能の神の御言葉の口に入れ、テモテがすばらしい知恵を得たのであれば、この話を聞いている若い男性も皆、定員会の責任を果たしていくことができるでしょう。

アロン神権定員会の責任が、長老定員会や大祭司グループの責任よりも劣っていることはありません。忘れないでください、若い男性の皆さんは「天使の働きの鍵」を授かっています。若い男性の皆さん、神権に聖任された者として、任命された職において働くという権利を理解

し、召しを忠実に果たしてください。

アロン神権の定員会が神の神聖な神権を授かっていることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

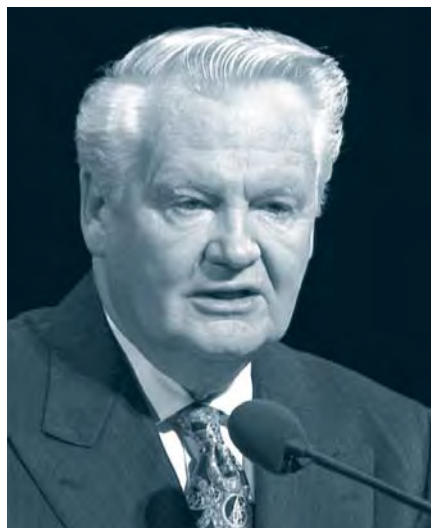
1. ジョセフ・スミス—歴史1:68-69
2. エレミヤ1:4-7, 9
3. 2テモテ1:6, 9
4. 2テモテ3:15
5. モルモン1:1-2, 4
6. モルモン2:1-2

祝福をもたらす 神権、鍵、力

七十人会長会

メルル・J・ベイトマン

ふさわしいメルキゼデク神権者は、神から託された力を行使して周りの人に祝福をもたらすよう期待されています。それは家族から始める必要があります。



回復の事実を明白に示す注目すべき事柄の一つに、ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリが述べた証があります。二人は、神権と人を導く神権の力がどのように地上に回復されたかを証しました。いずれの場合も、神権と神権の鍵は、かつてそれを持っていた天の使者によって回復されました。まずバプテスマのヨハネが、悔い改めの鍵とバプテスマの鍵とともにアロン神権を回復しました。¹ また、ペテロ、ヤコブ、ヨハネは、メルキゼデク神権だけでなく、「王国の鍵」² も回復しました。さらに、モーセとエリヤが「集合」と「結び固め」の鍵を携えて戻って来ました。³ 神権の回復に関するこれらの出来事は驚くべきものです。聖書に記され

ている、初期の神権時代に行われた神権の回復とまったく同じ方式なのです。例えば、救い主の時代に、神権の力の回復と移譲がどのように行われたのか考えてみましょう。

地上での務めを終えられるころ、イエスはペテロに「王国のかぎ」⁴ を渡すことを約束されました。それは、御自分がやがて地上を去り、使徒たちが主の昇天後に業を進めるためには、神権の鍵が必要であることを承知しておられたからです。主が使徒たちに鍵を授けるためにどうされたかを、マタイは次のように記しています。イエスは「ペテロ、ヤコブ、……ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。」そこで「彼らの目の前でイエスの姿が変り」、モーセとエリヤが「彼らに現れ[た。]」⁵ この出来事の直後、救い主は、使徒たちが業を進めるための鍵を持っていることを宣言されました。⁶ 預言者ジョセフ・スミスは次のように述べています。「山上において、ペテロとヤコブとヨハネが救い主の前で変貌したとき、救い主とモーセとエリヤは鍵を授けた。」⁷

マタイが記している神権の回復の方式は、わたしたちの神権時代に行われたものと同じです。初期の神権時代に鍵を持っていた使徒や預言者たちが、主の指示に従って、この神権時代が始まるにあたってその鍵を地上に回復したのです。

対照的に、19世紀のパルマイラ地域の

聖職者たちは、大背教が起きていたことを理解していませんでした。そして神権の授与に関してまったく異なった方法を信じていました。説教をする力は、内なる声によってキリストを信じるすべての人に与えられると信じていたのです。権能を持つ者による按手によって神権を受けることの必要性を理解していませんでした。⁸ さらに、神権の鍵の目的や必要性についても分かっていませんでした。

神権とは、神から人に託された力であり権能です。神権の鍵とは、その力の行使について指示できる権利です。大管長は教会全体を治めるために必要な鍵を持っています。副管長および十二使徒定員会も同様に、王国の鍵を持っており、大管長の指示の下にその鍵を使います。ステーク会長、監督、神殿長、伝道部長、定員会会長には、それぞれの責任の範囲において教会を導く鍵が与えられます。また、補佐に召される人は鍵を持ちませんが、「召しと割り当てとによる権能の委任は受け」ます。⁹

神権と神権の鍵は、^{あがな}贖いの祝福を受けられるようにしてくれます。神権の力を通して、人は罪の^{ゆる}赦しのためのバプテスマを受けることができます。それは救い主の偉大な憐れみの業によって可能になりました。また、メルキゼデク神権を持つ者であれば、^{あがな}聖霊を受けることができます。聖霊が降られることによって、教会員は火で清められ、真理に導かれ、慰めを受けます。そして聖なる者となり、贖いの実を受ける者として様々な面で祝福を受けます。結び固めの権能は、男性と女性およびその子供たちを永遠に結び、来世での昇栄を可能とします。これもまた、救い主から頂いた祝福です。

ふさわしいメルキゼデク神権者は、神から託された力を行使して周りの人に祝福をもたらすよう期待されています。それは家族から始める必要があります。回復の偉大な受け継ぎの一つとして、メルキゼデク神権に聖任されている父親には、妻や子供に祝福を受ける権利が与えられています。父親が導きを受けたときや、妻や子供から祝福を求められたとき

に授けることができるのです。

何年も前に、わたしたち家族はある経験をしました。それは、父親の祝福の大切さや価値、そして力を知るうえで忘れられない経験となりました。そのときの教訓は、皆さんにとっても興味深いものであらうと思われます。

長男が小学校に入学するとき、ベイトマン姉妹とわたしは、毎年、学年の始まりに、子供たち一人一人に父親の祝福を与えることを決めました。学年が始まる直前の家庭の夕べを使って祝福を与えるのです。長男のマイケルが小学3年生になった年の出来事は、特別な思い出になっています。2年生の夏から、マイケルは少年野球に参加していました。野球が大好きでした。そして新年度が始まる前の家庭の夕べで集まったとき、そのマイケルが「祝福は必要ない」と宣言したのです。すでに少年野球では最初のシーズンを無事に終えており、祝福は弟や妹に授ければいいとのことでした。

ベイトマン姉妹とわたしはとても驚きました。そして、学業の助けにもなるだろうからと、祝福を勧めました。祝福は守りとなるでしょうし、きょうだいや友人との関係を築くうえでも助けになるでしょう。励ましたり、優しく諭したりしましたが、結局、うまくいきませんでした。自分で物事を決める年齢になっていたのです。選択の自由の原則を信じていたので、8歳の子供に無理やり祝福を授ける気にはなりません。その年、マイケルを除く子供たちは皆、祝福を受けました。

その年はごく普通に過ぎていきました。マイケルもほかの子供たちも学校での成績はよく、家族はとても仲良くやっていました。そして5月になり、少年野球のシーズンが始まったのです。終業式が終わると、マイケルの監督から練習を始めると連絡がありました。マイケルの期待はこれまでになく膨らみました。いよいよ夢が実現するのです。マイケルは先発のキャッチャーに指名されていました。野球場は我が家からほんの数ブロックの所にあり、子供たちも監督も、交通量の多い道路を横切って球場まで歩いて



行きました。そして練習が終わって帰宅しようとしたときです。マイケルともう一人の友人は、監督やほかの子供たちの前を走っていました。車の行き交う道路まで来ると、マイケルは左右も見ずに、1台の車の前に飛び出しました。運転していたのは16歳の若者で、初心者でした。この若者がどれほど恐ろしい思いをしたか想像できるでしょうか。若者は急ブレーキを踏み、何とかマイケルをかわそうとしました。しかし残念ながら、マイケルはバンパーの側部にぶつかり、道路にたたきつけられたのです。

ベイトマン姉妹とわたしはすぐに警察から連絡を受けました。マイケルは危険な状態で、救急車で病院へと運ばれていました。急がなければなりません。家を出る前に友人に電話し、病院で祝福を授けるのを手伝ってくれるようお願いしました。20分の運転をどれほど長く感じたことでしょう。息子の命が救われるよう、また主の御心みこころを知ることができるよう熱

心に祈りました。

救急病棟の入り口のそばに車を止めると、警察官が泣きじゃくる若者を連れて出て来ました。警察官はわたしたちに気づき、その若者が車を運転していたことを告げました。事件の詳細を聞いていたわたしたちは、その若者を抱き締め、「君の責任でないことは承知しているから」と伝えました。それから病棟に入り、マイケルの病室を探しました。病室に入ると、医師や看護師たちはマイケルの状態に合わせて慌ただしく処置を施していました。友人はすでに到着していたので、2、3分の間、身内だけの時間を頂けるか尋ねました。神権を持つ友人が油を注ぎ、わたしが結び固めました。マイケルの頭に手を置くと、わたしは慰めと平安に満たされ、祝福と約束の言葉があふれ出しました。そしてマイケルは手術室へと入って行ったのです。

それからの4週間、マイケルは病院で横になったまま、頭は包帯で巻かれ、足



神権部会で歌う、ユタ州プロボ宣教師訓練センターの聖歌隊

は牽引^{けんいん}されていました。毎週水曜日になると、少年野球の仲間が試合の後で病室に来て結果の報告をしてくれました。仲間たちの報告を毎週聞く度に、マイケルの目からは涙があふれ、頬^{ほお}を伝って流れていきました。4週間の牽引の後、マイケルは胸からつま先までギプスで覆われました。わたしたちはマイケルを2、3回外へ連れ出して、仲間たちの試合を観戦させました。さらに4週間が経過すると、ギプスは腰からつま先までのものと交換されました。そして、学校が始まる2日前には、最後のギプスも外されたのです。翌日の夜、年度始めの祝福のために家族が集まったとき、だれが最初に祝福を求めたかはもうお分かりでしょう。9歳になった長男が、少し大人になり、はるかに賢くなって、最初に並んだのです。

それから何年もたち、子供たちは、神権の祝福を受けたからといっていつでも

事故から守られるわけではないことを理解するようになりました。しかし同時に、神権によって様々な場面で守られることも分かるようになったのです。今では、孫の代が神権の祝福を受けています。伝統が第2、第3世代に受け継がれています。家族が永遠に続くように、この慣習が永遠にわたって受け継がれていくことを信じています。

14歳の少年ジョセフ・スミスが森に入り、真実の教会を尋ね求めたことに心から感謝しています。ジョセフが受けた答えに対して、またその結果として、パプテスマのヨハネやベテロ、ヤコブ、ヨハネ、そのほかの聖なる使者によって神権と神権の鍵が回復されたことに、永遠に感謝します。この偉大な力を行使して、まず自分の家族に、そして神のすべての子供たちに祝福をもたすことができるよう、イエス・キリストの御名^{みな}により祈

ります。アーメン。

注

1. 教義と聖約13章；ジョセフ・スミス—歴史1：68–72参照
2. 教義と聖約27：12–13参照
3. 教義と聖約110：11–16参照
4. マタイ16：19参照
5. マタイ17：1–3
6. マタイ18：18；教義と聖約7：7参照
7. *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, ジョセフ・フィールディング・スミス選（1976年），158
8. ミルトン・V・バックマン・ジュニア, *Christian Churches of America: Origins and Beliefs*, 改訂版（1976年，1983年），54–55
9. 『教会指導手引き 第2部 神権指導者・補助組織指導者』（1998年）165

自分という 驚くべき存在

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

自分のほんとうの姿を知るきっかけとして、先祖に関する知識をさらに深めてください。



愛する全世界の神権者の皆さん、住んでいる国に違いはあっても、皆さん一人一人に愛を伝え、ごあいさつしたいと思います。

両親を亡くした幼い6歳の少女が、アメリカの大平原を横断する場面を思い浮かべてください。名前はエルシー・アン、母親は2歳のときに亡くなり、父親は再婚します。ですからしばらくの間、義母と生活を共にします。そして5歳のときに、父親がウィンタークォーターズで亡くなります。義母は再婚し、血縁関係にあるピーター・ロビンソンとセリーナ・ロビンソンにエルシーを託して引っ越してしまいます。1849年の7月、エルシー・アンはロビンソン夫妻とともにウィンタークォーターズを離れ、西部へやって来ます。セリーナが10

か月になる女の赤ちゃんを世話する姿を見て、エルシーは自分の母親のことが恋しくてたまらなかったことでしょう。「お母さんはどこにいるの」と尋ねさえたのではないのでしょうか。

慰め、助けてくれる親戚が一人もいない中で、不確かな未来に立ち向かわなければならなかったこの少女のことを思うとき、同情を禁じ得ません。エルシー・アンはわたしの曾祖母で、最近になるまでその実の母親がだれだか分かりませんでした。何年もの間、エルシー・アンの母親はジェーン・ロビンソンだとばかり思っていたのです。よくよく調べてみると、エルシーのほんとうの両親が分かりました。長い歳月を要しましたが、エルシーはすでに、父親のジョン・エイカリーと母親のメアリー・ムーアとの結び固めを受けています。

わたしは祖父母から大きな影響を受けました。亡くなってからもう何年にもなりますが、今でも彼らの愛に支えられているのを感じます。祖父のジェームズ・エイカリー・ファウストは、わたしが生まれる前に亡くなりました。祖父のことは、祖母と両親の話を聞いて知っているだけです。しかし、わたしはこの祖父と強いきずなで結ばれているのを感じます。祖父と似ているところがあるからでしょうか。何よりもまず、祖父はユタ州中部の小さな町のカウボーイで、牧場主であり、郵便局長でもありました。ある冬のこと、祖父はアイダホ州へと旅に出かけましたが、そ

こで貧困にあえぐ友人に会いました。その日は寒かったにもかかわらず、友人はコートを持っていませんでした。祖父は自分のコートを脱ぐと、友人に差し出しました。

今晚若い男性の皆さんに、自分のほんとうの姿を知るきっかけとして、先祖に関する知識をさらに深めるようお勧めします。『ルーツ』の著者、アレックス・ヘイリーはこう語っています。「だれにでも心の奥底に飢えがある。自分にはどのような先祖がいて、何を受け継いでいるのか知りたいのだ。心を満たしてくれるこの知識がないと、むなしい熱望が残る。人生でどのような成功を収めようと、空虚な思いと心を乱す孤独感が残るのである。」¹ 活気に満ちた、力強い先祖について知ることにより、胸躍る経験をすることができます。彼らは今日のわたしたちと同様、様々な問題を抱え、希望や夢を抱き、実際に生きていた人なのです。

多くの点で、わたしたち一人一人は先祖のいわば集大成です。先祖に備わっていた徳はわたしたちの徳であり、先祖の強さはわたしたちの強さです。ある意味で、先祖と同じ試練に直面しているときえ言えるのです。先祖と同じ特質を受け継いでいることもあります。少し前のことですが、ひ孫の一人でよちよち歩きの子が不思議な歩き方をするのに気づきました。それを見て妻がこう言いました。「歩き方があなたそっくりね!」わたしはこの特質をだれから受け継いだのでしょうか。

ずっと昔にこの世を去った先祖について知るのは楽しいことです。だれにでも非常に興味深い家族の歴史があります。先祖を見いだすことは、若い男性の皆さんが取り組める作業の中でも、特に興味深い頭の体操となるはずです。

だれもが皆、どこかで系図探求を始めなければなりません。これは年齢にかわりなく取り組むことができます。今年の夏、ガーナのアクラ・ラルテレビオコルシエステークで、170人の子供たちが、2時間プログラムの中で4世代の系図に取り組みました。そして74人以上の子供たちが自分の系図を完成し、展示しました。



ボイド・K・パッカー長老は次のように勧めています。「何から始めたらよいのか分からないならば、何よりもまず自分自身から始めることです。どのような記録をどのような方法で手に入ればよいか分からなければ、自分の手もとにある記録から始めるのです。」² 皆さんは自己という驚くべき存在について知るようになります。それは皆さんが見るとどんな映画やテレビゲームよりもずっとおもしろい活動になるはずです。皆さんは自分の祖父母や曾祖父母がだれなのか、また神殿で行われる身代わりの儀式のうち、どの儀式が完了しているのかを突き止める必要があります。このような情報を入手する方法が分からない場合は、ワードにいる詳しい人に聞いてください。

皆さんの家族に、親族について何を知っているか尋ねてください。また、家族に代々伝わる聖書があれば、そこに書き込まれた系譜のような身近な記録に目を通し、先祖についてもっと詳しい情報を集めてください。それから、戸籍や教会員記録、国勢調査記録、従軍記録などの資料を利用することができます。コンピューターが利用できれば、その技術を駆使して、教会のホームページであるFamilySearch.orgにつなぐことができます。家族歴史は、コンピューターが膨大な資料を提供してくれるようになった現在、知的満足を与えてくれる活動となっ

ています。インターネットや最寄りの家族歴史センターを利用すれば、計り知れない数の家族歴史記録を簡単に入手することができます。

家族歴史センターは、現在88か国で利用できるようになっています。これらの施設は、ほかに類を見ない記録管理システムの一部であり、世界中の至る所で家族の受け継ぎを守るのに役立っています。ソルトレーク・シティーの家族歴史図書館では、利用者が自分の家族歴史に関する情報を絶えず問い合わせたり、提供したりしています。ある人は次のように書いてきました。「別便で子供を5人送ります。」

亡くなった親族のために救いの儀式を執行するという偉大な業は、教会の使命の持つ3つの側面の中できわめて重要な部分を占めています。この業には、亡くなった先祖を救うという目的があります。神殿の業はわたしたちと、救いの儀式を待つ亡くなった親族の両方にとって、欠くことのできないものです。「彼らなしにはわたしたちが完全な者とされることはなく、またわたしたちなしには彼らが完全な者とされることはない」からです。³ 先祖は救いの儀式を必要としており、わたしたちは先祖との結び固めを必要としています。だからこそ、一人として救いの機会を逸することのないよう系図を探究するのです。

亡くなった親族の探求は、単なる趣味ではありません。すべての教会員の基本

的な責任です。わたしたちは人生が死後も続き、すべての人が復活することを信じています。⁴ 神の権能の下に聖なる神殿で交わされる特別な聖約を守るならば、来世でも家族関係が続くことを信じています。また亡くなった先祖も、わたしたちが神殿で彼らに代わって聖約を交わすならば、その家族と永遠に結び固められると信じています。亡くなった先祖も、選択の自由を正しく行使するならば、霊界で聖約を受け入れる機会が与えられるのです。⁵

亡くなった親族のために神殿で行われる偉大な身代わりの業は、イエス・キリストの福音の持つ正義と公正を表します。預言者ジョセフ・スミスは、死者のための神殿の業が行われない場合に神の子供たちが陥る恐ろしい窮地について説明しました。「ある人が、福音を聞くことなく生涯を終え、埋葬されました。一方、別の人には救いのメッセージが伝えられ、その人は福音を聞き、受け入れ、永遠の命を受け継ぐ者とされます。この場合、一方は栄光を受け、他方は滅びへと引き渡されるのでしょうか。滅びを免れることはできないのでしょうか。」⁶ 幸いにも、先祖には、救いの儀式を受け入れる機会が与えられます。しかしそのためには、わたしたちが先祖の身元を確認し、代理で救いの儀式をすべて執り行わなければなりません。先祖が自分の力ではできないこと

を代わって行うのです。これはほんとうに心満たされる経験です。

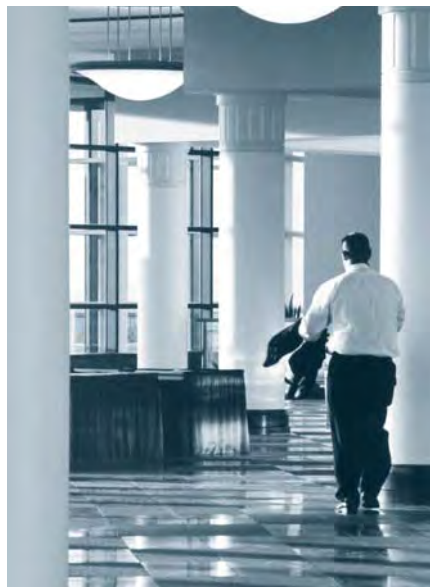
カートランド神殿での偉大な示現の中で、預言者エリヤが預言者ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに現れて、神殿の業の鍵と結び固めの力をジョセフ・スミスの手にゆだねました。⁷ この出来事により、エリヤが送られ「先祖の心を子孫に、子孫の心を先祖に向けさせ、全地がのろいをもって打たれることのないようにする」⁸ というマラキの預言が成就しました。

この聖句はどういう意味でしょうか。心を先祖に向けるといえるのは、亡くなった先祖の名前を探し出し、先祖に代わって神殿で救いの儀式を行うことなのです。それによりわたしたちと、最終的には父アダム、母エバにまで連綿としてつながる先祖の間に、断ち切ることのできないきずなが築かれるのです。

11歳の少年の心が、ある家庭のタペで先祖に向けられました。子供たちが自分の覚えの書を整理していたときのことです。幼いジェフは、母親と一緒に国立公文書館へ行きたいと思いました。母親は調べ物をしている人たちのじゃまになるのではないかと思いました。しかしせがまれて連れて行くことにしました。親子で調べ物をして4時間が経過したころ、息子が大きな声で叫びました。「お母さん、見つけたよ、おじいちゃんだ！」実はジェフが見つけたのは、4世代前の高祖父だったのです。⁹ しかし、物事はいつも同じように運ぶとは限りません。家族歴史部に届いた1通の手紙に、こう書かれてありました。「祖母の記録をなくしました。情報を送ってください。」

イエス・キリストの福音は、日の栄えの家族の組織が「完全なもの」すなわち「親子が次の世代の親子と結ばれ、時の終わりに至るまで伸びていく組織」¹⁰ であることを教えています。

家族の名前をたどって調べていくと、資料によっては異なるつづり方に出くわすことが度々あります。ユタ州プロボのある大学生も同様の経験をしました。この学生は世代間のつながりに深い興味を覚えました。ある夕方、図書館の中を歩い



ていたこの学生は、シアリング家(Searing)のだけれど、ニューヨーク州に自分たちの先祖にちなんで名付けられた町があると語っていたのを思い出しました。そこでその町について調べることにしたのです。そのような折、たまたま1冊の古ぼけたニューヨーク州地名辞典を見つけました。そこには1600年代中期に、ロングアイランドの入植に貢献したサイモン・シアリングという名の男性に関する記事がありました。サイモンは自分の先祖だろうか。その答えを突き止めるにいらなかったこの学生は、熱心に探究し始め、何世代かにさかのぼって系図を調べました。しかし、それでもまだ、1800年代と1600年代を結びつけるものが見いだせなくて、それを探し出す必要がありました。そんなときに、奇跡が起こりました。偶然にも、つづり方の異なるシアリング家(Syring)の系図を見つけたのです。このシアリング家の家族歴史は、今までの探究でたどりついた世代とまったく同じ世代で終わっていました。その結果、彼は何世代もの家族を結びつけることができただけでなく、初期の入植者であったサイモン・シアリングと自分を結ぶことができたのです。¹¹

家族歴史に興味を持っている人の中には、人からよく見られようとして、自分を著名人と結びつけようとする人がいます。わたしの場合はその反対です。たとえ無名で平凡であっても、雄々しい人生を送ったと記録されている人々について学ぶ

ことに強く心を引かれたのです。アーサー・R・バセットはかつてこのように語りました。「先祖のあら探しをしたいなどと望む人がいるだろうか。わたしを例に挙げると、わたしは先祖の戦い、その勝利だけでなく敗北にも興味をそそられる。…一見最も平凡に見える人生に心を引かれるのだ。なぜなら、平凡の中にこそ、胸をときめかすものが秘められていることに気づいたからである。」¹² 皆さんの先祖の中に馬を盗んだ人は恐らくいないでしょう。かりにいたとすれば、その先祖のために儀式を行うことは大切です。死者にも悔い改めの機会があることを信じているからです。「悔い改める死者は、神の宮の儀式に従うことによって贖(あがな)われるであろう。彼らは自分の背きの代価を支払い、洗われて清くなった後、その行いに応じて報いを受けるであろう。彼らは救いを受け継ぐ者だからである。」¹³

先祖を一人、また一人と探し出すのは、骨の折れる作業ですが、同時に胸躍る、報いの多い作業でもあります。霊的な導きを感じて、先祖の身元が確認できる資料に行き当たるが多々あります。系図探求はきわめて霊的な業であるため、幕の向こう側からの助けを期待することができのです。自分を見つけて身代わりの儀式を受けてもらうのを心待ちにしている先祖が働きかけるのを感じます。これはキリストがなさったような奉仕の業です。なぜなら先祖が自分たちの力ではできないことを代わりに行っているからです。

若い男性の皆さんの中には、死者のためのバプテスマを受けることで、すでに神殿での儀式を体験した人も大勢いることでしょう。早朝に神殿へ行くと、若人が白い衣装に身を包み、準備を整え、この心満たされる経験にあずかったうえで学校へと向かう姿をよく見かけます。皆さんがこの大切な業を献身的に遂行していることは称賛に値します。そうすることで、皆さんはすでに神殿の中で与えられる心からの平安を感じていることでしょう。

神は正義の神であられます。わたしたちだけに特権を与え、先祖には同じ特権を差し控えられるということはありません。

ん。しかし、そのためにはこの地上における代理人として、先祖のためにバプテスマやエンダウメント、結び固めを行う必要があります。それは先祖とともに永遠に結ばれ、「第一の復活にあずかる者」¹⁴ となるためなのです。

主は、この大切な業においてわたしたちを導くために、ヒンクレイ大管長に指示と靈感を与えておられることを重ねて証します。信仰をもって神権の義務を果たすときにもたらされる平安がいつもありますように、イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. "What Roots Means to Me," *Reader's Digest*, 1977年5月号, 73-74
2. 「あなたの家族歴史——始めること」『リアホナ』2003年8月号, 12
3. 教義と聖約128:18
4. 使徒24:15; アルマ11:41-45参照
5. "Why Family History?," インターネット, www.familysearch.org 参照
6. *History of the Church*, 第4巻, 425-426
7. 教義と聖約110:13-14, 16参照
8. 教義と聖約110:14-15参照
9. R・スコット・ロイド, "Hearts of the Children," *Church News*, 1986年9月14日付, 16
10. ジョセフ・フィールドینگ・スミス『救いの教義』ブルース・R・マッコンキー編, 全3巻(1954-1956年), 第2巻, 175
11. ブライアン・シアリング "The Link Made," *Church News*, 1990年10月27日付, 16
12. "The Relationship of Genealogy and History", 1980年世界大会記録の議事録で引用, 全13巻, 末日聖徒イエス・キリスト教会記録保管庫, 第2巻, 4
13. 教義と聖約138:58, 59
14. ウィルフォード・ウッドラフ, *The Discourses of Wilford Woodruff*, G・ホーマー・ダラム選(1946年), 149

彼を帰してください

第一副管長

トーマス・S・モンソン

主の助けを頂ければ、わたしたちの責任の下にある人々に手を差し伸べ、救い出すことができます。



愛 する兄弟の皆さん、^{こよひ} 今宵、皆さんの前に立ち、このカンファレンスセンターの圧倒されそうな数の聴衆のさらに向こう側に、何十万人という神権者が世界中で同じように集まっていることを考えると、実に謙遜な思いにさせられます。

皆さんにお話しする責任について熟考していたとき、ステイブ・L・リチャーズ副管長が表明した神権の権能に関する定義を思い出しました。リチャーズ副管長はこう言っています。「普通、神権は単純に『人に託された神の力』と定義されています。この定義は正しいと思いますが、わたしは実際的な目的から、神権の奉仕の観点から定義するのが好きで、よく神権を『奉仕の完全な計画』と呼んでいます。』¹

アロン神権の執事の職を持っても、あるいはメルキゼデク神権の長老の職を持っても、いずれにせよ、わたしたち

には主の啓示によって義務が課せられています。それは教義と聖約第107章99節に書かれています。「それゆえ、今や人は皆、自分の義務を学び、任命されている職務をまったく勤勉に遂行するようにしなさい。」

我が家の末っ子のクラークが12歳の誕生日を迎えようとしていたところのことです。息子と二人で教会執務ビルを出ようとしたとき、ハロルド・B・リー大管長が近づいて来て、あいさつをしました。クラークはもうすぐ12歳になります、とわたしが言うと、リー大管長は息子の方を見て、こう尋ねました。「12歳になったら、どんなことが起きるのかな。」

父親として、息子が靈感を受けてふさわしい答えをするようにと祈る、そんな瞬間でした。すると、クラークはためらうことなく、リー大管長にこう言ったのです。「ぼくは執事に聖任されます。」

その答えはまさに、リー大管長の求めていた答えでした。そして、大管長は息子に次のような助言を与えてくれました。「覚えておくんだよ。神権を持つということは、偉大な祝福なのだからね。」

わたしは少年のころ、ワードの会員に聖餐をパスするのが楽しみでした。わたしたち執事は自分たちの義務について訓練を受けていました。ワードの会員に、ルイスという体のまひした人がいました。頭と手が激しく震えるため、一人で聖餐を取ることはできません。どの執事も、ルイスにパスするときにすべきことをわきまえていました。つまり、パンを口まで持って行って食べられるようにしてあげること、



そして同じように、片手で水のカップを口まで持っていき、その間もう一方の手で頭をしっかりと支えてあげることです。そうしている間、トレイは別の執事が持っていました。ルイスはいつも、「ありがとう」と言ってくれたものです。

40年前、この10月の総大会で、デビッド・O・マッケイ大管長によってわたしは十二使徒定員会の一員として奉仕するよう召されました。わたしが出席した大管長会と十二使徒の最初の集会で聖餐が配られましたが、マッケイ大管長はこう発表したのです。「聖餐を頂く前に、この組織のいちばん新しい会員であるモンソン兄弟にお願いして、わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストの贖いの犠牲について、大管長会と十二使徒に指導していただきたいと思います。」次の古いことわざの意味をほんとうに理解したのはそのときでした。「決定の時が来たら、準備の時は過ぎ去っている。」またペテロの第一の手紙に書かれている勧告を思い出したのもそのときでした。「あなたがたのうちにある望みについて説明を求める人には、いつでも弁明のできる用意をし

ていなさい。」²

わたしは1通の手紙を読むことから話を始めました。同じワード出身の軍人からもらった手紙です。時には忘れられてしまうあの戦争のさなか、彼は韓国の最前線で従軍していました。手紙の主が書いてきたのは、日曜日の朝、弾丸が飛び交うまっただ中で、小隊にいる数人の仲間とともに、どちらも鉄かぶとの中に置かれたパンと水を取っている様子でした。仲間は皆、聖なるしるしに宣言された祝福の意味と、また主の戒めを守り、人に仕える主の模範に従うという個人の責任について思い出していたのです。

大管長会と十二使徒定員会と過ごしたあの特別な経験の記憶は、以後40年間たっても薄れてはいません。

軍務であれ伝道であれ、あるいはいかなる理由であれ、家庭や家族から離れている人々にとって、休暇の季節は、愛する人と一緒に過ごしたいと心から望む時であり、また、切望する時でもあります。子供たちの笑い声を聞き、親の愛を身近に感じ、兄弟姉妹の抱擁に包まれると、天の光景とそこにある永遠の喜びをかいま

見ることができます。

12月のある夜、合衆国へ戻る飛行機の出発を待つモンソン姉妹とわたしは、シンガポールの息苦しいほどの暑さと湿気の中に立っていました。すると、空港のスピーカーから、慣れ親しんだ、心躍るメロディーが聞こえてきました。ビング・クロスビーの歌うあの歌詞です。

クリスマスには帰るから
そのつもりでいてほしい。
ツリーには、雪とヤドリギ、プレゼント
それを飾っておいておくれ。

クリスマスイブには戻るから
愛の光を輝かそう。
クリスマスには帰るから
たとえ夢の中だけでも帰るから。³

大管長会はこれまでずっと、次の言葉を強調してきました。「家庭は義にかなった生活の基であり、ほかのどのような手段も、家庭に代わる役割を果たし得ませんし、……大切な役割を果たしてはくれません。」⁴

家族の中に父親と母親がいて、息子や娘もいるというのに、思いやりのない言葉を口に出してしまったために、互いに疎遠になっている家族があります。何年も前に、こうした悲劇が危うくある青年の身に起ころうとしました。プライバシーを守るために、その名前を仮にジャックと呼びましょう。

ジャックは生涯を通じて、父親とは口論が絶えませんでした。17歳のある日、二人は特に激しくなりました。ジャックは父親に言いました。「もう我慢できない。家を出て行ってやる。絶対に帰って来るもんか。」そう言うと部屋に戻り、荷物を詰め始めました。母親は必死で引き止めますが、怒り狂った息子は耳を貸しません。戸口で涙に暮れる母親を残して、ジャックは出て行きました。

庭を通して、門を出ようとしたそのときです。父親の声が聞こえました。「ジャック、おまえが出て行くのは、父さんが悪かったせいだよ。ほんとうに済まなかった。いいかい、帰って来たいと思ったら、いつでも帰って来ていいんだよ。そうしたら、もっといい父親になるように努力するよ。いつでもおまえを愛しているということを忘れないでくれ。」

ジャックは何も言わずにバス乗り場へ行き、遠くの町まで行く切符を買いました。バスの座席に座って長い間窓の外を眺めていると、父親の言葉が思い出されてきました。父親がしたことはよほどの愛がなければできないことだと気づきました。父親は謝ったのです。戻って来るように哀願した父親の言葉は夏の空に響いていました。「おまえを愛しているよ」と。

そのときジャックは、今度は自分がそれにこたえる番だと気づいたのです。自分の中に平安を取り戻す唯一の道は、父親が示してくれたと同じ分別と善意、愛を自分が父親に示すことだと知りました。ジャックはバスを降り、帰りの切符を買って、家に向かいました。

家に着いたのは真夜中過ぎでした。家に入り明かりをつけると、揺りいすに座ったままの父親が頭を抱えていました。父親は顔を上げてジャックを見るといすか

ら立ち上がり、二人は走り寄って抱き合いました。ジャックはよく、「家で過ごしたその後の何年かが、人生でいちばん幸せな時期でしたね」と言います。

一晩で大人になった少年の姿がここにあります。断絶した家族や崩壊した家庭に起因する大勢の「失われた人々」の一人に息子になる前に、感情やプライドを抑えて救い出した父親の姿がここにあります。愛が家族を結びつけ、心の傷を癒す乳香となりました。愛はだれもが感じているのに、それを表そうとする人はあまりにも少ないのです。

シナイ山から語られた力強い言葉が響き渡ります。「あなたの父と母を敬え。」⁵そして後の時代になって、主はこう命じられました。「ともに愛をもって生活するようになしなければならない。」⁶

兄弟の皆さん、わたしたちの責任、つまり神聖な義務とさえ言えるものとは、教会から離れてしまった人や家族の輪の中からさまよい出た人に助けの手を差し伸べることです。

教義と聖約の第18章から、主が啓示された美しい言葉を一緒に思い起こしてみよう。「人の価値が神の目に大いなるものであることを覚えておきなさい。……

あなたがたはこの民に悔い改めを叫ぶことに生涯力を尽くし、一人でもわたしのもとに導くならば、わたしの父の王国で彼とともに受けるあなたがたの喜びはいかに大きいことか。

さて、あなたがたがわたしのもとに導いてわたしの父の王国に入れるようにした、一人の人とともに受けるあなたがたの喜びが大きいならば、もし多くの人をわたしのもとに導くとすればその喜びはいかに大きいことか。」⁷

アロン神権定員会の会長会として、あるいはアドバイザーとして、主の助けを頂ければ、わたしたちの責任の下にある人々に手を差し伸べ、救い出すことができます。若い男性の皆さん、ほほえみを浮かべ決意を秘めながら、あまり活発でない少年に友情の手を差し伸べて、一緒に神権会に参加することができます。そして、主について学び、皆さんが実践す

るよう主が備えてくださったことについて学ぶことができるのです。皆さんには主の神聖な助けを受ける資格があります。それは主が次のように約束してくださっているからです。「わたしはあなたがたに先立って行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。」⁸

メルキゼデク神権を持つ兄弟の皆さん、ほかの人々やその家族への義務に関して言えば、皆さんにも同じ神聖な任務と責務が課せられています。そして、皆さんの努力に対して、主の同じ約束が与えられています。

成功するにつれて、皆さんは母親の祈りと、子供たちの優しく口に出せない思いにこたえることになるでしょう。そして皆さんの名前は、助けの手を差し伸べた人たちから永遠にたたえられるでしょう。

わたし自身の経験から、やや個人的ではありますが、喜びに満ちた例を話してみたいと思います。

わたしは監督として、あまり活発でない人、集会に出席しない人、責任を受けない人のことを心配していました。ある日、そのような人たちのことを考えながら車を走らせていたとき、ベン・フルマーと妻エミリーの住む通りに差しかったのです。老齢になった二人は、体の痛みのために活動から遠ざかり、家に閉じこもり切りでした。日常生活の活動や人との交わりから孤立し、引き離され、締め出されていたのです。ベンとエミリーは長い間、聖餐会にも出席していませんでした。かつて監督を務めたベンは、いつも居間に座って新約聖書を読み、暗記するのを習慣にしていました。

わたしは市内にある販売事務所からインダストリアル通りの工場へ行く途中でした。どういう訳か、そのときは西1番通りを走っていました。工場へ行くために、かつてその道を通って行ったことはありません。そのときです。車を止めてベンとエミリーを訪ねるようというささやきを間違いなく感じたのです。でも会議に向

かう途中でした。そのため、最初はその強い気持ちに注意を払おうとせず、そのまま数ブロック進んで行きました。しかし、再び心に感じるものがあり、わたしは二人の家へ引き返したのです。

天気のよい平日の午後でした。家のドアまで行き、ノックしました。わたしに気づいたのか、かわいいフォックステリアがほえています。エミリーが招き入れてくれました。そしてわたしの顔を見るなり、思わずこう言ったのです。「一日中電話が鳴るのを待っていたんですよ。でも、電話は鳴りませんでした。郵便屋さんが手紙でも届けてくれるかとも思ったのですが、配達されたのは請求書だけ。監督、今日はわたしの誕生日だとどうして分かったんですか。」

わたしは答えました。「エミリー、神様は御存じですよ。あなたを愛しておられるのですから。」

居間に漂う静けさの中で、わたしはベンとエミリーに言いました。「今日どうしてここに導かれたのか、わたしにはまったく分かりません。でも導かれたのです。天の御父は御存じです。ひざまずいて祈り、御父にその理由を尋ねてみましょう。」わたしたちは祈り、答えが与えられました。立ち上がると、わたしはフルマー兄弟にこう言いました。「ベン、神権者がみんな集う神権会に来て、わたしが子供のころ一度話してくれたあの話を、アロン神権の若者たちにしてくれませんか。あなたと少年たちがある日曜日にジョーダン川へ泳ぎに行く途中、日曜学校に出席するようにという御霊の導きを感じたという話ですよ。で、あなたはそうしたのに、少年の一人が御霊に従わず、その日曜日におぼれたということでしたね。ワードの少年たちはあなたの証を聞きたいと思っていますよ。」

「やってみよう」とベンは答えました。

それから、フルマー姉妹にこう言いました。「エミリー、あなたは美しい声の持ち主ですね。母から聞いています。実は、ワード大会が2、3週間後に迫っていて、聖歌隊が歌うことになっています。聖歌隊に参加して、ワード大会に出席してもらえ



ませんか。そして、ソロを歌ってもらえないでしょうか。」

「どの曲でしょうか」と彼女は尋ねました。

「分かりません。でも、ぜひ歌ってほしいのです。」わたしはそう答えました。

エミリーは歌い、ベンはアロン神権者に話をしました。二人が教会に戻って来たことを大勢の人が喜びました。その日以来、二人が聖餐会を欠席することはほとんどありませんでした。御霊の言葉が語りかけたのです。その言葉は確かに聞かれ、理解されました。心が動かされ、人が救われました。フルマー夫妻は家に戻って来たのです。

史上最長のロングランを続けているミュージカルに、『レ・ミゼラブル』があります。この物語はフランス革命の時代が背景になっており、ミュージカルの主役はジャン・バルジャンです。彼は、戦闘に赴こうとしている青年マリウスのことに心を痛め、歌の中で、心からの祈りをささげます。

高き神よ、祈りをお聞きください。

求めると、いつもあなたはおられました。

彼は若く、恐れています。

彼に休みをたまい、天の祝福を願います。
彼を帰してください。

彼に平安と喜びをお与えください。

まだ若く、まだ子供です。

取り去ることも与えることもおできになる神よ、

彼を生かしてください、生かしてください。

わたしが死ぬのはかまいません。でも彼は生かしてください。

彼を帰してください。⁹

兄弟の皆さん、神の神権を持つ者として前進し、義務について学び、助けを必要とする兄弟たちに手を差し伸べるとき、わたしたちすべての父である天の御父を見上げようではありませんか。御父の御声は聞こえないかもしれません。しかし、主の呼びかけの言葉を思い出します。「良い忠実な僕よ、よくやった。」¹⁰

そして、心の中に、御父の無言の願いを悟るのです。「彼を連れて帰って来なさい」と。

イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. Conference Report, 1937年4月, 46
2. 1ペテロ 3:15
3. キム・ギャノンとウォルター・ケント, "I'll Be Home for Christmas", 1943年
4. J・ルーベン・クラーク・ジュニア, 教会中央補助組織役員の集会, 1940年3月29日。「大管長会からの手紙」『リアホナ』1999年12月号, 1も参照
5. 出エジプト20:12
6. 教義と聖約42:45
7. 教義と聖約18:10, 15-16
8. 教義と聖約84:88
9. ハーバート・クレッツマー, "Bring Him Home."
10. マタイ25:21

イスラエルの羊飼い

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

世界中に善良な監督がいることを主に感謝いたします。……神に仕える人にのみ与えられる、あの安らぎを心に感じるができますように。



兄弟の皆さん、今晚わたしは、いつもとは少し違うことをしようと思います。15年前に総大会の神権部会で語った事柄について、もう一度お話ししようと思うのです。教会の監督に向けた、監督についての話です。監督はすばらしい人たちであり、文字どおりイスラエルの羊飼いです。

この大会の出席者は全員、監督または支部長に託されています。監督と支部長の担う重荷は、途方もなく大きいものです。すべての教会員の皆さんにお願いします。監督と支部長の重荷を軽減するために、できることをすべて行ってください。

監督や支部長のために祈らなければなりません。彼らの荷は重く、助けを必要としているからです。もっと彼らの力となり、極力依存しないようにしましょう。可能なかぎりあらゆる面で手助けし、わたしたちのためにしてくれることに感謝しま

しょう。わたしたちが課した重荷のせいで、監督や支部長は今にも崩れそうです。

現在教会には1万8,000人以上の監督がいます。すべて預言と啓示の霊によって召され、^{あんしゅ}按手により任命、聖任され、ワードの長としての^{かぎ}鍵を携えています。どの監督も大祭司であり、ワードの管理大祭司として非常に大きな管理の職を担っており、会員にとって父親のような存在です。

監督は、その働きに報酬を受けてはいません。監督としての働きに対して教会から報酬を受けている人はだれもいないのです。

この監督の資格は、^{こんにち}今日も昔と同じです。パウロはテモテにこのように書いています。

「さて、監督は、非難のない人で、ひとりの妻の夫であり、自らを制し、慎み深く、礼儀正しく、旅人をもてなし、よく教えることができ、

酒を好まず、乱暴でなく〔つまり、暴力を振るう人でなく〕、……人と争わず、金に淡泊で、

自分の家をよく治め、^{きんげん}謹厳であって、子供たちを従順な者に育てている人でなければならない。

自分の家を治めることも心得ていない人が、どうして神の教会を預かることができようか。

彼はまた、信者になって間もないものであってはならない。そうであると、高慢になって、悪魔と同じ審判を受けるかも知れない。」(1テモテ3:2-6)

さらにパウロは、テトスへの手紙の中で次のように言っています。「監督たる者は、

神に仕える者として、責められる点がなく、……

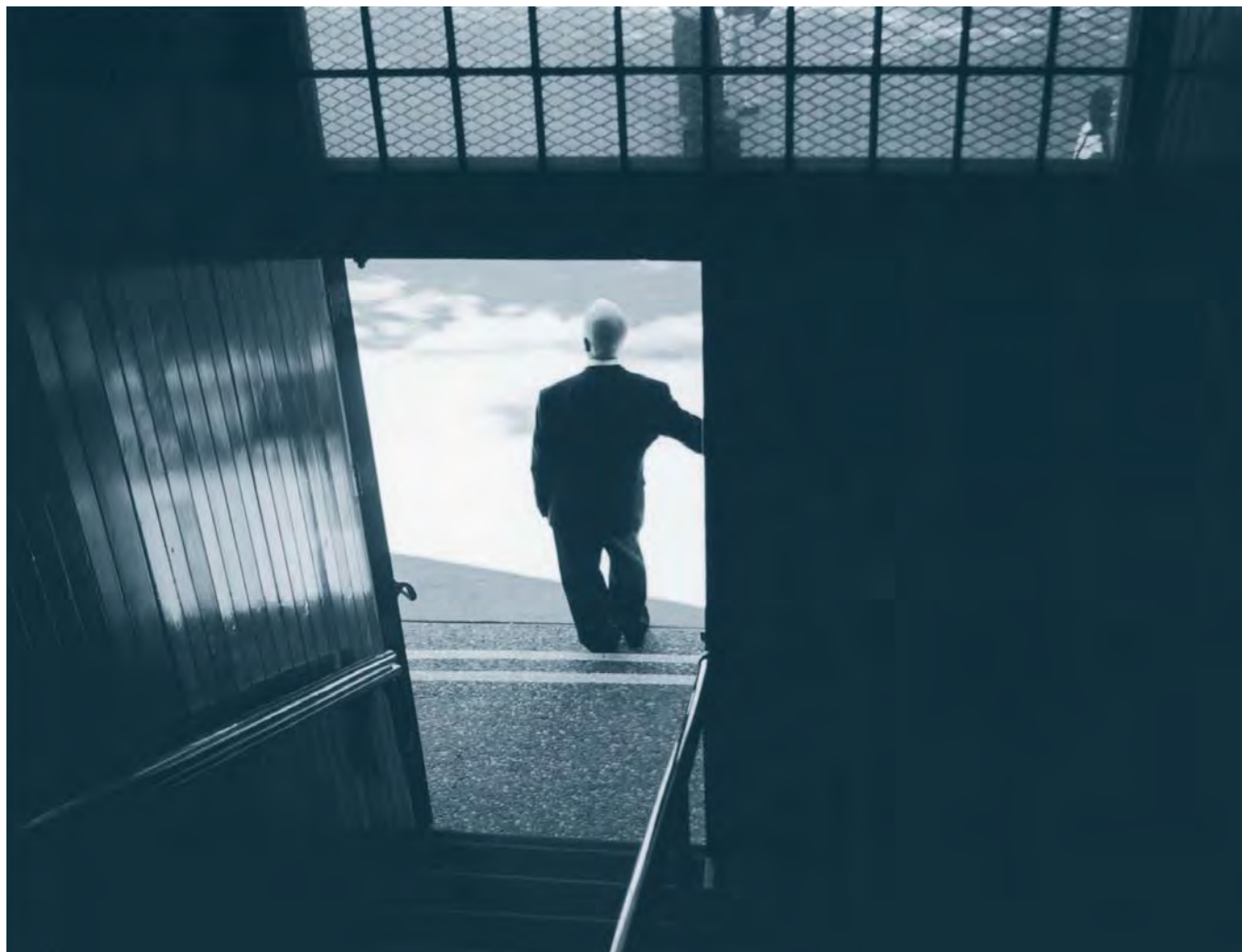
^{おしえ}教にかなった信頼すべき言葉を守る人でなければならない。それは、彼が健全な教によって人をさとし、また、反対者の誤りを指摘することができるためである。」(テトス1:7, 9)

これらの言葉は、^{こんにち}今日においても末日聖徒イエス・キリスト教会の監督の姿を的確に表しています。

さて、ここにお集まりの、大勢の監督の皆さんにお話ししたいと思います。まず最初に申し上げたいのは、わたしは誠実で善良な皆さんを愛しているということです。監督は誠実でなければなりません。管理する人たちに模範を示し、自分自身は一段高い原則や規範を守り、会員を引き上げるようにしなければなりません。また、完全に正直でなければなりません。なぜなら、監督は主の基金、すなわち自分の一や断食献金など、会員が限られた財源から納める献金を取り扱うからです。主の財産を管理するように任されるとは、皆さんへの信頼は何と^{あづか}篤いことでしょう。

監督は民の^{はたじろし}旗印となるような善良さを身に付けていなくてはなりません。道徳的にも非の打ち所のない人でなければなりません。悪魔は皆さんを欺こうとするかもしれません。なぜならば、もし監督を滅ぼすことができれば、ワード全体を傷つけることができると知っているからです。また、監督は知恵をもってあらゆる人に接しなければなりません。皆さんの行いの一端を見て、道徳的な罪を犯しているかのように思われることもあるからです。ボルノ雑誌を読んだり、個室でひそかにいかがわしいビデオを見たりするような誘惑に陥ってはなりません。監督は、人の道徳的問題を裁く立場に置かれたときでも、妥協したり当惑したりすることなく裁きを下せるような、しっかりとした倫理観の持ち主でなければなりません。

監督としての職を、個人的な商売に利用することがあってはなりません。後に経済的な問題が生じたときに、皆さん自身が商売の話を勧めた人から非難される



ことのないようにするためです。

監督にはイスラエルの一般判士としての資格があり、この資格を汚してはなりません。判士として立つことは恐ろしいほど重大な責任です。場合によっては、人の教会員としてふさわしさや、主の宮に入るふさわしさ、またバプテスマや神権を受けるふさわしさ、伝道に出たり、教会の組織の役員として教えたり奉仕したりするふさわしさを判断しなければならないことがあります。そしてだれかが困難な状況にあるときには、会員の断食献金や、主の倉から援助を受ける資格がその人にあるかどうかを判断しなければなりません。自分が管理する人の中に、一人でもひもじい思いをしたり、衣服や住居のない人があったりしてはなりません。会員がためらって、自ら申し出ようとしない場合も同じです。監督は羊飼いとて、すべての羊が置かれた状況について多少な

りとも知っていなければなりません。

監督は、悲しみ悩む人の話を聞き、慰めるとともに、心の支え、力とならなければなりません。主から力と知恵を受けて、強く、賢くならなくてはなりません。また、常に心の扉を開いて嘆きの声に耳を傾け、時には代わりに重荷を背負うほど強くなければなりません。そして、人が何を必要としているかを鋭く感じ取れる繊細な心と、道を誤った人や教会を批判するような人をも包み込む、神のような広く強い愛の持ち主でなければなりません。さらに喜んで話を聞いて理解しようとするだけの忍耐力を備えていなくてはなりません。人によっては皆さんだけが頼りなのですから。頼るべき人が一人もいないときの支えとならなければならぬのです。ある監督が受け取った手紙の一部を読ませていただきます。

「親愛なる監督へ

絶望的な気持ちで監督に助けを求めてから2年ほどになります。あのとき、わたしは自殺しようと思っていました。だれも頼れる人はなく、お金も、仕事もなく、友達もいませんでした。家を取り上げられ、住む所ありませんでした。教会が最後の頼みの綱でした。

御存じのように、わたしは17歳のときに教会を去り、幸福と満足感を求めてありとあらゆる決まりごとや戒めを破りました。その結果得たものは幸福ではなく、悲しみと苦しみ、そして絶望でした。もはや希望も将来もありませんでした。死なせてください、死んで苦しみから逃れさせてくださいと、神に懇願さえしました。でも神までもがわたしを必要としておられませんでした。神からも拒絶されたと感じました。

監督に頼り、教会に救いを求めたのはそんなときでした。……

監督は思いやりのある態度で話を聞き、

忠告を与え、指導し、助けてくれました。

わたしはだんだんと福音を理解し始め、知識を得るようになりました。そして、分かったのです。人生の根本的なところで、変えなければならないことが幾つかあるのだと。それはとても難しいことでした。でも、自分にはそうする価値があり、きっとできると思いました。

福音を実践し、悔い改めるにつれ、恐れがなくなりました。心は安らぎで満たされ、苦しみや悲しみの影は消えていきました。贖罪によってわたしの弱さと罪は赦されました。イエス・キリストとその愛のおかげです。

主はわたしを祝福し、強めてくださいました。そして道を開き、導きを与え、危害から守ってくださいました。一つ一つの障害を克服する度に、仕事の面でも祝福され、家族に楽な暮らしをさせられるようになりました。意義深いことを成し遂げたと感じています。

過去2年間、監督は理解を示し、支えてくれました。監督の愛と忍耐がなかったらば決してここまで来ることはできなかったと思います。主の僕として、迷える子供であったわたしを助けてくれた監督に心から感謝しています。」

監督は管理するワードにとって台の上の見張り人です。ワードには大勢の教師がいますが、監督は教師を教える者でなければなりません。教会員の間に、誤った教えが知らないうちに入り込むことのないよう見届けなければなりません。また会員が信仰と証を強め、より誠実で義にかなった生活を送り、奉仕の精神をますます発揮するよう見守らなければなりません。そして主に対する愛が強まり、それがさらに大きな愛となって互いに示されるようにしていかなければなりません。

監督は人の告白を聞き、立ち入った内容を知る立場に置かれます。そのようにして打ち明けられた話を口外することは絶対にしてはなりません。監督の特権として聞いた事柄は、何者の介入も許さないように守り、尊重しなくてはなりません。口外したい誘惑に駆られることもあるでしょう。それに屈してはなりません。

虐待の問題で、法的にはっきり求められないかぎり、信頼されて聞いた事柄は、自分の胸の内だけにとどめなければなりません。教会では、ホットラインを設けて、監督が虐待問題に直面したときに、問い合わせられるようにしています。

監督には、ワードのアロン神権を管理する特別な役目があります。望むと望まざるとにかかわらず、監督はアロン神権の指導者、教師、そして模範なのです。また監督は管理大祭司であって、ワードという家族の父親であり、論争が起こったときには仲裁役を務め、責めを受ける者がいたらその弁護をしなければなりません。

監督は集会を管理します。集会では教義が説かれ、その場の靈性を保つのは監督の責任です。また、聖餐を執行し、主の御名を受けたすべての人が、果たすべき神聖な聖約と義務について思い起こすことができるようにする責任があります。

監督は、伴侶を亡くした人や孤児、弱者、虐待されたり、非難されたりしている人、困っている人の強い味方でなければなりません。

力強く高らかにラッパの音を響かせてください。ワードという主の軍勢の頭として立ち、罪や無関心、背教を克服し、勝利に導くのです。

確かに、この仕事は大変なこともあるでしょう。限られた時間になすべきことは山ほどあり、会員からの電話はやむことがあります。すべきことはほかにもあります。確かにそのとおりです。仕事場にあつては、雇用主に提供すべき時間と労力を、ほかのことに不当に使うようなことをしてはなりません。家庭にあつては、家族の時間を奪うことがあってもなりません。けれども、皆さんの多くがこれまでに経験してきたように、主の導きを求めるならば、自分自身では思いもかけないような知恵と力、そして能力に恵まれるようになります。雇用主、家族、会員のすべての人をないがしろにすることなく、時間を上手に使えるようになるのです。

神が末日聖徒イエス・キリスト教会の立派な監督を祝福してくださいますように。責任の重さに不平を漏らしたくなることが

あるかもしれません。しかし、皆さんは奉仕の喜びを知っています。責任は重くても、これほど楽しく、やりがいがあり、大切な責任は、自分の家庭を除けばほかにはないことを知っています。

皆さんのことを主に感謝いたします。世界中に善良な監督がいることを主に感謝いたします。1万8,000人の監督の皆さんのために祈ります。どうか強くあってください。忠実であってください。自分自身の生活の中でも、また人のために目標を立てる際にも、妥協することのないようにしてください。長い一日の仕事に疲れ果てても、心地よい眠りに就き、神に仕える人にのみ与えられる、あの安らぎを心に感じるができますように。

この教会の監督の皆さんが、強く善良な人々であることを証します。また監督を助けて働く副監督たち、そして監督から召しを受けてその指示の下に働くすべての人々をたたえたいと思います。

無理なことを期待してはいませんが、皆さんが最善を尽くすよう願っています。認められているかぎり、業務を人に委任してください。そして、物事を主の御手にゆだねてください。

監督もいつかは解任されます。それは悲しいときです。しかし、仕えた人たちから感謝され、慰めを感じるでしょう。皆さんのことを忘れる人はいません。その後も長い間にわたって感謝の言葉をかけてくれるでしょう。教会の役員の中で、監督ほど身近な人はほかにはいないからです。監督は、羊の群れを見守る羊飼として召され、聖任され、任命されています。そして識別と裁きの力、人に祝福を注ぐ愛を授かっています。その務めを果たすときに、自分自身の生活にも祝福を注ぐことになるのです。

監督の召しは神聖なものであって、すばらしい方法でその務めを果たすことができますと証します。主の子供たちのために働くときに、監督と副監督、また伴侶と子供たちのうえに祝福が注がれますように。イエス・キリストの聖なる御名によりへりくだりお祈りします。アーメン。



大会の衛星放送を見に集まったグアテマラ(上、左下)および日本(右下)の会員たち。日本の姉妹たちは、中央扶助協会集会を視聴している。

末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

大管長会

2003年11月現在



第一副管長
トーマス・S・モンソン



大管長
ゴードン・B・ヒンクレー



第二副管長
ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会



ボイド・K・パッカー



L・トム・ペリー



デビッド・B・ヘイト



ニール・A・マックスウェル



ラッセル・M・ネルソン



ダリン・H・オークス



M・ラッセル・バラード



ジョセフ・B・ワースリン



リチャード・G・スコット



ロバート・D・ヘイルズ



ジェフリー・R・ホランド



ヘンリー・B・アイリング

七十人会長会



アール・C・
ティンギー



D・トッド・
クリストフアーソン



デビッド・E・
ソレンセン



デニス・B・
マクコンキー



チャールズ・
ディレイ



ディーター・F・
ウクトドルフ



メリル・J・
ペイトマン



南アフリカ(上, 中段左), ポーランド(中段右), ハワイ(下)で大会の衛星放送を見に集まった会員たち。改宗して間もないこのポーランドの会員たちにとって、今回が初めての総大会となった。

橋を架ける者

第一副管長

トーマス・S・モンソン

イエス・キリスト……は橋を架けてくださっており、もしわたしたちが天の家まで帰るつもりであるならば、その橋を渡らなければなりません。



何年も昔、デビッド・S・ラベンダーの『西の海への道』(The Way to the Western Sea)という本を読みました。メリウェザー・ルイスとウィリアム・クラークの勇壮な旅に関する、読者の心をとりにする話です。二人は、太平洋への陸路を発見するために北アメリカ大陸を横断した、有名な探検隊を率いました。

彼らの旅は大変な強行軍で、深い峡谷を渡り、進むべき道の目印になる次の小川を見つけるために、食糧を積んだボートを運びながら徒歩で長い道のりを旅しなければならませんでした。

探検隊の経験を読みながら、わたしはよく「この峡谷や激流の上に、近代的な橋が架かってさえいればなあ」と思いました。そして、このような任務を難なく成し遂げさせてくれる、わたしたちの時代の壮大な橋のことが思い浮かびました。有名な

サンフランシスコの美しいゴールデンゲートブリッジ、オーストラリアのがっしりとしたシドニー・ハーバー・ブリッジ、ほかにも様々な地にある橋がそうです。

実際のところ、わたしたちは皆、死すべき世の旅人であり、探検家です。過去の個人の経験だけを頼みとすることはできません。それでも、わたしたちはこの地上での旅路に立ちふさがり険しい断崖や荒れ狂う川の流れを渡っていかなければなりません。

恐らく、そのような暗澹とした考えが、詩人ウィル・アレン・ドロングールの傑作「橋を架ける者」(The Bridge Builder)の誕生のきっかけとなったのでしょう。

老人は人跡まれな道を行き、
冷たく寂しいたそがれ時に、
深くて広い谷に行き着いた。
そこには緩やかな川が流れていた。
薄暗いたそがれの中を老人は渡った。
その緩やかな流れは
老人にとって恐れるべくもなかった。
ところが無事対岸に立った彼は
振り返ると、
流れを渡る橋を架けた。
「ご老人よ」
そばで一人の旅仲間が言った。
「ここに橋を架けるなど
体力の無駄遣い。
あなたの旅は
終わりの日とともに終わる。
もう二度とこの道を通ることもない。
あなたはすでに
深くて広い谷を渡り終えた――

なぜこんな夕暮れに
橋を架けるのですか。」
橋を架ける者は
老いた白髪の手を上げた。
「良き友よ、
わたしが歩んで来た道には、
わたしの後に続く若者がいる。
彼もこの道を通らねばならない。
わたしには何でもなかったこの谷も、
あの金髪の若者には
危険な落とし穴となるかもしれない。
彼もまた薄暗いたそがれの中で
渡らねばならない。
良き友よ、わたしは彼のために
橋を架けているのだよ。」¹

この詩が持つメッセージに、わたしは啓発され、心を慰められてきました。なぜなら主であり救い主であるイエス・キリストこそ、皆さんやわたし、全人類のための、最も偉大な橋の設計者であり建造者であられたからです。主は橋を架けてくださっており、もしわたしたちが天の家まで帰るつもりであるならば、その橋を渡らなければなりません。

救い主の使命は預言されていました。マタイはこう記録しています。「彼女は男の子を産むであろう。その名をイエスと名づけなさい。彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである。」²

続いて主の誕生という奇跡が起き、その馬屋へ、その母親のもとへ、その幼子のもとへと、羊飼いたちが急いでやって来ました。さらにはあの星を追って、東から旅をして来た博士たちが、幼子に高価な贈り物をささげました。

聖文には、イエスは「ますます成長して強くなり、知恵に満ち、そして神の恵みがその上にあった」³ また主は「よい働きをしながら……巡回」⁴ されたと記録されています。

主はこの死すべき世でどのような独自の橋を架けて渡り、従うべき道を示されたのでしょうか。主は死すべき世が危険と困難に満ちた場所となることを御存じでした。主は次のように宣言しておられま



ヒンクレー大管長(中央)、モンソン副管長(右)と握手する十二使徒定員会の会員。(左から)ヘンリー・B・アイリング長老、ジェフリー・R・ホランド長老、ロバート・D・ヘイルズ長老、リチャード・G・スコット長老。

す。「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」⁵

イエスは従順の橋を用意されました。主は御父の命令を守り、個人の従順について変わることのない模範となられました。

御霊によって荒れ野に導かれ、サタンの誘惑を受けられたとき、主は断食のために弱っておられました。サタンは最も魅力的なものを持ち出して誘惑してきました。まず、空腹を含め、救い主の肉体的な必要を満足させようとした。これに対して救い主は次のように答えられました。「『人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きるものである』と書いてある。」⁶

次にサタンは権力を与えると申し出てきました。救い主は答えて言われました。「『主なるあなたの神を試みてはならない』とまた書いてある。」⁷

最後に救い主は富とこの世の栄光による試みをお受けになりました。主はこう答えられました。「サタンよ、退け。『主

なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ』と書いてある。」⁸

使徒パウロは主から靈感を受け、彼の時代と同様にわたしたちの時代にも向けて、次のように宣言しています。「あなたがたの会った試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に会わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。」⁹

わたしたちがあいまいな言葉で言い逃れすることのないように、ニュース番組「ABCナイトライン」のテッド・コッペル氏の言葉を挙げておきましょう。「モーセがシナイ山から持って降りて来たのは、10の提案ではなく、10の戒めでした。」¹⁰

マーク・トウェインとある友人の会話には、ちょっとした鋭いユーモアを見ることがができます。裕福な友人がトウェインに言いました。「ぼくは死ぬ前に、聖地へ巡礼の旅をするつもりだ。シナイ山の頂に上って、十戒を声に出して読むんだ。」

トウェインはこう答えました。「家にとどまって十戒を守たらどうだい!」

わたしたちが渡るように主が用意してくださった第2の橋は、奉仕の橋です。わたしたちは奉仕の模範として救い主の心を向けます。神の御子として地上に来ら

れたにもかかわらず、主は謙遜に周囲の人々にお仕えになりました。主は死すべき人間として地上に住み、神の王国を確立するために、天からやって来られました。主の栄えある福音は世の考えを新たにしました。主は病人を癒し、足の不自由な者を歩けるようにし、目の見えない者を見えるようにし、耳の聞こえない者を聞こえるようにされました。さらには死者を生き返らせられました。

マタイによる福音書の第25章で、救い主は、主が勝利のうちに戻って来られるときに主の右にいるであろう忠実な人々について語っておられます。

「そのとき、王は……人々に言うであろう、『わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい。』

あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、

裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである。』

そのとき、正しい者たちは答えて言うであろう、『主よ、いつ、わたしたちは、あなたが空腹であるのを見て食物をめぐみ、かわいているのを見て飲ませましたか。』

いつあなたが旅人であるのを見て宿を

貸し、裸なのを見て着せましたか。

また、いつあなたが病気をし、獄にいるのを見て、あなたの所に参りましたか。』

すると、王は答えて言うであろう、『あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。』¹¹

リチャード・L・エバンズ長老はかつて次のように勧告しました。「わたしたちはあらゆる場所のあらゆる人のために、あらゆることをすることはできませんが、どこかにいるだれかのために、何かをすることはできます。」¹²

予期せぬときに意外な形で訪れた奉仕の機会についてお話ししましょう。ある古い友人のお孫さんから電話がありました。彼女はこう尋ねてきました。「モンソン長老の日曜学校教師だったフランシス・プレムスを覚えていらっしゃいますか。」わたしは覚えていると言いました。彼女はこう続けました。「祖父は今105歳です。小さな介護センターで暮らしていますが、日曜日には毎週家族全員と会って、そこで日曜学校のレッスンをしています。先週の日曜日、祖父はこう言いました。『みんな、わたしは今死ねぬ。トミー・モンソンに電話をして、そのことを伝えてくれないか。彼には何をすべきかが分かるだろう。』」

わたしはその翌日の晩にプレムス兄弟を訪問しました。彼は耳が聞こえませんが、話しかけることはできません。目が見えませんが、メッセージを書いて読んでもらうこともできません。どうすればよいのでしょうか。ご家族は彼の右手の指を取って、左の手のひらに訪問者の名前とメッセージをつづることでコミュニケーションを取っている、とのことでした。わたしはその方法に倣って彼の右手の指を取って左の手のひらに、「T-O-M-M-Y M-O-N-S-O-N（トミー・モンソン）」とつづりました。プレムス兄弟は生気を取り戻し、わたしの両手を取ると、自分の頭に置きました。わたしは彼が神権の祝福を受けたいと望んでいることを知りました。介護センターまで車で

送ってくれた兄弟と一緒に、わたしはプレムス兄弟の頭に手を置いて、希望どおりに祝福を授けました。祝福の後、視力のない彼の目から涙があふれました。彼はわたしたちの手をしっかりと握り、わたしたちは彼の唇の動きから、次の言葉を読み取りました。「どうもありがとう。」

その週のうちに、プレムス兄弟は自ら予告したとおりに世を去りました。わたしは電話をもらい、葬儀の打ち合わせのときにご家族と会いました。奉仕の機会に遅れずに応じることができたことに、心から感謝しています。

奉仕の橋は、度々そこを渡るようにわたしたちを招きます。

最後に、主は祈りの橋を用意してくださいました。次のように指示しておられます。「常に祈りなさい。そうすれば、わたしはあなたに御霊を注ごう。そして、あなたの祝福は大いなるものとなる。」¹³

祈りに関して、ある母親から頂いた手紙に書かれていた話をご紹介します。彼女は次のように書いています。

「時々、自分は子供たちの人生に良い影響を与えることができるのだろうかと思うことがあります。特に母子家庭の母親であるわたしは、家計をやり繰りするために二つの仕事を抱え、どうしたらよいかつづく分からなくなることもあります。それでも決して希望は捨てません。

わたしは子供たちと総大会のテレビ放送を見ていたのですが、モンソン長老が祈りについてお話しになっていました。息子がこう言いました。『お母さん、ほくたち、これはもうお母さんから教えてもらったよ。』わたしは言いました。『どういう意味？』すると息子はこう答えました。『だって、お母さんはほくたちに祈るように教えて、やり方を見せてくれたけど、この間の夜、何かを聞こうと思ってお母さんの部屋に行ったら、お母さんはひざまずいて天のお父様にお祈りしていたんだ。もし神様がお母さんにとって大切なら、ほくにとても大切なんだと思う。』

手紙はこう結ばれていました。「どのような影響を与えるかは、子供に教えようとしていることを実践する姿をその子

が目にするまでは、決して分からないのだと思います。』

ゲツセマネの園でイエスがささげられた祈りほど、祈りに関する話でわたしの心を深く動かすものはありません。最も見事に描写しているのはルカだと思えます。

「イエスは……オリブ山に行かれ……、弟子たちも従って行った。

いつもの場所に着いてから、彼らに言われた、『誘惑に陥らないように祈りなさい。』

そしてご自分は、石を投げてとどくほど離れたところへ退き、ひざまずいて、祈って言われた、

『父よ、みこころならば、どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください。』

そのとき、御使が天からあらわれてイエスを力づけた。

イエスは苦しみもだえて、ますます切に祈られた。そして、その汗が血のしたたりのように地に落ちた。』¹⁴

やがて十字架への旅が始まりました。御自身の十字架を運びながらつらい道のりを進んだとき、主はどのような苦しみを堪え忍ばれたのでしょうか。十字架の上で主がこう言われるのが聞こえました。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」¹⁵

最後にイエスは次のように宣言されました。「『すべてが終った。』〔そして〕首をたれて息をひきとられ」たのです。¹⁶

これらの出来事と、主の栄えある復活とによって、従順の橋、奉仕の橋、祈りの橋という3部作の最後の橋が完成しました。

橋を架ける者であるイエスは、わたしたちが死と呼ぶ大きな谷に橋を架けてくださいました。「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである。」¹⁷ 主はわたしたちが自分自身ではできないことを、わたしたちのために行ってくださいました。こうして人類は主が架けてくださった橋を渡って、永

遠の命へと至ることができるのです。

最後に「橋を架ける者」の詩を別の言葉で言い換えて終わります。

「あなたはすでに
深く広い谷を渡り終えた——
なぜこんな夕暮れに
橋を架けるのですか。」

「わたしの後に続く大勢の群衆がいる。
彼らもこの道を通らねばならない。
わたしには何でもなかったこの谷も、
あの大勢の群衆には
危険な落とし穴となるかもしれない。
彼らもまた薄暗いたそがれの中で
渡らねばならない。
良き友よ、わたしは彼らのために
橋を架けているのだよ。」

知恵と決意をもって、救い主がわたしたち一人一人のために架けてくださった橋を渡ることができるよう、イエス・キリストの御名によって心から祈ります。
アーメン。

注

1. ジェームズ・ダルトン・モリソン編、*Masterpieces of Religious Verse* (1948年), 342
2. マタイ1:21
3. ルカ2:40
4. 使徒10:38
5. マタイ11:28-30
6. マタイ4:4
7. マタイ4:7
8. マタイ4:10
9. 1コリント10:13
10. デューク大学卒業式における演説、1987年5月10日
11. マタイ25:34-40
12. *Richard Evans' Quote Book* (1971年), 51
13. 教義と聖約19:38
14. ルカ22:39-44
15. ルカ23:34
16. ヨハネ19:30
17. 1コリント15:22

偉大な神の性質

十二使徒定員会

ジェフリー・R・ホランド

御子は言葉と行いにより、御自分の父親である天の御父の本質を明らかにし、御父の本質を人が自分で理解できるよう努めておられたのです。



主 イエス・キリストは、その生涯と務めの中で数々の偉大な目的を果たされましたが、主の使命の中に、見過ごしにされがちな重要な側面が一つあります。当時主に従った人々も、現代のキリスト教徒の多くも、その大切な面をよく理解していません。ともあれ、救い主御自身はそれを繰り返し教え、強調されました。救い主は、特^{あがな}に贖いの苦しみと犠牲によって、また地上に来て語り行われたすべての事柄を通して、永遠の父なる神とはどのような御方なのか、御父が、あらゆる時代と国に住む御自身の子供たちを、どれほど深く愛しておられるのかを示してこられたのです。御子は言葉と行いにより、御自分の父親である天の御父の本質を明らかにし、御父の本質を人が自分で理解できるよう努めておられたのです。

主がそうされた理由の少なくとも一つ

は、時代を問わず、人はだれでも神をさらに愛し、完全に従うようになるには、神についてよく知る必要があるからです。旧約、新約、両方の聖書にこう明言されています。「第一のいましめはこれである、『……心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』〔これがいちばん大切な、第一のいましめである。〕」¹

ですから預言者ジョセフ・スミスが次のように教えるのも当然です。「神の属性を確実に知ることは福音の第一の原則です。」「わたしは皆さんすべてに神を知っていただきたいと思います。」さらにこう続けています。「神と親しい関係を築いてください。」² わたしたちは「神の……完全さとその属性について正しい知識を持ち、〔神の〕卓越した特性に対して」称賛の念を「抱くようにならなければなりません。」³ 信仰箇条第1条の「わたしたちは、永遠の父なる神……を信じる」⁴ という宣言はこの教えに基づいています。イエスもこの点を強調されました。神の計画において、御自身の占める特別な地位を理解されながらも、救い主はあの祈りの冒頭ではっきりこう述べられました。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなた……を知ることであります。」⁵

幾世代にもわたる預言者たちが、人類に御父の御心と道を教えようと努めてきましたが、その努力が実を結ぶことはまれでした。そのため神は、人に神のことを知らせる究極の方法として、御自身の御姿に似せて造られた、独り子である完全な御子を地上に送られました。御子は

日々の厳しい生活の中で、人とともに暮らし、奉仕されたのです。

このような崇高な使命を帯びて地上に來られ、神が語られるように語り、裁き、仕え、愛を示し、警告し、耐え、赦しながら、エロヒムの面影を示されるということは、人間にはとうてい理解できない途方もなく重い責任でした。にもかかわらず、神の御子の属性である忠誠心と固い決意をもって、イエスはそれを理解し、行われました。そして称賛と誉れを受けられた折には、謙遜にも主は、自分ではなく御父を称賛するようと言われたのです。

「父が……みわざをなさっているのである。」イエスは熱心にそう語られました。「子は父のなさることを見てする以外に、自分からは何事もすることができない。父のなさることであればすべて、子もそのとおりにするのである。」⁶ また別の折に、こうも言われています。「わたしはわたしの父のもとで見たことを語っている。」「わたしは自分からは何もせず、ただ父が教えて下さったままを話していた。……」「わたしが天から下ってきたのは、自分のこころのままを行うためではなく、わたしをつかわされたかたのみこころを行うためである。」⁷

今朝ここで、永遠の御父である神について、心からの宣言をしたいと思います。現代社会に、神についての悲しい誤解があるからです。とりわけひどい誤解は、少しは信じていても御父との間に距離を感じたり、自ら壁を作ったりする人々、あるいは心から信じていてイエスの腕の中なら安らげると思いながらも、厳しい神に会うのは恐ろしいと考える人々の心の中にあります。⁸ 旧約聖書でも新約聖書でも、神の御子は「昨日も、今日も、またここしえに」⁹ 変わることもない御父の指示によって、常に御父の御心を行っておられます。それにもかかわらず、聖書の誤った解釈（明らかな誤訳の場合もあります）のせいで、人々は神を誤解し、父なる神と御子イエス・キリストの行動や振る舞いは懸け離れていると考えるのです。

このような誤解について考えると、神についての見方が書物全体を通じて一貫



して変わらないという点で、モルモン書の貢献は絶大です。マラキ書とマタイによる福音書の間の時間的空白に相当するものはモルモン書にはありません。神学的な考え方を一々調節する必要がないのです。旧約時代に始まり、新約時代に終わるモルモン書には、どのページにも熱心に、愛を込め、誠実に御業を果たしておられる神の御姿が描かれ、誤った解釈をする余地はありません。まさしく、世の人々に聖書の背景を与え、神に対する正しい理解を提供するために、神の栄光、慈しみ、特性の豊かさや深さについて一貫した見方を示すモルモン書が貢献しているのです。特に、御父の御姿を示された独り子イエス・キリストを描写したモルモン書の記述が助けになります。

すべての聖文、特に回復された聖文が与えられたことに、深く感謝しています。神会の御三方のすばらしさについて学ぶことができるからです。例えば、高価な真珠に収められている御父についての感動的な記述が世界中に伝えられ、受け入れられたとしたら、わたしたちの胸は喜びに躍ることでしょう。

高価な真珠では、エノクの目の前で天が開け、人類に関する偉大な示現が与えられます。この世の祝福と試練を見せら

れ、御父に目を向けたエノクは、御父が涙しておられることに気づき、息のみめます。驚きと畏れの中で、エノクは宇宙で最も権威ある御方に尋ねます。「どうして泣くことができるのですか。……あなたは公正な御方です。とこしえに憐れみ深く、思いやりの深い御方です。……あなたの御座のある所には、……平安……があります。憐れみはあなたの前を進み、終わりがありません。どうしてあなたは泣くことができるのですか。」

ほとんどの時代に繰り返されてきた、その光景に目をやり、神はこう答えられます。「これらあなたの兄弟たちを見なさい。彼らはわたし自身の手で造られたものである。わたしは……彼らに、……互いに愛し合うように、また父であるわたしを選ぶようにという戒めも与えた。ところが見よ、彼らは愛情がなく、自分の血族を憎んでいる。……それゆえ、これらが苦しむのを見て、どうして天が泣かないということがあろうか。」¹⁰

この感動的な場面は、他のどのような神学上の論文よりも明確に、神の本質を示しています。またこの部分を読むと、モルモン書のオリーブの木のたとえで鮮やかに描写されている場面についてさらに



理解することができます。掘り起こし、肥料と水をやり、下草を刈り、さらに刈り込み、剪定し、植え替え、接ぎ木した後に、果樹園の偉大な主人は鋤と剪定ばさみとを投げ捨てます。そして涙を流し、こう言います。「わたしの果樹園のために、これ以上何ができたであろうか。」¹¹

わたしたちの人生にこれほど心を砕いておられる神の御姿を心からぬぐい去ることができるでしょうか。子供たちが御父を選ばず、御父が送られた「神の福音」¹²に従わないとき、御父の苦悩はこれほど大きいのです。このように深く愛しくださる御方を愛することは、どれほどたやすいことでしょう。

このように愛に満ち、完全である御父を信じる信仰から人は迷い出ました。数世紀にわたるその期間に生み出された偽りの教義は、無論何の役にも立ちませんでした。神とは、知ることのできない、不可解で、実体がなく、感情のない、また捕らえどころのない、どこにも存在すると同時に、どこにも存在しない御方だということです。こういった描写が、預言者に示された神の御姿と一致しないこと

は言うまでもありません。またこれは、過去も現在も「神の栄光の輝きであり、神の本質の真の姿」¹³であり、生きて呼吸しておられるナザレのイエスの御姿ともまるで一致しません。

そういうわけでイエスは、神が人に対して持つておられるイメージを改めるのではなく、人が神に対して抱いているイメージを正すため、またこれまでも、そしてこれからも、常に愛してくださる御父を愛するよう人に説き勧めるために来られたのです。神の計画、力、聖さ、あるいは神の怒りや裁きでさえ、人は理解してきました。しかし、神の愛、御父が子供たちに注いでおられる深い愛については、イエスが来られるまでは、十分に理解していませんでした。

キリストは飢えている人に食べさせ、病人を癒し、偽善者を叱責し、信仰の道を説き勧めることにより、御父がどのような御方であるかを示されたのです。御父はまた、「慈悲と恵みに満ち、怒るに遅く、長く堪え忍び、慈しみ深い」¹⁴御方です。御自身の生涯、中でも特にその死を通して、キリストはこのように宣言

しておられます。「わたしはここに神の哀れみを示す。またこれはわたし自身の哀れみでもある。」完全な御父の愛を、完全な御子が示されました。御二方は人類の罪と心の痛みをともに苦しみ、悲しみをともに悲しまれました。次の言葉から、御二方の真の御姿が分かります。「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。」¹⁵

今日わたしは、御自身の個性を持ち、生きておられる神について、自分自身の証を述べたいと思います。神はわたしたちの名を御存じであり、祈りを聞き、こたえてくださいます。神は霊の子供として人類をとこしえに愛しておられます。信じられないほど困難な問題が山積するのが世の常ではありますが、その中で、何よりもまずわたしたち一人一人の幸福と安全を望んでおられると証します。わたしたちはまさに神の御姿にかたどって造られました。¹⁶そして肉における神の独り子、ナザレのイエスが肉体を得て地上に來られ、神の栄光を完全な形で現されたのです。古代の預言者の証があります。それに加え、現代の人々のために、パルマイラで奇跡が起こりました。父なる神と、その独り子である全人類の救い主が、少年預言者ジョセフ・スミスに御姿を現されたのです。御二方がほんとうに御姿を現されたことを証します。預言者ジョセフ・スミスの言葉を借りて、宣言します。「天の御父は、わたしたちが考えるよりもずっと寛大な物の見方をなさり、御父の憐れみと祝福には限りがない。……神は〔ほんのわずかでさえ〕罪を見過ごしにされることはない。しかし……わたしたちは御父に近づけば近づくほど、打ちひしがれている人々にいたわりの目を向けたいと思うようになる。そして彼らを背負い、その罪を捨て去る助けをしたいと願うようになるのである。」¹⁷

神が、打ちひしがれて苦しんでいる人

を背負ってくださることを証します。聖なる使徒の御霊^{みたま}によって、いにしへの使徒が語った言葉を、わたしも申し上げます。「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。愛する者たちよ。神がこのようにわたしたちを愛して下さったのであるから、わたしたちも互^{たがい}に愛し合うべきである。」¹⁸ そして御父を永遠に愛するべきなのです。イエス・キリストの聖なる御名によって、アーメン。

注

1. マルコ12：29-30。マタイ22：37-38；申命6：5も参照
2. *History of the Church*, 第6巻, 305
3. *Lectures on Faith* (1985年), 38, 42
4. 信仰箇条1：1
5. ヨハネ17：3
6. ヨハネ14：10；5：19
7. ヨハネ8：38, 28；6：38
8. ウィリアム・パークレー, *The Mind of Jesus* (1961年), 特に "Looking at the Cross" の章で論じられている現代の傾向に関する箇所を参照
9. 例として 1ニーファイ10：18；2ニーファイ27：23；モロナイ10：19；教義と聖約20：12
10. モーセ7：29-33, 37
11. モルモン書ヤコブ5：41。5：47, 49も参照
12. ローマ1：1
13. ヘブル1：3。2コリント4：4；コロサイ1：15も参照
14. *Lectures on Faith*, 42
15. ヨハネ3：16-17
16. 創世1：26-27；モーセ2：26-27参照
17. *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, ジョセフ・フィールディング・スミス選 (1976年), 257, 240-241
18. 1ヨハネ4：10-11

回復のメッセージ

七十人

チャールズ・ディディエ

回復のメッセージは、イエス・キリストの福音とその真の教会が、なぜ一人の預言者を通して現代に回復されたかという疑問に答えてくれます。



言葉は、感情や知識、または情報を共有するために用いる伝達方法の一つです。その中に、ある事柄の原因や理由を突き止めるために用いる言葉があります。その言葉を使うことで、好奇心を満足させたり、未知のものを発見したり、現世の生活に関するきわめて重要な問題の答えを見いだしたりします。その言葉を用いなかったり、ないがしろにしたりすると、思考は中断し、無知が蔓延^{まんえん}することになります。では、このなくてはならない言葉とは何でしょう。お分かりになるでしょうか。それは二文字から成る、なぜという言葉です。

なぜという言葉は、子供が早い時期から口にし、10代の若人が特に好んで使う言葉の一つです。孫はよく、「なぜ野菜を食べなくちゃいけないの」と尋ねます。成長していくにつれ、なぜという疑問は

自分の気持ちを深く掘り下げるものとなっていきます。「なぜおばあちゃんは死んでしまったの。」そして知識を求めたり、責任の有無を確認したりする言葉に変わります。「なぜ教会に行ったり、伝道に出たりする必要があるのだろう。なぜ福音を周りの人に伝えるよう命じられているのだろう。」

この最後の質問は答えがいろいろあります。伝道活動はすべての会員の責任でもあり、隣人に、穏やかに、かつ柔和に警告するよう求められています（教義と聖約38：41参照）。なぜでしょうか。それは、キリストのみもとに来るよう招くことで、人々がイエス・キリストの教会で救いの儀式にあずかれるようにするためです（モロナイ10：32参照）。回復のメッセージは、イエス・キリストの福音とその真の教会が、なぜ一人の預言者を通して現代に回復されたかという疑問に答えてくれます。

どうすれば、キリストのみもとに来るよう人々を招くことができるでしょうか。

まず、天の父なる神が生きておられ、わたしたちを愛しておられること、また神が啓示をお与えになることを宣言しなければなりません。どうしたらそれが分かるのでしょうか。啓示と預言者の証^{あかし}によって分かるのです。

宗教の歴史は聖書にさかのぼります。聖書には、神が預言者にお与えになった人類に関する初期の啓示が記されています。人類の始祖アダムとエバの記録に始まり、その創造と墮落^{だらく}、それに伴う死す



べき状態と神の御前からの追放、そして現世での最初の生活が記録されているのです。アダムとエバが抱いた最初の疑問の中には、恐らく「わたしたちはなぜここにいいのか」という問いがあったことでしょう。その答えを見いだすには、真の知識を得るための唯一の源である主の御名を呼び求める以外に方法はありませんでした（創世4：26参照）。直接の啓示により、二人は主の御声を聞き、主なる神を礼拝し、主にささげ物をするよう命じられます（創世4：4；モーセ5：4-5参照）。後に与えられた啓示によって、アダムとエバはそのささげ物が、御父の独り子の犠牲のひながたであることを知りました。また、イエス・キリストの御名が、人類に救いをもたらす唯一の名であることを教えられました。そして、聖霊の賜物が与えられると約束されます。それによって、求めるものは何でも与えられるのです（モーセ5：6-7；6：52参照）。

後に、アダムは聖霊の力により、イエスがキリストであり、世の救い主、贖い主であられるという確かで完全な証を得ます。そして、墮落したアダムとエバの死すべき状態に関する理解が文字どおり回復されます。御父、御子、聖霊と人類

との関係、贖いと復活、さらには救いをもたらす福音の第一の原則と儀式について知らされたのです。

アダムは自分が見聞きしたことによって、地上における最初の預言者、人類に与えられる啓示の最初の個人的な証人と呼ばれます。アダムのおもな責任は、福音の真理を自分に与えられたままの形で教えるだけでなく、真理を擁護することでした。一方、主に反する者を代表するサタンは、啓示によって与えられた福音を人類が否定し、拒否し、なおざりにするよう、ありとあらゆることを実行し、教えようとしてしました。このようにして、一度福音を受け入れた人々を、背教、混乱、離反し、以前培った信仰を放棄するようそそのかしたのです！そして旧約聖書の残りの部分は、絶えざる啓示を記した宗教の歴史となりました。背教に次ぐ背教により失われた真理を回復するために、神権時代と呼ばれる様々な時代に、ノア、アブラハム、モーセといった多くの預言者を通して啓示が与えられたのです。これらの預言者は必ず神から召され、神聖な権能と神権の鍵を与えられていました。そして主の御名によって語り、世の救い主、贖い主であるイエス・キリストの降臨と贖いについて教え預言すると

いう、神聖な任務を授かっていました（アモス3：7参照）。

新約聖書は、旧約聖書の預言者が記した教えや証、預言を確認するものです。そこには、生ける神の御子イエス・キリストの降誕および生涯、務め、そして贖いと復活が記されています。主の教会の設立とその神聖な権能、主の福音および「全世界に出て行って、すべての造られたものに〔主の〕福音を宣べ伝えよ」という弟子たちへの戒めが記されています（マルコ16：15）。

新約聖書のメッセージは明瞭でした。めいりよう「一つであり、キリストの子」となるために（4ニーフай1：17）、一つの群れ、一つの信仰、一つの福音、一つの神権、一つの教会があったのです。

しかしながら、キリストが復活された後の時代に再び迫害が起こり、神の属性が否定され、キリストの福音と神権の権能を有する主の僕が拒絶されました。宗教の歴史をひもとくと、俗世の権能がどれほど早く神権の権能に取って代わるかを知ることができます。神聖な教義がどのように変えられ、ゆがんだ人間の哲学に擦り替えられるのか、救いの儀式がどのように変更され、金銭のために売られるのか、そして啓示がどのようにぼやけた幕と差し替えられ、霊的な暗黒時代へと移行していったのかよく分かります。

しかし、この大背教の間にも、以前から預言されていたように、「なぜこのような現実があるのか」という疑問から、再び宗教の探究が始まります。偉大な信仰を持つ人々が現れ、偽りの教義や宗教の権威を改革しようとします。このような改革者の正直で誠実な努力にもかかわらず、当の改革者の名前や主張を掲げる教会が増加し、結果的には混乱や分派をますます助長することになります。この改革には大切な要素が二つ欠けていました。神が神聖な真理を人類にお教えになる唯一の方法、すなわち啓示と権能が欠けていたのです。

宗教の歴史を足早にたどり続けると、ある年号と名前に行き当たります。1820年のジョセフ・スミスです。当時のひど



総大会の部会で歌声を披露するタバナクル合唱団

い宗教的混乱と教会の分裂について深く思い巡らしながら、この若者は次のように自問します。「もし彼らのうちのどれかが正しいとすれば、それはどれで、どうすればそれが分かるのだろうか。」(ジョセフ・スミス-歴史1:10) なぜこのような混乱があるのだろうか。預言者はいつの時代も神に尋ね求めてきました。人類の疑問に答えるため、神の方法に従い、宗教の歴史が突如として繰り返されることになりました。答えが再び示現という形で与えられ、この若者は父なる神と御子にまみえたのです。父なる神の神聖な証が再度与えられました。「これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい。」(ジョセフ・スミス-歴史1:17) 「すべての教派のうちのどれが正しいか……また自分はどれに加わるべきか」というジョセフ・スミスの疑問は、再び啓

示を通して直接答えられました。「すると、それらのどれにも加わってはならない、すべて間違っているからである、とのお答えであった。」(ジョセフ・スミス-歴史1:18-19) このようにして、背教が起こったことが、真理の源であるイエス・キリスト御自身の口から再び宣言されます。回復が必要でした。そして実際に回復されたのです。

最初の示現に続いて、ジョセフ・スミスは啓示を通して完全な神の教義を知らされ、神権の権能と鍵を与えられます。そしてついに1830年、完全な救いの教義と儀式を有するイエス・キリストの教会が回復されました。ジョセフ・スミスは近代における回復の預言者と呼ばれるようになります。

聖書は、いにしへの預言者に神が啓示を授けられた実際の証拠です。同様に、

イエス・キリストについてのもう一つの証であるモルモン書は、ジョセフ・スミスが過去の預言者と同じく啓示と権能を授かった預言者であることを示す近代の確かな証拠です。モルモン書が真実であるという証は、なぜイエス・キリストの福音と教会が一人の預言者によって回復されたのか、なぜ今日にも生ける預言者、ゴードン・B・ヒンクレーを与えられているのかを知る助けとなります。また、福音のあらゆる儀式が、救いに備え、永遠の家族を築くという現世の目的を果たすうえで、なぜ最大の祝福となるのかという重大な疑問にも答えてくれます。この回復のメッセージは真実です。それは神から与えられたものだからです。

このことを、イエス・キリストの御名により証します。アーメン。

主はわたしたちを 御存じで、 愛しておられます

中央初等協会第一副会長
シドニー・S・レイノルズ

主は一人一人を御存じで、わたしたちがどこにいて、だれがわたしたちの助けを必要としているか知っておられます。



14歳のジョセフ・スミスは、その当時、地上で最も目立たない人の中にいたに違いないのですが、天におられる神はジョセフを御存じで、聖なる森では名前と呼ばれました。同じように、主がわたしの名前や皆さんの名前も御存じであると、わたしは信じています。初等協会では子供たちに、一人一人が神の子であり、天の御父が皆を御存じで、愛しておられると教えています。

初等協会や神権組織の指導者は、子供を名前で呼ぶときに、救い主がされることを示しているのです。イエスはこう言われました。「わたしはよい羊飼ひであって、わたしの羊を知り、わたしの羊はまた、わ

たしを知っている。」¹ 聖文はこのような証あかししています。「彼は自分の羊の名をよんで連れ出す。」²

主はわたしたちがだれであるかだけでなく、どこにいるかも知っておられ、善い行いができるように導いてくださいます。ある日、わたしの知っているある母親は、娘さんに電話するようと強く感じました（そのようなことは母親にいつでも起こります）。まだ日は高く、仕事だったので、そんな時間に電話するのは珍しいことです。驚いたことに、娘さんのご主人が電話に出ました。平日の昼には家にいないはずで、彼は妻に電話を渡して、こう言いました。「いつものように靈感を受けたお母さんからだよ。」

二人は病院から帰ったばかりでした。娘さんは涙声で電話に出て言いました。「超音波で見たら、へその緒が赤ちゃんの首に二重に巻きついているの。すぐに帝王切開するしかないと言われたわ。」そして心配しているほんとうの理由を告げました。「赤ちゃんより重いものを4週間も持ちっちゃんいけないですって。」手術を受ける前に再確認したかったことは、主が自分の必要を御存じで、自分を愛しておられること、そしてまだ赤ちゃんと変わらない3人の子供を家で世話してくれる手伝いが得られることでした。父親と母親が祈り求め、家族が主から祝福されて強めら

れるように願うとき、主はその方法をしばしば示してくださいます。

中央初等協会会長のゲール・クレグ姉妹とご主人は、長年にわたってブラジルに住んでいました。最近、姉妹は初等協会の割り当てで日本を訪問しました。日曜日に礼拝堂に入ると、日本人の聖徒に交じってブラジル人の家族がいるのに気づきました。いかにもブラジル人に見えたそうです。あいさつする時間はわずかでしたが、母親と子供たちがとても熱心であることが分かりました。しかし、父親は言葉少なでした。急いで壇上に案内され、「集会の後で話す機会があるでしょう」と思いました。クレグ姉妹は英語でメッセージを伝えて、通訳者が日本語に訳しました。そのとき、ポルトガル語でも証すべきであると強く感じました。でも躊躇ちゅうちよしました。ポルトガル語の通訳者がいないので、出席者の98パーセントは彼女の話を理解できないからです。

集会の後、あのブラジル人の父親が来て、こう言いました。「姉妹、ここでは習慣が随分違い、わたしはずっと孤独でした。教会に来て何も理解できないのは、つらいことです。家にいて聖典を読んでいる方がいいのではないかと、時々思います。妻に『もう一度だけ教会に行くよ』と言って、これが最後になると思いながら今日来たのです。姉妹がポルトガル語で証されたとき、御霊を心に感じて、ここが自分の所属すべき場所であることが分かりました。神はわたしがここにいてを御存じで、わたしを助けてくださいます。」そしてほかの人と一緒にいすの片付けに加わりました。

初等協会の会長会の中でただ一人ポルトガル語を話せる姉妹が、ポルトガルではなく日本に送られたのは、偶然だったのでしょうか。それとも、彼女でなければできない助けを必要としている人が日本にいて、彼女が勇気を出して御霊の促しに従うことを、主が御存じだったからでしょうか。教会で召しを受けるすばらしい祝福の一つは、わたしたちが仕えるように召されている人々を助けられるように、御霊を通して主から靈感を与えられるこ

となのです。

什分じゅうぶんの一を完全に納めている人は皆、主の祝福がもたらされて、個々の必要が満たされることを証できます。主は、わたしたちが什分の一を納めるならば、「天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐ」と約束されました。³

何年も前に、オーストラリアの鋳物工場で働いていたジョン・オースは、悲惨な事故に遭い、溶けた熱い鉛を顔と体に浴びてしまいました。すぐに手当てを受けて、右目の視力は幾らか回復しましたが、左目は完全に見えなくなりました。そして目が不自由になったために、職を失いました。奥さんの実家で雇ってもらおうとしましたが、不景気のために実家の仕事もだめになりました。ジョンは食費や家賃を賄うために、日雇いの仕事や施しを求めて一軒一軒回るしかありませんでした。

1年間、まったく什分の一を納めなかった彼は、支部長に相談に行きました。支部長は状況を理解しましたが、什分の一を納める方法が見つかるよう、断食して祈るように勧めました。ジョンと奥さんのアリスは断食して祈り、二人の持ち物で値打ちがあるのは、今より幸せな時期に購入した、アリスの美しい婚約指輪だけであると思いました。悩み抜いた挙げ句、二人は質屋に指輪を持って行くことにしました。そして、その指輪が什分の一を納め負債を済ますだけの金額になることを知りました。次の日曜日に、ジョンは支部長に会って什分の一を納めました。支部長室を出ると、偶然そこで伝道部長に会いました。伝道部長は彼の目の異常に気づきました。

現在アデレードで監督の責任を受けている、オース兄弟の息子さんが、後にこのように記しています。「〔伝道部長〕はよくドクター・リーズと呼ばれていたので、眼科医であったと思います。伝道部長は父に話しかけ、目の検査をして、視力が戻るようにあれこれと勧めてくれました。父はその助言に従い……その結果、視力が左目は15パーセント、右目は95パーセント回復し、眼鏡をかけることで再び見えるようになりました。』⁴ 視力が回復したジョ



ンは、二度と失業することはありませんでした。そして買い戻した指輪が今では家の宝になり、ジョンは生涯什分の一を完全に納めました。主はジョン・オースを知っておられ、助ける方法を御存じだったのです。

「ドクター・リーズ」は、わたしの母の父親でした。祖父はあの日に起きていた奇跡について知ることはなかったでしょう。世代を超えた人たちが祝福を受けたのは、ある家族が困難にもかかわらず、什分の一を納める決心をしたからです。そして「たまたま」そこにいた、「たまたま」眼科医であった人に会って、家族の生活に大きな変化が生まれたからです。単なる偶然だと考えようとする人がいるかもしれませんが、わたしはすずめが地に落

ちることですら主は御存じである⁵と確信しています。

わたしたち家族は、この話を2年前まで知りませんでした。祖父について知っていることは、祖父が主を愛し、生涯主に仕えようとしていたことです。そしてわたしたちが主について知っていることは、主が一人一人を御存じで、わたしたちがどこにいて、だれがわたしたちの助けを必要としているか知っておられるということです。

心から主を愛し、主を知っている教会員が、道を求めてもがいている若人にこのように話しかけているのを目にしました。「神様はあなたを愛しておられます。成功してほしいと願っていらっしゃいます。祝福を与えたいと心から望んでいら

っしゃるのです。」また、嘆き悲しむ友人に証する言葉を耳にしました。「来世はあるのよ。お子さんはまだ生きているわ。また会って、一緒に暮らせるための方法があるの。」また、落胆している若い母親に話しかける多くの会員を見てきました。「お手伝いさせてください。あなたがしていることは、世界でいちばん大切なことなのですよ。」皆さんが手を差し伸べる人々は、皆さんの愛に気づくだけでなく、皆さんの言葉が真理であると主の御霊が証するとき、主の愛と力も感じるのです。

だれがキリストの愛からわたしたちを離れさせるのでしょうか。わたしはパウロと同じように、^{かんなん}艱難も、生も、死も、ほかのあらゆる状況も、主の愛からわたしたちを引き離す力を持たないと確信しています。⁶

救い主はわたしたち一人一人のために命をささげてくださいました。主はわたしたちの喜びや悲しみを御存じです。わたしの名前も皆さんの名前も知っておられます。バプテスマによって主と聖約を交わすとき、主の戒めを守り、いつも主を覚え、進んで主の御名^{みな}を受けると約束します。最終的にわたしたちは主の御名で呼ばれることを望んでいます。なぜなら「全能の主であるキリストの御名のほか、またその御名を通じてでなければ、どのような名も道も方法も、人の子らに救いをもたらすことはできない」⁷ からです。主が生きておられ、わたしたちを愛しておられること、そして主のみもとに来るように一人一人を名前で呼んでおられることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. ヨハネ10:14
2. ヨハネ10:3
3. マラキ3:10参照
4. J・オースの書簡, 2001年12月13日付
5. マタイ10:29参照
6. ローマ8:35-39参照
7. モーサヤ3:17

3つの選び

十二使徒定員会

ジョセフ・B・ワースリン

わたしの自己改善プログラムをご紹介します。これは3つのステップから成っていて、わたしにはとても効果がありました。



最近わたしは、数多くの自己改善プログラムが周囲にあることに気づきました。よほど需要があるのでしょう。テレビやラジオをつける度に、様々な製品の広告が絶えず流れてきます。減量から増毛に至るまで、あらゆる効果が約束されているのを見たり聞いたりすると、そういった製品を作る人は、わたしのことを個人的に知っているのではないだろうかと考えるときがあります。

今日は、わたしの自己改善プログラムをご紹介します。これは3つのステップから成っていて、わたしにはとても効果がありましたし、きっと皆さんの助けにもなると確信しています。何よりもいいことに、この自己改善プログラムは無料です。クレジットカードを取り出す必要もありませんし、テレビ画面に、フリーダイヤルの番号と「あと5分で、一生に一度のチャンスを逃してしまいます」という言葉が

突然現れることもありません。

恐らく、この原則をお伝えするには、たとえを使うのがいちばんでしょう。

ジョンという名の若者がいました。まだ若いにもかかわらず大変な苦しみと悲しみを経験していました。住む家を失い、アルコールや薬物の中毒になったジョンは、重い病気にかかり、人生に疲れ切っていました。病気と絶望の淵^{ふち}に落ちていくにつれ、もしもすぐに生活を変えなければ、孤独で惨めで無益な最期を迎えるであろう自分の姿がまざまざと胸に迫ってきました。

幼いころ何度か初等協会に通ったことがあったためか、ジョンは近くの教会に行き、監督に会ってもらうことにしました。

「わたしは人生を台なしにしてしまいました。」傷ついた心の底からわき出る苦しみの涙にむせびながら、ジョンは話し始めました。自分の犯した過ちと、たどってきた破滅と不幸の道について話したのです。

監督は、悲しい物語を聞きながら、ジョンがほんとうに悔い改めて生活を変えたいと思っているのを感じ取りました。しかし同時に、ジョンには自分が変われるという自信がほとんどないことも感じました。

監督は話すべきことを少し考えてから、顔を上げると次のように言いました。「ジョン、わたしはこれまでの人生で3つの選択をしてきた。わたしにとって価値ある選択だ。きっと君にも助けになると思うよ。」

「どうか教えてください。」ジョンは嘆願しました。「何でもやります。もう一度やり直したいんです。前の自分に戻りたいん



です。」

監督はほほえんで言いました。「まず君に必要なのは、過去に戻ってやり直すことはできないと理解することだ。でも、すべてをなくしたわけじゃない。今いるところから始めることはできる。今、悔い改めを始めることを選ぶんだ。」

程度の差こそあれ、わたしたちは皆ジョンと似ています。間違いを犯します。でも、もう一度過去に戻ってやり直したいと、どんなに切に望んだとしても不可能です。しかし、悔い改めて、今いるところから始めることはできます。

モルモン書の中に、息子アルマの物語があります。偉大な預言者の息子でしたが、父に背き、邪悪な道を選びました。しかしアルマは、天使の訪れにより地に倒れ、口が利けなくなってからは、悔い改め、残りの人生をかけて、それまで自分が与えた悪影響を償いました。その結果、何千という人々の人生を祝福し、豊かにしました。アルマは、過去の過ちのために罪に定められるとは思いませんでした。過去を消し去ることはできないと分かっていたのですが、自分には悔い改める力があること、今いるところから新たに始められることも理解していました。

では、どうやって悔い改めを始めればよいのでしょうか。

まずは過ちを認め、悔い改めようと決意することです。さらに良くなろう、もっと気高く、思いやり深い生活をし、もっと救い主のようになるために毎日努力しようと、今日、この日に決意するのです。

人の行く末や最終的な結果は、その人の日々の選びにかかっています。

このことを知っていた偉大な旧約の預言者ヨシュアは次のように言いました。「あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい。ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。」¹

ヨシュアは、さらに義にかなった者になろうと、即座に決心することがいかに重要かを知っていました。わたしたちも、今、決心しなければなりません。わたしたちの人生は後悔と絶望に満ちたものになるのでしょうか。それとも悔い改めて、日々、価値ある意義深い人生となるよう努力するのでしょうか。

明日の喜びまたは明日の絶望は、今日する決意に根ざしています。恐らく、次のように考える人もいるでしょう。「自分の生活でいろいろと変えなければならないことは分かっている。でも、もう少し後に

しよう。今すぐにはなく。」

生活を変えるべき時を常に待ちながら、ためらい、足踏みしている人は、水の流れが途切れたら乾いた底を渡ろうと、川岸で待っている人に似ています。

今日は選びの日です。

ジョンは監督の言葉を聞いて、そのとおりにすると約束しました。中毒症状に苦しんでいた彼は、悔い改めて健康状態を改善する必要があると悟りました。施設に入り、回復のための長い道のりを歩み始めました。栄養のある食事を取るようになり、ウォーキングや運動も始めました。

数週間が過ぎ、ジョンは中毒症状から解放されました。自分の健康が次第に改善し、体力もついてきたのを実感しました。でも、まだ心は満たされませんでした。圧倒され落胆してしまうほど、彼の生活には改善すべきことがたくさんありました。

そこでもう一度、監督と面接をしてもらいました。

ジョンはこのとき二つ目の選びについて教わりました。監督は言いました。「ジョン、もし一度に完全になろうとしたら、それはとても大変だよ。最も大切な事柄を選ぶようになる必要がある。最も大切な事柄を最初に行うことだ。」

ほとんどの場合、人はゆっくり、一歩ずつ成長するものです。楽器をマスターする、優秀なスポーツ選手になる、ジェット機を操縦するといった事柄に関しては、これは当然のことと理解していますが、こと自分の生活になると、すべてにおいて期待どおりに成長できないと、自分を赦せなくなってしまうがちです。

偉大な彫刻家や芸術家は、才能を伸ばし完成させるために膨大な時間を費やします。のみや筆やパレットを持つだけで、すぐに才能を完璧の域にまで伸ばせるとは期待しません。習得していく中でたくさんの方の間違いをすることを承知していますが、まずは基本的な事柄、最も重要な基礎から始めます。

わたしたちにも同じことが言えます。同じような方法で、すなわち、最も大切なことを最初に行うことで、人生の達人となっていくのです。わたしたちは皆、最も大切な選びとは何かを知っています。それは、生活を改善し、さらに大きな幸福と平安をもたらすような選びです。そこから始めなければなりません。そのことに最大の努力をする必要があります。

毎晩わたしは、寝る前に小さなカードを取り出して、翌日しなければならないことを大切な順に書き出します。

朝、オフィスに着くとカードをチェックし、リストのいちばん上の事柄を果たすために全力を尽くします。それを達成した後は、2番目に移ります。リストに書いたことを全部やり終える日もあれば、幾つかやり残す日もあります。でも、落胆はしません。なぜなら、最も大切なことにエネルギーを注いでいるからです。

ジョンは、自分の生活の悪いところを一度に全部は直せないけれど、最も大切な事柄を選ぶことはできる、ということを理解し始めました。ジョンは最も大切な事柄に集中できるようになり、やがて生活は改善し始めました。

長老定員会会長の助けを得て、ジョンは住む場所を見つけることができました。自活していく方法を探さなければならなかった彼は、健康状態と生活態度が良くなると、パートタイムの仕事を見つけ



ました。

毎晩寝る前に、翌日なすべき最も大切な事柄のリストを書き出しました。

やがて、安定した収入を得るようになりました。もっと快適な場所に引っ越し、車も買いました。自分の生活や方向性に対して以前よりも自信を持てるようになりましたが、それでもまだ何か欠けていると感じていました。

そこでジョンは、監督と3度目の面接をしてもらいました。

監督はこう言いました。「心が満たされないのは、君がまだ3つ目の選びをしていないからだよ。」

ジョンは、それは何であるかを尋ねました。

「毎日何かを選び、決心してそれを行うだけでは、十分ではないんだ」と監督は言いました。「実り多い仕事をして、たくさんの方のことを達成しても、心は満たされていない人が多くいる。そして、人生の最後に、自分の人生は何の意味もなかったと嘆くんだ。」

それはまさに、ジョンが感じていたことでした。

監督は続けて言いました。「何かをするだけでは足りない。正しいこと、つまり、天の御父が望んでおられることを行う必要があるんだよ。」

「どうしたら、何が正しいことが分かりますか。」ジョンは尋ねました。

監督はほほえむと、机の中から聖典を取り出しました。革表紙は擦り切れ、しわが寄っていました。金色の縁も擦り減っていました。

「聖典と末日の預言者の言葉を通して知ることだよ」と監督は答えました。「これこそ、『正しいこと』なんだ。天の御父の戒めは、わたしたちを束縛する厳しいものだと考える人がある。でもほんとうは、幸福への手引き書なんだよ。天の御父の計画は、人が平安と幸福を得るのを助けてくれるものだ。イエス・キリストの福音は、原則や教義や戒めなど、どれを取ってみても、御父の計画の大切な要素なんだよ。」

監督はモルモン書を開き、ベニヤミン王の言葉を読みました。「神の戒めを守る者の祝福された幸福な状態について……考えてほしい。見よ、これらの者は物質的にも霊的にも、すべてのことについて祝福を受ける。そして、もし最後まで忠実であり続けるならば、彼らは天に迎えられ、決して終わりのない幸福な状態で神とともに住めるのである。」²

監督の話聞きながら、ジョンは、自分自身の人生を振り返り、こう思いました。「自分がこれまで手に入れてきたものは、幸福をもたらしてはくれなかった。きっと、監督の言うことは真実だ。幸福はきっと、天の御父の戒めに添った生活から得られるんだ。」

「救い主の言葉を忘れないでほしい。」監督は、ジョンが考えていたことを見抜いたかのように、こう言いました。「人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか。」³

その日の夜、ジョンは、神の御言葉である聖典を開き、天の御父の戒めと教義を学ぼうと決心しました。以前のように主の御言葉を拒むことはなく、胸に抱くように大切に味わうようになりました。そうしていくうちに、心の中の空虚な気持ちは薄らぎ、その代わり徐々に、人知ではとうてい計り知ることのできない喜びと平安を見いだすようになりました。

監督から受けた教えで、ほんとうにジョンの人生は変わりました。墮落し、悲しみに満ち、死にかけていた彼が、今はいきいきと輝き、活力と喜びにあふれるようになったのです。

兄弟姉妹の皆さん、愛に満ちた天の御父は、平安と幸福への道を教えるために

聖典を与えてくださいました。今日のわたしたちには、喜ぶべき理由があります。それは、御子がわたしたちすべてに語りかけてくださるということです。主は、天において、だれも入ることのできない壁に囲まれた場所に、静かに座っておられるではありません。主は、天の御父の指示の下に、聖任された僕たちに導きを与えておられます。そして今この瞬間にも、預言者であるゴードン・B・ヒンクレー大管長が、地上における主の神聖な業を導いているのです。

それに加えて、キリストの光は、すべての人を天の御父とその真理に導きます。主を愛し、隣人を愛するように教えてくださいます。

なぜなら、「善悪をわきまえることができるように、すべての人にキリストの御霊が与えられている……」⁴ からです。

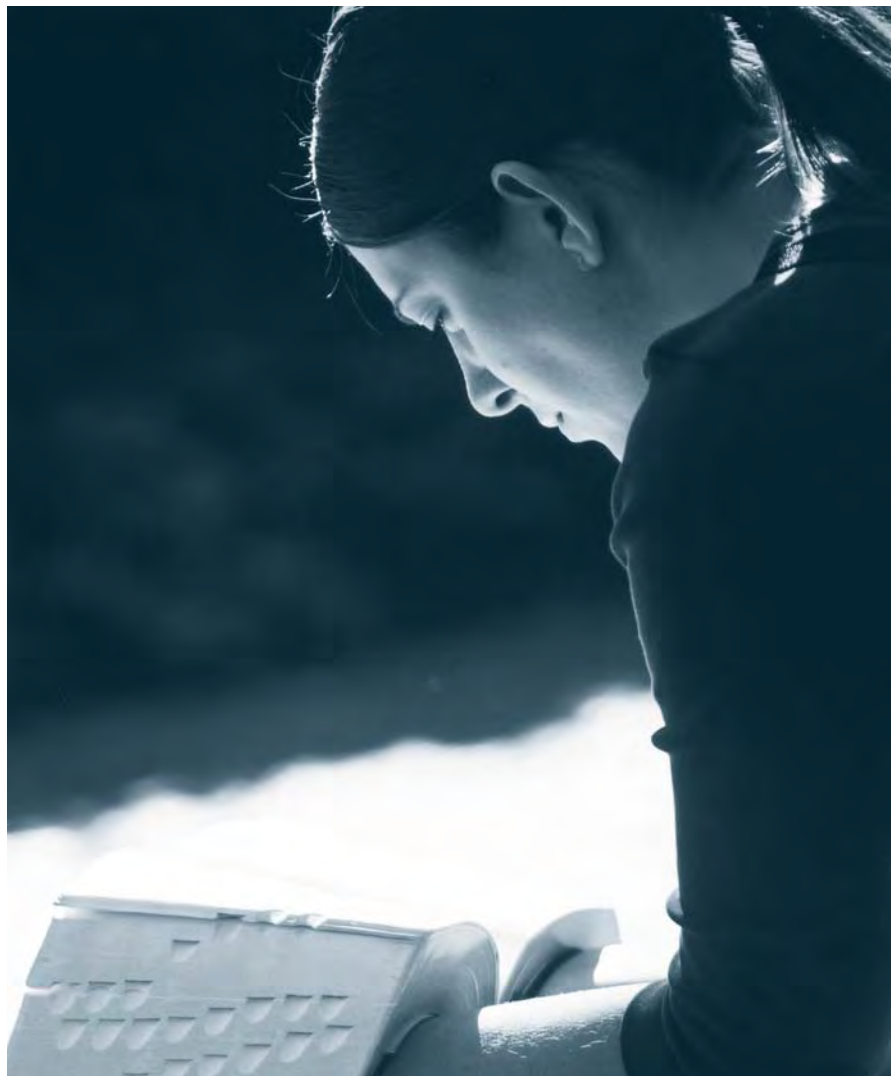
主の道を選ばないことについては、どんな言い訳も通用しません。主は裁きの日に、わたしたちが築いた富や人から受けた評判に対して、ほんの少しでも心にかけられるでしょうか。主は、みもとに来て、御自身に学ぶようにわたしたちに望んでおられます。そして、キリストの純粋な愛を見いだすようにと願っておられます。その愛は、主の御言葉を受け入れ、主の戒めに従順であることを通して得られるものです。

これこそ、わたしたちの生活から空虚な気持ちを取り除く方法です。言葉に尽くせない喜びで、心を満たすための方法なのです。

皆さんも、これまで自分なりの様々な選択をしながら、無事に人生を歩んできたことと思いますが、もう一度この3つの選びについて申し上げますので、よく考えていただきたいと思います。

第1に、今、悔い改めの道を歩むことを選んでください。遅らせてはなりません。集会に出席し、喜んで教会の責任を果たしてください。福音の原則を学び、生活に応用してください。神殿に入れるように、今、始めてください。

第2に、最も大切な事柄を選んでください。家族を最優先しましょう。意義のあ



る家庭の夕べを開いてください。家族と過ごす時間を、家族がいかに大切であるかを示すような時間にしてください。家族を大切にはぐくみ、忙しいスケジュールやストレスのために、皆さんと愛する家族の間に問題を引き起こすことのないようにしてください。

毎日、主の戒めにさらに従順になるように努力しましょう。

第3に、正しいことを選んでください。聖典と今日の預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長の言葉を研究してください。神聖な教えを生活の中で生かしてください。悲しむ人や孤独な人、病気の人や助けの要る人に手を差し伸べましょう。人の苦しみを和らげ、自立を助けるために、自分にできることをしましょう。そのようにするとき、主は喜んでくださいます。

兄弟姉妹の皆さん、わたしは天の御父

とその愛する御子が生きておられることを知っています。ジョセフ・スミスがこの時満ちる神権時代に、主の教会を組織するために立てられたことを知っています。わたしはイエス・キリストの特別な証人として、救い主が人のために命をささげられたことを知っています。主の贖いを通して、人類は悔い改めて罪から清められることを知っています。わたしたちは天の御父のみもとに帰り、救い主の最後の犠牲の価値を知ることでしょう。このことを主イエス・キリストの御名によって証いたします。アーメン。

注

1. ヨシュア24:15
2. モーサヤ2:41
3. マルコ8:36
4. モロナイ7:16

国民の旗, 世の光

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

もし……国民の旗, 世の光と〔な〕るのであれば, わたしたち一人一人が各自の状況の中で, キリストの生涯にきらめく輝きをいっそう身に受けなければなりません。



愛 する兄弟姉妹, 皆さんが信仰と祈りをもって支持してくださることに感謝しています。主はこの教会の指導者に重大で厳粛な義務を課しておられますが, 皆さんはその責任を支えてくださっています。わたしたちは皆さんがわたしたちのために祈ってくださっていることを知っており, わたしたちが皆さんのために祈っていることを知っていただきたいと思います。

わたしは忠実な末日聖徒について主に感謝しない日は一日もありません。皆さんがどこにいて何を必要としてようと, 主が皆さんを祝福してくださるように祈らない日は一日もありません。

わたしたちは皆一緒に働いていることを忘れないでください。こちらに中央幹部がいて, あちらに教会員がいるということではありません。大いなる大義にあっ

て一つとなって働いています。皆イエス・キリストの教会の会員なのです。

わたしが自分の責任の内に重大な義務を負っているのと同様, 皆さんも自分の責任の内に重大な義務を負っています。わたしたち一人一人が, 地上に神の王国を築き, 義の業を推し進める決意をしなければなりません。

この業に関して, わたしたちにはそれを成し遂げることに以外に何ら利己的な望みはないと, 正直に申し上げることができます。

わたしたち大管長会は, 絶えず非常に様々な問題に取り組んでいます。課題は毎日わたしたちのもとにやって来ます。

特に難しい問題を抱えていたある一日の終わりに, わたしは自分の部屋に掛けてあるブリガム・ヤングの肖像画を見上げると, こう尋ねました。「ブリガム兄弟, わたしたちはどうするべきでしょうか。」わたしには彼が少しほえんだように見え, 次にこう言っているように思えました。「わたしは自分の時代に十分問題を抱えていました。どうするべきかわたしに尋ねないでください。今はあなたの担当です。主に尋ねなさい。確かに主の業なのですから。」これこそわたしたちのすることであり, 常になさなければならないことです。

そのつらかった日にこうしたことを深く考えながら, わたしは聖書を開き, ヨシヤ記の第1章から次の言葉を読みました。

「わたしはあなたに命じたではないか。強く, また雄々しくあれ。……あなたの神, 主が共におられるゆえ, 恐れてはならな

い, おののいてはならない。」(ヨシヤ 1:9)

わたしは心にこう思いました。「絶望する理由など何一つない。これは神の業なのだ。敵対するあらゆる人の努力にもかかわらず, この業は天の神が計画されたように前進するだろう。」

続いて, 旧約聖書のイザヤ書第2章を開き, 次の言葉を読みました。

「終りの日に次のことが起る。主の家の山は, もろもろの山のかしらとして堅く立ち, もろもろの峰よりも高くそびえ, すべて国はこれに流れてき,

多くの民は来て言う, 『さあ, われわれは主の山に登り, ヤコブの神の家へ行こう。彼はその道をわれわれに教えられる, われわれはその道に歩もう』と。律法はシオンから出, 主の言葉はエルサレムから出るからである。」(イザヤ2:2-3)

ソルトレーク神殿が奉獻されて以来, わたしたちは, ミカ書でも繰り返されているこのイザヤ書の聖句(ミカ4:1-2参照)を, この神聖な主の宮に当てはまるものと解釈しています。そしてこの場所について, 奉獻の日以来, 世界中の人が実際にこう言っています。「さあ, われわれは主の山に登り, ヤコブの神の家に行こう。彼はその道をわれわれに教えられる, われわれはその道に歩もう。」そう語る人の数はとどまるところを知りません。

もろもろの国民の旗, 世の光となることこそ, この教会の使命であると, わたしは信じ^{あかし}証します。わたしたちは大いなる, あらゆるものを包括した命令を受けており, それは身を引くことも, 顔を背けることもできないものです。わたしたちはその命令を受け入れ, 果たす決意をしており, 神の助けを受けて成し遂げます。

周囲はその取り組みを阻止しようとする様々な力であふれています。この世の影響力は絶えず押し寄せて来ます。あらゆる方面から, ここにも少し, そこにも少し, 決意を緩め, 抵抗をやめるようにという圧力が感じられます。決して目標を見失ってははいけません。主が掲げてくださっている目標を常に思い起こさなければなりません。



パウロの言葉を引用しましょう。

「最後に言う。主にあつて、その偉大な力によって、強くなりなさい。

悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。

わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。」(エペソ6:10-12)

断固とした態度で立たなければなりません。世に抵抗しなければなりません。そうするなら、全能者がわたしたちの強さとなり、守りとなり、導きと啓示を与えてくださるでしょう。自分は主の望まれることを行っていると知って、慰めを受けるでしょう。賛同しない人がいるかもしれませんが、そのような人もきっとわたしたちに敬意を払うことでしょう。わたしたちは、一人残されることはありません。信仰は異なっても、同じ気持ちを抱く人は大勢います。彼らはわたしたちを支援してくれるでしょう。わたしたちの取り組みを支えてくれるでしょう。

尊大であってはいけません。独善的で

あってはいけません。主がわたしたちを置いておられるまさにその状況が、主の指示を受ける者として謙遜であるようにわたしたちに求めています。

同意できない事柄は確かにあるでしょうが、わたしたちは決してつきあいづらい者になってはいけません。友好的で、穏やかに語り、人づきあいが良く、相手の気持ちを理解する者でなければなりません。

今大会ですでに採り上げたテーマをここでもう一度強調いたします。わたしたちの若人、この時代の栄えある青少年に申し上げます。どうか忠実であってください。信仰から離れないでください。正しいと知っていることは、断固として譲らないでください。

皆さんは恐ろしいほどの誘惑に直面しています。その誘惑は、人気のあるエンターテインメントの会場やインターネット、映画、テレビ、低俗な文学作品、その他の方法で皆さんを襲い、巧妙で、性的な刺激を伴う、抵抗し難いものです。友人からのプレッシャーは耐えられないほど強いかもしれません。それでも、友である

愛する若人の皆さん、戦いをやめてはいけません。強くなければなりません。目の前にある魅力的な誘惑に屈するのではなく、将来的に最も価値のあるものに目を向けなければなりません。

だらしな^{かつこう}い格好をした芸能人が、わたしたちの若人を大勢引きつけています。高額な入場料で富を得ています。彼らの歌は、その非常に多くが扇情的です。

ポルノグラフィーはあらゆるところで魅力的な誘いをかけてきます。そうした誘いを避けなければなりません。ポルノグラフィーは皆さんを奴隷にします。皆さんを滅ぼします。それが何であるかを理解してください。——見る人を犠牲にして富を得る人々が作ってばらまいている、下品で低俗なものなのです。

性の神聖さは、メディアにおけるみだらな描写の中で完全に破壊されています。本質的に美しいものが、世間一般の表現の中で腐敗してしまっています。わたしはここソルトレーク・シティにある教会所有のテレビ局がみだらなネットワーク番組の放送を拒否したことを知ってうれしく思



いました。また、ほかにこのネットワークに所属する局で唯一放送を中止したのが、ノートルダム大学のあるインディアナ州サウスベンドの局だったのも興味深いことです。この問題に対して同じように強い抵抗感を抱き、喜んで行動を起こす人々がほかにもいると知ることは、励みになります。

人生はメディアで非常に頻繁に描写されているものよりも、もっとすばらしいものです。人の本質はもっとすばらしいものです。愛はもっとすばらしいものです。このたぐいの娯楽は、善と美を悪意をもってゆがめたものにすぎません。

今日わたしの話を聞いている若い男性と女性の皆さん、様々なキャンパスの大学生の皆さん、キャンパスにおける大きな問題の一つが過度の飲酒であることを理解してください。酒は能力を奪います。人生を破壊します。金銭と時間と建設的な努力を無駄にします。聡明な若人が過度の飲酒で自身を傷つけ、チャンスを台なしにするのを見るのは、何と悲しいことでしょう。

『プリンストン・レビュー』(Princeton Review) 誌がブリガム・ヤング大学の学生を全米で最も「完全にしらふな」学生であると認めたことは、すばらしい賛辞でした。もちろん、皆さんのほとんどはブリガム・ヤング大学に行くことはできませんが、どこにしようとブリガム・ヤング大学キャンパスで求められるのと同じ標準で生活することができます。

最近『ニュー・エラ』(New Era) 誌で、

テネシー州メンフィスの若い末日聖徒について読みました。時に彼らはキャンパスで唯一の末日聖徒となることがあります。一人は次のように言っていました。「わたしは学校で唯一の会員かもしれませんが、……たとえ物理的に一人のときでも、霊的には決して一人ではありません。」(アライアン・B・コープ "Smiling in Memphis" New Era, 2003年10月号, 23-24)

こう言っている人もいます。「自分は福音が真実であることをほんとうに知っているのだろうかと思っている10代の人たちが大勢います。でも……ここでは毎日人に尋ねられますから、福音が真実かどうかを自分で知っていなければなりません。質問に答えるときにはいつでも、証を分かち合うことになるからです。」(New Era, 2003年10月号, 25)

この大都市に散っているこれらの若人は、一つになること、互いに支え合うことをすでに身に付けているのです。

友である愛する若人の皆さんを神が祝福してくださいように。皆さんはこれまでで最もすばらしい世代です。福音をよりよく知っています。自分の義務をより忠実に果たしています。出遭う誘惑に立ち向かう、より強い力を持っています。自分の標準に従って生活してください。主の導きと守りを祈り求めてください。主は皆さんを決して一人にはされず、慰め、支えてくださるでしょう。祝福し、強め、皆さんの報いを甘く美しいものとしてくださるでしょう。そして皆さんは、人が皆さ

んの模範に引きつけられ、その強さから勇気を得ることに気づくでしょう。

成人の皆さんも若人と同じです。もしこの教会を国民の旗、世の光として掲げるのであれば、わたしたち一人一人が各自の状況の中で、キリストの生涯にきらめく輝きをいっそう身に受けなければなりません。義の側に立つとき、結果を恐れてはなりません。決して臆(おく)してはなりません。パウロはテモテにこう言っています。

「というのは、神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。

だから、あなたは、わたしたちの主のあかしをすること……を、決して恥ずかしく思ってはならない。」(2テモテ1:7-8)

はっきりと申しますが、この教会は、交際を楽しむために集まる社会組織をはるかに超えたものです。日曜学校や扶助協会、神権会の集会以上のものです。聖餐会や、さらには神殿での礼拝以上のものです。この教会は地上における神の王国なのです。わたしたちにはその王国の会員としてふさわしい行動をする責任があります。

神権を持つ男性の皆さんには、そのような途方もない責任があります。この世の官能的な誘惑を避けなければなりません。それらを超越しなければなりません。神の神権へのふさわしさを保たなければなりません。あらゆる形の悪を避け、善良さと品位を身に付け、行いを通じて、光すなわち神の光を輝かせなければなりません。

男性が家庭にあって、人の気持ちを理解でき力になれる夫や父親でないなら、家庭が平安な避け所となることは決してありません。家庭で得る強さによって、人はこの世によりうまく対処し、自分の住む社会でより喜ばれる者となり、雇用者にとってより価値のある者となることができます。つまり、より良い人となれるのです。

わたしはそのような人をたくさん知っています。彼らが自分の妻や子供たちを愛していることははっきりと分かります。妻子を誇りに思っています。そして驚くべきことは、自分の選んだ職業ですばらしい

成功を収めていることです。称賛と名誉と尊敬を受けています。

そして女性の皆さん、わたしは1週間前に扶助協会の女性に向けて長い話をしました。その話は皆さんに関するわたしの心からの思いを表しています。皆さんもキリストの輝きを身に付けることができます。強く美しく、人を励まし助ける者となります。

皆さん全員に、わたしたちが末日聖徒であることを思い起こしていただきたいと思います。わたしたちは天の御父と神聖で拘束力のある聖約を交わしています。もし聖約を守るならば、聖約はわたしたちをより良い父親や母親、より良い息子や娘にしてくれるでしょう。

そうすれば、人が周囲に集まって来るでしょう。わたしたちは真理と善の側に立つことができます。一人で立つことはありません。さらに、目には見えない天の力が支えてくれるでしょう。

再び旧約聖書に戻って読んでみましょう。

「神の人の召使が朝早く起きて出て見ると、軍勢が馬と戦車をもって町を囲んでいた、その若者はエリシャに言った、『ああ、わが主よ、わたしたちはどうしましょうか。』」

エリシャは言った、『恐れることはない。われわれと共にいる者は彼らと共にいる者よりも多いのだから。』

そしてエリシャが祈って『主よ、どうぞ、彼の目を開いて見させてください』と言うと、主はその若者の目を開かれたので、彼が見ると、火の馬と火の戦車が山に満ちてエリシャのまわりにあった。」(列王下 6:15-17)

主は次のように言うておられます。

「それゆえ、小さい群れよ、恐れてはならない。善を行いなさい。この世と地獄をあなたがたに対して連合させなさい。あなたがたがわたしの岩の上に建てられるならば、それらは打ち勝つことができないからである。……」

あらゆる思いの中でわたしを仰ぎ見なさい。疑ってはならない。恐れてはならない。」(教義と聖約6:34, 36) イエス・キリストの御名によって、アーメン。

神がこれまでに啓示されたすべてのことを信じる

十二使徒定員会
L・トム・ペリー

神は引き続き御自身の御心^{みこころ}を人類にお示しになります。それは権能を持つ御自分^{しもべ}の僕たちを地上に置かれていた、これまでのあらゆる時代と同じです。



「わたしたちは、神がこれまでに啓示されたすべてのこと、神が今啓示されるすべてのことを信じる。またわたしたちは、神がこの後も、神の王国に関する多くの偉大で重要なことを啓示されると信じる。」¹

天は閉ざされていないことを世界に宣言します。神は引き続き御自身の御心を人類にお示しになります。それは権能を持つ御自分の僕たちを地上に置かれていた、これまでのあらゆる時代と同じです。御父のすべての子供たちは、この事実をよく知っているはずで、聖典に数々の証拠が記されているからです。

神が御自身の御心を伝えられることを啓示と呼ぶことがあります。また同じことを指して靈感と呼ぶこともあります。しか

しながら、啓示という言葉にはもっと幅広い意味があります。靈感は、啓示と同じものと考えられますが、啓示には、示現や夢、語られた言葉、またそのほかの霊的な現れも含まれるのです。タルメージ長老はこう説明しました。

「啓示という言葉には、天からの交通によって神の真理を知らせるという意味があります。……」

靈感という言葉は、啓示とほとんど同じ意味に使われることがありますが、その起源および初期の使い方から言って、もともと特別な意味がありました。靈感を受けるとは、御霊^{みたま}によって鼓舞されることを意味します。人は自分以外のある力に作用されるときに靈感を受けます。神の靈感とは、啓示……よりも低度にあるいは少なく集約された霊の力が直接作用することであると考えられます。……従って、靈感と啓示の違いは、種類よりもむしろ程度の差であるといえます。」²

主が御自身の御心を人類に示される方法には秩序があります。わたしたちは皆、自らが管理する範囲において、主に願って啓示を受ける権利があります。親は自分の家族のために、監督はゆだねられた人々のために、そして大管長会は、教会全体のために啓示を受けることができます。しかし、わたしたちはほかの人が管理する事柄のために啓示を受けることはできません。預言者ジョセフ・スミスはこう述べています。



「教会のいかなる会員であっても、あるいはいかなる人であっても、自分よりも高い権能を持つ人々のために指示を受けることは、神の摂理に反します。」³

「教会に対する神の思いと御心の啓示は、大管長会を通して来ることになっています。これが天の秩序であり、この神権の力と特権なのです。またこの教会では、どの役員も、教会におけるその人の召しと職務の範囲で啓示を受ける特権があります。」⁴

人生の指針として主がお与えになった教えに一致した生活をするならば、主の御霊をさらに受けられるようになります。主から導きを求める人は、導きを受けるにふさわしくなければなりません。主が御自分の子供たちに示された標準に従った生活を送らなければなりません。神とすべての人に対して立派な生活を送る必要があるのです。また聖典や預言者の教え、そして教会の秩序とも一致していな

ければなりません。

私腹を肥やすために、啓示を受けたと偽る人がいるかもしれません。また、教会は預言者によって導かれているのとは逆の方向に進むべきだという導きを受けたと言う人もいるかもしれません。そのような主張は、神の靈感によるものではないということが即座に分かります。

何百万もの人々が神と救い主、また預言者ジョセフ・スミスの召しについて同じ証^{あかし}を持っているという事実には、大変な強さと力があります。わたしたちは、何も考えず、ただ従順になるよう求められたことはありません。むしろこの教会の会員を特徴づけるものは、聡明な従順さなのです。

ブリガム・ヤングが最も恐れていたことは、教会員がまず祈って自分自身で同じ証を得る前に、彼の言葉を神の思いと望みであると思いつくことであつたと言われています。⁵

主は王国を地上にお立てになるに当た

り、御自分の子供たちを治める基本原則と律法を示されました。これらの律法と原則に従うならば、主が授けると約束された祝福が与えられます。そして背くならば、主の裁きを受けることになるのです。

人類の歴史を振り返ると、従順によってもたらされた祝福や、不従順による悲しみや破滅の例を見ることができます。人が進むべき道は、主の聖なる預言者によって啓示されています。預言者は、主の指示に従順になるように教えています。

一つの例として、イスラエルの民が荒野を旅していたときに主が与えられた指示があります。民の礼拝活動の中心として、主は幕屋を建てるようにモーセに命じられました。幕屋とは、神殿の前身となった建物で、容易に持ち運びができるようになっていました。

「すなわち、主はモーセに言われた。……

あなたはレビびとに、あかしの幕屋と、

そのもろもろの器と、それに附属するもろもろの物を管理させなさい。彼らは幕屋と、そのもろもろの器とを持ち運び、またそこで務^{つとめ}をし、幕屋のまわりに宿営しなければならない。

幕屋が進む時は、レビびとがこれを取りくずし、幕屋を張る時は、レビびとがこれを組み立てなければならない。……

イスラエルの人々はその部隊にしたがって、おのおのその宿営に、おのおのその旗のもとにその天幕を張らなければならない。

しかし、レビびとは、あかしの幕屋のまわりに宿営しなければならない。そうすれば、主の怒りはイスラエルの人々の会衆の上に臨むことがないであろう。レビびとは、あかしの幕屋の務を守らなければならない。』⁶

約束の地に向かう旅の中で、幕屋は宿営の中心となりました。そこでは神聖な務めを行うことができたのです。幕屋が完成した日、幕屋は雲で覆われました。雲が幕屋を離れると、民は移動しました。そして雲が幕屋を覆っている間は、旅を続けることができませんでした。

主は旅の途中で、シナイ山のふもとに宿営するよう命じられました。ここでモーセは山に登り、主と話をしよう指示されます。そして荒れ野でどのようにしてイスラエルの民を治めたらよいか教えを受けたのです。モーセはまた、「あかしの板2枚、すなわち神が指をもって書かれた石の板」を授けられました。⁷

モーセはしばらくの間、民のところに戻って来ませんでした。「民はモーセが山を下ることのおそいを見て、アロンのもとに集まって彼に言った、『さあ、わたしたちに先立って行く神を、わたしたちのために造ってください。わたしたちをエジプトの国から導きのほった人、あのモーセはどうなったのかわからないからです。』」⁸

民の要求に屈したアロンは、金銀や貴重品を集めるよう命じ、それらを鑄て黄金の子牛を造りました。すなわち、民が旅する間に拝み、持ち運ぶことのできる偶像を造ったのです。そのころモーセは、民に対する神の戒めが記された、2枚の



あかしの板を授かっていました。モーセはあかしの板を抱えて、山を下りました。

「モーセが宿営に近づくと、子牛と踊りを見たので、彼は怒りに燃え、手からかの板を投げうち、これを山のふもとで砕いた。』⁹

そしてイスラエルの民の不従順により、「モーセは幕屋を〔宿営の中心から〕取って、これを宿営の外に、宿営を離れて張ったのです。』¹⁰

今や民の礼拝の中心となる場所は取り去られてしまいました。導きや保護を間近で受けることはもはやできません。そして忠実な人しか幕屋に入ることを許されなかったのです。主が決して許容されないことの一つは、他の神々を拝むことです。長い間エジプトで囚われの身にあつたため、これはイスラエルの民にとって難しいことでした。

主に救^{きう}しを願い求めた後で、モーセは「前のような石の板2枚を、切って造り」¹¹、山に登るように命じられました。そしてシナイ山の頂で、パンも水も持たずに40日40夜を過ごした後、主はモーセに言われました。

『これらの言葉を書きしるしなさい。わたしはこれらの言葉に基いて、あなた

およびイスラエルと契約を結んだからである。』

……そして彼は契約の言葉、十戒^{じっかい}を板の上に書いた。』¹²

このようにして、生涯にわたって従い、用いるために、十戒が人類に与えられました。従順によって主の律法がようやくイスラエルの民に与えられたのです。不従順は、イスラエルの民が約束の地へと進むのを遅らせるだけでした。民は主の律法を受けるにふさわしくなければならなかったのです。

主が預言者モーセに御言葉^{みことば}を伝えられたことを覚えてください。主はどうしたら御自分の子供たちが祝福を受けられるか御存じで、そのために預言者を通して、民に律法を授けられます。そして律法に従うならば、わたしたちは神のみもとへと導かれます。勝手に律法を定めることはできません。律法は神から人間に与えられるのです。

救い主はモーセの律法を成就され、¹³ 同じような神聖な教えが預言者ジョセフ・スミスを通して現代にも啓示されました。教義と聖約第59章の中で、主はこうお命じになりました。

「それゆえ、わたしは彼らに戒めを与えて、このように言う。あなたは心を尽くし、勢力と思いと力を尽くして、主なるあなたの神を愛さなければならない。また、イエス・キリストの名によって、神に仕えなければならない。

あなたは自分自身を愛するように隣人を愛さなければならない。あなたは盗んではない。姦淫^{かんいん}をしてはならない。殺してはならない。これに類することをししてはならない。

あなたはすべてのことについて、主なるあなたの神に感謝しなければならない。

あなたは、義をもって主なるあなたの神に犠牲を、すなわち打ち砕かれた心と悔いる霊の犠牲をささげなければならない。

また、あなたは、世の汚れに染まらずに自らをさらに十分に清く保つために、わたしの聖日に祈りの家に行って、聖式をささげなければならない。

まことに、この日は、あなたがたの労苦



カンファレンスセンター1階中央にある噴水の周りで待ち合わせをする大会訪問者たち

を解かれて休み、いと高き方に礼拝をささげるように定められた日だからである。

それでも、あなたの誓言は、毎日、また常に、義をもってささげなければならない。

しかし、この主の日に、あなたはいと高き方にあなたの供え物と聖式をささげ、また兄弟たちと主の前にあなたの罪を告白しなければならないことを覚えておきなさい。

また、この日には、あなたはほかに何事もしないようになしなければならない。ただ、あなたの食物を真心を込めて準備して、あなたの断食が完全になるように、言い換えれば、あなたの喜びが満たされるようにするだけである。」¹⁴

必要な指示は、常に主から与えられることを覚えてください。人類はその歴史の中で何度も、自己を正当化するためにこの伝達経路を逆転させ、神の律法を変えようとしてきました。このような試みがうまくいったという記録はどこにもありません。

神の子供たちが主の律法に逆らったときには、不従順と破壊によって神の調和と秩序は損なわれてきました。主の方法こそが、良い結果をもたらします。主の律法と戒めに従うならば、約束された祝福を必ず受けられるのです。

ニーファイは真鍮^{しんちゆう}の版を手に入れるよう主に命じられました。荒れ野の旅に携えて行くためです。版を手に入れるためにあらゆる試みをしますが、皆ラバンに拒絶されます。そして主は、ラバンをニーファイの手に渡されます。ラバンを殺すことについて、ニーファイはこのように教えられました。「一人の人が滅びるのは、一つの国民が不信仰に陥って滅びてしまうよりはよい。」¹⁵

この啓示を通して、ニーファイは主が以前荒れ野で約束されていたことを思い起こします。「あなたの子孫はわたしの命令を守るかぎり、約束の地で栄える。」¹⁶

そしてニーファイは考えました。

「そしてわたしはまた、もしもわたしの子孫にモーセの律法がなかったらば、子孫はその律法に従って主の命令を守ることができなくなるとも考えた。

またわたしは、その律法が真鍮の版に刻まれていることも知っていた。」¹⁷

繰り返しますが、聖典には、主が御自分の戒めを生ける預言者を通して人の子らにお与えになることが記されています。いかなる組織や集まり、またどのような権威も、主の律法に反する教義を主に指図する権限はありません。神の永遠の祝福は、わたしたちの従順さと、聖なる預言者たちを通して啓示される主の御言葉を固く守るかどうにかかっているのです。

神はわたしたちに、御父である神と、主であり救い主である選ばれた御子に従順になる望みと勇気を常に与えてくださいます。それは現世と来るべき永遠において、御父と御子によって与えられる祝福を享受するためです。救い主である主イエス・キリストの御名^{みな}により、アーメン。

注

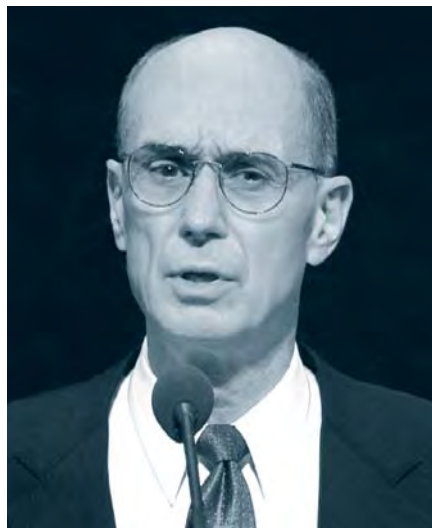
1. 信仰箇条1：9
2. *The Articles of Faith*, 第12版 (1924年), 296
3. *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, ジョセフ・フィールドینگ・スミス選 (1976年), 21
4. 同上, 111
5. *Deseret News*, 1857年12月9日付, 317; 1862年2月12日付, 257参照
6. 民数1：48, 50-53
7. 出エジプト31：18
8. 出エジプト32：1
9. 出エジプト32：19
10. 出エジプト33：7
11. 出エジプト34：1
12. 出エジプト34：27-28
13. 3ニーファイ15：5参照
14. 教義と聖約59：5-13
15. 1ニーファイ4：13
16. 1ニーファイ4：14
17. 1ニーファイ4：15-16

預言者ジョセフの使命 への不朽の証^{あかし}

十二使徒定員会

ヘンリー・B・アイリング

預言者ジョセフは、信仰をもってよく堪え忍ぶことについての模範であり、教師です。ジョセフを……主に召された回復の預言者として感謝し、愛しています。



カーセージで殉教する前夜、預言者ジョセフ・スミスは看守に証を述べました。モルモン書が神から授けられた真実の書物であること、天使の働きが現実のものであること、また神の王国が再びこの地上に設立されることについての証でした。

その夜、看守のうち祈りをささげた人が、はたして一人でもいたのでしょうか。聖霊は、この驚くべきメッセージが真実であると伝えようとしておられたはずで、御霊の証を受ければ、看守たちは、自分がバプテスマを請い願うべき立場にあることが理解できたでしょう。そして、計り知れないほどの価値を有する聖霊の賜物を授かることもできたはずで、その賜物があれば、すべてのことの真理を知ることができるの

です。その夜、一人でも、あの祝福に至る唯一の道のすぐそばに自分が立っていることを理解した人がいたのでしょうか。その道をたどれば、来るべき世で救い主にまみえ、喜びに満たされて救い主の御顔を拝し、「祝福された者よ、わたしのもとにきなさい。わたしの父の住まいには、あなたのために用意された場所がある」^{みかお}という言葉を救い主から頂けるのです。

だれにでも愛する人がいます。その人たちのことを今考えてみてください。それは自分の子供や孫かもしれません。夫や妻が頭に浮かぶかもしれません。今福音を教えている人かもしれません。友達かもしれません。皆さんはこのような人たちが、先ほど引用した言葉をいつの日か主から直接かけていただける時が来るよう、心の底から願っていることでしょう。しかし、そのような祝福にあずかるには、預言者ジョセフがカーセージで述べた証と同じ証を、試しの生涯の間中ずっと心に燃え立たせておかねばなりません。まさにジョセフが人生を通して行ったとおりです。

まず始めに、わたしたちは愛する人たちに、目撃者の証言を伝えることができます。主は御自身がなされたことを証明させるために、ジョセフとともに証言する人を備えられました。天が開かれたときに、ジョセフとともにその場にいた人々です。

オリバー・カウドリは、教会が組織された後に初めて迎えた日曜日に、初めて伝道を目的とした説教をしました。その後、伝

道に赴き、自分の目で見、自分の耳で聞き、自分の手で触れて得た知識について宣言しました。ほかの二人とともに証に署名しました。この3人は、決してその証を否定しませんでした。彼らの証はモルモン書のはしがきに記されています。

「この書物を手にするすべての国民、部族、国語の民、民族にこのことをお知らせする。わたしたちは、父なる神と主イエス・キリストの恵みによって、この記録が記されている版を見た。これはニーファイの民と、その同胞であるレーマン人と、聖典に述べられているあの塔から来たヤレドの民についての記録である。また、その版が神の賜物と力によって翻訳されたことも知っている。神の聲がわたしたちにそのことを宣言されたからである。したがって、わたしたちはこの書物が真実であることを確かに知っている。また、その版に刻まれている文字を見たことと、それがわたしたちに示されたのは人の力ではなく神の力によることを証する。また、一人の天使が天から降って来て、携えて来たその版を目の前に置いたので、わたしたちはその版とそれに刻まれている文字を見たことを謹んで言明する。目で見ても、これらのものが真実であると証するのは、父なる神と主イエス・キリストの恵みによるものであることを知っている。これはわたしたちの目に驚くべきことではあるが、主の聲がこのことを証するようにわたしたちに命じられたので、わたしたちは神命に従ってこのことを証する。わたしたちは、キリストにあって忠実であれば、すべての人の血をわたしたちの衣から取り除いて、キリストの裁きの座で染みがないと認められ、キリストとともに天に永遠に住めることを知っている。一つの神である御父と御子と聖霊に誉れがあるように。アーメン。

オリバー・カウドリ
デビッド・ホイットマー
マーティン・ハリス」²

皆さんの愛する人たちは、3人の証人が目にし、耳にした物的証拠以上のものを得ることができます。3人の証人も実はさらにすばらしい証拠——わたしたち全員が必要とする証拠——を得ていました。

すなわち、思いと心に、自分たちが見聞きしたことが真実であるという聖霊の証を受けていたのです。御霊は3人に告げました。——「あなたたちに現れた天使は神から遣わされた者です。」——「あなたがたが聞いた声は主イエス・キリストの御声です。」同じ御霊の証は、3人の証人にだけでなく、その場にいなかった多くの人にも与えられました。聖霊を伴侶とする資格があるならば、わたしたちにも同じ証が与えられ、しかも永遠にその証を保つことができます。

3人の証人はモルモン書の証を決して否定しませんでした。真実であるを知っていたからです。想像を絶するような犠牲を払い、困難な目に遭いました。オリバー・カウドリは死の床に伏しているときでさえも、モルモン書の神聖な起源について揺るがぬ証を述べました。確かに、試練のときに彼らの信仰は揺らぐことがありました。ジョセフが神の預言者であり、救い主のみもとに帰る唯一の道は回復された主の教会にしかないという信仰は、揺らいだこともありました。しかし教会やジョセフから離れていた長い年月の間も、直接目にし、耳にしたあの驚嘆すべき経験を証し続けました。そのためいっそう、彼らの証は力強いのです。

敵対や苦難という厳しい試練に遭った当時の人々に、主は、3人の証人のような物的証拠ではなく、御霊の証を与えられました。ブリガム・ヤング、ジョン・テラー、ヒーバー・C・キンボール、そのほか多くの聖徒たちは、自分の証に常に忠実でした。信仰を貫き通せたのは、聖霊を伴侶とし、主のみからもたらされる、燃えるような証がなくならないように代価を払ったからです。

そのため彼らは、御霊が「神は生きておられます」「イエスはキリストです」「ジョセフは御二方の預言者です」とささやかれた過去の記憶以上の何かを得ていました。彼らはまた御霊のささやきから得た平安や喜びという思い出以上の何かを持っていました。聖霊を伴侶とする資格を有していたために、どのような状況にあっても、どれほど困難に遭遇しても、次のように証できたのです。「そのとき、それを

知りました。真実だと感じました。そして今でもそう感じています。」

彼らはそのような証をいつも輝かせ活気に満ちたものとするために、簡単なことを幾つか実行していました。わたしたちも愛する人々に同じことをするよう教えることができます。そのことを、信仰をもって実行するなら、聖霊を常に伴侶とすることができるのです。また、愛する人たちに、信仰をもって祝福を願い求めるならば、御霊が真理を証してくださり、喜びと平安を感じることもできると約束できるのです。

ところで、御霊にかかわる事柄を教えるには、模範と証が最も効果的です。わたしは、両親が聖霊について何を教えてくれたかは、あまり覚えていませんが、聖霊の影響を家庭に招くために様々なことを行ってくれたことと、二人のそのような姿を見たときに抱いた気持ちは忘れません。模範と証によって教えるためにできることを幾つかご紹介しましょう。この方法に従って教えるならば、主が皆さんの愛する人の思いと心に、真理を証する御霊を送ってくださるという自信を持つことができます。

御父に対する信仰をもって、イエス・キリストの御名を通して祈ることを教えてください。オムナイ書にこのことに関する約束が記されています。

「ところで、わたしの愛する同胞よ、わたしはあなたがたがイスラエルの聖者であるキリストのもとに来て、キリストの救いと、キリストの贖いの力にあずかるように望んでいる。まことに、キリストのもとに来て、自分自身をキリストへのささげ物としてささげ、断食と祈りを続け、最後まで堪え忍びなさい。そうすれば、主が生きておられるように確かに、あなたがたは救われるであろう。」³

若いジョセフ・スミスは、そのような祈りをささげる方法を示しています。ジョセフはヤコブの手紙の中に記されている約束を信じました。⁴そして、祈れば答えを受けられるという信仰を胸に、森の中に入って行きました。ジョセフはどの教会に加わるべきか知りたかったのです。ジョセフは従順であり、命じられたことをすべて行う備えができていました。ジョセフは祈る前か

らずに従おうと決意していました、そして、わたしたちもそうしなければなりません。

ジョセフは命じられたことを行うために、自分のすべて、最終的には命をもささげるよう求められました。ジョセフは24年にわたって堪え忍びましたが、その間も絶えず、子供のような信仰と謙虚な思いを胸に祈り続けました。わたしたちも愛する人々に、前もって従おうと決意して祈るよう教えることができます。そうすれば聖霊を伴侶とすることができると約束できるのです。預言者ジョセフ・スミスを通じてもたらされた聖文を読む度に、読者は御霊によって聖文が真実であるという証を得ることでしょう。さらに御霊によって、神が預言者を通して語られたことが再確認できるでしょう。

毎日聖文を読み、その意味を深く考え、しかも御霊から教えを受けるという信仰を持ちながら考えるように教えてください。今こそ、ジョセフ・スミスが翻訳した聖文の言葉に耳を傾けてください。なすべきことについて今教えが与えられると期待してください。そうすれば聖文を学ぶ方法や、愛する人たちに聖文の学習方法をどのように教えたらいかにについて、靈感を受けることでしょう。

「したがって、あなたがたはこれからもキリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛して力強く進まなければならない。そして、キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、御父は、『あなたがたは永遠の命を受ける』と言われる。」⁵

預言者ジョセフは、聖文を味わうとはどういう意味か教えてくださいました。モルモン書は「人[が]その教えを守ることにより、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる」⁶ 書物であると言いました。この書物を通して主に近づき、主をもっと愛するようになるのです。それこそモルモン書ヤコブ書第3章2節に記された約束なのです。

「おお、あなたがた、心の清いすべての人よ、頭を上げて、喜びをもたらし神の御言葉を受け入れ、神の愛をよく味わいなさい。あなたがたの思いが確固としていれ



ば、とこしえにそうすることができるからである。」

皆さんも、皆さんの愛する人たちも神の御言葉に従うことによって神の御言葉を授かります。そうすることによって彼らは神の愛を感じることができます。これこそが聖霊の賜物のもたらす最も大きな祝福の一つです。この愛を感じるときに、自分が神の目にかなった道を歩んでいることが分かります。これがモルモン書に記されているおいしい実を味わうということなのです。⁷

愛する人たちに、神の王国を築くために犠牲を払うよう教えてください。そのような犠牲を払うときに御霊の証が得られます。預言者ジョセフは、はるか昔の預言者がわたしたちの時代のために残したすばらしい約束を翻訳してくれました。

「その日、わたしのシオンを起こそうと努める者は幸いである。彼らは聖霊の賜物と力を受けるであろう。また、彼らは最後まで堪え忍ぶならば、終わりの日に高く上げられて、小羊の永遠の王国に救われるであろう。また平和を告げて広め、まことに大いなる喜びのおとずれを告げる者は、山の上にあつて何と美しいことであろう。」⁸

この約束を受ける権利はだれにでもあります。どんなに若く経験の浅い会員でも神の王国を築こうと努力することができ

ます。シオンを構成するのは個人であり家族です。個人や家族の信仰が増せば増すほど、神の王国はより強固になっていきます。わたしたちはそのために毎日努力することができます。どれほど小さな行為であれ、一人のあるいは家族の信仰を築こうとするときに、聖霊の賜物や力を受ける資格があります。聖霊は真理について証されます。ですから、奉仕するときに、イエスがキリストであられ、天の父なる神が生きていてわたしたちを愛しておられること、またジョセフが彼らの預言者であったことに対する信仰は深くなります。皆さんはそうなることを期待することができます。ホームティーチャー、家庭訪問教師、あるいは友人として、信仰を築くためにある家庭を訪問するときにはいつでも、そうなることを期待してよいのです。

教会で奉仕してもそのような祝福を感じない人がいるかもしれません。しかし、それは形式面にとらわれていて、神の王国において神の子供たちに「平和を告げて広め、まことに大いなる喜びのおとずれを告げる」栄光に満ちた機会であるということを忘れているからです。奉仕に対してこのような正しい見方ができるなら、終わりの日に高く上げられるばかりか、道中度々元気づけられ、励まされること

でしょう。さらには御霊からこの教会が末日に回復された主の王国であるという証を得ることでしょう。

皆さんの愛する人たちに、人に仕え、愛するよう教えてください。そう教えるときには、御霊が注がれます。預言者ジョセフも人を愛するよう教え、自らその教えに従いました。ジョセフの愛情の深さについては多くの記録が残っていますが、わたしが最も感銘を受けたのは、ジョセフが亡くなる前夜、カーセージの監獄での話です。ジョセフに同行した人物の中に、ダン・ジョーンズがいました。預言者は暴徒が何をしようとしているか察知していました。殻にこもり、自分のこと、自分に及ぶ危険のことを考えるのが当然のような状況でした。しかし、ジョセフは逆に外に目を向け、人を慰めようとしたのです。

全員が寝静まったと思われるころに、ジョセフはダン・ジョーンズにささやくような声で話しかけました。「死ぬのが怖くはありませんか。」ダンは答えました。「もうその時が来たのでしょうか。大義のために生きているのですから、それほど怖いとは思いません。」ジョセフは答えました。「あなたはウェールズを訪れ、与えられた使命を果たすまで死ぬことはないでしょう。」⁹

ダン・ジョーンズは生き長え、ウェー



ルズで宣教師として働きました。そして何千というウェールズの改宗者がシオンへ移住しました。その中に歌の才能のある人々がいました。彼らが所属した聖歌隊から、後にタバナクル合唱団が生まれたのです。合唱団の歌を聴くときに、預言者ジョセフの忠実な友人であったダン・ジョーンズのことを思い出していただければと思います。ジョセフは自分が慰めを必要としていたときに、人を慰めました。愛する人たちにこのことを忘れないようにと教えてください。主を信頼しながら人を慰める人に、主は慰め主を送ってください。ジョセフはこの慰め主、すなわち聖霊により、預言者として愛と励ましを与える力を授かりました。

ジョセフは親切で愛に満ちた行いを通して、モルモン書の次の言葉が真実であ

ることを教えたのです。「したがって、最も大いなるものである慈愛を固く守りなさい。すべてのものは必ず絶えてしまうからである。

しかし、この慈愛はキリストの純粹な愛であって、とこしえに続く。そして、終わりの日にこの慈愛を持っていると認められる人は、幸いである。」¹⁰

わたしにとって預言者ジョセフは、信仰をもってよく堪え忍ぶことについての模範であり、教師です。ジョセフを礼拝しているわけではありませんが、主に召された回復の預言者として感謝し、愛しています。ジョセフは、従おうという決意をもって祈ることができるよう、わたしを助けてくれました。ジョセフのおかげで、神の御言葉と愛をもっと味わうことができます。ジョセフのおかげで、主の王国においてだれかの信

仰を築くのを助けるときに、より頻繁に聖霊を感じることができます。また預言者ジョセフについて知っているおかげで、また彼を通じて明らかにされた聖文のおかげで、援助の手を差し伸べようとするときに、神がその子供たちに抱いておられる愛や、わたし自身を愛してくださっていることを、もっと頻繁に感じることができます。

願わくは、わたしたちも、愛する人たちも、回復されたイエス・キリストの福音と主の王国に、信仰を持ち続けることができますように。聖餐^{せいさん}を受けるときに約束を交わすように、常に主を覚えることができますように。そうして、主の御霊が常にともにありますように。家庭の夕べを行うときに、宣教師と求道者の話し合いに参加するときに、また集まって主を礼拝するいついかなるときにも、行いと言葉と人格により、聖なる御霊を招くことができますように。

神が生きておられることを証します。イエス・キリストが生きておられること、イエス・キリストが救い主であられることを知っています。この教会は主の教会です。ジョセフは神の預言者でした。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は現在の神の預言者です。わたしはこのことを御霊によって知っています。御霊はこれらのことが真実であるとわたしに告げておられます。イエス・キリストの聖なる御名により証します。アーメン。

注

1. エノス1:27
2. モルモン書「三人の証人の証」
3. オムナイ1:26
4. ヤコブの手紙1:5参照
5. 2 ニーファイ31:20
6. *History of the Church*, 第4巻, 461。
3ニーファイ5:18; 教義と聖約17:6;
教義と聖約20:6-10も参照
7. 1ニーファイ11:21-23; 15:36参照
8. 1 ニーファイ13:37
9. *History of the Church*, 第6巻, 601
参照
10. モロナイ7:46-47

「わたしに従ってきなさい」

七十人

ウィリアム・W・パームリー

「わたしに従ってきなさい」という勧告や、「イエスならどうされるだろうか」という問いは、生き方の力強い指針となります。



わたしたちは、イエス・キリストの弟子です。ニーファイの言葉を借りれば、「わたしたちはキリストを信じている……。わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し」ているのです（2ニーファイ25：24、26）。どこに住んでいるかにかかわらず、イエスは信じる者たちすべての行動に関して、非常に力強い言葉を下さいました。それは「わたしに従ってきなさい」という言葉です（ルカ18：22。マタイ16：24；マルコ1：17；ルカ9：23も参照）。どの戒めがいちばん重要なのかという質問を律法学者からお受けになったイエスの答えはこうでした。

「第一のいましめはこれである、『……心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』

第二はこれである、『自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ。』これより大事ないましめは、ほかにない。』（マルコ12：29－31）

この二つの戒めを基に、どうしたらイエスに最もよく従うことができるようになるのか、考えてみましょう。

救い主と御父が互いに愛し合っておられたことは、救い主の模範から、一目瞭然です。救い主はしばしば長い、心からの祈りをささげておられました。これは、わたしたちが見習うべき、この上ない模範です。御父が御子を愛しておられることは常に明白でしたが、特に、イエスがヨハネからバプテスマを受けられたとき、そのことがはっきりと示されました。「また天から声があって言った、『これはわたしの愛する子、わたしの心になう者である。』」（マタイ3：17）

御二方が一致しておられたことは、「わたしと父とは一つである」という救い主の御言葉から明らかです（ヨハネ10：30）。ゲツセマネの園で起こったように、主の思いと御父の思いがほんの一瞬、異なる場合もあり得ることを考えると（マタイ26：39参照）、わたしたちの祈りも、必ずしもいつも期待どおりにこたえられるとは限らないということを心に留める必要があります。とはいっても、祈りは行動を伴う、力強い原則です。信仰を持ち、疑いを抱かなければ、「祈りのとき、信じて求めるものは、みな与えられるであろう」と救い主は言っておられます（マタイ21：21－22参照）。主を愛するならば、行動が伴わなければなりません。「もしあなたがたがわた

しを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである」とあります（ヨハネ14：15）。

次に、「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ」という2番目に大切な戒めについて（マタイ22：39）、また使徒に対して与えられた「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい」という、さらに高度な戒めについて考えてみましょう（ヨハネ13：34）。確かに、隣人を夕食に招待するというのも、愛を示すためのすばらしい方法です。しかし、律法学者から、「では、わたしの隣り人とはだれのことですか」（ルカ10：29）と尋ねられた救い主は、それよりもずっと難しいたとえをお教えになりました。

ここであの有名なたとえが語られるのです。ある人がエルサレムからエリコに向かって旅をしている途中、強盗に身ぐるみはがれ、傷を負わされて半殺しのまま道端に捨て置かれました。レビ人が、そして祭司がその人に気づきますが、向こう側を通って行ってしまいました。ところが、ユダヤ人からさげすまれていた一人のサマリヤ人は、この人を見て気の毒に思い、介抱します。このサマリヤ人は、種族を問う前にまず、慈悲深い行いをしたのです。イエスはこの力強いたとえを、次のような勧告で締めくくられました。「あなたも行って同じようにしなさい。」（ルカ10：37）

どの大都市にも、打ち負かされ、見捨てられた人がいます。家もなく、貧困、飢え、病気に苦しむ人々です。このような人々に金銭を与えても、薬物中毒やアルコール中毒を助長するだけで、結局は今選んでいる生き方を続けられるように協力するだけであると言う人もいます。見捨てられた人々を裁き、ヨブの友人のように、このような大きな災いを自分の身に招いた過ちをいろいろと推測することは簡単です（ヨブ22章；モーサヤ4：17参照）。

しかし、レビ人や祭司のように向こう側を通って行くのではなく、「わたしに従ってきなさい」という救い主の勧告について深く考えようではありませんか。救い主は、家もなく、替えの服もなく、度々空腹であられたことを思い出してください。救



い主ならどのようになさるでしょうか。主がなされるであろう事柄は、疑う余地ありません。そのような人々に憐れみを示し、教えを施されることでしょう。

人道的支援団体や炊き出しを行う施設、またはこのような問題を扱っている機関に時間や物資、金銭を差し出すなど、ホームレスの人々を助ける方法は数多くあります。それでもやはり、わたしには、思いやりを示すことも必要であると思われるのではないでしょうか。確立された福祉の原則が、適切な指針となります。貧しい人々はいつもわたしたちのそばにいることを忘れないでください(マルコ14:7参照)。

裁きの日にヤギと羊が分けられることをお話しになったとき、救い主はこの原則を再度強調されました。

「そのとき、正しい者たちは答えて言うであろう、『主よ、いつ、わたしたちは、あなたが空腹であるのを見て食物をめぐみ、かわいているのを見て飲ませましたか。』

いつあなたが旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せましたか。

また、いつあなたが病気をし、獄にいられているのを見て、あなたの所に参りましたか。』

すると、王は答えて言うであろう、『あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。』(マタイ25:37-40)

ペテロはこのような慈愛が大切なのを強調して、このように言っています。「何よりもまず、互の愛を熱く保ちなさい。愛は多くの罪をおおうものである。」(1ペテロ4:8)

モルモンも同じような思いで、このように勧めています。

「したがって、わたしの愛する同胞よ、もしあなたがたに慈愛がなければ、あなたがたは何の価値もない。慈愛はいつでも絶えることがないからである。したがって、最も大いなるものである慈愛を固く守りなさい。すべてのものは必ず絶えてしまうからである。

しかし、この慈愛はキリストの純粋な愛であって、とこしえに続く。そして、終わりの日にこの慈愛を持っていると認められる人は、幸いである。」(モロナイ7:46-47)

イエスは教えと模範によって、主に従おうと努めるわたしたちがよく思い巡らせ

るとよい、多くの特質を示されました。それらの特質には、愛、柔和、謙遜、哀れみ、義に飢え渴ぐこと、よく祈ること、憐れみ深さ、心の清さなどがあります。人を決して裁いてはなりません。自分がしてほしいと思うように隣り人に行くべきです。地の塩、また世の光となるよう主はわたしたちに教えられました。人が心の内に思うことは、外から見える行いに劣らず重要なのだとイエスは言われました。すべての人を赦すように、わたしたちに負債のある者でさえも赦すように、また敵を愛するようにと主は言われました。平和を作り出す人にならなければなりません、それだけでなく、迫害の中にあっても喜ばなければならないのです。主はまた、人に見られないよう施しをしたり、断食して祈ったりするように勧められました。ほかの類をも向けるよう、2マイル行くようにとも教えられました。そして特に、地上に宝を蓄えるのではなく、天に宝を蓄えるように戒められました(マタイ5-7章参照)。

「わたしに従ってきなさい」という御言葉の意味を深く思い巡らしてみると、この勧めに完全に従えるようになるためには、学び、行わなければならない事柄がたくさんあることがよく分かります。しかし、興味深いことに、主は30年間に過ごされたナザレにおいて、罪のない生活を送られていたにもかかわらず(マタイ13:54-56; マルコ6:2-3参照)、注目されることはほとんどなかったようです。それを思うと、そっと目立たない方法で善い行いをし、注目されないように心がけようという気持ちになるのではないのでしょうか。「わたしに従ってきなさい」という勧告や、「イエスならどうされるだろうか」という問いは、生き方の力強い指針となります。この指針にもっと注意を向けることによって、わたしたちは皆、思いと行いにおいていっそうキリストに似た者となる力が得られるのです。

わたしたちに模範を示してくださった救い主が、生きていらっしゃることを証します。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

あなたは聖徒ですか

七十人

クエンティン・L・クック

現代にあって聖徒であるためには、この世に蔓延する邪悪な行いや破壊的な活動と決別する必要があります。



何年も前に、弁護士の仕事で、事業の取引をしている人の代理人としてジョージア州アトランタに行きました。数日に及ぶ交渉の末、わたしたちは合意に達し、商談成立書に署名しました。その晩、相手側の一人が商談成立を祝ってわたしたちを夕食に招待してくれました。店に着くと、その男性はアルコール飲料を勧めてきました。わたしが断ると、彼はこう言いました。「あなたは聖徒ですか。」言葉の意味がよく分からずにいると、今度は「あなたは末日聖徒ですか」と言ってきたのです。わたしが「そうです」と答えると、こう言いました。「商談中、ずっとあなたの振る舞いを観察していて、あなたは末日聖徒か、もしくは胃の具合が悪いかのどちらかだという結論に達していたのです。」お互いに笑いました。彼は教会員を一人だけ個人的に知っていて、それはデビッド・B・ヘイト長老

だと教えてくれました。二人は、第二次世界大戦後にシカゴの大型小売店舗とともに役員をしていたのです。彼は、ヘイト長老が自分の人生に多大な影響を与えてくれ、長老を非常に尊敬していると話してくれました。

サンフランシスコへ帰る飛行機の中で、この出来事について、とりわけ次の二つの点について考えました。「あなたは聖徒ですか」と尋ねられて驚いたことと、ヘイト長老の傑出した模範がこの善良な男性に及ぼしたすばらしい影響力に感動したことです。

聖徒であるとはどういう意味でしょうか。主の教会にあって、会員は末日聖徒であり、救い主に倣い、その教えに従おうと努めています。また救いの儀式を受けて、日の栄えの王国で父なる神と救い主イエス・キリストとともに住めるよう力を尽くしています。¹ 救い主はこうおっしゃいました。「以上がわたしの福音である。あなたがたは、わたしの教会で行わなければならないことを知っている。わたしがするのを見たその行いを、あなたがたもしなさい。」²

末日聖徒であることは容易なことではありません。容易なこととして意図されてもいなかったのです。父なる神と御子イエス・キリストの御前に住むという究極の目標は、わたしたちの理解をはるかに超える特権です。

この教会がかつて直面した最大の試練の一つに、預言者ジョセフ・スミスの殉教があります。やがて聖徒たちは、ノーブーから追放されてしまいました。聖徒たち

が非常な逆境の下で平原を横断していたとき、ウィリアム・クレイトンは偉大な賛美歌「恐れず来たれ、聖徒」を記しました。この賛美歌に人々は奮起し、神聖な使命を思い起こしました。「旅を終わらず死すも、すべては善し」³と歌いながら、往時の聖徒たちの犠牲と勇気、決意を思うとき、感動しない人がいるでしょうか。

克服し難い障害の伴う困難な時期にあって、この賛美歌は聖徒たちに慰めと希望を与えました。そして、彼らの霊を鼓舞し、現世は、前世から来世での永遠の命へと至る旅路であり、それこそが偉大な幸福の計画であるという事実を強調してくれました。クレイトン兄弟の靈感された賛美歌は、犠牲を強調し、聖徒であることの真の意義を明らかにしてくれます。開拓者の会員たちは、聖徒であるがゆえにその時代特有の困難に直面しました。

「聖徒」という言葉は、ギリシャ語では「任命する、分ける、聖い」という意味があります。⁴ 現代にあって聖徒であるためには、この世に蔓延する邪悪な行いや破壊的な活動と決別する必要があります。

わたしたちは、暴力的で不道德な映像に絶えずさらされています。不適切な音楽やポルノグラフィは、ますます許容されてきています。有害な薬物とアルコールの乱用は、手に負えない有様です。一方誠実さや品性は、あまり強調されなくなっています。個人の権利ばかりが主張され、義務や責任は無視されています。人々の話す言葉は乱れ、ますます下品で粗野になってきています。悪魔は幸福の計画を台なしにしようとして、容赦なく攻撃してきます。わたしたちがこの世的な行いから遠ざかるなら、生活は御霊にあふれ、ふさわしい末日聖徒であることから来る喜びを味わうでしょう。

聖徒であるわたしたちは、世俗的な神々への礼拝を避ける必要があります。ヒンクレイ大管長は、人が「人生の良いものを幾らか所有する」よう願っていると語っています。しかし、こう警告しています。「人の心を腐らせ、破壊するのは、富への執着です。」⁵

1630年、ジョン・ウィンスロップは、「アル



ペラ号」に乗船していた人々を代表して新大陸(アメリカ)についてのビジョンを述べました。それは、「山の上にある町」の説教として知られています。話の最後にウインスロップは、申命記第30章を引用して、他の神々を礼拝し、仕えることに対して警告し、特に「快樂や利益」を強調しました。⁶ キンボール大管長も自身の勧告の中で、家やボート、資格、肩書きなどのようなものでさえ、わたしたちが神への愛と奉仕よりも大切にするとしたら、礼拝の対象となり得ると述べています。⁷

預言者モロナイは、現代について語る中で、金銭や財産を愛することに対して警告を発しました。そして「貧しい人と乏しい人、病人と苦しんでいる人を愛する」以上に、人が金銭や財産を愛するようになると示唆しています。⁸

ふさわしい聖徒であろうとするなら、人々に奉仕し、神と同胞^{はらから}を愛するようという救い主の教えを遵守しなくてはなりません。

世の悪から離れているためには、神聖な事柄に近くある必要があります。聖徒は救い主を愛し、聖さ^{きよ}と献身をもって主に従います。⁹ このような聖さと献身は、すべてをささげ、犠牲にする態度に表れ

ます。ヒンクレー大管長はこう教えました。「犠牲なしに、神を真に礼拝することはできません。」¹⁰ 犠牲は福音の究極のテストです。つまり、自分の時間と才能と体力と地上で所有するすべてのものを、神の業を推し進めるためにささげるのです。教義と聖約第97章8節には、こう書かれています。「犠牲を払って、すなわち主なるわたしが命じるあらゆる犠牲を払って自分の聖約を進んで守ろうとするすべての者は、わたしに受け入れられる。」

救い主のメッセージを受け入れる聖徒は、心を乱す破壊的な行為へと道を踏み外してしまうことはありません。そして、適切な犠牲を払う備えができます。聖徒になりたいと望む人にとって犠牲が大切なことは、福音の中心である救い主の贖^{あがな}いの犠牲が物語っています。¹¹

冒頭に紹介した「あなたは聖徒ですか」というアトランタの知人から尋ねられた質問に戻って、皆さんに自己評価のための3つの質問をしたいと思います。

第1に、わたしたちは自分の信条と一致した生き方をしており、友人や知人は、ヘイト長老の友人がそうであったように、わたしたちがこの世の邪悪から遠ざかっていることを認めているでしょうか。

第2に、世俗的な楽しみや利益、それに類似する事柄を追求するあまり、日常生活で救い主に従い、仕え、救い主を礼拝することをおろそかにしてはいませんか。

第3に、神に仕え、聖くあるために、交わした聖約にふさわしい犠牲を払っているでしょうか。

末日聖徒であることは何とすばらしい祝福でしょうか。わたしは、「シオンの聖徒」という賛美歌の最後の節が好きです。

「シオンの聖徒よ、
忠実な父祖のたどった道を歩み、
心を感謝で満ちし、
生ける神に仕えようではないか。」¹²

邪悪で破壊的な行いを退け、仕えるために犠牲を払うなら、献身的な末日聖徒であることから来る喜びを味わえることを証^{あかし}します。そして、聖文に約束されているように、この世では平安を得、後の世では永遠の命を得られることでしょう。¹³ イエス・キリストの御名^{みな}によって、アーメン。

注

1. 2ニーファイ9:18参照
2. 3ニーファイ27:21
3. 『賛美歌』17番
4. ダニエル・H・ラドロー編, *Encyclopedia of Mormonism*, 全5巻(1992年), 第3巻, 1249で引用
5. ゴードン・B・ヒンクレー「あなたはむさぼってはならない」『聖徒の道』1992年2月号, 6参照
6. "A Model of Christian Charity." ロバート・L・ファーム編, *Issues in American Protestantism*(1969年), 11で引用
7. スペンサー・W・キンボール『赦しの奇跡』39-41参照
8. モルモン8:37
9. Wm・グラント・バンガーター, "What It Means to Be a Saint," *Ensign*, 1987年5月号, 11参照
10. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年), 565
11. アルマ34:8-16参照
12. 『賛美歌』39番(英文)
13. 教義と聖約59:23

謙遜けんそんの力を受ける

管理監督会第一副監督

リチャード・C・エッジリー

教会の強さは、救い主の御心みこころを行おうと日々一歩ずつ努力している無数の謙遜な会員にあります。



以前、大祭司定員会の集会でのことです。レッスンの始めに教師から、それぞれ自分のヒーローとその理由を挙げるように言われました。皆が一人ずつ順番に答えていきましたが、どれももっともな意見でした。もちろんある人は救い主、世の贖い主あがなを挙げました。またある人は、奴隷を解放し、内戦にある合衆国を導き、ついには国を統一したエーブラハム・リンカーンについて話しました。預言者ジョセフ・スミスや、現在の愛する預言者、ゴードン・B・ヒンクレーを選んだ人もいました。ヒーローの名前が挙がるのを聞きながら、わたしは静かに賛同しました。皆、手本とするにふさわしい人物です。その人たちを偉大にした特質を幾らかでも持てたなら、自分もより善い人になることができるだろうと思いました。

自分が答える順番になると、わたしは

ある兄弟の方を向き、こう言いました。同じ列の右側の、何人か向こうの席にいた兄弟です。「わたしのヒーローはケン・スウェットフィールドと奥さんのジョアンです。」20年にわたって、わたしはケンとジョアンが、親が持てる愛と忍耐の限りを尽くして、昏睡状態こんすいにある息子シェーンの世話をするのを見てきました。シェーンはイギリスのリーズでの伝道に出発するわずか2週間前に悲惨な自動車事故に遭いました。二人はそれまで疑いもなく、シェーンに希望と夢を抱いていたことでしょう。その希望も夢も、事故で砕け散ってしまったのです。わたしはしばしばそのことに思いをはせてきました。わたしは、ケンとジョアンが、シェーンを車いすで日の当たる場所に連れて行ったり、景色を説明しながら近所中を押して回ったりするのを見てきました。聞こえるかもしれない、感じるかもしれない、また新鮮な空気や日光が息子の沈黙した霊を活気づけるかもしれないという望みを持つてのことです。20年間、この世話に休みは一切なく、夕方に外出するようなこともほとんどありませんでしたが、常に信仰と楽観と感謝の精神があり、二人が怒ったり絶望したり、神の目的に疑問を抱いたりすることは決してありませんでした。

それからわたしは左側にいた兄弟の方を向き、言いました。「わたしのヒーローはジム・ニュートンと奥さんのヘレンです。」ジムとヘレンの息子ザックは、ペルーへの伝道の召しを受けて間もなく、自動車事故で命を落としました。事故の知らせを聞いたとき、わたしは病院へ急ぎな

がら、ザックは生きており快復するだろうという言葉を知りたいと願いました。しかし、この両親は、この上ない威厳と穏やかさをもって、ザックは幕の向こう側で伝道することになったと説明してくれました。穏やかで確固としたこの強い両親を目の当たりにしたとき、わたしは苦痛や苦悩の中にも平安があることを理解しました。この平安は、愛にあふれた御父と贖いの業を成し遂げられた救い主への深い不動の信仰によってのみ得られるのです。わたしの信仰は強められ、鼓舞されて、同様の試練や悲劇に遭ったときには二人の模範に従おうという決意をしたのでした。

また、わたしのヒーローはトム・アボットと息子さんのジョンです、と答えることもできたでしょう。トムとジョンは、わたしたち家族がなかなか家にいないにもかかわらず、ホームティーチングの割り当てを一度も欠かしたことのない忠実なホームティーチャーです。ほかに、わたしが感銘を受け、ヒーローと呼べる人を何十人も挙げることもできたでしょう。その多くは教会でいわゆる重要な、または注目を浴びるような召しを受けてはいませんが、皆、どの役職にもふさわしい人々です。教会全体に広く知られている人は一人もいませんが、だれもが天の御父に名前前で知られている人であると確信しています。

自分自身のワードの聖餐会せいさんに出席できるときには、わたしはよく会衆を眺め、日曜日ごとに同じ顔を見ながら深く考えます。中には20年以上にわたって聖餐会でいつも見てきた人たちもいます。ここでもまた、ほとんどの人は教会で注目を浴びたりはしていませんが、皆が常に集会に出席し、それぞれに人生のチャレンジと闘っています。

彼らこそ、わたしが自分の目で見、感銘を受け、感謝している会員たちです。地位や人の注目、名声を求めてはいませんが、それぞれが日々の生活の務めを果たすことによって、御父の王国に場所を得つつあります。絶えず人に知られることのない事柄、地味な事柄を行っています。高ぶらず、義にかなって、重要な事柄を行っているのです。皆、チャレンジがあ



ります。しかし自らの困難な闘いの中から、たいていの場合逆境とともにひそやかに訪れる、喜びを見いだすことができます。このような光景は、世界中の無数のワードで幾度となく繰り返されています。それが末日聖徒イエス・キリスト教会なのです。

そうです、教会の強さは、救い主の御心こころを行おうと日々一歩ずつ努力している無数の謙遜な会員にあります。これらの謙遜な会員には、あらゆる国籍の人やあらゆる階層の人、そしてあらゆる経済的な背景を持つ人がいます。これ以上望めないような高学歴の人がいれば、世界で最もへんびな地域にあるどこよりも小さな村で、だれよりも質素な暮らしをしている人もいます。——それぞれが、イエス・キリストへのいきいきとした証あかしで高鳴る心と、主に仕えたいという望みを持っています。

こうした忠実な会員について考えると

き、全員が持っていると思われる特質が二つ思い浮かびます。一つは、社会的あるいは経済的な身分や地位に関係なく、謙虚さが主の御心への従順をもたらしていることです。そしてもう一つは、人生における困難や試練にもかかわらず、神の祝福と人生の善いものに対する感謝の気持ちを維持することができるということです。謙遜さと感謝は、まさに、幸福を得るための対を成す特質なのです。

預言者ジョセフ・スミスとブリガム・ヤングの間に起きた、次のような出来事が伝えられています。かなり大勢の兄弟たちの前で、預言者はブリガム兄弟を自らの義務を怠ったことで厳しく非難しました。だれもが多少驚いたと思いますが、ブリガムがどのような反応を示すかを静かに見守っていました。後に主のライオンとして知られることとなるブリガムは、やはりまったく臆病な人物などではありませんでした。ブリガムはゆっくりと立ち上が

り、性格と謙虚さをそのとおり表した言葉で、頭を下げてこう言いました。「ジョセフ、わたしはどうすればいいでしょうか。」するとジョセフは、むせび泣きながら演壇を駆け下り、両手でブリガムを抱き締め、次のようなことを言いました。「合格です、ブリガム兄弟、あなたは主のテストに合格しました。」(トルーマン・G・マドセン“Hugh B. Brown—Youthful Veteran,” *New Era*, 1976年4月号, 16参照)

わたしたちの多くは、謙遜さがしばしば誤解されたり弱点と見なされるような環境の中で、生活したり仕事をしたりしています。社訓や、管理者に望まれる特質として、謙遜さを挙げている会社や団体は多くはありません。それでも神がどのようにして働きかけられるかを学ぶとき、謙虚で従順な霊の持つ力がはっきりと見えてきます。神の王国では、偉大さは謙虚さと従順から始まるのです。対になっているこれらの徳は、神の祝福と神権の力への扉を開く第一の重要な段階です。何者であろうと、あるいは肩書きがどれほど立派なものに思われようと関係ないのです。主に対する謙虚さと従順こそが、感謝の心とともに、強さと希望をもたらすのです。

主は御自身の教会の会員となる条件をお与えになった際に、次のように言われました。「神の前にへりくだって……打ち砕かれた心と悔いる霊をもって進み出〔る〕……人は皆、バプテスマによってキリストの教会に受け入れられる。」(教義と聖約20:37)

ですから、教会の会員の中に、あらゆる背景を持つ男女が謙虚に神の勧告に従うのを見ることができるのです。謙遜な、時には萎縮してさえいるホームティーチャーを、企業の幹部職にあるような傑出した人が謙虚に快く受け入れ、教えを受けるのを見ることができます。高い教養のある人が、時には学校教育をほとんど受けたことのない監督の勧告に謙虚に従うのを見ることができます。監督やステーク会長だった人が、初等協会で教えたり、託児を手伝ったり、あるいは世界中の助けを必要としている人々に送る人道支援

キットを準備したりする召しを、高ぶることなく快く受け入れるのを見ることができます。何千組もの円熟した夫婦が、快適な家を離れて不慣れな環境で暮らし、世界各地でひどい貧困に苦しむ人々におごらず仕えるのを見ることができます。——そして彼らは何度も何度も伝道に出て行きます。また世界で貧困に苦しむ人々が、さらに貧しい人々と分かち合うために、自分たちのわずかな財産を謙遜にささげるのを見ることができます。そしてそれぞれが、おごり高ぶることなく、感謝の心をもって仕え、与え、神をほめたたえているのです。

ベニヤミン王は、わたしたちは「子供のように従順で、柔和で、謙遜で、忍耐強く、愛にあふれた者となり、……主が〔わたしたち〕に負わせるのがふさわしいとされるすべてのことに喜んで従わなければならない」と警告しています(モーサヤ3:19)。

謙遜に自分の意志を御父に従わせることによって、神の力、すなわち謙遜の力を受けます。それは人生の逆境を乗り越える力、平安の力、希望の力、救い主イエス・キリストに対する愛と証で高鳴る心の力、そして贖罪しよくざいの力です。そして何より、救い主は謙遜と従順の力に関する究極の模範です。結局のところ、主が御自分の意志を御父に従わせられたことによって、歴史上最も偉大で最も大きな影響力のある出来事が成し遂げられたのです。恐らく、あらゆる聖文の中で最も神聖な言葉の一つがこれです。「わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください。」(ルカ22:42)

わたしたちの回りには高鳴る心を持った人々が何千人、何百万人といえます。——ヒーローと呼ぶこともできると思いますが、恐らく、救い主イエス・キリストに従う謙遜な人々と言った方が適切でしょう。そして、ヒンクレー大管長がわたしたち一人一人に求めているように、彼らはとにかく一日ごとに全力を尽くしています。

謙虚で従順な心によって、神から力を、それに伴う数々の祝福とともに受けることができますよう、へりくだって祈ります。イエス・キリストの御名みなによって、アーメン。

えり抜きの聖見者

十二使徒定員会

ニール・A・マックスウェル

今述べた啓示が、ジョセフ・スミスを通して一つしか与えられなかったとしても、ジョセフが偉大な預言者であることが証明されたでしょう。



18 20年以來、ジョセフ・スミスは絶え間なく非難され、その後で身の潔白が証明されます。それは生涯繰り返されました。

預言されたとおり、愚か者はジョセフをあざ笑い、地獄は激怒し、その名は「良くも悪くも……語られ」ています(ジョセフ・スミス—歴史1:33)。世の中には中傷を信じ、必要以上に惑わされてしまう人たちがいます。それは、啓示に満ちた輝かしい晩餐会への招待を断り、外で骨をしゃぶるようなものです。そのような中傷のために「えり抜きの聖見者」としてのジョセフの使命を軽視するのです(2ニーファイ3:6-7参照)。

アンモンあんもんの経験から分かるように、聖見者には古代の記録を翻訳する力があり、「聖見者は預言者よりも偉大」です。しかしアンモンはこう言いました。「聖見者は……預言者でもあります。」(モーサヤ8:

11-16参照) 聖見者に召されたジョセフは、やがて「同胞に大きな利益をもたらすように」なります(モーサヤ8:18)。

この「えり抜きの」翻訳者は「神の賜物と力」により(教義と聖約135:3)、実際に手に取り、その真偽を確認できるモルモン書を世に著しました。その教えに聞き従う者は皆、完結したと思われていた聖典の扉が開け放たれたことを知ります。

モルモン書のタイトルページに、この記録には人類にイエスがキリストであられることを「確信させる」力があると記されています(2ニーファイ25:18も参照)。真理の中心を成すこの事実への疑いと虚偽がはびこる時代に、人に確信を与えるモルモン書の役割は何と欠かせないものでしょうか。その約束は何と確かなものでしょうか。

モルモン書が「屋根の上」から世界中に読み上げられる時が訪れます(2ニーファイ27:11)。たとえないがしろにされても、「大地のあるかぎり」人々をキリストのみもとへ招き続けるのです(2ニーファイ25:22)。

「地の果ての人々が〔ジョセフの〕名を尋ね」ようになるのもうなずけます(教義と聖約122:1)。さらに心強い神の御言葉みことばにより、ジョセフに敵対する者が「打ち破られる」ことと、裏切り者の証あかしによって預言者の民が「〔彼に〕背くことは」決してないことが断言されました(2ニーファイ3:14;教義と聖約122:3参照)。

ファウスト副管長が昨日話したように、ジョセフは自らの不完全さについて次のように語っています。「わたしは自分が完



全であるとは決して言いませんが、わたしの教えた啓示に誤りはありません。」(アンドリュー・F・イーハットおよびリンドン・W・クック, *The Words of Joseph Smith* [1980年], 369)

皮肉なことに、少年ジョセフ・スミスは、ただどの教会に入るべきか知るために聖なる森へ入ったのです。決して聖見者、啓示者、翻訳者、また預言者に召されることを望んでいたわけではありません(教義と聖約21:1参照)。聖なる森の中で、そしてその後も、思いも寄らぬ祝福が次々と授けられます。数々の啓示が与えられ、翻訳が行われましたが、それらは単なる見解でも、格言でも、警句でもありませんでした。それは紛れもなく、神が人にお与えになった宣言だったのです。

ジョセフが受けた啓示と翻訳した記録は膨大な量に上り、まさに「えり抜きの聖見者」という名にふさわしいものでした。しかし、単にジョセフが受けた啓示の数が多く、それが世に伝えられているというだけでなく、膨大な数の中の、いわゆる「驚異的な」ものの存在が見逃せません。

例えば、多くの啓示や翻訳には宇宙についての解説が含まれていますが、それは1830年代の天体物理学の知識をはるかに超えるものでした。宇宙には「無数の世界」があり、さらに「それらに住む者は神のもとに生まれた息子や娘」とであると教

えているからです(モーセ1:33; 教義と聖約76:24)。

古代において、アブラハムの最終的な子孫の数は、浜辺の砂にたとえられました。驚嘆すべき約束です(創世22:17参照)。回復の啓示や翻訳は、広大な宇宙の真実を包含したものです。そのため、星の数に関する科学者の最新の概算が「約70垓個」[訳注——「垓」は「兆」の1億倍を表す単位]であっても驚くことはありません。科学者は「その数は地球上のすべての海岸と砂漠の砂粒の数を合わせたよりも多い」と報告しています(アリソン・M・ハインリッヒ “The Stellar Census: 70 Sextillion,” *Los Angeles Times*, 2003年7月26日付。カール・セーガン, *Cosmos* [1980年], 196も参照)。

啓示が与えられ、翻訳が行われたのは、「人の不死不滅と永遠の命をもたらす」という神の第一の目的を果たすためでもありました。簡潔な言葉によって与えられた神の約束です(モーセ1:39参照)。人を成長させるという神の計画は変わっていません。それは古代イスラエルにも教えられました。民が40年間荒れ野をさまよったのは、「あなたを苦しめて、あなたを試み、あなたの心のうちを知り、あなたがその命令を守るか、どうかを知るためであった」のです(申命8:2)。ですから、キリストの弟子には、なぜ信仰と忍耐が

時折試されるのか理解できます。試されることにより、天の家へ戻る備えができるのです(モーサヤ23:21参照)。

兄弟姉妹、わたしたちは日に何度も、どのような選択をするか、ソドムと神殿のどちらに向けて天幕を張るべきかを決断する必要があります(創世13:12; モーサヤ2:6参照)。

神が宇宙のほかの楽しみに気を取られてしまわれることはありません。わたしたちを御自身の最大の関心事とし、目的としておられるからです。「宇宙には何もなく」(バーナード・ラッセル, “A Free Man’s Worship”. *Mysticism and Logic and Other Essays* [1917年], 50で引用)人は「統治者のいない……宇宙」(アルバート・カムス, *The Myth of Sisyphus and Other Essays*, ジャスティン・オブライアン訳 [1955年], 123)に住んでいると信じる人たちにとっては、正反対の事実です。

さらに、わたしたちが神の霊の子供として存在していたことも啓示により明らかになりました。「人もまた初めに神とともにいた」ことが、人類の永続性に関するさらなる洞察とともに宣言されたのです(教義と聖約93:29参照)。この宣言が示唆しているものは重大で、深く考えさせられます。世の中では、人は「無から」瞬時に創造されたと教えられていることもその理由の一つです。

さらに、人が「初めに」神とともにいたという事実は、わたしたちが一個人として長い間存在していることを意味しています。ですから「神がまずわたしたちを愛して下さった」と言った使徒ヨハネの言葉は正しいのです(1ヨハネ4:19参照)。世の荒波にもまれるわたしたちも、人は単なる歯車の一部でも競争相手でもなく、皆、霊の兄弟姉妹であることを知り、人の命を特別な尊厳と敬意をもって見るべきです。

これら3つの啓示や翻訳は「驚異的な」ものですが、人間が最も深く切望し、当惑する事柄に答えるものです。それは、神の属性や天空について理解を正してくれます。また、人の存在や人生の真の意味を教えてください。これらの簡潔な宣言はほとんどすべてを包括し、かつ一人一人に

向けられたものがあるでしょうか。

今述べた啓示が、ジョセフ・スミスを通して一つしか与えられなかったとしても、ジョセフが偉大な預言者であることが証明されたでしょう。神は「〔御自分の〕持っておられるすべて」を与えたいと望んでおられますが、それは人の理解を超えています(教義と聖約84:38参照)。

パウロが「不信仰のゆえに疑〔わなかった〕」アブラハムをたたえた理由も分かります(ローマ4:20)。回復された福音の教義を静観するとき、そこには危険が待ち構えています。これほど力強く希望に満ちた真理を前にして疑いを抱くかもしれないのです。

息をのむほどの素晴らしい啓示と翻訳を授かっているのですから、ベニヤミン王の勧告に従おうではありませんか。「神を信じなさい。……人は主が理解される事柄すべては理解しないということを信じなさい。」(モーサヤ4:9)

全能の神は、すべての人に選択を任せておられます。しかしわたしたちは、神が遠い昔にお選びになったことに対して感謝せずにはいられないはずです。神は、御子の贖い^{あがな}を通して、すべての子供たちに救いと復活をもたらされました。それでも多くの人はこの世の煩いに心を奪われ、神の様々な招きを拒んでいます。彼らは主にとって見も知らぬ他人で、心の思いと志とを異にしているのです(モーサヤ5:13参照)。

神の計画と果てしない宇宙の中心は、信じられないほど個人に向けられています。例を挙げましょう。「神はすべての人の子らを見下ろしておられます。また……神はその心の思いと志をすべて御存じです。」(アルマ18:32。イザヤ66:18も参照)

わたしたちは神に対して責任があるため、裁きの日に黙秘権を行使することなどできないのです。

最後に、本来なら第一に言及すべき卓越した啓示について話したいと思います。それは、救い主イエス・キリストがその御姿をお示しになったことで、復活が真実であると証明されたことです。それ



教会本部ビル前の広場に据えられたこの像は、ジョセフ・スミスとエマ・スミスをテーマにしたものである。

は聖なる森で始まり、その後も続きました。パルマイラやカートランド、ハイラムなどの人目につかない場所でしたが、それによって全人類が切に望んでいた復活の確認が与えられたのです。

残念なことには、現在世の中ではキリストを遠い存在と受け止める人が多く、主をおろそかにしたり、侮辱したりすることさえあります。ですから、回復の啓示により「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった」(ヨハネ3:16)という普遍の事実が確認されたことは、まさに並外れて特別な出来事だったのです。

「無限の贖罪^{しゅくざい}」となったイエスは、計り知れない苦しみを受けられました。また「万物の下に身を落とし」そして「すべてのことを悟〔られた〕」救い主は、すべてを理解することがおできになります(2ニーファイ9:7; 教義と聖約88:6)。確かに、昔の黒人霊歌に歌われているように、「わたしの苦しみはだれも知らない、知るのはただイエスだけ」なのです。

兄弟姉妹の皆さん、地球上にはこれらの啓示や翻訳を必要としている人が数多くいます。その中には、「絶望にうちひしがれた静けさ」の中で生きている人たちがいます(ヘンリー・デビッド・ソロー、Walden〔1965年〕、7参照)。また現代においては、騒々しくすさんだ生活を送っている人もいます。そのような人々は、感覚を失うまで自分の能力を乱用し、「心〔が〕鈍」くなります(モロナイ9:20; エペソ4:19; 1ニーファイ17:45参照)。そして刺激を求めて空の皿をなめ続けるのです。とはいえ、そのような人の数はまだ多くなく、「少数」にすぎません(モーサヤ29:26-27参照)。

終わりの日に、サタンは自分に従った者たちを「助けよう」とはしません(アルマ30:60参照)。助けられないのです。イエスが必ず大勝利を収められるだけでなく、サタンが築いた見かけ倒しの建物、すなわち「肉の思いに快い」建物は崩壊してしまいます。その「崩れ方は非常に甚

だし」いのです(アルマ30:53;1ニーファイ11:36参照)。今でも、放蕩^{ほうとう}生活から「本心」に立ち返った人々の生活を見ると、悪魔の教義がすでに崩壊の兆しを見せているのが分かります(ルカ15:17参照)。中には、悪魔に従うことのむなしさを知り、「御言葉^{みことば}を聞く用意のできている」人たちもいます。この人々は、救いをもたらす啓示と翻訳が伝えられるのを待っているのです(アルマ32:6参照)。

兄弟姉妹の皆さん、回復された福音が宣言する真理を出し惜しみしてはなりません。慰めを与える啓示と真理を教える翻訳を差し控えてはなりません。それらは「現在のことをありのままに……未来のこともまた、ありのままに」示すのです。教義を知らないために苦しみ、疲れ切った世の人々が、それらを必要としています。贖いの血こそが彼らを助けます(モルモン書ヤコブ4:13参照)。出し惜しみすれば、悔い改めを妨げるだけでなく、「太陽のように美しく、月のように明るくな」るより良い道を隠してしまうのです(教義と聖約105:31参照)。

わたしたちは善くも悪くも見られることを覚えておきましょう。中には、風変わりだとか、道を誤っていると言う人もいます。中傷に耐えましょう。そのような人々は非難することに飽きると、「大きく広々とした建物」が、実は汚く狭苦しい三流ホテルであることに気づくのです(1ニーファイ8:31-33参照)。わたしたちはののしる者にののしり返すのではなく、心に留めないようにしなければなりません(教義と聖約31:9参照)。その代わり、信仰の盾をかざし、飛んで来る火の矢を阻止するために精力を注ぎましょう。福音が支えとなってくれるはずですよ(1ニーファイ15:24参照)。

兄弟姉妹の皆さん、このうえ何を言えるのでしょうか。言えるのはこれだけです。「たたえよ、主の召したまいし、主と語りし予言者を。」(モルモン書ヤコブ6:12;「たたえよ、主の召したまいし」『賛美歌』16番)イエス・キリストの御名^{みな}によって、アーメン。

福音にさらに完全に 従いましょう

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

**世界中の末日聖徒の働きは何と驚嘆すべきものでしょうか。その胸の内には、
確固とした揺るぎない証^{あかし}があります。**



愛する兄弟姉妹の皆さん、何とい
う素晴らしい時間を共にでき
たことでしょう。この世の煩い
を離れ、神聖な事柄に思いを向けるため
に2日間をささげるのは、実に素晴らしい
ことです。

人は皆、世俗的な事柄にとっても忙しく、
あちらこちらへ振り回されています。世
界中の人が皆、瞑想^{めいそう}し、神に関する事柄
に思いをはせる機会、心を鼓舞し支えと
なる言葉に耳を傾ける機会を必要として
います。

わたしたちの証は強められました。そ
れは大変良いことです。ハロルド・B・リ
ー大管長はかつてこう語りました。「証は
日々更新されなければなりません。」¹

末日聖徒の心の中に、正しいことを行

い、主が示してくださった道に従って生活
したいという望みがあることをうれしく思
います。この大会を通して、正しい事柄
や主の道にかかわる多くのことを思い起
こすことができました。

この大会から感化された皆さんが、今
晩家に帰って床に就く前に、ひざまずい
て感謝をささげ、福音にさらに完全に従
う強さを求めることができるよう願ってい
ます。

聖歌隊の美しい音楽に心から感謝して
います。すばらしい歌声を披露してくだ
さいました。この教会の組織は実に大き
く、多くの人の献身によって運営されてい
ます。この偉大な業のために、時間と才
能を惜しみなく提供してくださる方々に感
謝しています。昨日の独身者による聖歌
隊には霊を鼓舞されました。また昨晚の
宣教師訓練センターの青年たちは、力強
く歌ってくださいました。皆さんの歌に心
から感謝しています。

この話を終えるに当たり、モロナイの言
葉から数節読みたいと思います。

「おお、エルサレムよ、目を覚まして地か
ら立ち上がりなさい。おお、シオンの娘
よ、美しい衣を着なさい。おお、イスラ
エルの家よ、あなたの杭^{くい}を強くし、あなたの
境をとこしえに広げて、決して二度と乱
されることのないようにし、また永遠の御
父があなたに立てられた聖約が果たされ
るようになさい。

まことに、キリストのもとに来て、キリス



トによって完全になりなさい。神の御心^{みこころ}に添わないものをすべて拒みなさい。もしあなたがたが神の御心に添わないものをすべて拒み、勢力^{みぢから}と思いと力を尽くして神を愛するならば、神の恵みはあなたがたに十分であり、あなたがたは神の恵みにより、キリストによって完全になることができる。そしてあなたがたは、神の恵みによりキリストによって完全になれば、決して神の力を否定することができない。』(モロナイ10:31-32)

この大会に出席したことにより、一人一人がより善い男性やより善い女性、より善い少年やより善い少女になることができますように。この業を推し進めるために、兄弟姉妹がささげてくださる奉仕に心から感謝しています。世界中の末日聖徒の働きは何と驚嘆すべきものでしょうか。その胸の内には、確固とした揺るぎない証^{あがな}があります。すなわち、神と、救い主、贖い主である主イエス・キリストが確かに生

きておられることへの証、この神権時代に御二方が御姿を現されたことで、歴史上偉大な時代が始まった、という証です。神の御子が主の主、王の王として地上を統治するためにおいでになるのに備える時代なのです。

愛する友人の皆さんのうえに、天の恵みが注がれますように。この大会で見聞したことによって、皆さんの生活に変化が訪れることを祈っています。一人一人がもう少し優しくなり、もう少し思いやり深くなり、もう少し礼儀正しくなれますように。また、自分の言葉を吟味し、怒りに任せて言葉を発してしまい、それを後悔することのないように祈っています。もう片方の頬^{ほお}をも向ける強さと2マイル行く意志をもって生活し、嘆き悲しむ人の弱くなつたひざをまっすぐにすることができますように。

福音はとても身近なものです。手の届かない思想などではありません。自分の

生活に取り入れられるものであり、人格の本質に変化をもたらすことができるものです。

神がこの偉大な業におけるすばらしい同胞である皆さんを祝福してくださいますように。主の平安と愛が皆さんのうえに注がれ、真に御心に添った生活が送れますように。

帰路に就くに当たり、末日聖徒に求められる生活をさらに完全に送るという決意が皆さんの心に宿るよう祈っています。

皆さんへの愛とともに、わたしの祝福をイエス・キリストの聖なる御名^{みこと}によって残します。また会う日まで、神がともにいてくださいますように。アーメン。

注

1. ゴードン・B・ヒンクレー, *Faith: The Essence of True Religion* (1989年), 93参照

その良い方—— 愛することを選ぶ

中央扶助協会会長
ボニー・D・パーキン

互いへの愛を増し加えるだけでなく、心から愛してください。



扶助協会の姉妹たちとともに集えることは何とすばらしいことでしょう。わたしたちは皆、回復された主の福音における聖約の女性です。年齢や、人生の時期、取り巻く環境がどのようなものであっても、扶助協会では皆さん一人一人を必要とし、大切に思い、愛しています。皆さんの存在に、そしてすべての働きに感謝しています。

わたしの事務室には、マリヤとマルタとともにいらっしゃるイエスを描いたすばらしい絵がかかっています。¹ 毎日この絵を見る度に、女性に課せられた重大なチャレンジについて考えます。ヒューズ姉妹とビングリー姉妹とともに、マリヤとマルタの話を今大会のテーマとして使うよう促しを受けました。主はこう教えられました。なくてはならないものは一つだけである、その良い方を選びなさい。²

今夜は、その良い方を選ぶことについてお話しします。

マルタはベタニヤという小さな村に住んでいました。聖文にはこう記してあります。そこでマルタは「イエスを家に迎え入れた。この女にマリヤという妹がいたが、主の足もとにすわって、御言みことばに聞き入っていた。」³ マルタとマリヤは、ともに主を愛していました。そして「イエスは、マルタと〔マリヤ〕を愛しておられ〔ました。〕」⁴ 実際、二人と主との間柄は一般的な慣習に反するものでした。当時の女性は、男性と福音について話し合うことがほとんどできなかったからです。

あるとき、マルタは食事の用意をしていました。そして聖文にあるように「接待のことで忙がしくて心を取りみだし」ていました。⁵ つまりマルタは、ストレスで押しつぶされそうになっていたのです。

一方マリヤは「主の足もとにすわって、御言に聞き入って」いました。⁶ そしてマルタは、手伝ってくれる人がだれもないために、ますます心を乱していきます。よくある光景だと思いませんか。マルタはこう思っていたのではないのでしょうか。「わたしは調理場で汗だくになって働いているのに、どうしてマリヤは座っているのでしょうか。」そこでイエスに向かって言いました。「主よ、妹がわたしだけに接待をさせているのを、なんともお思いになりませんか。わたしの手伝いをするように妹におっしゃってください。」⁷

主の穏やかな言葉は、マルタには意外だったかもしれません。「マルタよ、マル

タよ、あなたは多くのことに心を配って思いわずらっている。しかし、無くてならぬものは多くはない。いや、一つだけである。マリヤはその良い方を選んだのだ。そしてそれは、彼女から取り去ってはならないものである。」⁸

救い主の答えは、何がいちばん大切かをはっきりと示しています。その晩、マルタの家では、良い方は台所にはなく、主の足もとにありました。食事は後回しでもよかったのです。

マリヤと同じように、わたしも主の足もとで御言葉みことばを聞きたいと切に思います。同時にマルタのように、何とかして山のような洗濯物を片付け、依頼されている仕事を終わらせ、夫に冷めたビザよりもましなものを作ってあげなければならないと思うのです。15人いる孫が、繊細で小さな心の中で何を思っているのか、日々どんな困難に直面しているのかもっと理解してあげたいと思っています。けれどもわたしには、少しばかり大変な教会の責任があります。たくさんの時間はありません。皆さんと同じように、わたしも選択しなければならないのです。生活における霊的な面と物質的な面とのバランスを保つために、取り去られてはならない良い方をだれもが懸命に選んでいます。家庭訪問と銀行強盗のどちらかを選ぶなら話は簡単です。しかし、わたしたちに求められている選択は、多くの場合もっと難しいのです。たくさんの価値あるものから選ばなければなりません。

マリヤとマルタとは、わたしや皆さんのことです。扶助協会の姉妹たち皆のことです。二人は主を愛しており、その愛を示したいと思っていました。このとき、マリヤは主の御言葉を聞くことでその愛を示し、マルタは主に給仕することで愛を示したのです。

マルタは、自分は正しいことを行っているのだから妹も手伝うべきだと考えていました。

主はマルタとマリヤに代表される二つのタイプの女性がいると言われたのではないと思います。イエスはマルタが抱えている問題を退けられたのではなく、



「『その良い方』を選びなさい」とおっしゃることで意識を別の方に向けられたのです。では、良い方とは何でしょうか。預言者リーハイは、「偉大な仲保者に頼り、主の大いなる戒めに聞き従い、主の御言葉に忠実であって、主の聖なる御霊の御心に添って永遠の命を選〔ぶ〕」よう教えました。⁹

なくてはならない唯一のこととは、永遠の命を選ぶことです。人は毎日選択しています。主を求め、主の御声に耳を傾け、従うとき、わたしたちは主の愛、すなわち純粋な愛の御腕に抱かれるのです。

モルモンはこう教えています。「慈愛はキリストの純粋な愛であって、とこしえに続く。」¹⁰ それでは、キリストの純粋な愛について考えてみましょう。この聖句にはどのような意味があるのでしょうか。ヨシュア記に答えの一部があります。「慎んで…あなたがたの神、主を愛し、……心をつくし、精神をつくして、主に仕えなさい。」¹¹ 慈愛とは、互いに仕え、忍耐し、思いやり、理解することを通して示す、主に対するわたしたちの愛です。

キリストの純粋な愛についてのもう一つの意味がエテル書に記されています。「〔イエス〕は、世のために御自分の命を捨てるほどこの世を愛〔さ〕れました。〔主は〕再び御自分の命を得て、人の子らのための場所を用意するために、御自分の

命を捨てられたのです。〔主〕が人の子らに対して抱いておられたこの愛が慈愛であることを、わたしは存じています。」¹² 慈愛とは、主が仕え、堪え忍び、思いやり、理解することを通して示してくださるわたしたちに対する主の愛なのです。

「キリストの純粋な愛」¹³ とは、救い主に対するわたしたちの愛だけではなく、わたしたちに対する主の愛をも意味しています。

マリヤとマルタの話には、慈愛の賜物が小さくなっていく様子も表されています。マルタは手伝ってほしいと願いながら、口に出さないまでも「わたしは正しい、マリヤは間違っている」と明らかにマリヤを裁いています。

わたしたちは互いに裁いていないでしょうか。自分の方がよく分かっているつもりで、人の選択を非難し合っているのでしょうか。しかし実際は、人それぞれの事情や、その人が受けた靈感などをほとんど理解していないのです。こういったことはないでしょうか。「彼女は勤めに出ているのよ。」「彼女の息子は伝道に出ないんですって。」「あの人は召しを受けるには年を取りすぎているわ。」「彼女は独身だからこの召しはだめよ。」このように人を裁く行為や、そのほかの同様の行為は、わたしたちから良い方、すなわち、キリストの純粋な愛を取り去っていく

のです。

自分を周りの人と比較するときにも、良い方を見失います。あの人の髪の方がすてきだ。わたしの足は太い。彼女の子供たちはもっと才能がある。彼女はもっと庭仕事がうまい。姉妹の皆さん、言っている意味がお分かりだと思います。本来の姿ではなく、自分にはないものに目を向けて自分が不十分だと思っははいけません。わたしたちは皆、扶助協会の姉妹なのです。人の批判やうわさ話をし、人を裁いていながら、キリストの純粋な愛を保つことはできません。皆さんには、「マルタよ、マルタよ……」と優しく諭される主の御声が聞こえるでしょうか。

マービン・J・アシュトン長老は、慈愛について見事に語っています。「恐らく最も大いなる慈愛は、互いに親切にし、人を裁いたり、格付けをしたりせず、相手の言動を良い方向に受け止め、口を慎むときに示されるのではないのでしょうか。慈愛とは、人の異なった意見や弱点、欠点を受け入れ、自分を落胆させた相手に忍耐し、人が自分の望みどおりに対応してくれなかったために感情を害したとしても、衝動的な怒りを抑えることです。慈愛とは人の弱点につけ込むことをせず、自分を傷つけた人を赦すことです。そして相手の最も良い点に心を向けることです。」¹⁴

慈愛を実践すれば、姉妹一人一人の気



持ちを理解するようになります。相手の気持ちが分かると、わたしたちは変わっていきます。裁くことはなくなり、純粋に愛するようになるのです。互いへの愛を増し加えるだけでなく、心から愛してください。そうすれば「慈愛はいつまでも絶えることがない」¹⁵ という言葉が確かなものとなっていきます。

マルタの例と同じように、わたしは心を乱したり、当惑したりするときに、慈愛を見失ってしまうことがよくあります。皆さんはどうでしょうか。

わたしは、慈愛を取り戻す最善の方法が、重荷を降ろして、純粋に主を愛し、仕えることであると知りました。どうすればそれができるのでしょうか。まず、天の御父にひざまずいて祈ることから一日を始め、日々聖文を研究して主の御言葉を聞き、授けられる導きに従うのです。キリストへの愛を最優先にすると、周りの人をも愛することができます。「わたしたちが愛し合うのは、神がまずわたしたちを愛して下さったからである。」¹⁶ こうし

て愛は循環していきます。姉妹の皆さん、「慈愛はいつまでも絶えることがない」のです。

この召しを受けたときに心から望んだのは、教会のすべての姉妹を真心から愛せるような深い慈愛を持つことでした。愛を増し加えることにより、皆さんが日々の生活で主の愛を感じられるよう助けたいと思ったのです。わたしは、「御父が御子イエス・キリストに真に従う者すべてに授けられたこの愛で満たされるように…熱意を込めて」御父に祈りました。¹⁷

昨年の12月、日曜学校の教師が一つの提案をしました。什分の一の年末面接のときに、福音の原則をどう研究し、生活に取り入れているか個人的に主に報告するのです。わたしは慈愛に焦点を当てて学ばなければならないと強く感じ、さらにその気持ちは聖餐会^{せいさん}で確認を受けました。それは確かに主からの導きでした。

多くの方々と接する中で、皆さんとその優しさに心からの、力強い愛を抱くようになりました。皆さんの支持によって謙遜^{けんそん}に

なることができ、仕えたいという気持ちは深まりました。慈愛を持つことができたのです。祈りの答えを受けました。召しを果たす中で味わえた最高の瞬間の一つです。きっと進歩することができたのでしょう。何人かの子供たちから、最近どうしてそんなに優しいの、と尋ねられました。今年の12月には、慈愛を理解し、実践するために努力したことを天の御父に報告することができます。

主は、マリヤとマルタになさったように、わたしたちにも取り去ってはならない良い方を示してください。主はキリストの純粋な愛である慈愛を授けてくださいます。「慈愛はいつまでも絶えることがない」からです。

姉妹の皆さん、なくてはならない一つのこと、それは日々主に従うことです。ですから、主キリストを選んでください。主の御言葉を味わい、天の主を信頼することを選んでください。主の愛を待ち望み、心のすべてを主にささげることを選択するので。そして良い方を選んでください。

これらを、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

注

1. 「マリヤは主の言葉に耳を傾けた」ウォルター・レーン画、教会歴史美術博物館の厚意により掲載
2. ルカ10：42参照
3. ルカ10：38-39
4. ヨハネ11：5
5. ルカ10：40
6. ルカ10：39
7. ルカ10：40
8. ルカ10：41-42
9. 2ニーファイ2：28
10. モロナイ7：47
11. ヨシュア22：5、強調付加
12. エテル12：33-34、強調付加
13. モロナイ7：47
14. 「舌は鋭い剣となる」『聖徒の道』1992年7月号、20
15. モロナイ7：46
16. 1ヨハネ4：19
17. モロナイ7：48、強調

あかし

証

「その良い方を選ぶ」

以下は、「その良い方を選ぶ」という歌の間奏のときに述べられた短い証です。

ジャネット・エドワーズ、ユタ州ソルト
レーク・シティー、テンプルスクウェアで
働く宣教師。ニューヨーク州出身

ニューヨークに住んでいたころ、演劇の世界に浸っていました。9月11日の悲劇がきっかけで、こんな生活のままではだめだと思いました。世俗的なものに夢中で、イエス・キリストを第一にすることを忘れていたのです。あの悲劇の日に、人生最大の決心をしました。主を選んだのです。主の平安と幸福を。

ガリーナ・ペルシナ、ユタ州ソルト
レーク・シティー、テンプルスクウェアで
働く宣教師。ロシア出身

教会に入ったとき、家族からは教会に誘わないでほしいと言われました。伝道に出てから母は重い病気になりました。そして地元ロシアの姉妹たちが、母を大きな慈愛で包んでくれたのです。姉妹たちと一緒にいるとき、母はわたしと同じ御霊を感じます。わたしをもっと身近に感じ、キリストの愛を感じるのです。

フローレンス・チャックウラー、中央扶
助協会管理会員。ナイジェリア出身

若いときに、貧困から抜け出し神を熱心に求めようと決意しました。親や年長者に従い、勉強にもまじめに取り組むことを決めました。また自分の手で熱心に働こうと心に誓いました。主はわたしの祈りを聞いてくださり、努力に報いてわたしと家族にすばらしい祝福を下さいました。

ドナ・S・パッカー、ボイド・K・パッカー十二使徒定員会会長代理夫人。母、祖母、曾祖母。ユタ州出身。

自分の証を得ること。借り物の光で、日々の試練に立ち向かうことはできません。また、だれかの霊的な知識にずっと頼るわけにはいきません。自分で知る必要があるのです。聖霊だけが、イエスが生けるキリストであられるという証を心の奥に結び固める力を持っておられます。



ジャネット・エドワーズ



フローレンス・チャックウラー



ガリーナ・ペルシナ



ドナ・S・パッカー

主との聖約

中央扶助協会第一副会長
キャスリーン・H・ヒューズ

姉妹の輪はあらゆる年齢や背景の人を結んでいます。交わした聖約によって結びついているのです。



愛する姉妹の皆さん、時がたつのは速いもので、末日聖徒イエス・キリスト教会の扶助協会の姉妹としてまた集うことができました。これは素晴らしいことです。わたしたちはどのような状況にあっても、祝福された女性です。主の業を行うと、天の御父と聖約しました。そしてまさにそのとおりに行っています。マリヤとマルタのように、主の足もとに座り、「良い方を選んだ」¹のです。キリストを選び、扶助協会を選んだのです。

わたしたち女性は扶助協会がどのようなものであるか完全に理解しているでしょうか。ジョセフ・スミスはエライザ・R・スノーが書いた規約の原案を読み、最高の文章であると言いましたが、「それ以上にいいもの」を思い描きました。預言者ジョセフは「姉妹たちを神権の下に神権の形態に倣^{なら}って組織」しました。²そして「鍵を

回し」³、「ノーブー女性扶助協会」を設立しました。そして、教会はこの瞬間に初めて完全な組織となったと言ったのです。⁴姉妹の皆さん、この言葉を理解することが肝要です。扶助協会は神により、預言者を通して、そして神権の権能の力により設立されました。扶助協会が存在することは、教会の組織に必要なことです。家族をキリストのみもとに連れて行こうと努力する男性と女性は、それぞれ神権定員会と扶助協会という組織にあって、ともに協力し合います。わたしたち女性は、教会における自分たちの役割が男性の役割より劣っているなどと決して考えるべきではありません。義にかなった女性として神権を尊びつつ、女性としての自らの神聖な召しを担い続ける必要があります。

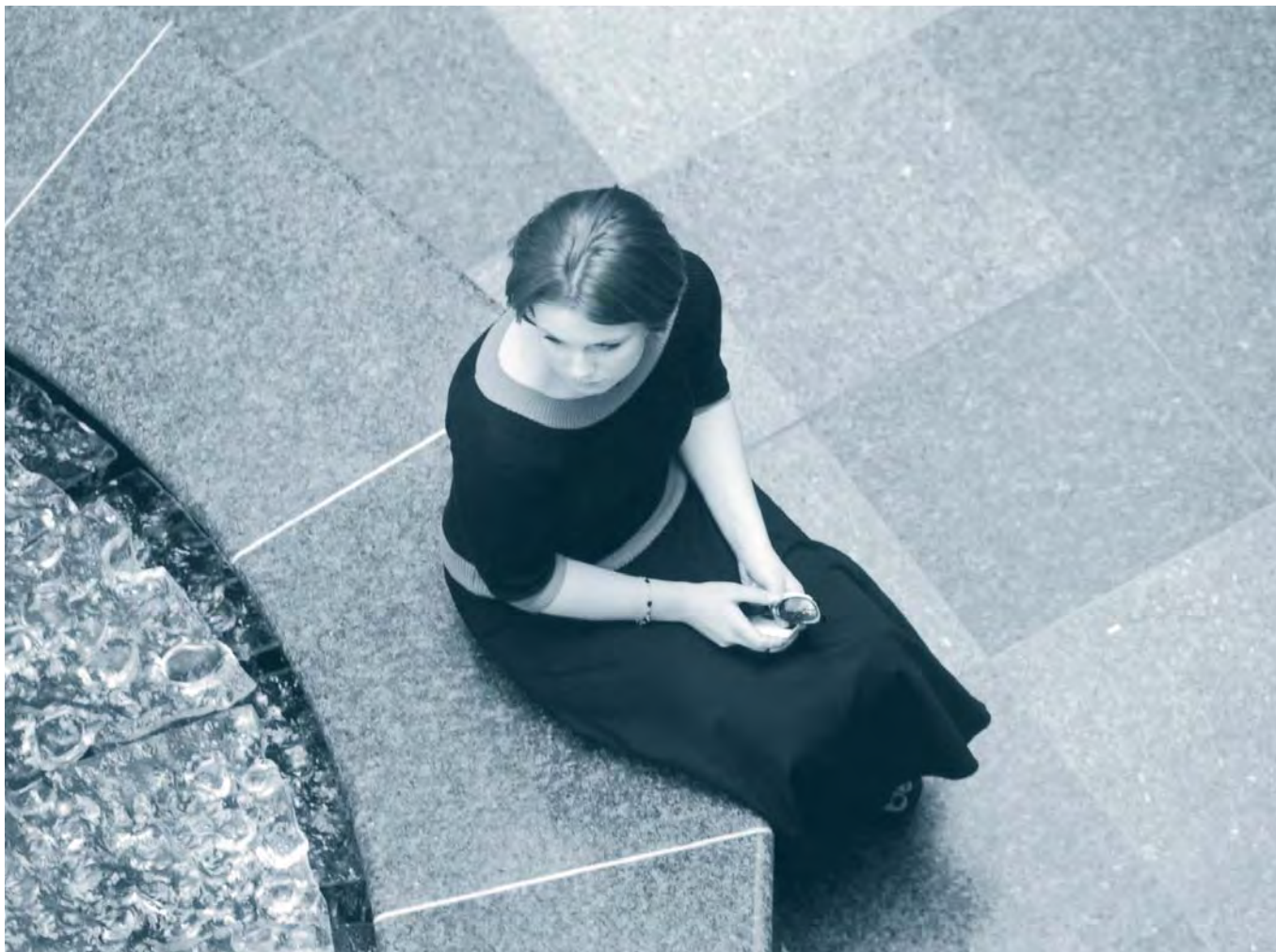
救い主とともにいるマルタとマリヤの絵をじっくりと見ているうちに、二人が先輩のように思えてきました。そして二人とも「数々のよい働きや施しをしていた」⁵女性だったのではないかと考えるようになりました。この二人をはじめ、キリストの弟子であった忠実な女性は皆、ともに集い、王国を築くうえでの自分たちの役割を学んでいたと想像してみると、うれしくなります。皆わたしたちと同じく、聖約の女性でした。キリストに心を尽くして仕えたと決意していました。扶助協会が組織されたときも、仕え合い、愛し合い、助け合うという女性の天与の召しと望みから、扶助協会は発展していきました。主の業において神権の儀式や導きが必要なように、わたしたちの奉仕も必要とされています。

この大切な業を達成するために、わた

したちは聖約の女性、つまり主と神聖な約束を交わした女性になることを選びました。神殿の祝福を受けた女性は、主の王国を築き上げるために時間と才能を奉獻すると約束しました。この聖約を通して、様々な役割を受けて教会で奉仕することができるのです。

わたしは20年前に、ワードで若い女性の会長に召されました。当時わたしの髪は茶色く、体は、そうですね、もう少し柔らかかったはずです。その後何年もたって、別のワードで再び同じ召しを受けました。わたしは自分が再利用してもらえたので、うれしく思いました。主がわたしを必要としておられるのであればどんな責任でも果たすという、主との聖約を新たにする機会となりました。しかしこのとき髪はすでに白髪交じり(と言うより、ほとんど白髪)で、前かがみでひざを曲げずにつま先に触ることがとてもきつく、それくらい体が硬くなっていました。しかし自分が年を取りすぎているからといって、忠実で聡明で快活な、素晴らしい若い女性たちと交わることの恩恵をもう受けられないとは思いませんでした。こう考えたいと思いました。自分は少女たちに役立つ知恵を以前よりも少し蓄えていて、彼女たちに役立てることができ、福音に対する証もより強まっていると。しかしこのときもまた、彼女たちがわたしから学んだのと同じくらい、わたしも彼女たちから学んだのです。姉妹の輪はあらゆる年齢や背景の人を結んでいます。交わした聖約によって結びついているのです。

忘れないでください。聖約が無効になることなどありません。人生のどの時期にあっても仕え合うことができます。最近聞いた話です。若い母親が壇上に座っていたのですが、子供が騒いで困っていました。ご主人は監督会の責任を受けています。すると、年配の女性がその子をひざに乗せ、静かにさせてくれました。このような小さな行いが神の王国を築くことになるのです。それがわたしたちの仕事です。そしてそれが扶助協会の姉妹としての姿です。扶助協会会長の責任であれ、初等協会の教師の責任であれ、あるいは若い女性キャンプ指導者であれ、それぞれが扶助協



会の姉妹として神聖な責任を果たしているのです。年配の隣人の様子を知らうと連絡を取ったり、若い母親を励まし助けたり、ほかの家族のことを祈ったりするとき、聖約を守っていることになるのです。

最近わたしたち会長会は教会のある指導者と会いました。その指導者は扶助協会や神権会が、「姉妹たちまたは兄弟たち、今大変なんです。助けてくださいませんか」と互いに言える場であってほしいと話しました。わたしはそのような扶助協会に出席したことがあります。姉妹たちが証を述べ、ある姉妹が寂しさを語ってくれた日曜日の朝を、わたしは決して忘れないでしょう。その姉妹はかつて夫に裏切られ、離婚し、その結果少ない収入で子供を育てるといふ経済上の困難を経験しました。そして子供が巣立った今、孤独を味わっていたのです。話を聞くうちに温かい雰囲気^{みたま}に包まれ、強い御霊を感じました。そして姉妹たちは彼女を囲ん

で、最善のことをしました。つまり愛を示したのです。その日、扶助協会の部屋は神聖な場所となっていました。そしてすべての姉妹にとって理想の扶助協会の部屋になっていたのです。

すべての姉妹を輪に入れることがとても大切です。初等協会や若い女性で奉仕している姉妹たちを忘れないようにしましょう。彼女たちには、見守ってくれる忠実な訪問教師が必要であり、よく計画され、参加しやすい「家庭、家族、個人を豊かにする集会」が必要です。扶助協会にはわたしのように年を重ねてきている人も大勢います。わたしと同世代、または先輩の姉妹の皆さん、ぜひ「再利用」してもらいましょう。主は皆さんの働きを必要としておられ、わたしたちも皆さんを必要としています。

若い女性から扶助協会に移行することが難しいと感じているある若い姉妹を知っています。とても忠実で信仰も強いのですが、今は孤独を味わっています。どうし

てそのようなことがあるのでしょうか。もしまことの姉妹同士であるならば、お互いの必要を分かり合えるのではないのでしょうか。この青年期には、単に、少女から成人の女性へと移行するのではなく、姉妹の強いきずなの中で自然な段階を踏んで移行すべきです。このような若い女性はワードの中にたくさんいます。彼女たちを見いだし、愛を示し、姉妹の輪の中に連れて来てください。また、若い姉妹の皆さんにも申し上げます。輪に加わり、姉妹たちを知る自分なりの努力をするまでは、扶助協会がどのようなところか分かったつもりにならないでください。若い女性から扶助協会に移ることは、あるクラスから別のクラスへと変わることではありません。主に仕えるうえで、また主の業を行ううえで、より重要な役割を果たす機会となるのです。

姉妹の皆さん、扶助協会は社交クラブではありません。とはいえ、姉妹の輪から深い友情が生まれるのです。若い女性が

わたしたちを「日曜日に集まるおばさんたち」と呼ぶのを耳にしたことがあります。そうではありません。わたしたちには発揮できる力があります。その力は神から神の目的を達成するために与えられたものです。扶助協会は世界最大の女性の組織です。主から頂いた知識と靈感をもって地域社会と接していくなら、わたしたちの知恵や助言を必要とする世の中を導くうえで貢献することができます。それは、預言者ジョセフが期待していたことです。そして今日（こんにち）ヒンクレー大管長もそのように期待しています。

責任の大きさに圧倒されるかもしれませんが、最近バプテスマを受けたわたしの孫が、聖約は双方向の約束であることをすかさず話してくれるでしょう。聖文にあるように「多く与えられる者からは多く求められ」⁶ ることは周知の事実です。しかしこのことも忘れないでください。多くを求められる者にはまた、多く与えられるのです。神と聖約を交わし、その聖約を守ると、あらゆることが可能になります。主の業を行うのに必要なものはすべて与えられます。

愛する姉妹の皆さん、聖約の女性としてキリストに忠実になり、そして主の娘であるわたしたちのための主の組織に忠実になると、今晚再び決心するようにお勧めします。良い方を選んでください。キリストに従うことを選んでください。扶助協会を選んでください。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

- 1 ルカ10：42参照
- 2 サラ・M・キンボール "Autobiography," *Women's Exponent*, 1883年9月1日付, 51で引用
3. ジョージ・アルバート・スミス "Address to the Members of the Relief Society," *Relief Society Magazine*, 1945年12月号, 717
4. "Story of the Organization of the Relief Society," *Relief Society Magazine*, 1919年3月号, 129参照
5. 使徒9：36
6. 教義と聖約82：3, 717.

それゆえに、あなたがたは主キリストを選びなさい

中央扶助協会第二副会長
アン・C・ピングリー

女性がキリストを心の中心に据え……ることを選ぶなら、それは主を家庭と家族の中心に招き入れていることになります。



姉妹の皆さん、キリストに心をすべてささげるうえで、選択が任されているということは実にすばらしい教義です。わたしたちは、救い主であり贖い主である御方を心の中心に据えるか否かを選ぶことができます。イエス・キリストの回復された福音を「墨によらず生ける神の霊によって書かれ、石の板にではなく人の心の板に書かれたもの」¹ とすることができます。第一の位においてわたしたちはキリストに従う道を選びました。この世の生活において毎日主を選べるという事実は、何と喜ばしい知らせでしょうか。

世界中のあらゆる国で暮らす聖約の女性にとって、主を生活の中心とすることは不可欠です。この「危険な時代」² にあって、わたしたちはどれほど主を必要としているでしょうか。主は強さと安全の源です。主は光であり、命です。主の平安は「人知ではどうも測り知ることのできない」ものです。³ わたしたち一人一人の救い主であり贖い主である御方は、手を差し伸べ、「キリストのもとに来」よう招いておられます。⁴ 主は、それぞれに最も適した方法でお招きになるのです。姉妹の皆さん、救い主の招きに応じるとき、人は個人として強められます。そして義にかなった影響力を通して、周りの人に祝福をもたらすのです。

女性がキリストを心の中心に据え、自分の生きる世界の中核とすることを選ぶなら、それは主を家庭と家族の中心に招き入れていることになります。独りでも大家族でも同じです。どこに住んでいようと、どのような境遇にあらうと、家庭と家族の中心である一人一人の女性の心の中に据えられたものは、家庭環境や家族の精神に反映されるのです。

割り当てを受けて日本を訪れたとき、ある指導者が自宅へ招待してくれました。わたしたちはこの機会を非常に光栄に思うと同時に、奥さんはソルトレーク・シティーからの突然の来客をどのように受け

止めるだろうかと気になりました。この指導者は、自宅へ向かう途中で家に電話をかけたが、急な客を迎える準備の時間は15分しかないように思われました。

玄関に入って靴を脱ぎ、若く、穏やかな口調の扶助協会の姉妹に温かく迎えられたその瞬間から、秩序と平安と愛の御霊を感じました。幼い子供たちは遊び道具を持って急いで2階へ上がって行きました。8人家族のうち7人がともに暮らすこの家で、家族が最も大切にしているものは何か、はっきりしていました。主への信仰を表すものが至る所にあつたのです。救い主の絵が壁にかけられ、目につく場所に家族の写真と神殿の絵が飾られています。棚には使い込まれた聖典と教会のビデオが整然と並べてありました。「御霊の実[である]……愛、喜び、平和、……慈愛、善意、忠実」⁵ がこの家に宿っているようでした。様々な年齢の子供たちがこの小さな部屋に集まる様子を思い浮かべてみました。両親を中心に座卓の周りに座り、「キリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し、また、どこに罪の赦しを求めればよいかを、[彼らの子供たち]に知らせるために」⁶ 集まっているのです。ジェフリー・R・ホランド長老が投げかけた質問に、この家の子供たちがどう答えるかが分かりました。「わたしたちが心の底から神を愛していることを[子供たちは]知っているでしょうか。[わたしたちが]神の独り子の御顔を拝し、その足もとに伏したいと切望していることを知っているでしょうか。」⁷ これらの質問に対して、この日本の家庭では「もちろん知っています!」と子供たちが声高に答えることでしょう。

キリストを心の中心に据えることを選ぶということは、毎日の生活の中でキリストのような行いを実践するだけでなく、家族にも同様に行うよう教えるという選択をしていることになります。愛する姉妹の皆さん、すでにお気づきのようですが、キリストのような行いを実践する日常生活の中でこそ、わたしたちは最も大きな試練に直面するのです。

ある母親は、家族の中で悔い改めの過



程について教えるために最善を尽くしました。そして、5歳になる息子がお菓子を盗んでしまったとき、母親は息子を店まで連れて行き、悔い改めの原則を自分に当てはめることができるよう助けたのです。それは少年にとって決して忘れられない出来事となりました。少年は自分の行動に責任を取らなければならないことを、経験を通して学んだのです。恐れを抱きつつ、少年は盗んだお菓子を返し、店主に謝りました。そして決してこのようなことを繰り返さないと約束したのです。少年がその約束を今も守っていることをうれしく思います。なぜならわたしがその母親であり、少年はわたしの息子だからです。

このような出来事はどの家庭にも起こり得ます。愛する子供や孫、おいやめいに福音がしっかり根付くよう、熱心に働き

かけている場合でもそうです。「イエス様のように」⁸ なるためには、訓練が必要なのです。やがてはそれが習慣となります。キリストを心の中心に据えることを選ぶなら、主を心の中心に置くよう周りの人に説き勧めるときに、様々な方法で助けが与えられます。時として、十分な進歩を遂げていないように感じる場合がありますが、そのような失意の日に、わたしは救い主の慰めの言葉を思い出します。「善を行うことに疲れ果ててはならない。あなたがたは一つの大いなる業の基を据えつつあるからである。」⁹

良い方を選び、導きと助けを求めて日々祈ることで救い主を生活の中心に置くとき、神は「力と知恵」を与えてくださいます。¹⁰ 家族を強められる霊的な洞察力が与えられるのです。3人の幼い子供の



父親であるダグは突然職を失いました。失業保険とわずかな貯金、それに親類からの援助で家族を養わなければなりません。夫婦で臨時の仕事に就き、家計を補いながら、妻のローリはできるだけ事態を肯定的にとらえるよう努めました。二人は祈り、聖文を読み、神殿に参入し、什分の一を納め、すべての正しいことを続けました。履歴書を何枚も準備し応募を続けたにもかかわらず、面接の機会はわずかで、就職の可能性はほとんどありませんでした。

職探しが6か月を過ぎたある日、ローリは母親に電話をしました。涙混じりの、多少怒りのこもった声で、ローリはこう言いました。「天のお父様がわたしたちの祈りを聞いてくださっているとは思えないの。これ以上祈ることなんてできないわ。祈ってもどうにもならないのよ。」

電話で話すうちに、ローリの母親は靈感を受けました。そして何を伝え、どのように対処したらよいのか知ったのです。母親は証を述べ、娘がすでに知っていることを思い起こさせました。「ローリ、あなたは知っているはずよ。天のお父様があ

なたを愛しておられ、あなたの必要としているものをよく御存じだということを知っているでしょう。時には待つことも必要なのよ。精錬される御方の火によって清められているのかもね。わたしには分からないけれど、一つだけはっきりしていることがあるの。今すぐ寝室に行ってひざまずいて祈らなければならないわ。慰めと平安を求めて主に祈るのよ。ダグの仕事はきつと見つかるわ。ただ少し時間がかかるかもしれないわね。あなたたちのことを愛し、祈り、支えている人たちのことを忘れないでね。あなたは今も大きな祝福を受けているのよ。」

ひざまずいて祈り、主に心に向けたとき、ローリは思いが変化したことに気づきました。救い主の愛を自分自身の生活の中に招き入れ、家庭の中にもたらしたのです。

愛する姉妹の皆さん、わたしは生活の中でしばしば主の愛を感じてきました。物事がうまくいく日もあれば、目の前の試練に立ち向かうことができないと感じた日もありました。しかし、どんなときでも主に助けを求めてきました。主がいつでもともにいてくださることを証します。主の憐れみ深

い愛の御腕^{みうで}が、わたしにも皆さんにも差し伸べられているのです。イエス・キリストが強さの源であられることを心から証します。キリストはわたしの希望です。また、救い主であり贖い主です。皆さんとともにわたしは宣言します。「わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。」¹¹ イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. 2コリント3：3
2. ゴードン・B・ヒンクレー「わたしたちが生きている時代」『リアホナ』2002年1月号、83
3. ピリピ4：7
4. オムナイ1：26
5. ガラテヤ5：22
6. 2ニーファイ25：26
7. 「子供たちのための祈り」『リアホナ』2003年5月号、87
8. 「イエス様のように」『子供の歌集』40-41
9. 教義と聖約64：33
10. アルマ31：35
11. ヨシュア24：15、強調付加

教会の女性たちへ

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

皆さんの人格と働きに感謝しています。天の祝福が皆さんのうえに注がれますように。



ある人がこう言いました。「女性には親切に下さい。女性は、全人口の半分を占めており、残り半分の人たちの母親なのだから。」

愛する姉妹の皆さん、いつも良い方を選んでいらっしゃる素晴らしい女性である皆さん、皆さんの働きに心から感謝しています。その影響力はあらゆるところに及んでいます。

皆さんの多くは母親であり、その務めを果たすだけで、時間がすっかり埋まってしまう。

また、これまでもこれからも、夫にとって同僚であり、文字どおり最良の友人です。

皆さんは主婦でもあります。大したことではないと思われるかも知れませんが、家をいつも清潔にし、整頓するのは大変な仕事です。

皆さんは買い物係も務めます。家族の食物が十分あるように気を配り、家族の

ためにきちんとした服をいつも準備し、家を切り盛りするのに必要なものをすべて買いそろえる。これがどれほど重い責任か、わたしは年を取るまで、まったく気づきませんでした。

看護師もします。家族を襲うあらゆる病気に関して、皆さんは最初に知られる人であり、最初に助けの手を伸べる人です。重病の場合、不眠不休で傍らに付き添い、慰め、励まし、仕え、祈ります。

家族のお抱え運転手にもなります。新聞配達をする子供を乗せて運転して回り、また、運動会やワードの野外活動など、忙しいスケジュールに合わせて車であちこちへと連れて行ってあげています。

数え上げればきりがありません。わたしの子供は、もう皆大きくなってしまいました。60代の子供もいます。子供たちからの電話にわたしが出ると、いつも「お父さん、元気にしてる？」と尋ねてくれます。しかし、その質問に答える間もなく、「お母さんいる？」と尋ねてくるのが常です。

ヒンクレー姉妹は人生のあらゆる面で子供たちの力となってきました。子供たちは生まれたときから彼女を信頼し、妻はいつもその信頼に愛と導き、教えをもってこたえ、子供たちの人生にあらゆる方法で祝福をもたらしてきました。

すでに母親となった孫もいます。その孫たちがわたしたちに会いに来ますが、そのようなときに、母親となった孫たちの忍耐、子供をなだめ、泣きやませる能力、少なくともわたしの目には無数とも映る事柄を処理する能力に驚嘆しています。

彼女たちは車を運転し、コンピューター

を操作し、子供の活動に出席し、料理や縫い物をし、教会でレッスンをし、お話の責任を果たしています。

孫娘の夫たちに会うと、わたしは次のような言葉を投げかけたくになります。「目を覚まし、重荷を分かち合ってあげてください。妻の働きに心から感謝していますか。妻が一体どれほどの仕事をしているか知っていますか。妻を褒めることがありますか。妻に感謝の言葉を伝えてありますか。」

愛する女性の皆さん、わたしは皆さんに感謝しています。皆さんの人格と働きに感謝しています。天の祝福が皆さんのうえに注がれますように。祈りがこたえられ、希望や夢が実現しますように。

皆さんは教会で実に献身的に奉仕しています。ほんとうに大きな責任と感じていることでしょう。実際にそうです。しかし、すべての責任を果たす人には大きな報いが与えられます。

自分は不出来だと感じている人がたくさんいます。うまくできない、自分なりにありとあらゆる努力を払っても十分ではないと感じている人がいるのです。

しかし、人は皆そのように感じるものなのです。わたしも今晚こうして話しながら、同じように感じています。皆さんを高め、鼓舞し、たたえ、感謝し、皆さんの心に少しでも喜びをもたらすことができるように願い、祈っているのです。

人は皆、自分のやっていることに自信が持てず、もっとうまくできればいいのにと思いがちです。しかし、残念ながら、わたしたちは気づいていません。行いの結果というものは、見えないことがよくあるのです。

何年も前にアメリカ東部のあるステーク大会に出席したときのことで。帰りの飛行機の中で、わたしは大失敗だったと感じました。だれの心も動かすことができなかったと思ったのです。自分の至らなさを感じ、惨めな思いにさいなまれました。

それから数年後、カリフォルニアで別の大会に出席しました。集会が終わると、一人の男性がわたしのところに来てこう

言いました。「何年か前に、どこそこの大会に出席されたでしょう。」

「ええ、出席しましたよ。そのときのことはよく覚えています。」

その男性はこう続けました。「あなたの話は感動的でした。あの集会にわたしは単なる興味本位で出席しました。実を言うとまったく関心がありませんでした。もう少して教会を離れるところだったのです。ただ、十二使徒が訪問するという発表があったので、行くことにしただけだったのです。」

あのときの話が考えるきっかけとなりました。あなたの言葉がわたしの心に触れ、いつまでも残り、行動に駆り立ててくれたのです。わたしは生き方を変えることにしました。生活態度をがらりと変えることにしたのです。わたしは今ここカリフォルニアに住んでいます。やりがいのある仕事にも恵まれており、そのことに感謝しています。良い父親、良い夫でありたいと願っています。それから今、ワードで副監督として奉仕しています。これまでの人生で今ほど幸せなときはありません。」

わたしはその男性に感謝の言葉を伝え、別れた後、首を振りながらこう独り言を言いました。「分からないものだ。自分が人の役に立っているかどうか、そして、どれほど大きな影響を与えているか、ほんとうに分からないものだ。」

さて、愛する姉妹の皆さん、皆さんにも同じことが言えます。皆さんは最善を尽くしています。その努力が自分と人に良い結果を招いているのです。挫折感を抱いて自分を責めるのはやめましょう。ひざまずいて主の祝福を願い求めてください。立ち上がって自分に求められていることを行ってください。その後はすべてを主の御手にゆだねてください。そうするとき、自分はとても貴重なことを成し遂げたのだということに気づくでしょう。

今わたしはきわめて多種多様な方々に向けて話をしています。中にはまだ学生である若い女性や、すでに働いている若い女性もいます。独身の皆さんは、非の打ち所のない男性を見つけないかと望んでいます。しかし、わたしはまだそのような

完璧な男性に出会ったことはありません。理想を高く設定するのは良いのですが、高すぎてまったく到達できないということがないようにしてください。大切なのはその男性が自分を愛してくれる人物かどうか、自分を尊び、敬い、決して裏切らず、自由に意見を述べたり、才能を伸ばしたりさせてくれる人物かどうかということです。完全になることはなくても、親切で思いやりがあり、仕事をして生計を立てる方法を知り、正直で信仰あふれる男性ならば、あなたは結婚相手に関して誤りを犯すことはなく、計り知れない幸福を得ることでしょう。

残念ながら、この現世で結婚しない人もいるでしょう。そのような境遇を経験することになる人が時々います。しかし、そうなったとしても、自分の境遇を悲しんで生涯を過ごすようなことがあってはなりません。世の中が皆さんの才能を必要としています。皆さんの貢献を必要としています。教会が皆さんの信仰を必要としています。皆さんの力強い助けの手を必要としているのです。人生は、自分が失敗と思わないかぎり決して失敗ではありません。皆さんの助けの手、愛にあふれるほほえみ、優しい思いやりを必要としている人が大勢いるのです。ほんとうに有能で、魅力的で、美しいのに、愛する人に巡り会えない女性がたくさんいます。その理由はわたしにも分かりませんが、一つ言えること、それは全能の神の計画、わたしたちが神の幸福の計画と呼ぶ永遠の計画において、機会と報いは求める人に将来必ず与えられるものだということです。

次に、小さな子供のいる若い女性の皆さん、皆さんは途方もなく大きなチャレンジを担っています。経済的に恵まれないということも多々あるでしょう。しかし、そのような中にあっても、儉約し、貯蓄しなければなりません。支出には知恵を使い、注意を払わなければなりません。強い信仰を持ち、雄々しく、勇敢であり、目に喜びをたたえ、心に愛を抱きつつ前進しなければなりません。愛する若い母親の皆さん、皆さんは何と祝福されていることでしょうか。永遠に皆さんのものと

る子供がいるのです。主の宮で結び固めを受け、皆さんの家族が御父の王国において永遠の家族となるよう祈っています。

皆さんが力を与えられ、それによって重責を担い、あらゆる義務を果たし、善良で信仰と思いやりにあふれる夫と寄り添って人生を歩んでいくことができますように。また夫とともに、子供たちを正義と真理のうちに養い育てることができますように。将来所有するほかの何ものよりも、将来手にするこの世の何ものよりも、子供たちへの愛は価値あるものです。わたしの愛する、心から愛する若い母親の皆さん、神が皆さんを祝福されますように。

さて、いまだ年老いたとは言えない年齢の女性の皆さん。皆さんは人生の最もすばらしい季節を迎えています。皆さんの子供たちは10代です。ひょっとしたら、そのうち一人か二人は結婚しています。伝道に出ている子供もいて、その召しを支えるために経済的な犠牲を払っています。子供たちの成功と幸福を望み、祈っています。そのような愛する女性の皆さんに、少し特別な助言をさせてください。

それは「御恵み数え上げ、主の業数えみよ」という助言です。永遠にわたって高額の住宅ローンを返済し続けなければならないような、広大な邸宅は必要ありません。必要なのは、心地よく楽しい愛の宿る家です。ある人がこう言いました。「愛する人たちのために食事を準備している善良な女性の姿ほど美しいものはない。」どちらを選んで行くかよく考えてください。家庭の外で働くことによって得られるぜいたくの中には、必要のないものもあるのです。子供が学校から帰宅したときに家で母親が待っていることがどれほど大切かよく考えてください。

母親の皆さん、娘たちを大切に、近くにいてください。その話に耳を傾け、話し相手になってください。愚かなことをせず、正しいことを行うように導いてください。気持ちのよい、慎み深い服装をするよう見守ってください。世の中に蔓延している恐ろしい悪から守ってください。また、息子たちを愛と助言によって育ててください。個人的な清さや品のよい服装の大

切さを教えてください。だらしない格好はだらしない行為につながります。自制心を身に付けさせてください。ふさわしい宣教師として教会のために奉仕できるように助けてください。

なすべき仕事を与え、働くことを学ばせてください。儉約を心がけるように教えてください。労働と儉約は繁栄につながります。夜11時以降に、真の意味での良いことは決して起こらないということを教えてください。子供たちを甘やかさないでください。伝道に出ると、子供たちは親から見ればつらい環境で生活しなければならなくなるのです。心配せず、励ましてください。

子供たちの心に、教育に対する望みを燃え立たせてあげてください。教育が人生で成功を取るための鍵だからです。それと同時にデビッド・O・マッケイ大管長のよく語った「いかなる成功も家庭の失敗を償うことはできない」¹ という原則を教えてください。

では次に、夫に見捨てられたり、先立たれたりしたために、大きな重荷を負いながらも、独りで子供を育てている皆さんにお話しします。皆さんは耐え難いほどの重荷を背負っています。よく忍耐してください。主の祝福を求めてください。家庭やそのほかの事柄に関して得られる神権定員会の援助に感謝してください。隠れた所で静かに祈り、必要なときには涙があふれるに任せてください。でも、子供たちや人の前では笑顔を絶やさないようにしましょう。

さて、おばあさんと呼ばれる年代の親愛なる皆さん、夫を亡くした年輩の皆さん、年輩で寄り添えない女性の皆さん、皆さんは実に麗しいです。わたしが愛する妻に見とれているうちに、妻はもうすぐ92歳になろうとしています。髪は白く、体は年のせいで曲がっています。

わたしは妻の片方の手を握り、見詰めます。かつてはほんとうに美しく、引き締まっていた、透き通るような美しい手でした。その手も今はしわが寄り、少し骨張っていて、張りもあまりありません。しかし、愛と貞節と信仰、そして何十年もの



歳月にわたって続いた勤労を物語っています。妻の記憶力は昔ほどよくありません。半世紀前に起こったことは覚えていても、半時間前に起こったことは忘れていることがあります。わたしも同じです。

しかし、わたしは妻に心から感謝しています。66年間、わたしたちは手に手を取って、愛し合い、励まし合い、感謝し合い、尊敬し合いながら、歩みを共にしてきました。やがて二人のうちのどちらかが幕のかなたに旅立つことでしょう。残された方もすぐに天に召されるようにと願っています。わたしは、一人残された場合、どうやって生きていけばよいかわかりません。それは来世でも同じことです。妻もわたしなしではやっていけないと思っていてほしいと願っています。

扶助協会の愛する友人の皆さん、皆さんがどのような環境にあっても、どこに住んでいても、天の窓が開かれ、皆さんのうえに祝福が注がれますように。愛し合う気持ちを胸に抱きながら生活できますように。大きな重荷を背負っている人々を力づけるために手を差し伸べられますように。世の中に、とりわけ皆さんの家庭と皆さんの子供たちの生活に、光と美をもたらすことができますように。

わたしが生きているのと同じように確かに、永遠の父なる神は生きておられ、

わたしたちを愛してくださっています。わたしが生きているのと同じように確かに、イエスはキリストであり、神の不死不滅の御子、贖い主であられます。福音は真実です。そして日々の生活の中に天国を築こうとするかぎり、天は近くにあるものなのです。

皆さんは末日聖徒イエス・キリスト教会の扶助協会に属しています。この組織に匹敵する組織はほかに存在しません。誇りをもって歩みを進めてください。頭を上げてください。勤勉に働いてください。教会から求められることは何でも実行してください。信仰をもって祈ってください。皆さんは自分たちがどれほど多くの良い影響力を及ぼしているかわからないかもしれません。しかし、皆さんの働きかけによって生活の中で祝福を得る人がいるのです。皆さんが聖なる御霊の慰めと報いを豊かに受けられますように、イエス・キリストの聖なる御名によって祈ります。アーメン。

注

1. J・E・マッカロック, *Home: The Savior of Civilization* (1924年), 42. Conference Report, 1935年4月, 116で引用

指導者の言葉

子どもたちと家族のためのアイデア



み さんは、今回はどんな大会だったか覚えていますか。何を学びましたか。教会の指導者の言葉を生活に取り入れるためのアイデアをごしょうかいしましょう。



大管長 ゴードン・B・ヒンクレー——「わたしたちのわこうど、この時代のえある青少年に申し上げます。どうか忠実であってください。信仰からはなれないでください。正しいと知っていることは、ぜったいにゆずらないでください。……

……自分の標準に従って生活してください。主の導きと守りをいのり求めてください。主はみなさんを決して一人にはされず、なぐさめ、支えてくださるでしょう。」

82ページから始まるお話の中のこの勧告について話合ってください。その後、『神への信仰』の裏表紙に書かれている「わたしの福音



の標準」を読みましょう。そして、自分がどのようにして標準に従って生活しているかについて両親と話し合ってください。



第一副管長 トーマス・S・モンソン——「我が家の末っ子のクラークが12才の誕生日をむかえようとしていたころのことです。むすこと二人で教会執務ビルを出ようとしたとき、ハロルド・B・リー大管長が近づいて来て、あいさつをしました。クラークはもうすぐ12才になります、とわたしが言うと、リー大管長はむすこの方を見て、こうたずねました。『12才になったら、どんなことが起きるのかな。』

……クラークはためらうことなく、リー大管長にこう言いました。『ぼくは執事に聖任されます。』その答えはまさに、リー大管長の求めていた答えでした。そして、大管長はむすこに次のようなアドバイスをしてくれました。『覚えておくんだよ。神権を持つということは、偉大な祝福なのだ

からね。』

56ページから始まるお話を開き、モンソン副管長が執事だったときにワードの会員に対して行った奉仕についての話を読んでください。そして、近所の人や、ワード、支部の会員に奉仕する方法について話し合いましょう。



第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト——「ある冬の、祖父はアイダホ州へと旅に出かけましたが、そこで貧しさに苦しむ友達に会いました。その日は寒かったにもかかわらず、友達はコートを持っていませんでした。祖父は自分のコートをぬぐと、友達にあげました。

……自分のほんとうの姿を知るきっかけとして、先祖についての知識をもっと深めてください。」

53ページから始まるお話の中のいくつかの物語について考えてみてください。両親に先祖の一人についてのとおきのお話をしてくれるようお願いしてみよう。その話を書き留めておくとういでしょう。



十二使徒定員会会長代理 ボイド・K・パッカー——「少年ジョセフが聖なる森でひざまずいたときに受けた最初の示現を思い出してください。ジョセフはたちまち深いやみに取り囲まれ、目に見えない世界から来た敵の力にとらえられました。そこでみなさんがするように神に呼び求めると、悪魔の力から解放されたのです。

いのりには大きな力があります。神のむすこやむすめであるみなさんは、ジョセフがしたように強さを求めてイエス・キリストの名によって神にいのることができます。」

24ページから始まるお話の中にあるジョセフのこの物語について話し合ってください。その後、聖なる森でジョセフ・スミスが経験したほかの事柄について話してください。ジョセフ・スミス歴



史第1章15節から20節を見ましょう。



十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン——「8才ほどのある男の子の信仰を考えてみてください。この男の子は急性虫垂炎で緊急に手術を受けることになりました。手術台上に横たわると、お医者さんを見上げてこう言いました。『先生、手術を始める前に、ぼくのためにいのつてくれませんか。』」

お医者さんはおどろいて少年を見つめ、言いました。『何だって。いのるなん

てできないよ。』」

44ページから始まるこのお話を読んで、この男の子はそれからどうしたか調べてください。それから、あなたのいのりがこたえられたときのことについて考えてみてください。あなたの経験を家族に伝えてもいいですね。



七十人 シェルドン・F・チャイルド——「神が預言者を送るほどわたしたちを愛してくださるのであれば、わたしたちも預言者に従って神に愛を伝える

必要があります。預言者に従うなら、人生のあらしから身を守ることができ、キリストに導かれるのです。」

8ページから始まるお話を読んでください。そして、ヒンクレー大管長が大会で与えた言葉に従う方法を書き出してみましょう。



中央初等協会第一副会長 シドニー・S・レイノルズ——「救い主はわたしたち一人一人のために命をささげてくださいました。主はわたしたちの喜びや悲しみを御存じです。わたしの名前もみなさんの名前も知っておられます。」

76ページから始まるお話を読んでください。イエス・キリストがあなたの名前や、あなたの喜びや悲しみを御存じだということは、どのようにして分かりますか。イエス・キリストを愛していることを示す方法について話し合ってください。

物語を読んで、人にも伝えましょう

家庭の夕べを手伝ったり、初等協会のお話を準備したりすることがあります。そんなとき、次に挙げるページから始まる大会のお話を読んでみてください。みんなに伝えられる話やしょうかいできる教えが、きっと見つかりますよ。



大平原をわたった、お父さんもお母さんもない女の子のお話, 53



什分の一を納めるために婚約指輪を売った家族のお話, 76

神殿すいせん状を受けるナイジェリアの聖徒たちのお話, 13
病気の赤ちゃんを祝福するズウィック長老のお話, 34
子供の手にキスをする両親のお話, 34

目の見えないマラソンランナーのお話, 34
神権の祝福を受けたがらなかった男の子のお話, 50

おこって家出をした若者のお話, 56

年を取った夫婦を訪問したモンソン副管長のお話, 56

昔の日曜学校の先生を訪問したモンソン副管長のお話, 67

日本にきたとき、ポルトガル語でかしたクレグ姉妹のお話, 76

人生をやり直したホームレスの男のお話, 78

ヘイト長老の模範を覚えていた男のお話, 95



わたしたちの時代のための教え、 2004年度

毎月の第4日曜日のメルキゼデク神権者と扶助協会の集会は、「わたしたちの時代のための教え」を学ぶ時間となっています。大管長会は毎年、これらの集会で使用するために、10のテーマを指定の資料とともに決定します。以下は2004年度のためのテーマと資料です。残り2回分のテーマは、ステーク会長会または地方部長会によって選定されます。

第4日曜日の話し合いは、定員会またはグループのメンバーの必要と状況に合わせて、指定の資料の一つ、または二つを中心にして行うとよいでしょう。教師は必ずしもすべての資料を使用する必要はありません。指導者と教師は、この時間に講義や発表よりむしろ、話し合いを行うよう努めてください。また、定員会またはクラスのメンバーが話し合った福音の原則を実践するよう鼓舞していくにはどうしたらよいか、検討してください。定員会やグループでの話し合いを準備し、導くための提案は、「教師、その大いなる召し」(36123 300)と「教師ガイドブック」(34595 300)に掲載されています。

1. 家族は創造主の計画の中心を成す

出エジプト20:12; マラキ4:6;
モーサヤ27:14; 教義と聖約93:
36-40; モーセ5:4-5, 9-12

ゴードン・B・ヒンクレー「家庭の
夕べ」『リアホナ』2003年3月号,
2-5

ジェームズ・E・ファウスト「家庭
の夕べによって生活を豊かにす
る」『リアホナ』2003年6月号, 2-6

ボイド・K・パッカー「^{よわい}齢を重ね
た男女」『リアホナ』2003年5月号,
82-84

L・トム・ベリー「家族の大切さ」
『リアホナ』2003年5月号, 40-43

「家族は永遠に」『福音の原則』
第36章

2. 感謝をささげる

ルカ17:11-19; モーサヤ26:
38-39; アルマ37:37; 教義と聖
約78:19; 98:1-3

デビッド・B・ヘイト「清められた
のは、10人ではなかったか」『リア
ホナ』2002年11月号, 24-26

ダリン・H・オークス「すべてに
ついて感謝をささげる」『リアホ
ナ』2003年5月号, 95-98

「感謝」『若人の強さのために』
「感謝の心」『末日聖徒の女性B』
第35課

3. 主のぶどう園で働く

マタイ16:24-26; ヨハネ12:
26; 1ニーファイ3:7; モーサヤ
2:17; 4:27; 教義と聖約123:17

トーマス・S・モンソン「任命さ
れた職にしっかりと立つ」『リアホ
ナ』2003年5月号, 54-57

ジェフリー・R・ホランド「奉仕
の召し」『リアホナ』2002年11月号,
36-38

ヘンリー・B・アイリング「神から
の召し」『リアホナ』2002年11月号,
75-78

「犠牲」『福音の原則』第26章,
「奉仕」『福音の原則』第28章

4. 精神面および物質面での自立

マラキ3:8-10; マタイ6:5-
13; アルマ37:37; 教義と聖約
88:119

ゴードン・B・ヒンクレー「神権を
持つ男性たちへ」『リアホナ』
2002年11月号, 56-59

ラッセル・M・ネルソン「祈りが
もたらす穏やかな力」『リアホナ』
2003年5月号, 7-9

ロバート・D・ヘイルズ「^{じゅうぶん}什分の一——永遠の祝福を伴う信仰の
試し」『リアホナ』2002年11月号,
26-29

「労働と個人の責任」『福音の原

則』第27章

5. 神権を通してもたらされる祝福

教義と聖約13:27; 12:107;
39; 110:11-16; 128:20; ジョセ
フ・スミス—歴史1:68-74

ボイド・K・パッカー「ステーキ祝
福師」『リアホナ』2002年11月号,
42-45

L・トム・ベリー「神から召され」
『リアホナ』2002年11月号, 7-10

デビッド・B・ヘイト「神権者とし
て一歩ずつ成長する」『リアホナ』
2003年5月号, 43-45

「神権」『福音の原則』第13章,
「神権組織」『福音の原則』第14章

6. 不確かな時代に信仰を行使する

ヘブル11; ヤコブの手紙1:3-
6; ヒラマン12:1; エテル12:6;
教義と聖約6:20; 59:21

ゴードン・B・ヒンクレー「戦争と
平和」『リアホナ』2003年5月号,
78-81

ジョセフ・B・ワースリン「地上に
信仰が見られるであろうか」『リア
ホナ』2002年11月号, 82-85

リチャード・G・スコット「不確か
で困難な時代に支えとなる信仰
の力」『リアホナ』2003年5月号,
75-78

ロバート・D・ヘイルズ「苦難の

中で信仰により得る平安と喜び」
『リアホナ』2003年5月号, 15-18

「イエス・キリストを信じる信仰」
『福音の原則』第18章, 「従順」『福
音の原則』第35章

7. 子供たちを教える

エレミヤ31:15-16; ルカ15:
11-32; ヨハネ1:43; 3ニーファイ
17:11-24; 教義と聖約68:25, 28

トーマス・S・モンソン「^{なら}倣うべき
模範」『リアホナ』2002年11月号,
60-67

ジェームズ・E・ファウスト「^{あれの}荒野
にさまよう一つの羊」『リアホナ』
2003年5月号, 61-68

ジェフリー・R・ホランド「子供
たちのための祈り」『リアホナ』
2003年5月号, 85-87

「家族の責任」『福音の原則』第
37章

8. 伝道活動を成功させる

ヨハネ21:15-17; 1ヨハネ4:
18-19; モーサヤ28:3; 教義と聖
約4:5; 88:81

ダリン・H・オークス「^みみ旨のま
ま行かん」『リアホナ』2002年11
月号, 67-70

M・ラッセル・バラード「会員伝
道のきわめて重要な役割」『リア
ホナ』2003年5月号, 37-40



M・ラッセル・バラード「最高の宣教師を輩出する時代に生きる若者たち」『リアホナ』2002年11月号, 46-49

ヘンリー・B・アイリング「子供および弟子として」『リアホナ』2003年5月号, 29-32

「伝道活動」『福音の原則』第33章

9. 聖餐と聖餐会

このテーマは、10月から12月の第4日曜日に教えるよう勧められています。

マタイ26:26-29; 3ニーフアイ18:1-12; モロナイ4, 5; 教義と聖約59:9-14

ゴードン・B・ヒンクレー「神権を持つ男性たちへ」『リアホナ』2002年11月号, 56-59

ラッセル・M・ネルソン「聖餐会での礼拝」(仮題)『リアホナ』2004年8月号

ダリン・H・オークス「生活の中の福音」『リアホナ』2002年7月号, 36-39

ダリン・H・オークス「キリストの特別な証人」『リアホナ』2001年4月号, 14

「聖餐」『福音の原則』第23章

10. キリストの弟子となる

マタイ11:28-30; ガラテヤ6:8; アルマ38:8-9; 教義と聖約64:34; 101:36-38

トーマス・S・モンソン「静まれ、黙れ」『リアホナ』2002年11月号, 53-56

ジェームズ・E・ファウスト「内なる自己を強くする」『リアホナ』2003年2月号, 2-7

ニール・A・マックスウェル「霊の命……を心にかけなさい」『リアホナ』2003年5月号, 68-70

リチャード・G・スコット「重荷から解放される」『リアホナ』2002年11月号, 86-88

「悔い改め」『福音の原則』第19章, 「才能を伸ばす」『福音の原則』第34章

『アロン神権2』用リソースガイド

2004年度の第1課-第25課用。今後のリソースガイドは、『リアホナ』5月号および11月号に掲載されます。多くの言語では、www.lds.org にアクセスすれば、『リアホナ』をインターネット上で閲覧することができます。

以下は『アロン神権2』第1課から第25課のレッスンを補足するための参考資料であり、同レッスンに代わるものではありません。教えるうえでのその他の提案については、『リアホナ』通常号の『『リアホナ』の活用法』のページをご参照ください。

レッスンはテキストに掲載されている順番に教えてください。教師用手引きには、復活祭のための特別なレッスンは掲載されていません。復活祭のための特別なレッスンを教えたい場合は、救い主の生涯と使命に焦点を絞った大会説教や教会機関誌の記事、賛美歌を活用することを検討してみてください。

第1課——人の本質

トーマス・S・モンソン「主の灯台——教会の青少年へのメッセージ」『リアホナ』2001年5月号, 2-7
N・エルドン・タナー「『今日』という日に」『リアホナ』2003年3月号, 26-29

ダリン・H・オークス「主の望まれる者となるというチャレンジ」『リアホナ』2001年1月号, 40-43

第2課——天父について知る

ゴードン・B・ヒンクレー「みなさんは神の子です」『リアホナ』2003年5月号, 117-119

ジェームズ・E・ファウスト「唯一の、まことの神でいますあなたと、イエス・キリストとを知る」『リアホナ』1999年2月号, 2-6

シドニー・S・レイノルズ「いつでも、どこにいても天父にいのちとすることができます」『リアホナ』2003年5月号, 113-114

第3課——イエス・キリストを信じる信仰

「生けるキリスト——使徒たちの証」『リアホナ』2000年4月号, 2-3

ジョセフ・B・ワースリン「地上に信仰が見られるであろうか」『リアホナ』2002年11月号, 82-85

「イエス・キリストへの信仰」『リアホナ』2002年3月号, 42-43

第4課——聖霊との交わり

ジェームズ・E・ファウスト「聖き御霊との交わり」『リアホナ』2002年3月号, 2-7

ケネス・ジョンソン「聖なる御霊の勧めに従う」『リアホナ』2002年11月号, 89-91

マーガレット・D・ナドル「慰め主、導きを与え、証される御方」『リアホナ』2001年7月号, 109-111

第5課——自由意志

ジェス・L・クリステンセン「死すべき状態を生じた選択」『リアホナ』2002年8月号, 38-41

シャロン・G・ラーセン「祝福であり重荷でもある選択の自由」『リアホナ』2000年1月号, 12-14

「奴隷にならないで」『リアホナ』2003年2月号, 33

第6課——キリストのような奉仕

ジェームズ・E・ファウスト「何の得になるんだ」『リアホナ』2002年11月号, 19-22

L・トム・ベリー「仕えることを学ぶ」『リアホナ』2002年5月号, 10-19

「役立つ者となりましょう」『リアホナ』2001年3月号, 24

第7課——家族の永遠の重要性

ラッセル・M・ネルソン「あなたの家を整えなさい」『リアホナ』2002年1月号, 80-83

スコット・ビーン「家族についての本音」『リアホナ』2003年3月号, 30-31

「最大の幸福」『リアホナ』2003年6月号, 26-29

第8課——霊性

ダグラス・L・カリスト「神の御霊を求める」『リアホナ』2001年1月号, 38-39

シャロン・G・ラーセン「聖なる場所に立つ」『リアホナ』2002年7月号, 103-105

「現世での葛藤」『リアホナ』2001年9月号, 30-31

第9課——悔い改めとイエス・キリストの贖い

リチャード・G・スコット「重荷から解放される」『リアホナ』2002年11月号, 86-88

ジェイ・E・ジェンセン「どのように悔い改めたらよいか知っていますか?」『リアホナ』2002年4月号, 14-17

スペンサー・V・ジョーンズ「罪の放つ悪臭を消し去る」『リアホナ』2003年5月号, 88-89

「どうしたら救われたかどうか分かるでしょうか?」『リアホナ』1999年11月号, 26-28

第10課——聖典を研究する

ボイド・K・バック「モルモン書——イエス・キリストについてのもう一つの証」『リアホナ』2002年1月号, 71-74

ラニ・リックス「100の質問」『リアホナ』2001年9月号, 8-9

「聖文研究のための提案」『リアホナ』2001年9月号, 29

第11課——サタンと誘惑

ゴードン・B・ヒンクレー「実生活の中のゴリアテに打ち勝つ」『リアホナ』2002年2月号, 2-6

ボイド・K・バック「霊の『わに』」『リアホナ』2002年10月号, 8-11

デビッド・E・ソレンセン「毒蛇と戯れてはならない」『リアホナ』2001年7月号, 48-50

リチャード・C・エッジリー「サタンのスナイク袋」『リアホナ』2001

年1月号, 52-53

第12課——祈り

ジェームズ・E・ファウスト「祈りという命綱」『リアホナ』2002年7月号, 62-69

ヘンリー・B・アイリング「祈り」『リアホナ』2002年1月号, 16-19

ジョエル・B・マカリオラ「3センチターボ」『リアホナ』2002年6月号, 20-21

第13課——断食

ジョセフ・B・ワースリン「断食の律法」『リアホナ』2001年7月号, 88-91

タイス・マルティンス・レアル「実行すべきこと」『リアホナ』2002年2月号, 32-33

ブリガダ・アコスタ・デ・ペレス「断食の祝福」『リアホナ』1999年10月号, 46-48

第14課——神への従順

ヒュー・B・ブラウン「すぐりの木」『リアホナ』2002年3月号, 22-24

ロバート・D・ヘイルズ「名誉の帰還」『リアホナ』2001年11月号, 10-15

H・ロス・ワークマン「つぶやきに注意する」『リアホナ』2002年1月号, 98-100

第15課——聖約を守ることに 昇栄

トーマス・S・モンソン「昇栄への招き」『聖徒の道』1993年9月号, 2-7

デニス・B・ノイエシユワンダー「儀式と聖約」『リアホナ』2001年11月号, 16-23

ボニー・D・パーキン「聖い心で」『リアホナ』2002年11月号, 103-105

第16課——^{じゅうぶん} 什分の一と^{ささ} 捧げ物

ロバート・D・ヘイルズ「什分の一——永遠の祝福を伴う信仰の試し」『リアホナ』2002年11月号, 26-29

アール・C・ティンギー「什分の一の律法」『リアホナ』2002年7月号, 10-12

ジェニファー・M・セベリーノ



「什分の一を納める」『リアホナ』2002年12月号, 46

第17課——祝福師の祝福

ボイド・K・バックー「ステーキ祝福師」『リアホナ』2002年11月号, 42-45

リチャード・P・リンゼー「祝福師の祝福に添って人生を計画する」『聖徒の道』1991年8月号, 18-21

「どうすれば祝福師の祝福に備えることができますか」『リアホナ』2001年8月号, 22-24

第18課——アロン神権における教師の義務

トーマス・S・モンソン「神権の力」『リアホナ』2000年1月号, 58-61

セシル・O・サミュエルソン・ジュニア「神への務め」『リアホナ』2002年1月号, 47-49

H・デビッド・バートン「まさにそのとおりです」『リアホナ』2003年5月号, 48-50

第19課——へりくだる心と悔いる精神

エズラ・タフト・ベンソン「大いなる改心」『聖徒の道』1990年3月号, 2-7

スペンサー・J・コンディー「絶えず善を行う性質」『リアホナ』2001年6月号, 14-21

ミッシェル・トーリー「締め出されて」『リアホナ』2003年7月号, 22-24

第20課——^{せいさん} 聖餐の執行

ゴードン・B・ヒンクレー「われと同じ業に働く僕らよ」『聖徒の道』1989年5月号, 2-6

ピーター・B・ガードナー「言葉以上に」『リアホナ』2002年2月号, 28-29

ウェイン・B・リン「聖餐のパスは卒業？」『リアホナ』2001年5月号, 8-9

第21課——メルキゼデク神権への備え

ロバート・D・ヘイルズ「神への務めを果たす」『リアホナ』2002年1月号, 43-46

ジェフリー・R・ホランド「あなたがたは身を清めなさい」『リアホナ』2001年1月号, 46-49

ヘンリー・B・アイリング「わたしと一緒に目をさましていなさい」『リアホナ』2001年7月号, 44-47

第22課——家庭における族長制度
ジェフリー・R・ホランド「父親らの手で」『リアホナ』1999年7月号, 16-19

F・メルビン・ハモンド「お父さん、起きていますか？」『リアホナ』2002年11月号, 97-99

ローズマリー・デップ「わたしの父親たち」『リアホナ』2003年6月号, 22-24

第23課——伝道の実用的な備え

ジェームズ・E・ファウスト「伝道に出る前に息子に知ってほしいこと」『聖徒の道』1996年7月号, 47-50

M・ラッセル・バラード「最高の宣教師を輩出する時代に生きる若者たち」『リアホナ』2002年11月号, 46-49

ダリル・H・ガーン「伝道の業に備える」『リアホナ』2003年5月号, 46-48

第24課——労働のもたらす祝福

ジョセフ・B・ワースリン「人生という旅の中で学んだ教訓」『リアホナ』2001年5月号, 34-43

W・ロルフ・カー「ふつつかな僕」『リアホナ』2003年10月号, 26-29

キース・B・マクマリン「シオンに來たれよ!」『リアホナ』2002年11月号, 94-96

第25課——自利心のもたらす高潔

ジェームズ・E・ファウスト「内なる敵」『リアホナ』2001年1月号, 54-57

ニール・A・マックスウェル「清くあるべき理由」『リアホナ』2003年3月号, 6-12

ジェフリー・R・ホランド「個人の清さ」『リアホナ』2000年10月号, 40-43

「前方に危険あり! ボルノグラフィーの落とし穴を避ける」『リアホナ』2002年10月号, 12-17

『若い女性2』用リソースガイド

2004年度の第1課—第25課用。今後のリソースガイドは、『リアホナ』5月号および11月号に掲載されます。多くの言語では、www.lds.org にアクセスすれば、『リアホナ』をインターネット上で閲覧することができます。

以下は『若い女性2』第1課から第25課のレッスンを補足するための参考資料であり、同レッスンに代わるものではありません。教えるうえでのその他の提案については、『リアホナ』通常号の「『リアホナ』の活用法」のページをご参照ください。

レッスンはテキストに掲載されている順番に教えてください。教師用手引きには、復活祭のための特別なレッスンは掲載されていません。復活祭のための特別な

レッスンを教えたい場合は、救い主の生涯と使命に焦点を絞った大会説教や教会機関誌の記事、賛美歌を活用することを検討してみてください。

第1課——イエス・キリストに近づく

「キリストの特別な証人」『リアホナ』2001年4月号、2-24

ゴードン・B・シンクレイ「神の御子についての証」『リアホナ』2002年12月号、2-5

ジェフリー・R・ホランド「『彼ら

を最後まで愛し通された』」『リアホナ』2002年9月号、10-13

「あなたの手の届くところに」『リアホナ』2003年4月号、24

第2課——御霊の賜物

ジョセフ・B・ワースリン「言い尽くせない賜物」『リアホナ』2003年5月号、26-29

キャロル・B・トーマス「霊性と言う才能を伸ばす」『リアホナ』2001年7月号、106-108

クローフォード・ゲイツ「創造力と末日聖徒」『聖徒の道』1987年5月号、45-49

第3課——神の王国の建設

L・トム・ベリー「聖徒の共同体を築く」『リアホナ』2001年7月号、41-44

リチャード・J・メインズ「教会を築き上げる」『リアホナ』2003年9月号、36-39

グレン・L・ベイス「本当は幸せじゃないんだよね」『聖徒の道』1988年1月号、43-44

キース・B・マクマリン「シオンに來たれよ!」『リアホナ』2002年11月号、94-96

第4課——戒めを守ることは、女性としての神聖な役割を果たす助けとなる

ゴードン・B・シンクレイ「理想の女性となるには」『リアホナ』2001年7月号、112-115

M・ラッセル・バラード「義にかなった女性たち」『リアホナ』2002年12月号、34-43

マーガレット・D・ナドール「たいまつを高く掲げる」『リアホナ』2002年7月号、108-110

第5課——家庭環境

ラッセル・M・ネルソン「あなたの家を整えなさい」『リアホナ』2002年1月号、80-83

デニス・B・ノイエンシュワンダー「聖なる場所」『リアホナ』2003年5月号、71-72

スーザン・W・タナー「『わたしはあなたに話したでしょうか…』」『リアホナ』2003年5月号、

73-75

第6課——家事を分担する

「家族会議——バラード長老夫妻との対談」『リアホナ』2003年6月号、12-17

ジェフリー・R・ホランド「奉仕の召し」『リアホナ』2002年11月号、36-38

第7課——愛と一致をもって生活する

スーザン・W・タナー「『わたしはあなたに話したでしょうか…』」『リアホナ』2003年5月号、73-75

アン・C・ビングリー「慈愛——家族単位、家庭単位による行為」『リアホナ』2002年11月号、108-110

キャロル・B・トーマス「家庭と家族を強める」『リアホナ』2002年7月号、105-107

第8課——コミュニケーションの技術を向上させる

H・ロス・ワークマン「つぶやきに注意する」『リアホナ』2002年1月号、98-100

ゲール・M・クレグ「愛の言葉」『リアホナ』2002年7月号、74-76

クリスティ・マクレーン「真の友になる方法」『リアホナ』2003年3月号、13

第9課——家庭に平和をつくり出す人

ゴードン・B・シンクレイ「より善い人になりましょう」『リアホナ』2002年11月号、99-100

トーマス・S・モンソン「隠れたくさび」『リアホナ』2002年7月号、19-22

M・ラッセル・バラード「王国にかかわる平和をもたらす事柄」『リアホナ』2002年7月号、98-101

第10課——神権——大いなる祝福

ブレンダ・ウィリアムズ「最低、最悪の日」『リアホナ』2002年9月号、22-24

ブランドン・J・ミラー「祝福が必要です」『リアホナ』2001年9月号、42-44

「神権指導者を支持する」『リア



ホナ』2002年10月号, 25

第11課——監督に感謝する

ボイド・K・パッカー「監督と副監督」『リアホナ』1999年7月号, 71-74

ローズマリー・デップ「わたしの父親たち」『リアホナ』2003年6月号, 22-24

「主の犠牲に感謝する」『リアホナ』2001年6月号, 26-27

第12課——父親の祝福

ブレンダ・ウィリアムズ「最低, 最悪の日」『リアホナ』2002年9月号, 22-24

マリベル・エレラ・チャコーン「信仰の力」『リアホナ』2002年3月号, 36-38

「イエス・キリストへの信仰」『リアホナ』2002年3月号, 42-43

第13課——祝福師の祝福

ボイド・K・パッカー「ステーキ祝福師」『リアホナ』2002年11月号, 42-45

リチャード・P・リンゼー「祝福師の祝福に添って人生を計画する」『聖徒の道』1991年8月号, 18-21

「どうすれば祝福師の祝福に備えることができますか」『リアホナ』2001年8月号, 22-24

第14課——神殿の祝福

ジェームズ・E・ファウスト「『主の山に登るべき者はだれか』」『リアホナ』2001年8月号, 2-5

ラッセル・M・ネルソン「神殿の祝福を受けるための個人の備え」『リアホナ』2001年7月号, 37-40

クリステン・ウィンミル・サウスウィック「誕生日の神殿旅行」『リアホナ』2003年2月号, 8-11

サリー・デフォード「神の宮」『リアホナ』2002年12月号, 20-21

第15課——神殿結婚

スペンサー・W・キンボール「結婚によって一つとなる」『リアホナ』2002年10月号, 36-41

ララ・バンガター「わたしの夢見る人」『リアホナ』2002年2月号, 46-47



レベッカ・アームストロング, エリッサ・レネー・マドセン「永遠よりさらに3日」『リアホナ』2001年8月号, 6-7

第16課——日記

スペンサー・W・キンボール「永世にわたる記録」『聖徒の道』1977年6月号, 300-301

デニス・B・ノイエンシュワンダー「永遠の家族のきずなを結ぶ橋」『リアホナ』1999年7月号, 99-101

「神殿・家族歴史活動を通じて, 家族の一致を築く」『リアホナ』2001年9月号, 25

第17課——家族の記録を作成する

ラケル・ベドラサ・デ・プロシオ「パブロおじいさんを探して」『リアホナ』2003年9月号, 30-31

ボビー・モーガン「葉書きによる探求」『リアホナ』2002年6月号, 45-46

マドレン・クルツ「『見つけました!』」『リアホナ』2002年3月号, 41

ルース・ドーセット「隠された本」『リアホナ』2001年11月号, 42-43

第18課——正しい伝統

ボイド・K・パッカー「^{よかい}齢を重ねた男女」『リアホナ』2003年5月号, 82-84

ドナルド・L・ホールストロム「義にかなった伝統を育てる」『リアホナ』2001年1月号, 34-35

第19課——教える準備

ダリン・H・オークス「福音を分かち合う」『リアホナ』2002年1月号, 7-10

ダリン・H・オークス「霊を養う」『リアホナ』2001年8月号, 10-19

リチャード・G・スコット「強い証の持つ力」『リアホナ』2002年1月号, 100-103

第20課——福音を分かち合う

ダリン・H・オークス「福音を分かち合う」『リアホナ』2002年1月号, 7-10

ステファニア・ボスティグリオーネ「愛をもって」『リアホナ』2003年9月号, 22-23

スコット・ビーン「家族についての本音」『リアホナ』2003年3月号, 30-31

ラニ・リックス「100の質問」『リアホナ』2001年9月号, 8-9

第22課——主のみこころを伺う

ジェームズ・E・ファウスト「祈りという命綱」『リアホナ』2002年7月号, 62-69

ヘンリー・B・アイリング「祈り」『リアホナ』2002年1月号, 16-19

ジョエル・B・マカリオラ「3センターボ」『リアホナ』2002年6月号, 20-21

第23課——断食は祝福をもたらす

ジョセフ・B・ワースリン「断食の律法」『リアホナ』2001年7月号, 88-91

タイス・マルティンス・レアル「実行すべきこと」『リアホナ』2002年2月号, 32-33

「断食と祈りによって霊性を高める」『リアホナ』2001年6月号, 25

第24課——日々の生活の中の啓示

ジェームズ・E・ファウスト「聖き御霊との交わり」『リアホナ』2002年3月号, 2-7

リチャード・G・スコット「知識と強さを得て, 賢明に用いる」『リアホナ』2002年8月号, 12-19

ロバート・R・ストイアー「学ぶ力を持つ」『リアホナ』2002年7月号, 34-36

「自分の考えや思いと, 聖霊がお与えになる靈感を見分けるには, どうしたらよいのでしょうか」『リアホナ』2003年4月号, 44-46

第25課——犠牲の律法

ジェームズ・E・ファウスト「何の得になるんだ」『リアホナ』2002年11月号, 19-22

M・ラッセル・バラード「犠牲の律法」『リアホナ』2002年3月号, 10-20

ロバート・K・デレンバック「天の恵みのいけにえ」『リアホナ』2002年11月号, 33-35

キャロル・B・トーマス「犠牲——永遠の投資」『リアホナ』2001年7月号, 77-79

中央補助組織会長会

日曜学校



第一副会長
ジョン・H・グローバーク



会長
メルリル・J・ベイトマン



第二副会長
バル・R・クリステンセン

若い男性



第一副会長
リン・G・ロビンズ



会長
F・メルビン・ハモンド



第二副会長
ドナルド・L・ホールストロム

扶助協会



第一副会長
キャスリーン・H・ヒューズ



会長
ボニー・D・パーキン



第二副会長
アン・C・ビングリー

若い女性



第一副会長
ジュリー・B・ベック



会長
スーザン・W・タナー



第二副会長
イレイン・S・ダルトン

初等協会



第一副会長
シドニー・S・レイノルズ



会長
コリーン・K・メンラブ



第二副会長
ゲール・M・クレグ

チャーチ・ニュース

会員たち、教会役員の異動を支持する。 指導者たち、この世的な影響力に 雄々しく反対する

第173回半期総大会土曜の午後の部会で、

何人かの中央幹部と地域幹部七十人が解任となり、4人の地域幹部七十人が新たに支持を受けた。また、中央若い男性会長会の異動も発表された。

3人の七十人第一定員会会員が名誉中央幹部の称号を受け、中央幹部としての専任の奉仕の職から解任された。ソルトレーク・シティーのカンファレンスセンターおよび世界中の集会所に集まった教会員は、アンヘル・アブレア長老、ウィリアム・R・ブラッドフォード長老、クリー・L・コッフオード長老の長年にわたる教会への奉仕に対して、感謝の意を表した。

3人の長老が七十人第二定員会会員の召しから解任となり、会員たちは彼らのこれまでの奉仕に対する感謝を挙手によって示した。解任されたのは、デュエイン・B・ジェラード長老、J・ケント・ジョリー長老、D・リー・トブラー長老である。

また、大会の前にすでに召しが発表されていた次の4人の新しい地域幹部七十人が、今大会で支持を受けた。ドミニカ共和国サントドミンゴ出身のホセ・A・カストロ、インド・ニューデリー出身のウィリアム・K・ジャクソン、ユタ州サンディ出身のボール・V・ジョンソン、ユタ州ハイランド出身のジェイ・L・シタードの各長老で

ある。

17人の地域幹部七十人が解任となった(解任された地域幹部七十人全員の名前は、本誌23ページの「教会役員の支持」に掲載されている。)

中央若い男性会長会の異動も発表された。七十人のグレン・L・ペイス長老、スペンサー・J・コンディー長老がそれぞれ第一副会長、第二副会長の召しから解任となった。代わって、七十人のリン・G・ロビンズ長老が第一副会長として、同じく七十人のドナルド・L・ホールストロム長老が第二副会長として支持された。中央若い男性会長は、引き続き七十人のF・メルビン・ハモンド長老が務める。

土曜午前の部会でゴードン・B・ヒンクレー大管長は、デビッド・B・ヘイト長老を説教壇に招いた。ヒンクレー大管長は会衆に、ヘイト長老は現在97歳で「この神権時代が始まって以来、どの使徒よりも長く生きています」と語った。ヘイト長老は会衆に手を振ると、最近患っている病気のため、壇上から退き、以降の部会への出席は見送った。

土曜午前の部会でヒンクレー大管長は教会の発展について触れ、全世界の聖徒に向けてこう語った。「現在、合衆国とカナダの全州には力を備えた会員たちがいます。メキシコの全州、中央アメリカの各国、南アメリカの各国にも同じよう



中央幹部と聖歌隊が、世界各地の会員とともに教会指導者への支持を示した。

に力を備えた会員たちがいます。オーストラリア、ニュージーランド、太平洋諸島にも力を備えた聖徒たちがいます。教会は東洋の国々でもしっかりと根を下ろしています。西ヨーロッパのすべての国、東ヨーロッパのほとんどの国で十分に定着しており、アフリカでもしっかりとした基盤ができています。」

ヒンクレイ大管長はこう続けた。「そしてこれは始まりにすぎません。まだほんの少し表面をなでたにすぎないので。……この業に国境はありません。主の御心のままにこの業は続くのです。」

ヒンクレイ大管長は、伝道活動、人道支援活動（本ページの関連記事参照）、永代教育基金など、御業の幾つかの面について現状を伝え、次のように述べた。

「今日まで、教会はラテンアメリカ、アジア、アフリカ、その他の地域において、若い男女約1万人への融資を実施してきました。……現在までに、約600人の若い男女が訓練を終えています。……この事業が順調に進んでおり、経験を重ねながら発展していると報告でき、うれしく思います。」

ヒンクレイ大管長と複数の

指導者はまた、世の標準を退けるよう語るとともに、教会の標準は決して変わらないことを、大会出席者に思い起こさせた。

「もろもろの国民の旗、世の光となることこそ、この教会の使命であると、わたしは信じ、証します。」ヒンクレイ大管長は日曜午前の説教でそう語った。「周囲はその取り組みを阻止しようとする様々な力であふれています。この世の影響力は絶えず押し寄せて来ます。あらゆる方面から、ここにも少し、そこにも少し、決意を緩め、抵抗をやめるようにという圧力が感じられます。……断固とした態度で立たなければなりません。世に抵抗しなければなりません。そうするなら、全能者がわたしたちの強さとなり、守りとなり、導きと啓示を与えてくださるでしょう。」

十二使徒定員会会長代理のボイド・K・パッカー長老も、教会が決して標準を変えないことについて強調した。「世の中の標準からどれほど懸け離れても、嘲笑されても、多くの人が誘惑に負けても、わたしたちは屈しません。誘惑には負けないのです。」パッカー長老は、土曜午後の部会でそう話した。

十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老は、土曜午前の部会で、聖徒たちに行動を起こすよう呼びかけ、時代の

流れに対して確固とした態度を維持するよう励ました。「世界中の同じ問題意識を持つ人々とともに声を上げる必要があります。有害なメディアのスポンサーに、『もうたくさんです』と言う必要があります。前向きな、人を高める番組や作品を支持しなければなりません。」バラード長老はさらにこう述べた。「兄弟姉妹の皆さん、利用されないでください。操られないでください。伝統的な家族観を侮辱する番組を支援しないでください。」◆

教会、アフリカをはしかから守るために、300万ドルと支援物資を送る

教会機関誌 リサ・アン・ジャクソン

世 界のある地域ではほとんど根絶されている一方で、別の地域では今でも子供の命を奪っている病気がある。そのような病気から子供たちを守るために、教会はアフリカの何百万という子供たちにはしかの予防接種を施す活動に加わっている。教会役員は、2003年9月17日、ワシントンD.C.で開かれた式典でこの支援活動について発表した。

経済援助や現地での補助的支援を行うために、教会は今後3年間にわたって300万ドルの資金援助を約束した。また、アフリカにおけるはしかの流行を食い止める目的で、地元のボランティアや施設をミーズルズ・イニシアチブ (Measles Initiative)〔訳注——アメリカ赤十字社による、はしか撲滅のための支援機関〕に提供す

る予定である。

ワクチンの費用が子供一人につき1ドルもかからないため、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は、2003年10月に開かれた総大会土曜午前の部会でこう語った。「教会の寄付金だけで300万人の子供たちにワクチンを投与することができます。何とすばらしいことでしょう。」

ミーズルズ・イニシアチブでは、5年間でアフリカの2億人の子供たちにワクチン接種を行う。はしかはアフリカにおいて、失明の主要な原因であり、第一の死因でもある。しかし、これらはワクチン接種で防ぐことができるのである。ミーズルズ・イニシアチブは、推定120万人をはしかによる死から救うことになる。

ミーズルズ・イニシアチブの活動には、国際赤十字、赤新月社、影響国の政府は言うま

でもなく、アメリカ赤十字社、国連基金、疾病管理予防センター、国連児童基金、世界保健機関、汎米保健機構も関与している。

「末日聖徒イエス・キリスト教会は、世界的規模での苦しみに終止符を打つという重大な決意を再び示したのです。」最初の寄付金を受け取ったアメリカ赤十字社の会長兼最高責任者であるマーシャ・J・エバンズはこう語った。「深い感謝の気持ちを言葉で言い表すことはできません。」

マーシャ・エバンズは、教会がアメリカ赤十字社とともに広範に及ぶ救援活動に取り組んできたことも指摘した。その中には、赤十字のその他の活動を支援するためにここ数年間で寄付された200万ドル、また6月にザンビアで行ったワクチン運動への援助も含まれている。

「わたしたちは喜んで赤十字に協力します。」管理監督会のH・デビッド・バートン監督は『デゼレトニュース』(Deseret News)にこう語った。「これま

で実施された数多くのプロジェクトに関しても同様のことを行ってきました。これからも赤十字とともに働きたいと願っています。」

ヒンクレイ大管長は総大会土曜午前の部会の説教で、はしか予防のための寄付金は什分の一基金から出たものではなく、「忠実な会員たちが教会の人道支援活動に寄せてくださった基金から出したもの」であると語った。

教会はミーズルズ・イニシアチブに対する補助的支援も約束した。地元の教会員がボランティアとして働き、集会所はワクチンの接種会場として利用されることになる。

「子供を死から救うことができ、これほど多くの子供たちをこれほど簡単な方法で助けられるのです。これ以上にすばらしいことがほかにあるでしょうか。」教会を代表して寄付金を送った、教会福祉および人道支援部門の管理運営ディレクターであるハロルド・C・ブラウンはこうに語った。◆



最近数か国でその国専用の教会ウェブサイトが開設された。ドイツのウェブサイトもその一つである。

教会、各国で公式ウェブサイトを開設する

教会では様々な手段により、すべての人に福音のメッセージが届くよう働きかけている。その一環として、各国がそれぞれの言語で教会のウェブサイトを開覧できるよう、その公開範囲を広げている。世界の各地域では、教会の国別ウェブサイトがすでに開設されており、特定の国を対象とする教会の公式ウェブサイトとして用いられている。

「科学技術は多くの新しい発明を伴って、衛星放送、インターネット、テレビ、ラジオ、さらにはまた機関誌や新聞などの活字媒体を通して福音を広めてくれます。」L・トム・ペリー長老はこう語っている。「これらの媒体がすべての教会の伝達手段に加えられることにより、伝達された情報を受け取るわたしたちの能力は高まります。」(『主の言葉のすべてを心に留めなければならない』『リアホナ』2000年7月号、29)

地域会長会は、それぞれの地域における教会の必要を見極め、地元ウェブサイトの公開範囲を決定する。現時点で、8か国のサイトが開設されているが、このほかにも26か国のサイトが創設中である。完成しているのは、オーストリア、

チリ、デンマーク、フィンランド、ドイツ、ノルウェー、スウェーデン、そしてスイスのインターネットサイトである。

国別サイトは、末日聖徒や教会についてさらに知りたいと望む人が様々な目的で利用できる。スウェーデンのサイトでは、閲覧者が友人を宣教師に紹介することができ、オーストリアのサイトでは、メディア関係者が地元の教会に関する情報を入手することができる。またノルウェーのサイトでは、閲覧者が地域のニュースを見つけたり、チリのサイトでは、教会員が地域会長会や地元の指導者からのメッセージを読んだりすることができる。

「国別サイトの目的は、心を鼓舞する内容を掲載することで教会員を強めることです。」チリの地域幹部七十人であるオスカー・チャベス長老は語っている。「このような時期に、このような伝達方法を通して主の業に携われるのは特権です。それぞれの召しと割り当ての中で、主の業を推し進めることができるのです。」

国別サイトはwww.lds.orgで見つけることができる。ホームページの右上にある“Country Sites”をクリックする。◆



アフリカの子供に予防接種をする赤十字の看護師。教会からの寄付金によって、アフリカの300万人の子供にはしかの予防接種を施すことができるようになる。

インド、ハイデラバードの聖徒たち

フェイ・A・クリングラー

400年の歴史を誇るインドのハイデラバードは、人口約420万人のにぎやかな都市である。都市化が進み商業も発展する一方、古い家並みも残るこの街では、インドの様々な言語が飛び交っている。

公用語はヒンディー語で、人口の3割が使用している。英語は準公用語となっていて、高等教育、政治、商業の世界で浸透している。モルモン書はヒンディー語とテルグ語に翻訳されている。またベンガル語とタミル語には抜粋して翻訳されている。インドでは最低300の言語が存在すると一般的に言われている。しかしすべての人に共通の言葉がある。それは御霊の言葉である。

教会は、1850年にインドでひっそりとした幕開けを迎えたが、ヒンズー教が主流のこの国で現在3つの地方部と22の

支部を擁するまでに発展している。インド南部に位置し、科学技術の中心地であるハイデラバードの街に初めて建てられる教会堂は、2003年12月に完成予定である。

皆からイスラエルと呼ばれている18歳のグンディ・ソロモン・イスラエルはこのように話している。「夢がかないました。教会堂を見るだけで御霊を感じます。祈りにこたえてくださった天の御父に感謝しています。」

教会堂が完成すると、ハイデラバードの教会員と求道者は、ともに集い、心に響く御霊の言葉を感じる美しい建物を自分たちのものとすることができる。イスラエルも3年前、御霊の言葉に感動した。

「最初教会に来たとき、教会員同士の愛に驚きました。皆、幸福そうでした。福音の光によって顔が輝いて見えました。」イスラエルはそう回想している。

イスラエルと同様に17歳のマドゥ・ブンガは初めて教会の集会に出席し、御霊を感じたときのことを思い出している。

「知らない人が大勢近づい



奉仕活動に集まるハイデラバードの聖徒たち。ハイデラバードの会員たちにとって、ともに奉仕することは御霊を感じる一つの方法である。

て来て、そばに腰かけ、わたしの日常について尋ねてくれたのがうれしかったですね。」そう語るマドゥは2000年の12月、初めて教会の集会に出席した。「みんなが神の御霊によって教えたり、理解しようと努めたりする姿に感動しました。そしてそれがとても気に入りました。全世界が自分のものになったような気分で、家に走って帰ったものです。」

マドゥやほかの若い教会員は、教会やセミナリーに出席したり、地域で奉仕活動に参加したりして御霊を保つようにしている。

マドゥはこのように述べている。「家族でわたしだけが教会員です。活発でいられるように、セミナリーに毎回出席しています。そしていろいろな奉仕活動もしてきました。例えば福祉施設に行き、英語やゲームを教えたり、笑い話を聞かせてあげたりしました。また若い男性や若い女性と一緒に国立病院に行き壁のペンキ塗りをしました。教会員が引っ越すときには手伝いに行きました。」

ハイデラバード第1支部のジョセフ・コーネリウス支部長も、御霊を感じるためには奉仕活動を行い、教会の集会に出席することが大切であると

認識している。

コーネリウス支部長は次のように述べている。「教会員は奉仕活動を行っています。例えば、年に1度、孤児院に送る服を集めています。また、教会の集会や活動にはすべて出席しています。そして家族の祈りをささげ、家庭の夕べを開いています。」

最近ハイデラバード第1支部と第2支部の会員たちは古着を集め、米や穀類を購入し、少年保護施設に寄付した。この施設の運営者たちは、駅に行き、そこで寝泊まりしている少年を見つけ、施設に保護している。施設では、教育やカウンセリングを受けることもできる。

教会員が施設に到着すると、温かく迎え入れられる。長い時間会話をし、ゲームをして一緒に楽しい時間を過ごしてから、会員たちは修繕を必要としていた壁にやすりをかけた。寄付されたペンキで壁を塗ると、施設は清潔で明るい雰囲気を取り戻した。

奉仕活動においてであろうと、打ち解けた雰囲気の漂う福音のレッスンであろうと、御霊はハイデラバードの多くの人々に福音をささやき続けている。御霊の言葉は穏やかで



少年保護施設の壁を磨く、インド、ハイデラバード第1・第2支部の姉妹たち。

めいりょう
も明瞭で、世界の最多人口国の一つであるこの国の聖徒を結びつけている。◆

ニュース

コンゴ西カサイ州で 最初の地方部が組織される

2003年4月21日、コンゴ民主共和国の西カサイ州で最初の地方部が組織された。

コンゴ民主共和国キンシャサ伝道部で当時部長だったブレント・フィル・ピーターセン兄弟によってカナンガ地方部が組織された。同地方部には、カナンガ第1支部、カナンガ第2支部、カトカ支部、デシャ支部が含まれる。

カナンガで初めて公式な集會が開かれたのは1988年5月であった。故グレゴリー・カララ・バカディアバンヤ兄弟が首都キンシャサでバプテスマを受けた後、カナンガを訪れた。そのとき、カナンガで家族や近所の人たちと集會を開く許可を伝道部長から事前に得てい

たのだ。こうして、バカディアバンヤ兄弟の訪問から5年後の1993年1月12日に最初の支部が組織された。

コンゴ共和国は1986年2月に教会を正式に認めた。この西アフリカの国には約1万1,000人の会員がいる。

カナンガ地方部のエリック・ベランゲニー・カパンガ部長はこう語っている。「わたしたちは祈り続けます。主のぶどう園のこの地方に専任宣教師を迎え入れる日が来ること、そしてシオンのステーキが誕生することを信じています。」◆

カードストーン神殿、 美化賞を授与される

カナダのカードストーン市は、アルバータ州カードストーン神殿に、今年度の美化賞を授与した。同神殿がこのような榮譽を受けるのは初めてのことである。

前カードストーン市長であり、現在カードストーン神殿の副神殿長でもあるスタン・ジョンソンは、この受賞は、「神殿がこの地域の美化に大きく貢献して



アルバータ州カードストーン神殿は最近、カナダのアルバータ州カードストーン市から美化賞を授与された。

いることを示す」良い例であると語った。

アルバータ州カードストーン神殿は、1923年にヒーバー・J・グラント第7代大管長によって奉獻され、大規模な修築工事を経て、1991年、当時副管長であったゴードン・B・ヒンクレー大管長によって再奉獻された。◆

●Church News, 2003年9月20日付の記事を基に編集。

カンファレンスセンター、 表彰される

アメリカ景観設計学会 (American Society of Landscape Architects) は、ソルトレーク・シティーのカンファレンスセンターに対して、その優れた景観設計を評価し、デザイン賞を授与した。カンファレンスセンターは、参加登録のあった436の作品の中から最終選考に残り、表彰された33作品の一つである。受賞作品は、デザイン性、機能性、環境とのバランス、環境保護責任、専門性、公共性、環境への配慮などを基準に選考される。

ペンシルベニア州フィラデルフィアのオリン・パートナーシップ (Olin Partnership) が設計したカンファレンスセンターの庭には、ユタに自生する木、草、花が植えられている。◆

●Church News, 2003年9月13日付の記事を基に編集。

教会員、 全米ボランティア賞を受賞

ツーソン食糧銀行 (Tucson Community Food Bank) とアリゾナの教会員が7年間協力してきた活動が評価され、この度教会はアメリカ・セカンド・ハーベスト (America's Second Harvest) と呼ばれる合衆国の食糧銀行組合から、今年度の全米グループボランティア賞を授与された。これは、ツーソン市の会員たちの何千時間にも及ぶ奉仕をたたえるものである。

夜間週3回、ツーソン市にある教会の缶詰工場に、多いときには100人の教会員がボランティアとして集まり、食糧銀行から提供される1袋約40キロの米や豆を、1家族で使うのにちょうどよい大きさの缶詰に詰める作業を行っている。このようにして、毎月約2万キロの救援食料を缶詰にして、食糧銀行に戻すのである。◆

●Church News, 2003年9月20日付の記事を基に編集。

お詫びと訂正

リアホナ2003年10月号6ページの記事「とどまる力」において、筆者名に「リチャード・J・メインズ」とありましたが、「H・ロス・ワークマン」の誤りでした。謹んでお詫びし、訂正いたします。

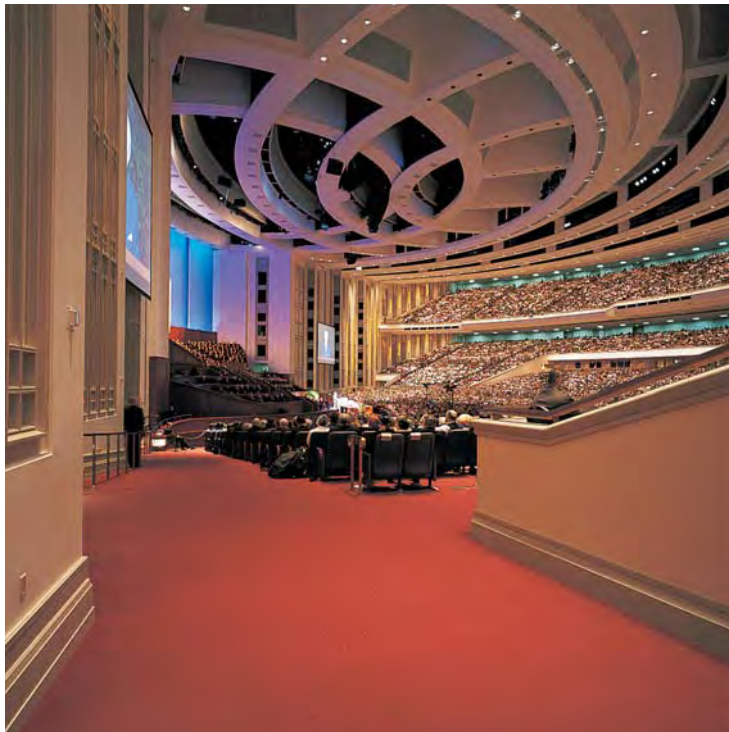


神権指導者会に集う、新設されたカナンガ地方部の兄弟たち。この地方部は2003年4月に組織された。



「セントジョージ神殿」ローランド・リー画

1877年4月6日、ユタ州セントジョージ神殿が奉獻され、ノーブー神殿以降最初に完成した神殿となった。プリガム・ヤング大管長は十二使徒員会のウィルフォード・ウッドラフ長老を神殿長として奉仕するよう召した。死者のためのエンダウメントは、ここで初めて執り行われた。



「もろもろの国民の旗、世の光となることこそ、この教会の使命であると、わたしは信じ、証^{あかし}します。わたしたちは大いなる、あらゆるものを包括した命令を受けており、それは身を引くことも、顔を背けることもできないものです。わたしたちはその命令を受け入れ、果たす決意をしており、神の助けを受けて成し遂げます。」第173回半期総大会の日曜午前の部会で、ゴードン・B・ヒンクレー大管長はそう語った。本号には、2003年10月4、5の両日に開かれた総大会の5部会、および中央扶助協会集会での各説教が掲載されている。